

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第5242437号
(P5242437)

(45) 発行日 平成25年7月24日 (2013. 7. 24)

(24) 登録日 平成25年4月12日 (2013. 4. 12)

(51) Int. Cl.

F 1

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

A 6 3 F 7/02 3 2 O

A 6 3 F 7/02 3 1 5 Z

請求項の数 1 (全 115 頁)

(21) 出願番号 特願2009-25130 (P2009-25130)
 (22) 出願日 平成21年2月5日 (2009. 2. 5)
 (65) 公開番号 特開2010-178912 (P2010-178912A)
 (43) 公開日 平成22年8月19日 (2010. 8. 19)
 審査請求日 平成23年9月2日 (2011. 9. 2)

(73) 特許権者 000144153
 株式会社三共
 東京都渋谷区渋谷三丁目2 9 番 1 4 号
 (74) 代理人 100103090
 弁理士 岩壁 冬樹
 (74) 代理人 100124501
 弁理士 塩川 誠人
 (74) 代理人 100134692
 弁理士 川村 武
 (74) 代理人 100135161
 弁理士 眞野 修二
 (72) 発明者 小倉 敏男
 東京都渋谷区渋谷三丁目2 9 番 1 4 号 株
 式会社三共内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 遊技機

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 始動領域を遊技媒体が通過した後、可変表示の開始を許容する開始条件が成立したことにもとづいて各々を識別可能な複数種類の第 1 識別情報の可変表示を開始し、表示結果を導出表示する第 1 可変表示部と、第 2 始動領域を遊技媒体が通過した後、前記開始条件が成立したことにもとづいて各々を識別可能な複数種類の第 2 識別情報の可変表示を開始し、表示結果を導出表示する第 2 可変表示部とを備え、前記第 1 可変表示部における前記第 1 識別情報の可変表示と前記第 2 可変表示部における前記第 2 識別情報の可変表示とは同時に実行されないものであり、前記第 2 可変表示部における前記第 2 識別情報の可変表示は前記第 1 可変表示部における前記第 1 識別情報の可変表示に優先して実行され、前記第 1 可変表示部または前記第 2 可変表示部において導出表示された表示結果があらかじめ定められた特定表示結果となったことにもとづいて特定遊技状態となる遊技機において

、
 前記第 1 始動領域を遊技媒体が通過したことにもとづいて、前記第 1 識別情報の可変表示の表示結果を前記特定表示結果とするか否かを決定するための第 1 特定遊技状態決定用数値データを含む第 1 表示結果決定用数値データを抽出する第 1 数値データ抽出手段と、

前記第 2 始動領域を遊技媒体が通過したことにもとづいて、前記第 2 識別情報の可変表示の表示結果を前記特定表示結果とするか否かを決定するための第 2 特定遊技状態決定用数値データを含む第 2 表示結果決定用数値データを抽出する第 2 数値データ抽出手段と、

前記第 1 始動領域を遊技媒体が通過したにもかかわらず前記開始条件が成立していない

10

20

前記第 1 識別情報の可変表示について、所定の上限数を限度に、前記第 1 数値データ抽出手段により抽出された前記第 1 表示結果決定用数値データを保留記憶として記憶する第 1 保留記憶手段と、

前記第 2 始動領域を遊技媒体が通過したにもかかわらず前記開始条件が成立していない前記第 2 識別情報の可変表示について、所定の上限数を限度に、前記第 2 数値データ抽出手段により抽出された前記第 2 表示結果決定用数値データを保留記憶として記憶する第 2 保留記憶手段と、

前記開始条件が成立したことにもとづいて前記第 1 保留記憶手段に記憶された前記第 1 表示結果決定用数値データを用いて、前記第 1 可変表示部における表示結果を所定表示結果とするか否かを前記第 1 識別情報の可変表示の表示結果が導出表示される以前に決定する第 1 事前決定手段と、

10

前記開始条件が成立したことにもとづいて前記第 2 保留記憶手段に記憶された前記第 2 表示結果決定用数値データを用いて、前記第 2 可変表示部における表示結果を所定表示結果とするか否かを前記第 2 識別情報の可変表示の表示結果が導出表示される以前に決定する第 2 事前決定手段と、

前記第 1 事前決定手段による決定以前に、前記第 1 始動領域を遊技媒体が通過したことにもとづいて、前記第 1 数値データ抽出手段により抽出された前記第 1 表示結果決定用数値データが所定の判定値と合致するか否かを判定する始動時判定手段と、

前記始動時判定手段による判定にもとづいて、当該判定の対象となった前記第 1 識別情報の可変表示が実行される以前に開始される複数回の前記第 1 識別情報の可変表示において連続演出を実行するか否かを決定する演出決定手段と、

20

前記演出決定手段によって前記連続演出を実行すると決定されたことにもとづいて、前記連続演出を実行する旨の連続演出設定情報を設定する演出設定手段と、

前記連続演出設定情報が設定されていることにもとづいて前記連続演出を実行する演出実行手段と、

前記第 1 識別情報の可変表示を対象とした前記連続演出の実行中に前記第 2 始動領域を遊技媒体が通過したことにもとづいて、前記連続演出設定情報の設定を解除する演出設定解除手段と、

前記演出設定解除手段によって前記連続演出設定情報の設定が解除された後、前記第 2 識別情報の可変表示を終了して前記第 1 識別情報の可変表示を実行可能な状態となったことを条件として、前記第 1 保留記憶手段が記憶する保留記憶にもとづく前記連続演出を新たに実行するか否かを、前記第 1 保留記憶手段が記憶する保留記憶の数にもとづいて決定する演出再決定手段と、

30

前記演出再決定手段によって前記連続演出を新たに実行すると決定されたことにもとづいて、前記連続演出設定情報を新たに設定する演出再設定手段と、を備えた

ことを特徴とする遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、第 1 始動領域を遊技媒体が通過した後、可変表示の開始を許容する開始条件が成立したことにもとづいて各々を識別可能な複数種類の第 1 識別情報の可変表示を開始し、表示結果を導出表示する第 1 可変表示部と、第 2 始動領域を遊技媒体が通過した後、開始条件が成立したことにもとづいて各々を識別可能な複数種類の第 2 識別情報の可変表示を開始し、表示結果を導出表示する第 2 可変表示部とを備え、第 1 可変表示部における第 1 識別情報の可変表示と第 2 可変表示部における第 2 識別情報の可変表示とは同時に実行されないものであり、第 2 可変表示手段における第 2 識別情報の可変表示は第 1 可変表示手段における第 1 識別情報の可変表示に優先して実行され、第 1 可変表示部または第 2 可変表示部において導出表示された表示結果があらかじめ定められた特定表示結果となったことにもとづいて特定遊技状態となるパチンコ遊技機等の遊技機に関する。

40

【背景技術】

50

【 0 0 0 2 】

遊技機として、遊技媒体である遊技球を発射装置によって遊技領域に発射し、遊技領域に設けられている入賞口などの入賞領域に遊技球が入賞すると、所定個の賞球が遊技者に払い出されるものがある。さらに、識別情報を可変表示（「変動」ともいう。）可能な可変表示部が設けられ、可変表示部において識別情報の可変表示の表示結果が特定表示結果となった場合に、所定の遊技価値を遊技者に与えるように構成されたものがある。

【 0 0 0 3 】

なお、遊技価値とは、遊技機の遊技領域に設けられた可変入賞球装置の状態が打球が入賞しやすい遊技者にとって有利な状態になることや、遊技者にとって有利な状態になるための権利を発生させたりすることや、賞球払出の条件が成立しやすくなる状態になること

10

【 0 0 0 4 】

パチンコ遊技機では、始動入賞口に遊技球が入賞したことにもとづいて可変表示部において開始される特別図柄（識別情報）の可変表示の表示結果として、あらかじめ定められた特定の表示態様が導出表示された場合に、「大当たり」が発生する。なお、導出表示とは、図柄を停止表示させることである（いわゆる再変動の前の停止を除く。）。大当たりが発生すると、例えば、大入賞口が所定回数開放して打球が入賞しやすい大当たり遊技状態に移行する。そして、各開放期間において、所定個（例えば 10 個）の大入賞口への入賞があると大入賞口は閉成する。そして、大入賞口の開放回数は、所定回数（例えば 15 ラウンド）に固定されている。なお、各開放について開放時間（例えば 29 秒）が決められ、入賞数が所定個に達しなくても開放時間が経過すると大入賞口は閉成する。以下、各々の大入賞口の開放期間をラウンドということがある。

20

【 0 0 0 5 】

また、可変表示部において、最終停止図柄（例えば左右中図柄のうち中図柄）となる図柄以外の図柄が、所定時間継続して、特定の表示結果と一致している状態で停止、揺動、拡大縮小もしくは変形している状態、または、複数の図柄が同一図柄で同期して変動したり、表示図柄の位置が入れ替わっていたりして、最終結果が表示される前で大当たり発生の可能性が継続している状態（以下、これらの状態をリーチ状態という。）において行われる演出をリーチ演出という。また、リーチ状態やその様子をリーチ態様という。さらに、リーチ演出を含む可変表示をリーチ可変表示という。そして、可変表示装置に変動表示される図柄の表示結果が特定の表示結果でない場合には「はずれ」となり、変動表示状態は終了する。遊技者は、大当たりをいかにして発生させるかを楽しみつつ遊技を行う。

30

【 0 0 0 6 】

そのような遊技機において、識別情報を可変表示可能な可変表示部を複数備え、一方の可変表示部における識別情報の可変表示を優先して実行するように構成したものがある。例えば、特許文献 1 には、遊技状態が高ベース状態である場合には、第 1 特別図柄の変動表示に対して、第 2 特別図柄の変動表示を優先して実行するように構成した遊技機が記載されている。

【 0 0 0 7 】

また、そのような遊技機において、大当たりやリーチとなる変動の表示結果が導出表示される前に、大当たりやリーチとなることを複数回の変動表示にわたって予告する連続予告演出を実行可能に構成したものがある。例えば、特許文献 2 には、始動入賞時にあらかじめ確変大当たりや非確変大当たりとなるか否かおよびリーチとなるか否かを判定し、可変表示装置において図柄変動を行う際にキャラクタ表示や背景表示を用いて連続予告演出を行うように構成した遊技機が記載されている。

40

【 先行技術文献 】

【 特許文献 】

【 0 0 0 8 】

【 特許文献 1 】 特開 2 0 0 7 - 2 3 6 5 4 0 号公報（段落 0 1 4 0 - 0 1 4 1、図 1 6）

【 特許文献 2 】 特開 2 0 0 3 - 2 7 5 4 2 0 号公報（段落 0 1 0 6 - 0 1 0 9、段落 0 1

50

18-0121、段落0127-0131、図14、図18、図21、図22)

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0009】

特許文献1および特許文献2に記載された遊技機を用いて、複数の可変表示装置を備え、いずれか一方の可変表示装置における変動表示を優先実行する遊技機においても、連続予告演出を実行可能に構成することが考えられる。しかし、そのような遊技機において、変動表示が優先実行されない方の可変表示装置に対する連続予告演出を開始した後に、他方の優先実行される方の可変表示装置の変動表示が実行されると、連続予告演出の途中で他方の変動表示が割り込むことになる。そのため、一連の連続予告演出が途中で遮断されて演出の連続性が損なわれ、連続予告演出による演出効果を著しく減退させてしまい、連続予告演出を用いた遊技の興趣を十分に向上させることができないおそれがある。

10

【0010】

そこで、本発明は、複数の可変表示装置を備えた遊技機において、連続予告演出の連続性を担保することにより連続予告演出の演出効果が低減することを防止し、連続予告演出を用いた遊技の興趣を向上させることができるようにすることを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0011】

本発明による遊技機は、第1始動領域(例えば、第1始動入賞口13)を遊技媒体(例えば、遊技球)が通過した後、可変表示の開始を許容する開始条件が成立したこと(例えば、第1特別図柄および第2特別図柄のいずれの可変表示も実行されておらず、かつ大当り遊技状態でもないこと)にもとづいて各々を識別可能な複数種類の第1識別情報(例えば、第1特別図柄)の可変表示を開始し、表示結果を導出表示する第1可変表示部(例えば、第1特別図柄表示器8a)と、第2始動領域(例えば、第2始動入賞口14)を遊技媒体が通過した後、開始条件が成立したこと(例えば、第1特別図柄および第2特別図柄のいずれの可変表示も実行されておらず、かつ大当り遊技状態でもないこと)にもとづいて各々を識別可能な複数種類の第2識別情報(例えば、第2特別図柄)の可変表示を開始し、表示結果を導出表示する第2可変表示部(例えば、第2特別図柄表示器8b)とを備え、第1可変表示部における第1識別情報の可変表示と第2可変表示部における第2識別情報の可変表示とは同時に実行されないものであり(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、特別図柄プロセス処理(ステップS26)において、特別図柄ポイントが示す方の特別図柄の変動表示を行うように制御する)、第2可変表示部における第2識別情報の可変表示は第1可変表示部における第1識別情報の可変表示に優先して実行され(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、ステップS52で第2保留記憶数が0でなければステップS53を優先して実行して特別図柄ポイントに「第2」を示す値をセットし、ステップS55以降の処理を実行して第2特別図柄の変動表示を実行する)、第1可変表示部または第2可変表示部において導出表示された表示結果があらかじめ定められた特定表示結果(例えば、大当り図柄)となったことにもとづいて特定遊技状態(例えば、大当り遊技状態)となる遊技機において、第1始動領域を遊技媒体が通過したことにもとづいて、第1識別情報の可変表示の表示結果を特定表示結果とするか否かを決定するための第1特定遊技状態決定用数値データ(例えば、大当り判定用乱数(ランダムR))を含む第1表示結果決定用数値データ(例えば、大当り判定用乱数(ランダムR)、大当り種別判定用乱数(ランダム1)、変動パターン種別判定用乱数(ランダム2)、変動パターン判定用乱数(ランダム3))を抽出する第1数値データ抽出手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS214Aを実行する部分)と、第2始動領域を遊技媒体が通過したことにもとづいて、第2識別情報の可変表示の表示結果を特定表示結果とするか否かを決定するための第2特定遊技状態決定用数値データ(例えば、大当り判定用乱数(ランダムR))を含む第2表示結果決定用数値データ(例えば、大当り判定用乱数(ランダムR)、大当り種別判定用乱数(ランダム1)、変動パターン種別判定用乱数(ランダム2)、変動パターン判定用乱数(ランダム3))を抽出する

20

30

40

50

第2数値データ抽出手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS214Bを実行する部分）と、第1始動領域を遊技媒体が通過したにもかかわらず開始条件が成立していない第1識別情報の可変表示について、所定の上限数（例えば4）を限度に、第1数値データ抽出手段により抽出された第1表示結果決定用数値データを保留記憶として記憶する第1保留記憶手段（例えば、第1保留記憶バッファ）と、第2始動領域を遊技媒体が通過したにもかかわらず開始条件が成立していない第2識別情報の可変表示について、所定の上限数（例えば4）を限度に、第2数値データ抽出手段により抽出された第2表示結果決定用数値データを保留記憶として記憶する第2保留記憶手段（例えば、第2保留記憶バッファ）と、開始条件が成立したことにもとづいて第1保留記憶手段に記憶された第1表示結果決定用数値データを用いて、第1可変表示部における表示結果を所定表示結果（例えば、大当り図柄や小当り図柄）とするか否かを第1識別情報の可変表示の表示結果が導出表示される以前に決定する第1事前決定手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS54を実行した後にステップS61、S62を実行する部分）と、開始条件が成立したことにもとづいて第2保留記憶手段に記憶された第2表示結果決定用数値データを用いて、第2可変表示部における表示結果を所定表示結果（例えば、大当り図柄や小当り図柄）とするか否かを第2識別情報の可変表示の表示結果が導出表示される以前に決定する第2事前決定手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS53を実行した後にステップS61、S62を実行する部分）と、第1事前決定手段による決定以前に、第1始動領域を遊技媒体が通過したことにもとづいて、第1数値データ抽出手段により抽出された第1表示結果決定用数値データが所定の判定値と合致するか否かを判定する始動時判定手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS217A、S217Bを実行する部分）と、始動時判定手段による判定にもとづいて、当該判定の対象となった第1識別情報の可変表示が実行される以前に開始される複数回の第1識別情報の可変表示において連続演出（例えば、連続予告演出）を実行するか否かを決定する演出決定手段（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS8020を実行する部分）と、演出決定手段によって連続演出を実行すると決定されたことにもとづいて、連続演出を実行する旨の連続演出設定情報（例えば、連続予告実行中フラグ）を設定する演出設定手段（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS8022を実行する部分）と、連続演出設定情報が設定されていることにもとづいて連続演出を実行する演出実行手段（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100において、ステップS1846でYと判定したことにもとづいてステップS1848を実行することによって、図49～図52に示す演出態様の連続予告演出を実行する部分）と、第1識別情報の可変表示を対象とした連続演出の実行中に第2始動領域を遊技媒体が通過したことにもとづいて、連続演出設定情報の設定を解除する演出設定解除手段（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS656Bを実行する部分。または、演出制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS8023Cを実行する部分。）と、演出設定解除手段によって連続演出設定情報の設定が解除された後、第2識別情報の可変表示を終了して第1識別情報の可変表示を実行可能な状態となったことを条件として、第1保留記憶手段が記憶する保留記憶にもとづく連続演出を新たに実行するか否かを、第1保留記憶手段が記憶する保留記憶の数にもとづいて決定する演出再決定手段（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100において、ステップS8002でYと判定するとともにステップS8003でYと判定した後に、図40（A）～（F）に示す保留記憶数に応じて用意された連続予告決定用テーブルを用いてステップS8020を実行する部分。または、演出制御用マイクロコンピュータ100において、ステップS8001AでYと判定し、ステップS8002でYと判定するとともにステップS8003でYと判定した後にステップS8020を実行する部分。）と、演出再決定手段によって連続演出を新たに実行すると決定されたことにもとづいて、連続演出設定情報を新たに設定する演出再設定手段（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100において、ステップS8002でYと判定するとともにステップS8003でYと判定した後にステップS8020で連続予告演出を実

10

20

30

40

50

行すると決定した場合に、ステップS 8 0 2 2を実行する部分)と、を備えたことを特徴とする。そのような構成により、複数の可変表示部を備えた遊技機において、連続演出の連続性を担保することにより連続演出の演出効果が低減することを防止し、連続演出を用いた遊技の興趣を向上させることができる。

【0012】

遊技機は、特定遊技状態において、始動時判定手段による判定の実行を制限する特定遊技状態中判定制限手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS 2 1 6 AでYと判定したときにステップS 2 1 7 Aに移行しないように制御する部分)を備えるように構成されていてもよい。そのような構成によれば、特定遊技状態中に始動時判定手段による判定結果を認識できないようにすることによって、所定の判定値と合致すると判定された第1識別情報の可変表示をストックした状態で第2識別情報の可変表示を連続して実行されることを防止し、遊技者の射幸心を過度に刺激することを防止することができる。

10

【0013】

遊技機は、特定遊技状態が終了した後に、第2の識別情報の可変表示の実行頻度が高まる有利遊技状態(例えば、高ベース状態(確変状態や時短状態))に遊技状態を制御する有利遊技状態制御手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS 1 6 7, S 1 7 0, S 1 7 1を実行する部分)と、有利遊技状態において、始動時判定手段による判定の実行を制限する有利遊技状態中判定制限手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560におけるステップS 2 1 5 AでYと判定したときにステップS 2 1 7 Aに移行しないように制御する部分)と、を備えるように構成されていてもよい。そのような構成によれば、有利遊技状態中に始動時判定手段による判定結果を認識できないようにすることによって、所定の判定値と合致すると判定された第1識別情報の可変表示をストックした状態で第2識別情報の可変表示を連続して実行されることを防止し、遊技者の射幸心を過度に刺激することを防止することができる。

20

【0014】

遊技機は、始動時判定手段による判定結果を記憶する始動時判定結果記憶手段(例えば、図34に示す第1入賞時判定結果記憶バッファおよび第2入賞時判定結果記憶バッファ)を備え、演出再決定手段は、始動時判定結果記憶手段が記憶する判定結果にもとづいて連続演出を新たに実行するか否かを決定する(例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100は、ステップS 8 0 0 4で第1入賞時判定結果記憶バッファまたは第2入賞時判定結果記憶バッファから各入賞時判定結果を抽出し、ステップS 8 0 0 5以降の処理を実行する)ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、始動時判定結果記憶手段が記憶する判定結果を用いることにより、連続演出を新たに実行するか否かを容易に決定することができ、処理の容易化を図ることができる。

30

【0015】

演出決定手段は、始動時判定手段によって所定の判定値と合致しないと判定された場合であっても、連続演出を実行すると決定可能であり(例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100は、図40に示すように「非リーチはずれ」に対しても判定値が割り当てられた連続予告決定用テーブルを用いてステップS 8 0 2 0を実行することによって、「非リーチはずれ」に対しても連続予告演出を実行すると決定可能である)、演出再決定手段は、始動時判定手段によって所定の判定値と合致しないと判定された場合であっても、連続演出を実行すると決定可能であり(例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100は、ステップS 8 0 0 2でYと判定するとともにステップS 8 0 0 3でYと判定した後に、図40に示すように「非リーチはずれ」に対しても判定値が割り当てられた連続予告決定用テーブルを用いてステップS 8 0 2 0を実行することによって、「非リーチはずれ」に対しても連続予告演出を実行すると決定可能である)、演出再決定手段は、さらに、演出決定手段が始動時判定手段によって所定の判定値と合致しないと判定された場合に連続演出を実行すると決定する割合よりも高い割合で、始動時判定手段によって所定の判定値と合致すると判定された場合に連続演出を実行すると決定する(例えば、演出制御用マイク

40

50

ロコンピュータ１００は、ステップＳ８０２０において、図４０に示すように、「非リーチはずれ」に対する判定値の割り当てが少ない再開時用の連続予告決定用テーブルを用いることによって、相対的に「スーパーリーチ大当たり」となる場合には高い割合で連続予告演出を実行すると決定する）ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、連続演出が一度途切れた後に連続演出が再開される場合には、所定の判定値と合致することに対する期待感をより高めることができ、連続演出を用いた遊技の興趣をより向上させることができる。

【００１６】

第１数値データ抽出手段は、第１始動領域を遊技媒体が通過したことにもとづいて、第１特定遊技状態決定用数値データ（例えば、大当たり判定用乱数（ランダムＲ））とともに、第１識別情報の可変表示パターンを決定するための可変表示決定用数値データ（例えば、変動パターン種別判定用乱数（ランダム２））を抽出し、第１保留記憶手段は、所定の上限数を限度に、第１表示結果決定用数値データとともに可変表示決定用数値データを保留記憶として記憶し（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ５６は、ステップＳ２１４Ａで、大当たり判定用乱数（ランダムＲ）とともに変動パターン種別判定用乱数（ランダム２）も第１保留記憶バッファに保存する）、第１事前決定手段の決定結果にもとづいて、可変表示決定用数値データと、複数種類の可変表示パターンに対して判定値が割り当てられた判定値テーブル（例えば、図１０に示すはずれ用変動パターン種別判定テーブル１３５Ａ，１３５Ｂ）とを用いて、第１識別情報の可変表示パターン（例えば、変動パターン）を決定する可変表示パターン決定手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ５６０におけるステップＳ３０１を実行する部分）と、可変表示パターン決定手段の決定結果にもとづいて、第１識別情報の可変表示を実行する可変表示実行手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ５６０におけるステップＳ３０１，Ｓ３０３，Ｓ３０４を実行する部分。演出制御用マイクロコンピュータ１００におけるステップＳ８０１～Ｓ８０３を実行する部分。）と、を備え、始動時判定手段は、可変表示パターン決定手段による決定前に、第１始動領域を遊技媒体が通過したことにもとづいて、第１数値データ抽出手段により抽出された可変表示決定用乱数と判定値テーブルの判定値とにもとづいて、第１識別情報の可変表示パターンが複数種類の可変表示パターンのうちの特定の可変表示パターン（例えば、スーパーリーチを伴う変動パターン）となるか否かを判定し（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ５６０は、ステップＳ２２９で「スーパーリーチはずれ」となるスーパーＣＡ２－７の変動パターン種別となるか否かを判定する）、演出決定手段は、始動時判定手段によって特定の可変表示パターンとなると判定されたことにもとづいて、当該特定の可変表示パターンとなると判定された第１識別情報の可変表示が実行される以前に開始される複数回の第１識別情報の可変表示において連続演出を実行すると決定し（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ１００は、入賞時判定結果が「スーパーリーチはずれ」であることを示す入賞時判定結果７指定コマンドまたは入賞時判定結果２７指定コマンドを受信したことにもとづいて連続予告演出を実行する）、判定値テーブルは、特定の可変表示パターンに対しては、保留記憶の数にかかわらず、共通の判定値が割り当てられ、特定の可変表示パターン以外の可変表示パターンに対しては、保留記憶の数に応じて異なる判定値が割り当てられている（例えば、図１０（Ａ），（Ｂ）および図６０に示すように、合算保留記憶数が０～２であるか３以上であるかにかかわらず、スーパーリーチを伴う変動パターンを含む変動パターン種別（スーパーＣＡ２－７）に対して２３０～２５１の範囲の判定値が割り当てられている。また、スーパーリーチ以外の非リーチやノーマルリーチを伴う変動パターンを含む変動パターン種別に対しては、合算保留記憶数が０～２であるか３以上であるかに応じて異なる判定値が割り当てられている）ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、特定の可変表示パターンとなると判定したことにもとづき連続演出を実行する場合に、保留記憶の数によって不整合が生じないようにすることができる。また、保留記憶の数に従って可変表示時間を異ならせることによって、可変表示の作動率が低下してしまう事態を極力防止することができる。

【図面の簡単な説明】

10

20

30

40

50

【 0 0 1 7 】

【図 1】パチンコ遊技機を正面からみた正面図である。

【図 2】遊技制御基板（主基板）の回路構成例を示すブロック図である。

【図 3】演出制御基板、ランプドライバ基板および音声出力基板の回路構成例を示すブロック図である。

【図 4】主基板における CPU が実行するメイン処理を示すフローチャートである。

【図 5】2 m s タイマ割込処理を示すフローチャートである。

【図 6】あらかじめ用意された演出図柄の変動パターンを示す説明図である。

【図 7】各乱数を示す説明図である。

【図 8】大当たり判定テーブル、小当たり判定テーブルおよび大当たり種別判定テーブルを示す説明図である。 10

【図 9】大当たり用変動パターン種別判定テーブルを示す説明図である。

【図 10】はずれ用変動パターン種別判定テーブルを示す説明図である。

【図 11】当り変動パターン判定テーブルを示す説明図である。

【図 12】はずれ変動パターン判定テーブルを示す説明図である。

【図 13】演出制御コマンドの内容の一例を示す説明図である。

【図 14】演出制御コマンドの内容の一例を示す説明図である。

【図 15】入賞時判定結果指定コマンドの内容の一例を示す説明図である。

【図 16】特別図柄プロセス処理のプログラムの一例を示すフローチャートである。

【図 17】特別図柄プロセス処理のプログラムの一例を示すフローチャートである。 20

【図 18】始動口スイッチ通過処理を示すフローチャートである。

【図 19】保留バッファの構成例を示す説明図である。

【図 20】入賞時演出処理を示すフローチャートである。

【図 21】特別図柄通常処理を示すフローチャートである。

【図 22】特別図柄通常処理を示すフローチャートである。

【図 23】変動パターン設定処理を示すフローチャートである。

【図 24】表示結果指定コマンド送信処理を示すフローチャートである。

【図 25】特別図柄変動中処理を示すフローチャートである。

【図 26】特別図柄停止処理を示すフローチャートである。

【図 27】大当たり終了処理を示すフローチャートである。 30

【図 28】演出制御用 CPU が実行する演出制御メイン処理を示すフローチャートである。

【図 29】コマンド受信バッファの構成例を示す説明図である。

【図 30】コマンド解析処理を示すフローチャートである。

【図 31】コマンド解析処理を示すフローチャートである。

【図 32】コマンド解析処理を示すフローチャートである。

【図 33】コマンド解析処理を示すフローチャートである。

【図 34】入賞時判定結果記憶バッファの構成例を示す説明図である。

【図 35】演出制御プロセス処理を示すフローチャートである。

【図 36】変動パターンコマンド受信待ち処理を示すフローチャートである。 40

【図 37】演出図柄変動開始処理を示すフローチャートである。

【図 38】演出図柄変動開始処理を示すフローチャートである。

【図 39】演出図柄変動開始処理を示すフローチャートである。

【図 40】連続予告決定用テーブルの例を示す説明図である。

【図 41】連続予告振分テーブルの具体例を示す説明図である。

【図 42】連続予告振分テーブルの具体例を示す説明図である。

【図 43】演出図柄の停止図柄の一例を示す説明図である。

【図 44】プロセスデータの構成例を示す説明図である。

【図 45】演出図柄変動中処理を示すフローチャートである。

【図 46】演出図柄変動停止処理を示すフローチャートである。 50

- 【図４７】大当たり表示処理を示すフローチャートである。
- 【図４８】大当たり終了演出処理を示すフローチャートである。
- 【図４９】連続予告演出の演出態様の具体例を示す説明図である。
- 【図５０】連続予告演出の演出態様の具体例を示す説明図である。
- 【図５１】連続予告演出の演出態様の具体例を示す説明図である。
- 【図５２】連続予告演出の演出態様の具体例を示す説明図である。
- 【図５３】擬似連の演出態様の具体例を示す説明図である。
- 【図５４】連続予告演出の実行タイミングを示す説明図である。
- 【図５５】入賞時判定の対象となる変動表示より前に実行される変動表示中にリーチを伴う変動表示が含まれる場合の変動表示の実行タイミングを示す説明図である。
- 【図５６】連続予告演出の設定をクリアして、連続予告演出を中断する場合の演出タイミングを示す説明図である。
- 【図５７】連続予告演出の設定をクリアして、連続予告演出を中断する場合の演出タイミングを示す説明図である。
- 【図５８】第２特別図柄の変動表示を開始するタイミングで連続予告演出の設定を解除する場合の演出図柄変動開始処理を示すフローチャートである。
- 【図５９】保留記憶数が所定数以上であるか否かを判定して連続予告演出決定の処理を行う場合の演出図柄変動開始処理を示すフローチャートである。
- 【図６０】はずれ用変動パターン種別判定テーブルにおける判定値の割り当て状態を示す説明図である。
- 【図６１】はずれ用変動パターン種別判定テーブルにおける判定値の割り当て状態の他の例を示す説明図である。
- 【図６２】はずれ用変動パターン種別判定テーブルにおける判定値の割り当て状態のさらに他の例を示す説明図である。
- 【図６３】スーパーリーチを伴う変動パターン以外の変動パターンとして、擬似連を伴う変動パターンを含む変動パターン種別にも着目して見た場合のはずれ用変動パターン種別判定テーブルにおける判定値の割り当て状態を示す説明図である。
- 【図６４】擬似連を伴う変動パターンを含む変動パターン種別にも着目して見た場合のはずれ用変動パターン種別判定テーブルにおける判定値の割り当て状態を示す説明図である。
- 【図６５】スーパーリーチを伴う変動パターン種別が割り当てられている範囲における割り当て例を示す説明図である。
- 【発明を実施するための形態】
- 【００１８】

以下、本発明の実施の形態を、図面を参照して説明する。まず、遊技機の一例であるパチンコ遊技機１の全体の構成について説明する。図１はパチンコ遊技機１を正面からみた正面図である。

【００１９】

パチンコ遊技機１は、縦長の方形状に形成された外枠（図示せず）と、外枠の内側に開閉可能に取り付けられた遊技枠とで構成される。また、パチンコ遊技機１は、遊技枠に開閉可能に設けられている額縁状に形成されたガラス扉枠２を有する。遊技枠は、外枠に対して開閉自在に設置される前面枠（図示せず）と、機構部品等が取り付けられる機構板（図示せず）と、それらに取り付けられる種々の部品（後述する遊技盤６を除く）とを含む構造体である。

【００２０】

ガラス扉枠２の下部表面には打球供給皿（上皿）３がある。打球供給皿３の下部には、打球供給皿３に収容しきれない遊技球を貯留する余剰球受皿４や、打球を発射する打球操作ハンドル（操作ノブ）５が設けられている。また、ガラス扉枠２の背面には、遊技盤６が着脱可能に取り付けられている。なお、遊技盤６は、それを構成する板状体と、その板状体に取り付けられた種々の部品とを含む構造体である。また、遊技盤６の前面には、打

10

20

30

40

50

ち込まれた遊技球が流下可能な遊技領域 7 が形成されている。

【 0 0 2 1 】

遊技領域 7 の中央付近には、液晶表示装置 (L C D) で構成された演出表示装置 9 が設けられている。演出表示装置 9 では、第 1 特別図柄または第 2 特別図柄の可変表示に同期した演出図柄 (飾り図柄) の可変表示 (変動) が行われる。よって、演出表示装置 9 は、識別情報としての演出図柄 (飾り図柄) の可変表示を行う可変表示装置に相当する。演出表示装置 9 は、演出制御基板に搭載されている演出制御用マイクロコンピュータによって制御される。演出制御用マイクロコンピュータが、第 1 特別図柄表示器 8 a で第 1 特別図柄の可変表示が実行されているときに、その可変表示に伴って演出表示装置 9 で演出表示を実行させ、第 2 特別図柄表示器 8 b で第 2 特別図柄の可変表示が実行されているときに、その可変表示に伴って演出表示装置で演出表示を実行させるので、遊技の進行状況を把握しやすくすることができる。

10

【 0 0 2 2 】

遊技盤 6 における演出表示装置 9 の上部の左側には、識別情報としての第 1 特別図柄を可変表示する第 1 特別図柄表示器 (第 1 可変表示手段) 8 a が設けられている。この実施の形態では、第 1 特別図柄表示器 8 a は、0 ~ 9 の数字を可変表示可能な簡易で小型の表示器 (例えば 7 セグメント L E D) で実現されている。すなわち、第 1 特別図柄表示器 8 a は、0 ~ 9 の数字 (または、記号) を可変表示するように構成されている。遊技盤 6 における演出表示装置 9 の上部の右側には、識別情報としての第 2 特別図柄を可変表示する第 2 特別図柄表示器 (第 2 可変表示手段) 8 b が設けられている。第 2 特別図柄表示器 8 b は、0 ~ 9 の数字を可変表示可能な簡易で小型の表示器 (例えば 7 セグメント L E D) で実現されている。すなわち、第 2 特別図柄表示器 8 b は、0 ~ 9 の数字 (または、記号) を可変表示するように構成されている。

20

【 0 0 2 3 】

この実施の形態では、第 1 特別図柄の種類と第 2 特別図柄の種類とは同じ (例えば、ともに 0 ~ 9 の数字) であるが、種類が異なってもよい。また、第 1 特別図柄表示器 8 a および第 2 特別図柄表示器 8 b は、それぞれ、例えば、0 0 ~ 9 9 の数字 (または、2桁の記号) を可変表示するように構成されていてもよい。

【 0 0 2 4 】

以下、第 1 特別図柄と第 2 特別図柄とを特別図柄と総称することがあり、第 1 特別図柄表示器 8 a と第 2 特別図柄表示器 8 b とを特別図柄表示器と総称することがある。

30

【 0 0 2 5 】

第 1 特別図柄または第 2 特別図柄の可変表示は、可変表示の実行条件である第 1 始動条件または第 2 始動条件が成立 (例えば、遊技球が第 1 始動入賞口 1 3 または第 2 始動入賞口 1 4 を通過 (入賞を含む) した) した後、可変表示の開始条件 (例えば、保留記憶数が 0 でない場合であって、第 1 特別図柄および第 2 特別図柄の可変表示が実行されていない状態であり、かつ、大当り遊技が実行されていない状態) が成立したことにともづいて開始され、可変表示時間 (変動時間) が経過すると表示結果 (停止図柄) を導出表示する。なお、遊技球が通過するとは、入賞口やゲートなどのあらかじめ入賞領域として定められている領域を遊技球が通過したことであり、入賞口に遊技球が入った (入賞した) ことを含む概念である。また、表示結果を導出表示するとは、図柄 (識別情報の例) を最終的に停止表示させることである。

40

【 0 0 2 6 】

演出表示装置 9 は、第 1 特別図柄表示器 8 a での第 1 特別図柄の可変表示時間中、および第 2 特別図柄表示器 8 b での第 2 特別図柄の可変表示時間中に、装飾用 (演出用) の図柄としての演出図柄 (飾り図柄) の可変表示を行う。第 1 特別図柄表示器 8 a における第 1 特別図柄の可変表示と、演出表示装置 9 における演出図柄の可変表示とは同期している。また、第 2 特別図柄表示器 8 b における第 2 特別図柄の可変表示と、演出表示装置 9 における演出図柄の可変表示とは同期している。同期とは、可変表示の開始時点および終了時点がほぼ同じ (全く同じでもよい。) であって、可変表示の期間がほぼ同じ (全く同じ

50

でもよい。)であることをいう。また、第1特別図柄表示器8aにおいて大当り図柄が停止表示されるときと、第2特別図柄表示器8bにおいて大当り図柄が停止表示されるときには、演出表示装置9において大当りを想起させるような演出図柄の組み合わせが停止表示される。

【0027】

演出表示装置9の下方には、第1始動入賞口13を有する入賞装置が設けられている。第1始動入賞口13に入賞した遊技球は、遊技盤6の背面に導かれ、第1始動口スイッチ13aによって検出される。

【0028】

また、第1始動入賞口(第1始動口)13を有する入賞装置の下方には、遊技球が入賞可能な第2始動入賞口14を有する可変入賞球装置15が設けられている。第2始動入賞口(第2始動口)14に入賞した遊技球は、遊技盤6の背面に導かれ、第2始動口スイッチ14aによって検出される。可変入賞球装置15は、ソレノイド16によって開状態とされる。可変入賞球装置15が開状態になることによって、遊技球が第2始動入賞口14に入賞可能になり(始動入賞し易くなり)、遊技者にとって有利な状態になる。可変入賞球装置15が開状態になっている状態では、第1始動入賞口13よりも、第2始動入賞口14に遊技球が入賞しやすい。また、可変入賞球装置15が閉状態になっている状態では、遊技球は第2始動入賞口14に入賞しない。なお、可変入賞球装置15が閉状態になっている状態において、入賞はしづらいものの、入賞することは可能である(すなわち、遊技球が入賞しにくい)ように構成されていてもよい。

【0029】

以下、第1始動入賞口13と第2始動入賞口14とを総称して始動入賞口または始動口ということがある。

【0030】

可変入賞球装置15が開放状態に制御されているときには可変入賞球装置15に向かう遊技球は第2始動入賞口14に極めて入賞しやすい。そして、第1始動入賞口13は演出表示装置9の直下に設けられているが、演出表示装置9の下端と第1始動入賞口13との間の間隔をさらに狭めたり、第1始動入賞口13の周辺で釘を密に配置したり、第1始動入賞口13の周辺での釘配列を遊技球を第1始動入賞口13に導きづらくして、第2始動入賞口14の入賞率の方を第1始動入賞口13の入賞率よりもより高くするようにしてもよい。

【0031】

第1特別図柄表示器8aの下部には、第1始動入賞口13に入った有効入賞球数すなわち第1保留記憶数(保留記憶を、始動記憶または始動入賞記憶ともいう。)を表示する4つの表示器(例えば、LED)からなる第1特別図柄保留記憶表示器18aが設けられている。第1特別図柄保留記憶表示器18aは、有効始動入賞がある毎に、点灯する表示器の数を1増やす。そして、第1特別図柄表示器8aでの可変表示が開始される毎に、点灯する表示器の数を1減らす。

【0032】

第2特別図柄表示器8bの下部には、第2始動入賞口14に入った有効入賞球数すなわち第2保留記憶数を表示する4つの表示器(例えば、LED)からなる第2特別図柄保留記憶表示器18bが設けられている。第2特別図柄保留記憶表示器18bは、有効始動入賞がある毎に、点灯する表示器の数を1増やす。そして、第2特別図柄表示器8bでの可変表示が開始される毎に、点灯する表示器の数を1減らす。

【0033】

また、演出表示装置9の表示画面には、第1保留記憶数を表示する第1保留記憶表示部18cと、第2保留記憶数を表示する第2保留記憶表示部18dとが設けられている。なお、第1保留記憶数と第2保留記憶数との合計である合計数(合算保留記憶数)を表示する領域(合算保留記憶表示部)が設けられるようにしてもよい。そのように、合計数を表示する合算保留記憶表示部が設けられているようにすれば、可変表示の開始条件が成立し

ていない実行条件の成立数の合計を把握しやすくなることができる。

【 0 0 3 4 】

なお、この実施の形態では、図 1 に示すように、第 2 始動入賞口 1 4 に対してのみ開閉動作を行う可変入賞球装置 1 5 が設けられているが、第 1 始動入賞口 1 3 および第 2 始動入賞口 1 4 のいずれについても開閉動作を行う可変入賞球装置が設けられている構成であってもよい。

【 0 0 3 5 】

また、図 1 に示すように、可変入賞球装置 1 5 の下方には、特別可変入賞球装置 2 0 が設けられている。特別可変入賞球装置 2 0 は開閉板を備え、第 1 特別図柄表示器 8 a に特定表示結果（大当り図柄）が導出表示されたとき、および第 2 特別図柄表示器 8 b に特定表示結果（大当り図柄）が導出表示されたときに生起する特定遊技状態（大当り遊技状態）においてソレノイド 2 1 によって開閉板が開放状態に制御されることによって、入賞領域となる大入賞口が開放状態になる。大入賞口に入賞した遊技球はカウントスイッチ 2 3 で検出される。

【 0 0 3 6 】

遊技盤 6 の右側方下部には、普通図柄表示器 1 0 が設けられている。普通図柄表示器 1 0 は、普通図柄と呼ばれる複数種類の識別情報（例えば、「○」および「×」）を可変表示する。

【 0 0 3 7 】

遊技球がゲート 3 2 を通過しゲートスイッチ 3 2 a で検出されると、普通図柄表示器 1 0 の表示の可変表示が開始される。この実施の形態では、上下のランプ（点灯時に図柄が視認可能になる）が交互に点灯することによって可変表示が行われ、例えば、可変表示の終了時に下側のランプが点灯すれば当りとなる。そして、普通図柄表示器 1 0 における停止図柄が所定の図柄（当り図柄）である場合に、可変入賞球装置 1 5 が所定回数、所定時間だけ開状態になる。すなわち、可変入賞球装置 1 5 の状態は、普通図柄の停止図柄が当り図柄である場合に、遊技者にとって不利な状態から有利な状態（第 2 始動入賞口 1 4 に遊技球が入賞可能な状態）に変化する。普通図柄表示器 1 0 の近傍には、ゲート 3 2 を通過した入賞球数を表示する 4 つの表示器（例えば、LED）を有する普通図柄保留記憶表示器 4 1 が設けられている。ゲート 3 2 への遊技球の通過がある毎に、すなわちゲートスイッチ 3 2 a によって遊技球が検出される毎に、普通図柄保留記憶表示器 4 1 は点灯する表示器を 1 増やす。そして、普通図柄表示器 1 0 の可変表示が開始される毎に、点灯する表示器を 1 減らす。さらに、通常状態に比べて大当りとすることに決定される確率が高い状態である確変状態では、普通図柄表示器 1 0 における停止図柄が当り図柄になる確率が高められるとともに、可変入賞球装置 1 5 の開放時間が長くなり、かつ、開放回数が増加される。すなわち、遊技球が始動入賞しやすくなる（つまり、特別図柄表示器 8 a , 8 b や演出表示装置 9 における可変表示の実行条件が成立しやすくなる）ように制御された遊技状態である高ベース状態に移行する。また、この実施の形態では、時短状態（特別図柄の可変表示時間が短縮される遊技状態）においても、可変入賞球装置 1 5 の開放時間が長くなり、かつ、開放回数が増加される。

【 0 0 3 8 】

なお、可変入賞球装置 1 5 が開状態となる時間を延長する（開放延長状態ともいう）のではなく、普通図柄表示器 1 0 における停止図柄が当り図柄になる確率が高められる普通図柄確変状態に移行することによって、高ベース状態に移行してもよい。普通図柄表示器 1 0 における停止図柄が所定の図柄（当り図柄）となると、可変入賞球装置 1 5 が所定回数、所定時間だけ開状態になる。この場合、普通図柄確変状態に移行制御することによって、普通図柄表示器 1 0 における停止図柄が当り図柄になる確率が高められ、可変入賞球装置 1 5 が開状態となる頻度が高まる。従って、普通図柄確変状態に移行すれば、可変入賞球装置 1 5 の開放時間と開放回数が高められ、始動入賞しやすい状態（高ベース状態）となる。可変入賞球装置 1 5 の開放時間と開放回数は、普通図柄の停止図柄が当り図柄であったり、特別図柄の停止図柄が確変図柄である場合等に高められ、遊技者にとって不利な

状態から有利な状態（始動入賞しやすい状態）に変化する。なお、開放回数が高められることは、閉状態から開状態になることも含む概念である。

【0039】

また、普通図柄表示器10における普通図柄の変動時間（可変表示期間）が短縮される普通図柄時短状態に移行することによって、高ベース状態に移行してもよい。普通図柄時短状態では、普通図柄の変動時間が短縮されるので、普通図柄の変動が開始される頻度が高くなり、結果として普通図柄が当たりとなる頻度が高くなる。従って、普通図柄が当たりとなる頻度が高くなることによって、可変入賞球装置15が開状態となる頻度が高くなり、始動入賞しやすい状態（高ベース状態）となる。

【0040】

また、特別図柄や演出図柄の変動時間（可変表示期間）が短縮される時短状態に移行することによって、特別図柄や演出図柄の変動時間が短縮されるので、有効な始動入賞が発生しやすくなり大当たり遊技が行われる可能性が高まる。

【0041】

さらに、上記に示した全ての状態（開放延長状態、普通図柄確変状態、普通図柄時短状態および特別図柄時短状態）に移行させることによって、始動入賞しやすくなる（高ベース状態に移行する）ようにしてもよい。また、上記に示した各状態（開放延長状態、普通図柄確変状態、普通図柄時短状態および特別図柄時短状態）のうちのいずれか1つまたは複数の状態に移行させることによって、始動入賞しやすくなる（高ベース状態に移行する）ようにしてもよい。

【0042】

遊技盤6の遊技領域7の左右周辺には、遊技中に点滅表示される装飾LED25が設けられ、下部には、入賞しなかった打球が取り込まれるアウト口26がある。また、遊技領域7の外側の左右上部には、所定の音声出力として効果音や音声を発声する2つのスピーカ27R、27Lが設けられている。遊技領域7の外周上部、外周左部および外周右部には、前面枠に設けられた天枠LED28a、左枠LED28bおよび右枠LED28cが設けられている。また、左枠LED28bの近傍には賞球残数があるときに点灯する賞球LED51が設けられ、右枠LED28cの近傍には補給球が切れたときに点灯する球切れLED52が設けられている。天枠LED28a、左枠LED28bおよび右枠LED28cおよび装飾用LED25は、パチンコ遊技機1に設けられている演出用の発光体の一例である。なお、上述した演出用（装飾用）の各種LEDの他にも演出のためのLEDやランプが設置されている。

【0043】

遊技機には、遊技者が打球操作ハンドル5を操作することに応じて駆動モータを駆動し、駆動モータの回転力を利用して遊技球を遊技領域7に発射する打球発射装置（図示せず）が設けられている。打球発射装置から発射された遊技球は、遊技領域7を囲むように円形状に形成された打球レールを通して遊技領域7に入り、その後、遊技領域7を下りてくる。遊技球が第1始動入賞口13に入り第1始動口スイッチ13aで検出されると、第1特別図柄の可変表示を開始できる状態であれば（例えば、特別図柄の可変表示が終了し、第1の開始条件が成立したこと）、第1特別図柄表示器8aにおいて第1特別図柄の可変表示（変動）が開始されるとともに、演出表示装置9において演出図柄（飾り図柄）の可変表示が開始される。すなわち、第1特別図柄および演出図柄の可変表示は、第1始動入賞口13への入賞に対応する。第1特別図柄の可変表示を開始できる状態でなければ、第1保留記憶数が上限値に達していないことを条件として、第1保留記憶数を1増やす。

【0044】

遊技球が第2始動入賞口14に入り第2始動口スイッチ14aで検出されると、第2特別図柄の可変表示を開始できる状態であれば（例えば、特別図柄の可変表示が終了し、第2の開始条件が成立したこと）、第2特別図柄表示器8bにおいて第2特別図柄の可変表示（変動）が開始されるとともに、演出表示装置9において演出図柄（飾り図柄）の可変表示が開始される。すなわち、第2特別図柄および演出図柄の可変表示は、第2始動入賞

10

20

30

40

50

口 1 4 への入賞に対応する。第 2 特別図柄の可変表示を開始できる状態でなければ、第 2 保留記憶数が上限値に達していないことを条件として、第 2 保留記憶数を 1 増やす。

【 0 0 4 5 】

図 2 は、主基板（遊技制御基板）3 1 における回路構成の一例を示すブロック図である。なお、図 2 には、払出制御基板 3 7 および演出制御基板 8 0 等も示されている。主基板 3 1 には、プログラムに従ってパチンコ遊技機 1 を制御する遊技制御用マイクロコンピュータ（遊技制御手段に相当）5 6 0 が搭載されている。遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 は、ゲーム制御（遊技進行制御）用のプログラム等を記憶する ROM 5 4、ワークメモリとして使用される記憶手段としての RAM 5 5、プログラムに従って制御動作を行う CPU 5 6 および I/O ポート部 5 7 を含む。この実施の形態では、ROM 5 4 および RAM 5 5 は遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 に内蔵されている。すなわち、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 は、1 チップマイクロコンピュータである。1 チップマイクロコンピュータには、少なくとも CPU 5 6 のほか RAM 5 5 が内蔵されていればよく、ROM 5 4 は外付けであっても内蔵されていてもよい。また、I/O ポート部 5 7 は、外付けであってもよい。遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 には、さらに、ハードウェア乱数（ハードウェア回路が発生する乱数）が発生する乱数回路 5 0 3 が内蔵されている。

10

【 0 0 4 6 】

なお、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 において CPU 5 6 が ROM 5 4 に格納されているプログラムに従って制御を実行するので、以下、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0（または CPU 5 6）が実行する（または、処理を行う）ということは、具体的には、CPU 5 6 がプログラムに従って制御を実行することである。このことは、主基板 3 1 以外の他の基板に搭載されているマイクロコンピュータについても同様である。

20

【 0 0 4 7 】

乱数回路 5 0 3 は、特別図柄の可変表示の表示結果により大当たりとするか否か判定するための判定用の乱数が発生するために用いられるハードウェア回路である。乱数回路 5 0 3 は、初期値（例えば、0）と上限値（例えば、6 5 5 3 5）とが設定された数値範囲内で、数値データを、設定された更新規則に従って更新し、ランダムなタイミングで発生する始動入賞時が数値データの読出（抽出）時であることにもとづいて、読出される数値データが乱数値となる乱数発生機能を有する。

30

【 0 0 4 8 】

乱数回路 5 0 3 は、数値データの更新範囲の選択設定機能（初期値の選択設定機能、および、上限値の選択設定機能）、数値データの更新規則の選択設定機能、および数値データの更新規則の選択切換え機能等の各種の機能を有する。このような機能によって、生成する乱数のランダム性を向上させることができる。

【 0 0 4 9 】

また、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 は、乱数回路 5 0 3 が更新する数値データの初期値を設定する機能を有している。例えば、ROM 5 4 等の所定の記憶領域に記憶された遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 の ID ナンバ（遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 の各製品ごとに異なる数値で付与された ID ナンバ）を用いて所定の演算を行なって得られた数値データを、乱数回路 5 0 3 が更新する数値データの初期値として設定する。そのような処理を行うことによって、乱数回路 5 0 3 が発生する乱数のランダム性をより向上させることができる。

40

【 0 0 5 0 】

遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 は、第 1 始動口スイッチ 1 3 a または第 2 始動口スイッチ 1 4 a への始動入賞が生じたときに乱数回路 5 0 3 から数値データをランダム R として読み出し、特別図柄および演出図柄の変動開始時にランダム R にもとづいて特定の表示結果としての大当たり表示結果にするか否か、すなわち、大当たりとするか否かを決定する。そして、大当たりすると決定したときに、遊技状態を遊技者にとって有利な特定遊技状態としての大当たり遊技状態に移行させる。

50

【 0 0 5 1 】

また、RAM 55は、その一部または全部が電源基板において作成されるバックアップ電源によってバックアップされている不揮発性記憶手段としてのバックアップRAMである。すなわち、遊技機に対する電力供給が停止しても、所定期間（バックアップ電源としてのコンデンサが放電してバックアップ電源が電力供給不能になるまで）は、RAM 55の一部または全部の内容は保存される。特に、少なくとも、遊技状態すなわち遊技制御手段の制御状態に応じたデータ（特別図柄プロセスフラグや合算保留記憶数カウンタの値など）と未払出賞球数を示すデータは、バックアップRAMに保存される。遊技制御手段の制御状態に応じたデータとは、停電等が生じた後に復旧した場合に、そのデータにもとづいて、制御状態を停電等の発生前に復旧させるために必要なデータである。また、制御状態に応じたデータと未払出賞球数を示すデータとを遊技の進行状態を示すデータと定義する。なお、この実施の形態では、RAM 55の全部が、電源バックアップされているとする。

10

【 0 0 5 2 】

遊技制御用マイクロコンピュータ560のリセット端子には、電源基板からのリセット信号（図示せず）が入力される。電源基板には、遊技制御用マイクロコンピュータ560等へ供給されるリセット信号を生成するリセット回路が搭載されている。なお、リセット信号がハイレベルになると遊技制御用マイクロコンピュータ560等は動作可能状態になり、リセット信号がローレベルになると遊技制御用マイクロコンピュータ560等は動作停止状態になる。従って、リセット信号がハイレベルである期間は、遊技制御用マイクロコンピュータ560等の動作を許容する許容信号が出力されていることになり、リセット信号がローレベルである期間は、遊技制御用マイクロコンピュータ560等の動作を停止させる動作停止信号が出力されていることになり、リセット回路をそれぞれの電気部品制御基板（電気部品を制御するためのマイクロコンピュータが搭載されている基板）に搭載してもよい。

20

【 0 0 5 3 】

さらに、遊技制御用マイクロコンピュータ560の入力ポートには、電源基板からの電源電圧が所定値以下に低下したことを示す電源断信号が入力される。すなわち、電源基板には、遊技機において使用される所定電圧（例えば、DC 30VやDC 5Vなど）の電圧値を監視して、電圧値があらかじめ定められた所定値にまで低下すると（電源電圧の低下を検出すると）、その旨を示す電源断信号を出力する電源監視回路が搭載されている。また、遊技制御用マイクロコンピュータ560の入力ポートには、RAMの内容をクリアすることを指示するためのクリアスイッチが操作されたことを示すクリア信号（図示せず）が入力される。

30

【 0 0 5 4 】

また、ゲートスイッチ32a、第1始動口スイッチ13a、第2始動口スイッチ14aおよびカウントスイッチ23からの検出信号を遊技制御用マイクロコンピュータ560に与える入力ドライバ回路58も主基板31に搭載されている。また、可変入賞球装置15を開閉するソレノイド16、および大入賞口を形成する特別可変入賞球装置20を開閉するソレノイド21を遊技制御用マイクロコンピュータ560からの指令に従って駆動する出力回路59も主基板31に搭載されている。さらに、大当り遊技状態の発生を示す大当り情報等の情報出力信号をホールコンピュータ等の外部装置に対して出力する情報出力回路（図示せず）も主基板31に搭載されている。

40

【 0 0 5 5 】

この実施の形態では、演出制御基板80に搭載されている演出制御手段（演出制御用マイクロコンピュータで構成される。）が、中継基板77を介して遊技制御用マイクロコンピュータ560から演出内容を指示する演出制御コマンドを受信し、演出図柄を可変表示する演出表示装置9との表示制御を行う。

【 0 0 5 6 】

図3は、中継基板77、演出制御基板80、ランプドライバ基板35および音声出力基

50

板 70 の回路構成例を示すブロック図である。なお、図 3 に示す例では、ランプドライバ基板 35 および音声出力基板 70 には、マイクロコンピュータは搭載されていないが、マイクロコンピュータを搭載してもよい。また、ランプドライバ基板 35 および音声出力基板 70 を設けずに、演出制御に関して演出制御基板 80 のみを設けてもよい。

【0057】

演出制御基板 80 は、演出制御用 CPU 101 および RAM を含む演出制御用マイクロコンピュータ 100 を搭載している。なお、RAM は外付けであってもよい。演出制御基板 80 において、演出制御用 CPU 101 は、内蔵または外付けの ROM (図示せず) に格納されたプログラムに従って動作し、中継基板 77 を介して入力される主基板 31 からの取込信号 (演出制御 INT 信号) に応じて、入力ドライバ 102 および入力ポート 103 を介して演出制御コマンドを受信する。また、演出制御用 CPU 101 は、演出制御コマンドにもとづいて、VDP (ビデオディスプレイプロセッサ) 109 に演出表示装置 9 の表示制御を行わせる。

10

【0058】

また、演出制御用マイクロコンピュータ 100 が備える RAM は、その一部が電源基板において作成されるバックアップ電源によってバックアップされている不揮発性記憶手段としてのバックアップ RAM である。すなわち、遊技機に対する電力供給が停止しても、所定期間 (バックアップ電源としてのコンデンサが放電してバックアップ電源が電力供給不能になるまで) は、演出制御用マイクロコンピュータ 100 が備える RAM の一部の内容は保存される。特に、少なくとも、遊技状態を示すデータ (後述する、確変状態フラグや時短状態フラグ) は、バックアップ RAM に保存される。ただし、この実施の形態では、後述する時短状態移行後の変動回数をカウントするための時短後回数カウンタの値は、バックアップ RAM には保存されない。

20

【0059】

この実施の形態では、演出制御用マイクロコンピュータ 100 と共動して演出表示装置 9 の表示制御を行う VDP 109 が演出制御基板 80 に搭載されている。VDP 109 は、演出制御用マイクロコンピュータ 100 とは独立したアドレス空間を有し、そこに VRAM をマッピングする。VRAM は、VDP によって生成された画像データを展開するためのバッファメモリである。そして、VDP 109 は、VRAM 内の画像データを演出表示装置 9 に出力する。

30

【0060】

演出制御用 CPU 101 は、受信した演出制御コマンドに従ってキャラクタ ROM (図示せず) から必要なデータを読み出す。キャラクタ ROM は、演出表示装置 9 に表示されるキャラクタ画像データ、具体的には、人物、文字、図形または記号等 (演出図柄を含む) をあらかじめ格納しておくためのものである。演出制御用 CPU 101 は、キャラクタ ROM から読み出したデータを VDP 109 に出力する。VDP 109 は、演出制御用 CPU 101 から入力されたデータにもとづいて表示制御を実行する。

【0061】

演出制御コマンドおよび演出制御 INT 信号は、演出制御基板 80 において、まず、入力ドライバ 102 に入力する。入力ドライバ 102 は、中継基板 77 から入力された信号を演出制御基板 80 の内部に向かう方向にしか通過させない (演出制御基板 80 の内部から中継基板 77 へ方向には信号を通過させない) 信号方向規制手段としての単方向性回路でもある。

40

【0062】

中継基板 77 には、主基板 31 から入力された信号を演出制御基板 80 に向かう方向にしか通過させない (演出制御基板 80 から中継基板 77 へ方向には信号を通過させない) 信号方向規制手段としての単方向性回路 74 が搭載されている。単方向性回路として、例えばダイオードやトランジスタが使用される。図 3 には、ダイオードが例示されている。また、単方向性回路は、各信号毎に設けられる。さらに、単方向性回路である出力ポート 571 を介して主基板 31 から演出制御コマンドおよび演出制御 INT 信号が出力され

50

るので、中継基板 77 から主基板 31 の内部に向かう信号が規制される。すなわち、中継基板 77 からの信号は主基板 31 の内部（遊技制御用マイクロコンピュータ 560 側）に入り込まない。なお、出力ポート 571 は、図 2 に示された I/O ポート部 57 の一部である。また、出力ポート 571 の外側（中継基板 77 側）に、さらに、単方向性回路である信号ドライバ回路が設けられていてもよい。

【0063】

さらに、演出制御用 CPU 101 は、出力ポート 105 を介してランプドライバ基板 35 に対して LED を駆動する信号を出力する。また、演出制御用 CPU 101 は、出力ポート 104 を介して音声出力基板 70 に対して音番号データを出力する。

【0064】

ランプドライバ基板 35 において、LED を駆動する信号は、入力ドライバ 351 を介して LED ドライバ 352 に入力される。LED ドライバ 352 は、駆動信号を天枠 LED 28a、左枠 LED 28b、右枠 LED 28c などの枠側に設けられている各 LED に供給する。また、遊技盤側に設けられている装飾 LED 25 に駆動信号を供給する。なお、LED 以外の発光体が設けられている場合には、それを駆動する駆動回路（ドライバ）がランプドライバ基板 35 に搭載される。

【0065】

音声出力基板 70 において、音番号データは、入力ドライバ 702 を介して音声合成用 IC 703 に入力される。音声合成用 IC 703 は、音番号データに応じた音声や効果音を発生し増幅回路 705 に出力する。増幅回路 705 は、音声合成用 IC 703 の出力レベルを、ボリューム 706 で設定されている音量に応じたレベルに増幅した音声信号をスピーカ 27R、27L に出力する。音声データ ROM 704 には、音番号データに応じた制御データが格納されている。音番号データに応じた制御データは、所定期間（例えば演出図柄の変動期間）における効果音または音声の出力態様を時系列的に示すデータの集まりである。

【0066】

次に、遊技機の動作について説明する。図 4 は、主基板 31 における遊技制御用マイクロコンピュータ 560 が実行するメイン処理を示すフローチャートである。遊技機に対して電源が投入され電力供給が開始されると、リセット信号が入力されるリセット端子の入力レベルがハイレベルになり、遊技制御用マイクロコンピュータ 560（具体的には、CPU 56）は、プログラムの内容が正当か否か確認するための処理であるセキュリティチェック処理を実行した後、ステップ S1 以降のメイン処理を開始する。メイン処理において、CPU 56 は、まず、必要な初期設定を行う。

【0067】

初期設定処理において、CPU 56 は、まず、割込禁止に設定する（ステップ S1）。次に、割込モードを割込モード 2 に設定し（ステップ S2）、スタックポインタにスタックポインタ指定アドレスを設定する（ステップ S3）。そして、内蔵デバイスの初期化（内蔵デバイス（内蔵周辺回路）である CTC（カウンタ/タイマ）および PIO（パラレル入出力ポート）の初期化など）を行った後（ステップ S4）、RAM をアクセス可能状態に設定する（ステップ S5）。なお、割込モード 2 は、CPU 56 が内蔵する特定レジスタ（Iレジスタ）の値（1 バイト）と内蔵デバイスが出力する割込ベクタ（1 バイト：最下位ビット 0）とから合成されるアドレスが、割込番地を示すモードである。

【0068】

次いで、CPU 56 は、入力ポートを介して入力されるクリアスイッチ（例えば、電源基板に搭載されている。）の出力信号（クリア信号）の状態を確認する（ステップ S6）。その確認においてオンを検出した場合には、CPU 56 は、通常の初期化処理（ステップ S10～S15）を実行する。

【0069】

クリアスイッチがオンの状態でない場合には、遊技機への電力供給が停止したときにバックアップ RAM 領域のデータ保護処理（例えばパリティデータの付加等の電力供給停止

10

20

30

40

50

時処理)が行われたか否か確認する(ステップS7)。そのような保護処理が行われていないことを確認したら、CPU56は初期化処理を実行する。バックアップRAM領域にバックアップデータがあるか否かは、例えば、電力供給停止時処理においてバックアップRAM領域に設定されるバックアップフラグの状態によって確認される。

【0070】

電力供給停止時処理が行われたことを確認したら、CPU56は、バックアップRAM領域のデータチェックを行う(ステップS8)。この実施の形態では、データチェックとしてパリティチェックを行う。よって、ステップS8では、算出したチェックサムと、電力供給停止時処理で同一の処理によって算出され保存されているチェックサムとを比較する。不測の停電等の電力供給停止が生じた後に復旧した場合には、バックアップRAM領域のデータは保存されているはずであるから、チェック結果(比較結果)は正常(一致)になる。チェック結果が正常でないということは、バックアップRAM領域のデータが、電力供給停止時のデータとは異なっていることを意味する。そのような場合には、内部状態を電力供給停止時の状態に戻すことができないので、電力供給の停止からの復旧時でない電源投入時に実行される初期化処理を実行する。

【0071】

チェック結果が正常であれば、CPU56は、遊技制御手段の内部状態と演出制御手段等の電気部品制御手段の制御状態を電力供給停止時の状態に戻すための遊技状態復旧処理(ステップS41~S43の処理)を行う。具体的には、ROM54に格納されているバックアップ時設定テーブルの先頭アドレスをポインタに設定し(ステップS41)、バックアップ時設定テーブルの内容を順次作業領域(RAM55内の領域)に設定する(ステップS42)。作業領域はバックアップ電源によって電源バックアップされている。バックアップ時設定テーブルには、作業領域のうち初期化してもよい領域についての初期化データが設定されている。ステップS41およびS42の処理によって、作業領域のうち初期化してはならない部分については、保存されていた内容がそのまま残る。初期化してはならない部分とは、例えば、電力供給停止前の遊技状態を示すデータ(特別図柄プロセスフラグ、確変フラグ、時短フラグなど)、出力ポートの出力状態が保存されている領域(出力ポートバッファ)、未払出賞球数を示すデータが設定されている部分などである。

【0072】

また、CPU56は、電力供給復旧時の初期化コマンドとしての停電復旧指定コマンドを送信する(ステップS43)。そして、ステップS14に移行する。なお、この実施の形態では、CPU56は、ステップS43の処理において、バックアップRAMに保存されていた合算保留記憶数カウンタの値を設定した合算保留記憶数指定コマンドも演出制御基板80に対して送信する。

【0073】

なお、この実施の形態では、バックアップフラグとチェックデータとの双方を用いてバックアップRAM領域のデータが保存されているか否か確認しているが、いずれか一方のみを用いてもよい。すなわち、バックアップフラグとチェックデータとのいずれかを、遊技状態復旧処理を実行するための契機としてもよい。

【0074】

初期化処理では、CPU56は、まず、RAMクリア処理を行う(ステップS10)。なお、RAMクリア処理によって、所定のデータ(例えば、普通図柄当り判定用乱数を生成するためのカウンタのカウント値のデータ)は0に初期化されるが、任意の値またはあらかじめ決められている値に初期化するようにしてもよい。また、RAM55の全領域を初期化せず、所定のデータ(例えば、普通図柄当り判定用乱数を生成するためのカウンタのカウント値のデータ)をそのままにしてもよい。また、ROM54に格納されている初期化時設定テーブルの先頭アドレスをポインタに設定し(ステップS11)、初期化時設定テーブルの内容を順次作業領域に設定する(ステップS12)。

【0075】

ステップS11およびS12の処理によって、例えば、普通図柄当り判定用乱数カウン

10

20

30

40

50

タ、特別図柄バッファ、総賞球数格納バッファ、特別図柄プロセスフラグなど制御状態に応じて選択的に処理を行うためのフラグに初期値が設定される。

【 0 0 7 6 】

また、CPU 56 は、サブ基板（主基板 31 以外のマイクロコンピュータが搭載された基板。）を初期化するための初期化指定コマンド（遊技制御用マイクロコンピュータ 560 が初期化処理を実行したことを示すコマンドでもある。）をサブ基板に送信する（ステップ S 13）。例えば、演出制御用マイクロコンピュータ 100 は、初期化指定コマンドを受信すると、演出表示装置 9 において、遊技機の制御の初期化がなされたことを報知するための画面表示、すなわち初期化報知を行う。

【 0 0 7 7 】

また、CPU 56 は、乱数回路 503 を初期設定する乱数回路設定処理を実行する（ステップ S 14）。CPU 56 は、例えば、乱数回路設定プログラムに従って処理を実行することによって、乱数回路 503 にランダム R の値を更新させるための設定を行う。

【 0 0 7 8 】

そして、ステップ S 15 において、CPU 56 は、所定時間（例えば 2 m s）毎に定期的にタイマ割込がかかるように遊技制御用マイクロコンピュータ 560 に内蔵されている CTC のレジスタの設定を行なう。すなわち、初期値として例えば 2 m s に相当する値が所定のレジスタ（時間定数レジスタ）に設定される。この実施の形態では、2 m s 毎に定期的にタイマ割込がかかるとする。

【 0 0 7 9 】

初期化処理の実行（ステップ S 10 ~ S 15）が完了すると、CPU 56 は、メイン処理で、表示用乱数更新処理（ステップ S 17）および初期値用乱数更新処理（ステップ S 18）を繰り返し実行する。表示用乱数更新処理および初期値用乱数更新処理を実行するときには割込禁止状態に設定し（ステップ S 16）、表示用乱数更新処理および初期値用乱数更新処理の実行が終了すると割込許可状態に設定する（ステップ S 19）。この実施の形態では、表示用乱数とは、大当たりとしない場合の特別図柄の停止図柄を決定するための乱数や大当たりとしない場合にリーチとするか否かを決定するための乱数であり、表示用乱数更新処理とは、表示用乱数を発生するためのカウンタのカウント値を更新する処理である。また、初期値用乱数更新処理とは、初期値用乱数を発生するためのカウンタのカウント値を更新する処理である。この実施の形態では、初期値用乱数とは、普通図柄に関して当たりとするか否かを決定するための乱数を発生するためのカウンタ（普通図柄当たり判定用乱数発生カウンタ）のカウント値の初期値を決定するための乱数である。後述する遊技の進行を制御する遊技制御処理（遊技制御用マイクロコンピュータ 560 が、遊技機に設けられている演出表示装置、可変入賞球装置、球払出装置等の遊技用の装置を、自身で制御する処理、または他のマイクロコンピュータに制御させるために指令信号を送信する処理、遊技装置制御処理ともいう）において、普通図柄当たり判定用乱数のカウント値が 1 周（普通図柄当たり判定用乱数の取りうる値の最小値から最大値までの間の数値の個数分歩進したこと）すると、そのカウンタに初期値が設定される。

【 0 0 8 0 】

なお、この実施の形態では、リーチ演出は、演出表示装置 9 において可変表示される演出図柄（飾り図柄）を用いて実行される。また、特別図柄の表示結果を大当たり図柄にする場合には、リーチ演出は常に実行される。特別図柄の表示結果を大当たり図柄にしない場合には、遊技制御用マイクロコンピュータ 560 は、乱数を用いた抽選によって、リーチ演出を実行するか否かを決定する。ただし、実際にリーチ演出の制御を実行するのは、演出制御用マイクロコンピュータ 100 である。

【 0 0 8 1 】

タイマ割込が発生すると、CPU 56 は、図 5 に示すステップ S 20 ~ S 34 のタイマ割込処理を実行する。タイマ割込処理において、まず、電源断信号が出力されたか否か（オン状態になったか否か）を検出する電源断検出処理を実行する（ステップ S 20）。電源断信号は、例えば電源基板に搭載されている電源監視回路が、遊技機に供給される電源

10

20

30

40

50

の電圧の低下を検出した場合に出力する。そして、電源断検出処理において、CPU 56は、電源断信号が出力されたことを検出したら、必要なデータをバックアップRAM領域に保存するための電力供給停止時処理を実行する。次いで、入力ドライバ回路58を介して、ゲートスイッチ32a、第1始動口スイッチ13a、第2始動口スイッチ14aおよびカウントスイッチ23の検出信号を入力し、それらの状態判定を行う（スイッチ処理：ステップS21）。

【0082】

次に、CPU 56は、第1特別図柄表示器8a、第2特別図柄表示器8b、普通図柄表示器10、第1特別図柄保留記憶表示器18a、第2特別図柄保留記憶表示器18b、普通図柄保留記憶表示器41の表示制御を行う表示制御処理を実行する（ステップS22）

10

【0083】

また、遊技制御に用いられる普通図柄当り判定用乱数等の各判定用乱数を生成するための各カウンタのカウント値を更新する処理を行う（判定用乱数更新処理：ステップS23）。CPU 56は、さらに、初期値用乱数および表示用乱数を生成するためのカウンタのカウント値を更新する処理を行う（初期値用乱数更新処理、表示用乱数更新処理：ステップS24、S25）。

【0084】

20

さらに、CPU 56は、特別図柄プロセス処理を行う（ステップS26）。特別図柄プロセス処理では、第1特別図柄表示器8a、第2特別図柄表示器8bおよび大入賞口を所定の順序で制御するための特別図柄プロセスフラグに従って該当する処理を実行する。CPU 56は、特別図柄プロセスフラグの値を、遊技状態に応じて更新する。

【0085】

次いで、普通図柄プロセス処理を行う（ステップS27）。普通図柄プロセス処理では、CPU 56は、普通図柄表示器10の表示状態を所定の順序で制御するための普通図柄プロセスフラグに従って該当する処理を実行する。CPU 56は、普通図柄プロセスフラグの値を、遊技状態に応じて更新する。

【0086】

30

また、CPU 56は、演出制御用マイクロコンピュータ100に演出制御コマンドを送出する処理を行う（演出制御コマンド制御処理：ステップS28）。

【0087】

さらに、CPU 56は、例えばホール管理用コンピュータに供給される大当り情報、始動情報、確率変動情報などのデータを出力する情報出力処理を行う（ステップS29）。

【0088】

また、CPU 56は、第1始動口スイッチ13a、第2始動口スイッチ14aおよびカウントスイッチ23の検出信号にもとづく賞球個数の設定などを行う賞球処理を実行する（ステップS30）。具体的には、第1始動口スイッチ13a、第2始動口スイッチ14aおよびカウントスイッチ23のいずれかがオンしたことにもとづく入賞検出に応じて、払出制御基板37に搭載されている払出制御用マイクロコンピュータに賞球個数を示す払出制御コマンド（賞球個数信号）を出力する。払出制御用マイクロコンピュータは、賞球個数を示す払出制御コマンドに応じて球払出装置97を駆動する。

40

【0089】

この実施の形態では、出力ポートの出力状態に対応したRAM領域（出力ポートバッファ）が設けられているのであるが、CPU 56は、出力ポートの出力状態に対応したRAM領域におけるソレノイドのオン/オフに関する内容を出力ポートに出力する（ステップS31：出力処理）。

【0090】

また、CPU 56は、特別図柄プロセスフラグの値に応じて特別図柄の演出表示を行う

50

ための特別図柄表示制御データを特別図柄表示制御データ設定用の出力バッファに設定する特別図柄表示制御処理を行う（ステップS32）。CPU56は、例えば、特別図柄プロセス処理でセットされる開始フラグがセットされると終了フラグがセットされるまで、変動速度が1コマ/0.2秒であれば、0.2秒が経過する毎に、出力バッファに設定される表示制御データの値を+1する。また、CPU56は、出力バッファに設定された表示制御データに応じて、ステップS22において駆動信号を出力することによって、第1特別図柄表示器8aおよび第2特別図柄表示器8bにおける第1特別図柄および第2特別図柄の可変表示を実行する。

【0091】

さらに、CPU56は、普通図柄プロセスフラグの値に応じて普通図柄の演出表示を行うための普通図柄表示制御データを普通図柄表示制御データ設定用の出力バッファに設定する普通図柄表示制御処理を行う（ステップS33）。CPU56は、例えば、普通図柄の変動に関する開始フラグがセットされると終了フラグがセットされるまで、普通図柄の変動速度が0.2秒ごとに表示状態（「○」および「×」）を切り替えるような速度であれば、0.2秒が経過する毎に、出力バッファに設定される表示制御データの値（例えば、「○」を示す1と「×」を示す0）を切り替える。また、CPU56は、出力バッファに設定された表示制御データに応じて、ステップS22において駆動信号を出力することによって、普通図柄表示器10における普通図柄の演出表示を実行する。

【0092】

その後、割込許可状態に設定し（ステップS34）、処理を終了する。

【0093】

以上の制御によって、この実施の形態では、遊技制御処理は2ms毎に起動されることになる。なお、遊技制御処理は、タイマ割込処理におけるステップS21～S33（ステップS29を除く。）の処理に相当する。また、この実施の形態では、タイマ割込処理で遊技制御処理が実行されているが、タイマ割込処理では例えば割込が発生したことを示すフラグのセットのみがなされ、遊技制御処理はメイン処理において実行されるようにしてもよい。

【0094】

第1特別図柄表示器8aまたは第2特別図柄表示器8bおよび演出表示装置9にはずれ図柄が停止表示される場合には、演出図柄の可変表示が開始されてから、演出図柄の可変表示状態がリーチ状態にならずに、リーチにならない所定の演出図柄の組み合わせが停止表示されることがある。このような演出図柄の可変表示状態様を、可変表示結果がはずれ図柄になる場合における「非リーチ」（「通常はずれ」ともいう）の可変表示状態様という。

【0095】

第1特別図柄表示器8aまたは第2特別図柄表示器8bおよび演出表示装置9にはずれ図柄が停止表示される場合には、演出図柄の可変表示が開始されてから、演出図柄の可変表示状態がリーチ状態となった後にリーチ演出が実行され、最終的に大当たり図柄とはならない所定の演出図柄の組み合わせが停止表示されることがある。このような演出図柄の可変表示結果を、可変表示結果が「はずれ」となる場合における「リーチ」（「リーチはずれ」ともいう）の可変表示状態様という。

【0096】

この実施の形態では、第1特別図柄表示器8aまたは第2特別図柄表示器8bに大当たり図柄が停止表示される場合には、演出図柄の可変表示状態がリーチ状態になった後にリーチ演出が実行され、最終的に演出表示装置9における「左」、「中」、「右」の各図柄表示エリア9L、9C、9Rに、演出図柄が揃って停止表示される。

【0097】

第1特別図柄表示器8aまたは第2特別図柄表示器8bに小当たりである「5」が停止表示される場合には、演出表示装置9において、演出図柄の可変表示状態様が「突然確変大当たり」である場合と同様に演出図柄の可変表示が行われた後、所定の小当たり図柄（突然確変大当たり図柄と同じ図柄。例えば「135」）が停止表示されることがある。第1特別図柄

10

20

30

40

50

表示器 8 a または第 2 特別図柄表示器 8 b に小当り図柄である「5」が停止表示されることに
 対応する演出表示装置 9 における表示演出を「小当り」の可変表示態様という。

【0098】

ここで、小当りとは、大当りと比較して大入賞口の開放回数が少ない回数（この実施の
 形態では 0.1 秒間の開放を 2 回）まで許容される当りである。なお、小当り遊技が終了
 した場合、遊技状態は変化しない。すなわち、確変状態から通常状態に移行したり通常状
 態から確変状態に移行したりすることはない。また、突然確変大当りとは、大当り遊技状
 態において大入賞口の開放回数が少ない回数（この実施の形態では 0.1 秒間の開放を 2
 回）まで許容されるが大入賞口の開放時間が極めて短い大当りであり、かつ、大当り遊技
 後の遊技状態を確変状態に移行させるような大当りである（すなわち、そのようにするこ
 とにより、遊技者に対して突然に確変状態となったかのように見せるものである）。つま
 り、この実施の形態では、突然確変大当りと小当りとは、大入賞口の開放パターンが同じ
 である。そのように制御することによって、大入賞口の 0.1 秒間の開放が 2 回行われる
 と、突然確変大当りであるか小当りであるかまでは認識できないので、遊技者に対して高
 確率状態（確変状態）を期待させることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【0099】

図 6 は、あらかじめ用意された演出図柄の変動パターンを示す説明図である。図 6 に示
 すように、この実施の形態では、可変表示結果が「はずれ」であり演出図柄の可変表示態
 様が「非リーチ」である場合に対応した変動パターンとして、非リーチ PA1 - 1 ~ 非リー
 チ PA1 - 4 の変動パターンが用意されている。また、可変表示結果が「はずれ」であり
 演出図柄の可変表示態様が「リーチ」である場合に対応した変動パターンとして、ノー
 マル PA2 - 1 ~ ノーマル PA2 - 2、ノーマル PB2 - 1 ~ ノーマル PB2 - 2、スー
 パー PA3 - 1 ~ スーパー PA3 - 2、スーパー PB3 - 1 ~ スーパー PB3 - 2 の変動
 パターンが用意されている。なお、図 6 に示すように、リーチしない場合に使用され擬似
 連の演出を伴う非リーチ PA1 - 4 の変動パターンについては、再変動が 1 回行われる。
 リーチする場合に使用され擬似連の演出を伴う変動パターンのうち、ノーマル PB2 - 1
 を用いる場合には、再変動が 1 回行われる。また、リーチする場合に使用され擬似連の演
 出を伴う変動パターンのうち、ノーマル PB2 - 2 を用いる場合には、再変動が 2 回行わ
 れる。さらに、リーチする場合に使用され擬似連の演出を伴う変動パターンのうち、スー
 パー PA3 - 1 ~ スーパー PA3 - 2 を用いる場合には、再変動が 3 回行われる。なお、
 再変動とは、演出図柄の可変表示が開始されてから表示結果が導出表示されるまでに一旦
 はずれとなる演出図柄を仮停止させた後に演出図柄の可変表示を再度実行することである
 。

【0100】

また、図 6 に示すように、この実施の形態では、特別図柄の可変表示結果が大当り図柄
 または小当り図柄になる場合に対応した変動パターンとして、ノーマル PA2 - 3 ~ ノー
 マル PA2 - 4、ノーマル PB2 - 3 ~ ノーマル PB2 - 4、スーパー PA3 - 3 ~ スー
 パー PA3 - 4、スーパー PB3 - 3 ~ スーパー PB3 - 4、特殊 PG1 - 1 ~ 特殊 PG
 1 - 3、特殊 PG2 - 1 ~ 特殊 PG2 - 2 の変動パターンが用意されている。なお、図 6
 において、特殊 PG1 - 1 ~ 特殊 PG1 - 3、特殊 PG2 - 1 ~ 特殊 PG2 - 2 の変動パ
 ターンは、突然確変大当りまたは小当りとなる場合に使用される変動パターンである。ま
 た、図 6 に示すように、突然確変大当りまたは小当りでない場合に使用され擬似連の演出
 を伴う変動パターンのうち、ノーマル PB2 - 3 を用いる場合には、再変動が 1 回行われ
 る。また、リーチする場合に使用され擬似連の演出を伴う変動パターンのうち、ノーマル
 PB2 - 4 を用いる場合には、再変動が 2 回行われる。さらに、リーチする場合に使用さ
 れ擬似連の演出を伴う変動パターンのうち、スーパー PA3 - 3 ~ スーパー PA3 - 4 を
 用いる場合には、再変動が 3 回行われる。また、突然確変大当りまたは小当りの場合に使
 用され擬似連の演出を伴う特殊 PG1 - 3 の変動パターンについては、再変動が 1 回行わ
 れる。

【0101】

10

20

30

40

50

なお、この実施の形態では、図 6 に示すように、リーチの種類に応じて変動時間が固定的に定められている場合（例えば、擬似連ありのスーパーリーチ A の場合には変動時間が 32.75 秒で固定であり、擬似連なしのスーパーリーチ A の場合には変動時間が 22.75 秒で固定である）を示しているが、例えば、同じ種類のスーパーリーチの場合であっても、合算保留記憶数に応じて、変動時間を異ならせるようにしてもよい。例えば、同じ種類のスーパーリーチを伴う場合であっても、合算保留記憶数が多くなるに従って、変動時間が短くなるようにしてもよい。また、例えば、同じ種類のスーパーリーチの場合であっても、第 1 特別図柄の変動表示を行う場合には、第 1 保留記憶数に応じて、変動時間を異ならせるようにしてもよく、第 2 特別図柄の変動表示を行う場合には、第 2 保留記憶数に応じて、変動時間を異ならせるようにしてもよい。この場合、第 1 保留記憶数や第 2 保留記憶数の値ごとに別々の判定テーブルを用意しておき（例えば、保留記憶数 0 ~ 2 用の変動パターン種別判定テーブルと保留記憶数 3, 4 用の変動パターン種別判定テーブルとを用意しておき）、第 1 保留記憶数または第 2 保留記憶数の値に応じて判定テーブルを選択して、変動時間を異ならせるようにしてもよい。

10

【0102】

図 7 は、各乱数を示す説明図である。各乱数は、以下のように使用される。

(1) ランダム 1 (MR1) : 大当りの種類（後述する通常大当り、確変大当り、突然確変大当り）を決定する（大当り種別判定用）

(2) ランダム 2 (MR2) : 変動パターンの種類（種別）を決定する（変動パターン種別判定用）

20

(3) ランダム 3 (MR3) : 変動パターン（変動時間）を決定する（変動パターン判定用）

(4) ランダム 4 (MR4) : 普通図柄にもとづく当りを発生させるか否か決定する（普通図柄当り判定用）

(5) ランダム 5 (MR5) : ランダム 4 の初期値を決定する（ランダム 4 初期値決定用）

【0103】

なお、この実施の形態では、変動パターンは、まず、変動パターン種別判定用乱数（ランダム 2）を用いて変動パターン種別を決定し、変動パターン判定用乱数（ランダム 3）を用いて、決定した変動パターン種別に含まれるいずれかの変動パターンに決定する。そのように、この実施の形態では、2 段階の抽選処理によって変動パターンが決定される。

30

【0104】

なお、変動パターン種別とは、複数の変動パターンをその変動態様の特徴に従ってグループ化したものである。例えば、複数の変動パターンをリーチの種類でグループ化して、ノーマルリーチを伴う変動パターンを含む変動パターン種別と、スーパーリーチ A を伴う変動パターンを含む変動パターン種別と、スーパーリーチ B を伴う変動パターンを含む変動パターン種別とに分けてもよい。また、例えば、複数の変動パターンを擬似連の再変動の回数でグループ化して、擬似連を伴わない変動パターンを含む変動パターン種別と、再変動 1 回の変動パターンを含む変動パターン種別と、再変動 2 回の変動パターンを含む変動パターン種別と、再変動 3 回の変動パターンを含む変動パターン種別とに分けてもよい。また、例えば、複数の変動パターンを擬似連や滑り演出などの特定演出の有無でグループ化してもよい。

40

【0105】

なお、この実施の形態では、後述するように、確変大当りである場合には、ノーマルリーチのみを伴う変動パターンを含む変動パターン種別であるノーマル CA3-1 と、ノーマルリーチおよび擬似連を伴う変動パターンを含む変動パターン種別であるノーマル CA3-2 と、スーパーリーチを伴う変動パターン種別であるスーパー CA3-3 およびスーパー CA3-4 とに種別分けされている。また、通常大当りである場合には、ノーマルリーチのみを伴う変動パターンを含む変動パターン種別であるノーマル CA3-1 と、ノーマルリーチおよび擬似連を伴う変動パターンを含む変動パターン種別であるノーマル CA

50

3 - 2 と、スーパーリーチを伴う変動パターン種別であるスーパー C A 3 - 4 とに種別分けされている。また、突然確変大当りである場合には、非リーチの変動パターンを含む変動パターン種別である特殊 C A 4 - 1 と、リーチを伴う変動パターンを含む変動パターン種別である特殊 C A 4 - 2 とに種別分けされている。また、小当りである場合には、非リーチの変動パターンを含む変動パターン種別である特殊 C A 4 - 1 に種別分けされている。また、はずれである場合には、リーチも特定演出も伴わない変動パターンを含む変動パターン種別である非リーチ C A 2 - 1 と、リーチを伴わないが特定演出を伴う変動パターンを含む変動パターン種別である非リーチ C A 2 - 2 と、リーチも特定演出も伴わない短縮変動の変動パターンを含む変動パターン種別である非リーチ C A 2 - 3 と、ノーマルリーチのみを伴う変動パターンを含む変動パターン種別であるノーマル C A 2 - 4 と、ノーマルリーチおよび再変動 2 回の擬似連を伴う変動パターンを含む変動パターン種別であるノーマル C A 2 - 5 と、ノーマルリーチおよび再変動 1 回の擬似連を伴う変動パターンを含む変動パターン種別であるノーマル C A 2 - 6 と、スーパーリーチを伴う変動パターン種別であるスーパー C A 2 - 7 とに種別分けされている。

10

【 0 1 0 6 】

図 5 に示された遊技制御処理におけるステップ S 2 3 では、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 は、(1) の大当り種別判定用乱数、および (4) の普通図柄当り判定用乱数を生成するためのカウンタのカウントアップ (1 加算) を行う。すなわち、それらが判定用乱数であり、それら以外の乱数が表示用乱数 (ランダム 2、ランダム 3) または初期値用乱数 (ランダム 5) である。なお、遊技効果を高めるために、上記の乱数以外の乱数

20

【 0 1 0 7 】

図 8 (A) は、大当り判定テーブルを示す説明図である。大当り判定テーブルとは、ROM 5 4 に記憶されているデータの集まりであって、ランダム R と比較される大当り判定値が設定されているテーブルである。大当り判定テーブルには、通常状態 (確変状態でない遊技状態) において用いられる通常時大当り判定テーブルと、確変状態において用いられる確変時大当り判定テーブルとがある。通常時大当り判定テーブルには、図 8 (A) の左欄に記載されている各数値が設定され、確変時大当り判定テーブルには、図 8 (A) の右欄に記載されている各数値が設定されている。図 8 (A) に記載されている数値が大当り判定値である。

30

【 0 1 0 8 】

図 8 (B) , (C) は、小当り判定テーブルを示す説明図である。小当り判定テーブルとは、ROM 5 4 に記憶されているデータの集まりであって、ランダム R と比較される小当り判定値が設定されているテーブルである。小当り判定テーブルには、第 1 特別図柄の変動表示を行うときに用いられる小当り判定テーブル (第 1 特別図柄用) と、第 2 特別図柄の変動表示を行うときに用いられる小当り判定テーブル (第 2 特別図柄用) とがある。小当り判定テーブル (第 1 特別図柄用) には、図 8 (B) に記載されている各数値が設定され、小当り判定テーブル (第 2 特別図柄用) には、図 8 (C) に記載されている各数値

40

【 0 1 0 9 】

なお、第 1 特別図柄の変動表示を行う場合にのみ小当りと決定するようにし、第 2 特別図柄の変動表示を行う場合には小当りを設けないようにしてもよい。この場合、図 8 (C) に示す第 2 特別図柄用の小当り判定テーブルは設けなくてもよい。この実施の形態では、遊技状態が確変状態に移行されているときには主として第 2 特別図柄の変動表示が実行される。遊技状態が確変状態に移行されているときにも小当りが発生するようにし、確変となるか否かを煽る演出を行うように構成すると、現在の遊技状態が確変状態であるにもかかわらず却って遊技者に煩わしさを感じさせてしまう。そこで、第 2 特別図柄の変動表

50

示中は小当りが発生しないように構成すれば、遊技状態が確変状態である場合には小当りが発生しにくくし必要以上に確変に対する煽り演出を行わないようにすることができ、遊技者に煩わしさを感じさせる事態を防止することができる。

【 0 1 1 0 】

CPU56は、所定の時期に、乱数回路503のカウント値を抽出して抽出値を大当り判定用乱数(ランダムR)の値とするのであるが、大当り判定用乱数値が図8(A)に示すいずれかの当り判定値に一致すると、特別図柄に関して大当り(後述する通常大当り、確変大当り、突然確変大当り)にすることに決定する。また、大当り判定用乱数値が図8(B),(C)に示すいずれかの小当り判定値に一致すると、特別図柄に関して小当りにすることに決定する。なお、図8(A)に示す「確率」は、大当りになる確率(割合)を示す。また、図8(B),(C)に示す「確率」は、小当りになる確率(割合)を示す。また、大当りにするか否か決定するということは、大当り遊技状態に移行させるか否か決定するということであるが、第1特別図柄表示器8aまたは第2特別図柄表示器8bにおける停止図柄を大当り図柄にするか否か決定するということでもある。また、小当りにするか否か決定するということは、小当り遊技状態に移行させるか否か決定するということであるが、第1特別図柄表示器8aまたは第2特別図柄表示器8bにおける停止図柄を小当り図柄にするか否か決定するということでもある。

10

【 0 1 1 1 】

なお、この実施の形態では、図8(B),(C)に示すように、小当り判定テーブル(第1特別図柄用)を用いる場合には300分の1の割合で小当りと決定されるのに対して、小当り判定テーブル(第2特別図柄)を用いる場合には3000分の1の割合で小当りと決定される場合を説明する。従って、この実施の形態では、第1始動入賞口13に始動入賞して第1特別図柄の変動表示が実行される場合には、第2始動入賞口14に始動入賞して第2特別図柄の変動表示が実行される場合と比較して、「小当り」と決定される割合が高い。

20

【 0 1 1 2 】

図8(D),(E)は、ROM54に記憶されている大当り種別判定テーブル131a,131bを示す説明図である。このうち、図8(D)は、遊技球が第1始動入賞口13に入賞したことにもとづく保留記憶を用いて(すなわち、第1特別図柄の変動表示が行われるとき)大当り種別を決定する場合の大当り種別判定テーブル(第1特別図柄用)131aである。また、図8(E)は、遊技球が第2始動入賞口14に入賞したことにもとづく保留記憶を用いて(すなわち、第2特別図柄の変動表示が行われるとき)大当り種別を決定する場合の大当り種別判定テーブル(第2特別図柄用)131bである。

30

【 0 1 1 3 】

大当り種別判定テーブル131a,131bは、可変表示結果を大当り図柄にする旨の判定がなされたときに、大当り種別判定用の乱数(ランダム1)にもとづいて、大当りの種別を「通常大当り」、「確変大当り」、「突然確変大当り」のうちのいずれかに決定するために参照されるテーブルである。なお、この実施の形態では、図8(D),(E)に示すように、大当り種別判定テーブル131aには「突然確変大当り」に対して10個の判定値が割り当てられている(40分の10の割合で突然確変大当りと決定される)のに対して、大当り種別判定テーブル131bには「突然確変大当り」に対して3個の判定値が割り当てられている(40分の3の割合で突然確変大当りと決定される)場合を説明する。従って、この実施の形態では、第1始動入賞口13に始動入賞して第1特別図柄の変動表示が実行される場合には、第2始動入賞口14に始動入賞して第2特別図柄の変動表示が実行される場合と比較して、「突然確変大当り」と決定される割合が高い。なお、第1特別図柄用の大当り種別判定テーブル131aにのみ「突然確変大当り」を振り分けるようにし、第2特別図柄用の大当り種別判定テーブル131bには「突然確変大当り」の振り分けを行わない(すなわち、第1特別図柄の変動表示を行う場合にのみ、「突然確変大当り」と決定される場合がある)ようにしてもよい。

40

【 0 1 1 4 】

50

なお、この実施の形態では、図8(D)、(E)に示すように、所定量の遊技価値を付与する第1特定遊技状態として2ラウンドの突然確変大当たりと、該遊技価値よりも多い量の遊技価値を付与する第2特定遊技状態として15ラウンドの大当たり(確変大当たりまたは通常大当たり)と決定する場合を説明するが、第1特別図柄の変動表示が実行される場合に高い割合で第1特定遊技状態とすることに決定する場合を示しているが、付与される遊技価値は、この実施の形態で示したようなラウンド数に限られない。例えば、第1特定遊技状態と比較して、遊技価値として1ラウンドあたりの大入賞口への遊技球の入賞数(カウント数)の許容量を多くした第2特定遊技状態を決定するようにしてもよい。また、例えば、第1特定遊技状態と比較して、遊技価値として大当たり中の1回あたりの大入賞口の開放時間を長くした第2特定遊技状態を決定するようにしてもよい。また、例えば、同じ15ラウンドの大当たりであっても、1ラウンドあたり大入賞口を1回開放する第1特定遊技状態と、1ラウンドあたり大入賞口を複数回開放する第2特定遊技状態とを用意し、大入賞口の開放回数が実質的に多くなるようにして第2特定遊技状態の遊技価値を高めるようにしてもよい。この場合、例えば、第1特定遊技状態または第2特定遊技状態いずれの場合であっても、大入賞口を15回開放したときに(この場合、第1特定遊技状態の場合には15ラウンド全てを終了し、第2特定遊技状態の場合には未消化のラウンドが残っていることになる)、大当たりがさらに継続するか否かを煽るような態様の演出(いわゆるランクアップボーナスの演出)を実行するようにしてもよい。そして、第1特定遊技状態の場合には内部的に15ラウンド全てを終了していることから大当たり遊技を終了し、第2特定遊技状態の場合には内部的に未消化のラウンドが残っていることから、大当たり遊技が継続する(恰も15回開放の大当たりを終了した後にさらにボーナスで大入賞口の開放が追加が始まったような演出)ようにしてもよい。

【0115】

この実施の形態では、図8(D)、(E)に示すように、大当たり種別として、「通常大当たり」、「確変大当たり」および「突然確変大当たり」がある。

【0116】

「確変大当たり」とは、15ラウンドの大当たり遊技状態に制御し、その大当たり遊技状態の終了後に確変状態に移行させる大当たりである(この実施の形態では、確変状態に移行されるとともに時短状態にも移行される。後述するステップS170、S171参照)。そして、確変状態に移行した後、次の大当たりが発生するまで確変状態が維持される(後述するステップS134参照)。

【0117】

また、「通常大当たり」とは、15ラウンドの大当たり遊技状態に制御し、その大当たり遊技状態の終了後に確変状態に移行されず、時短状態にのみ移行される大当たりである(後述するステップS167参照)。そして、時短状態に移行した後、特別図柄および演出図柄の変動表示の実行を所定回数(例えば、100回)終了するまで時短状態が維持される(後述するステップS142~S145参照)。なお、この実施の形態では、時短状態に移行した後、所定回数の変動表示の実行を終了する前に大当たりが発生した場合にも、時短状態が終了する(後述するステップS134参照)。

【0118】

また、「突然確変大当たり」とは、「確変大当たり」や「通常大当たり」と比較して大入賞口の開放回数が少ない回数(この実施の形態では0.1秒間の開放を2回)まで許容される大当たりである。すなわち、「突然確変大当たり」となった場合には、2ラウンドの大当たり遊技状態に制御される。そして、この実施の形態では、その2ラウンドの大当たり遊技状態の終了後に確変状態に移行される(この実施の形態では、確変状態に移行されるとともに時短状態にも移行される。後述するステップS170、S171参照)。そして、確変状態に移行した後、次の大当たりが発生するまで確変状態が維持される(後述するステップS134参照)。

【0119】

なお、前述したように、この実施の形態では、「小当たり」となった場合にも、大入賞口

の開放が 0.1 秒間ずつ 2 回行われ、「突然確変大当り」による大当り遊技状態と同様の制御が行われる。そして、「小当り」となった場合には、大入賞口の 2 回の開放が終了した後、遊技状態は変化せず、「小当り」となる前の遊技状態が維持される（後述するステップ S147～S151 参照）。そのようにすることによって、「突然確変大当り」であるか「小当り」であるかを認識できないようにし、遊技の興趣を向上させている。

【0120】

大当り種別判定テーブル 131a, 131b には、ランダム 1 の値と比較される数値であって、「通常大当り」、「確変大当り」、「突然確変大当り」のそれぞれに対応した判定値（大当り種別判定値）が設定されている。CPU 56 は、ランダム 1 の値が大当り種別判定値のいずれかに一致した場合に、大当りの種別を、一致した大当り種別判定値に対応する種別に決定する。

10

【0121】

図 9 (A)～(C) は、大当り用変動パターン種別判定テーブル 132A～132C を示す説明図である。大当り用変動パターン種別判定テーブル 132A～132C は、可変表示結果を大当り図柄にする旨の判定がなされたときに、大当り種別の判定結果に応じて、変動パターン種別を、変動パターン種別判定用の乱数（ランダム 2）にもとづいて複数種類のうちのいずれかに決定するために参照されるテーブルである。

【0122】

各大当り用変動パターン種別判定テーブル 132A～132C には、変動パターン種別判定用の乱数（ランダム 2）の値と比較される数値（判定値）であって、ノーマル CA3-1～ノーマル CA3-2、スーパー CA3-3～スーパー CA3-4、特殊 CA4-1、特殊 CA4-2 の変動パターン種別のいずれかに対応する判定値が設定されている。

20

【0123】

例えば、大当り種別が「通常大当り」である場合に用いられる図 9 (A) に示す大当り用変動パターン種別判定テーブル 132A と、大当り種別が「確変大当り」である場合に用いられる図 9 (B) に示す大当り用変動パターン種別判定テーブル 132B とで、ノーマル CA3-1～ノーマル CA3-2 の変動パターン種別に対する判定値の割り当てが異なっている。また、大当り用変動パターン種別判定テーブル 132B にはスーパー CA3-3 に対して判定値が割り当てられているのに対して、大当り用変動パターン種別判定テーブル 132A にはスーパー CA3-3 に対して判定値が割り当てられていない。

30

【0124】

このように、大当り種別に応じて選択される大当り用変動パターン種別判定テーブル 132A～132C を比較すると、大当り種別に応じて各変動パターン種別に対する判定値の割り当てが異なっている。また、大当り種別に応じて異なる変動パターン種別に対して判定値が割り当てられている。よって、大当り種別を複数種類のうちのいずれにするかの決定結果に応じて、異なる変動パターン種別に決定することができ、同一の変動パターン種別に決定される割合を異ならせることができる。

【0125】

なお、図 9 (A), (B) に示すように、この実施の形態では、通常大当りまたは確変大当りである場合には、変動パターン種別判定用の乱数（ランダム 2）の値が 150～251 であれば、少なくともスーパーリーチ（スーパーリーチ A、スーパーリーチ B）を伴う変動表示が実行されることがわかる。

40

【0126】

なお、この実施の形態では、スーパーリーチ大当りの変動パターン種別について、判定値の範囲に応じてスーパー CA3-3 とスーパー CA3-4 との 2 つの変動パターン種別に区分けされている場合を示しているが、スーパーリーチ大当りについて 1 つの共通の変動パターン種別のみを用いるようにしてもよい。この場合、確変大当り用の大当り用変動パターン種別判定テーブル 132B において、判定値 80～251 の範囲にわたってスーパーリーチ CA3-4 の変動パターン種別が割り当てられるようにしてもよい。

【0127】

50

スーパーリーチ大当たりについて、擬似連を伴う変動パターン種別（スーパーPA3-3、スーパーPA3-4の変動パターンを含む変動パターン種別）と、擬似連を伴わない変動パターン種別（スーパーPB3-3、スーパーPB3-4の変動パターンを含む変動パターン種別）とに分けてもよい。この場合、通常大当たり用の大当たり用変動パターン種別判定テーブル132Aおよび確変大当たり用の大当たり用変動パターン種別判定テーブル132Bの両方において、スーパーリーチかつ擬似連を伴う変動パターン種別と、スーパーリーチかつ擬似連を伴わない変動パターン種別とが割り当てられることになる。

【0128】

また、大当たり種別が「突然確変大当たり」である場合に用いられる大当たり用変動パターン種別判定テーブル132Cでは、例えば、特殊CA4-1、特殊CA4-2といった大当たり種別が「突然確変大当たり」以外である場合には判定値が割り当てられない変動パターン種別に対して、判定値が割り当てられている。よって、可変表示結果が「大当たり」となり大当たり種別が「突然確変大当たり」となることに応じて2ラウンド大当たり状態に制御する場合には、15ラウンド大当たり状態に制御する場合とは異なる変動パターン種別に決定することができる。

10

【0129】

また、図9(D)は、小当たり用変動パターン種別判定テーブル132Dを示す説明図である。小当たり用変動パターン種別判定テーブル132Dは、可変表示結果を小当たり図柄にする旨の判定がなされたときに、変動パターン種別を、変動パターン種別判定用の乱数（ランダム2）にもとづいて複数種類のうちのいずれかに決定するために参照されるテーブルである。なお、この実施の形態では、図9(D)に示すように、小当たりとすることに決定されている場合には、変動パターン種別として特殊CA4-1が決定される場合が示されている。

20

【0130】

図10(A)～(C)は、はずれ用変動パターン種別判定テーブル135A～135Cを示す説明図である。このうち、図10(A)は、遊技状態が通常状態であるとともに合算保留記憶数が3未満である場合に用いられるはずれ用変動パターン種別判定テーブル135Aを示している。また、図10(B)は、遊技状態が通常状態であるとともに合算保留記憶数が3以上である場合に用いられるはずれ用変動パターン種別判定テーブル135Bを示している。また、図10(C)は、遊技状態が確変状態または時短状態である場合に用いられるはずれ用変動パターン種別判定テーブル135Cを示している。はずれ用変動パターン種別判定テーブル135A～135Cは、可変表示結果をはずれ図柄にする旨の判定がなされたときに、変動パターン種別を、変動パターン種別判定用の乱数（ランダム2）にもとづいて複数種類のうちのいずれかに決定するために参照されるテーブルである。

30

【0131】

なお、図10に示す例では、遊技状態が確変状態または時短状態である場合と合算保留記憶数が3以上である場合とで別々のはずれ用変動パターン種別判定テーブル135B、135Cを用いる場合を示しているが、確変状態または時短状態である場合と合算保留記憶数が3以上である場合とで、共通のはずれ用変動パターン種別判定テーブルを用いるように構成してもよい。また、図10(C)に示す例では、1つの確変/時短用のはずれ用変動パターン種別判定テーブル135Cを用いる場合を示しているが、確変/時短状態用のはずれ用変動パターン種別判定テーブルとして合算保留記憶数に応じた複数のはずれ用変動パターン判定テーブル（判定値の割合を異ならせたテーブル）を用いるようにしてもよい。

40

【0132】

なお、この実施の形態では、遊技状態が通常状態である場合には、合算保留記憶数が3未満である場合に用いるはずれ変動パターン種別判定テーブル135Aと、合算保留記憶数が3以上である場合に用いるはずれ変動パターン種別判定テーブル135Bとの2種類のテーブルを用いる場合を示しているが、はずれ変動パターン種別判定テーブルの分け方

50

は、この実施の形態で示したものにきぎられない。例えば、合算保留記憶数の値ごとに別々のはずれ変動パターン種別判定テーブルをそれぞれ備えてもよい（すなわち、合算保留記憶数 0 個用、合算保留記憶数 1 個用、合算保留記憶数 2 個用、合算保留記憶数 3 個用、合算保留記憶数 4 個用・・・のはずれ変動パターン種別判定テーブルをそれぞれ別々に用いるようにしてもよい）。また、例えば、合算保留記憶数の他の複数の値の組合せに対応したはずれ変動パターン種別判定テーブルを用いるようにしてもよい。例えば、合算保留記憶数 0 ~ 2 用、合算保留記憶数 3 用、合算保留記憶数 4 用・・・のはずれ変動パターン種別判定テーブルを用いるようにしてもよい。

【0133】

また、この実施の形態では、合算保留記憶数に応じてはずれ変動パターン種別判定テーブルを複数備える場合を示しているが、第 1 保留記憶数や第 2 保留記憶数に応じてはずれ変動パターン種別判定テーブルを複数備えるようにしてもよい。例えば、第 1 特別図柄の変動表示を行う場合には、第 1 保留記憶数の値ごとに別々に用意されたはずれ変動パターン種別判定テーブルを用いるようにしてもよい（すなわち、第 1 保留記憶数 0 個用、第 1 保留記憶数 1 個用、第 1 保留記憶数 2 個用、第 1 保留記憶数 3 個用、第 1 保留記憶数 4 個用・・・のはずれ変動パターン種別判定テーブルをそれぞれ別々に用いるようにしてもよい）。また、例えば、第 1 保留記憶数の他の複数の値の組合せに対応したはずれ変動パターン種別判定テーブルを用いるようにしてもよい。例えば、第 1 保留記憶数 0 ~ 2 用、第 1 保留記憶数 3 用、第 1 保留記憶数 4 用・・・のはずれ変動パターン種別判定テーブルを用いるようにしてもよい。この場合であっても、第 1 保留記憶数や第 2 保留記憶数が多い場合（例えば 3 以上）には、変動時間が短い変動パターンを含む変動パターン種別が選択されやすいように構成すればよい。また、このような場合であっても、特定の可変表示パターンとしてのスーパーリーチを伴う変動パターンを含む変動パターン種別に対して共通の判定値を割り当てるように構成すればよい。

【0134】

なお、「特定の可変表示パターン」とは、スーパーリーチを伴う変動パターンなど、少なくとも大当りに対する期待度が高く設定され、遊技者に大当りに対する期待感を抱かせることができる変動パターンのことである。また、「大当りに対する期待度（信頼度）」とは、その特定の可変表示パターンによる可変表示（例えば、スーパーリーチを伴う変動表示）が実行された場合に大当りが出現する出現率（確率）を示している。例えば、スーパーリーチを伴う変動表示が実行される場合の大当り期待度は、（大当りと決定されている場合にスーパーリーチが実行される割合）/（大当りと決定されている場合およびハズレと決定されている場合の両方にスーパーリーチが実行される割合）を計算することによって求められる。

【0135】

各はずれ用変動パターン種別判定テーブル 135A ~ 135B には、変動パターン種別判定用の乱数（ランダム 2）の値と比較される数値（判定値）であって、非リーチ CA2 - 1 ~ 非リーチ CA2 - 3、ノーマル CA2 - 4 ~ ノーマル CA2 - 6、スーパー CA2 - 7 の変動パターン種別のいずれかに対応する判定値が設定されている。

【0136】

なお、図 10（A）、（B）に示すように、この実施の形態では、はずれであるとともに遊技状態が通常状態である場合には、変動パターン種別判定用の乱数（ランダム 2）の値が 230 ~ 251 であれば、合算保留記憶数にかかわらず、少なくともスーパーリーチ（スーパーリーチ A、スーパーリーチ B）を伴う変動表示が実行されることがわかる。

【0137】

また、図 10（A）、（B）に示すように、この実施の形態では、はずれであるとともに遊技状態が通常状態である場合には、変動パターン種別判定用の乱数（ランダム 2）の値が 1 ~ 79 であれば、合算保留記憶数にかかわらず、少なくともリーチを伴わない（擬似連や滑り演出などの特定演出も伴わない）通常変動の変動表示が実行されることがわかる。そのようなテーブル構成により、この実施の形態では、判定テーブル（はずれ用変動

パターン種別判定テーブル 135A, 135B) は、リーチ用可変表示パターン (リーチを伴う変動パターン) 以外の可変表示パターンのうちの少なくとも一部に対して、保留記憶手段 (第 1 保留記憶バッファや第 2 保留記憶バッファ) が記憶する権利の数 (第 1 保留記憶数や第 2 保留記憶数、合算保留記憶数) にかかわらず、共通の判定値 (図 10 (A), (B) に示す例では 1 ~ 79) が割り当てられるように構成されている。なお、「リーチ用可変表示パターン以外の可変表示パターン」とは、この実施の形態で示したように、例えば、リーチを伴わず、擬似連や滑り演出などの特定演出も伴わず、可変表示結果が大当たりとならない場合に用いられる可変表示パターン (変動パターン) のことである。

【0138】

なお、この実施の形態では、図 9 に示すように、現在の遊技状態にかかわらず、共通の大当たり用変動パターン種別判定テーブルを用いる場合を示したが、現在の遊技状態が確変状態であるか時短状態であるか通常状態であるかに応じて、それぞれ別々に用意された大当たり用変動パターン種別判定テーブルを用いるようにしてもよい。また、この実施の形態では、合算保留記憶数が 3 以上である場合に、図 10 (B) に示す短縮用のはずれ用変動パターン種別判定テーブルを選択して短縮変動の変動パターンが決定される場合があるように構成する場合を示しているが、現在の遊技状態に応じて短縮変動の変動パターンが選択されうる場合の合算保留記憶数 (第 1 保留記憶数や第 2 保留記憶数でもよい) の閾値を異ならせてもよい。例えば、遊技状態が通常状態である場合には、合算保留記憶数が 3 である場合に (または、例えば、第 1 保留記憶数や第 2 保留記憶数が 2 である場合に)、短縮用のはずれ用変動パターン種別判定テーブルを選択して短縮変動の変動パターンが決定される場合があるようにし、遊技状態が時短状態や確変状態である場合には、合算保留記憶数がより少ない 1 や 2 の場合でも (または、例えば、第 1 保留記憶数や第 2 保留記憶数がより少ない 0 や 1 の場合でも)、短縮用のはずれ用変動パターン種別判定テーブルを選択して短縮変動の変動パターンが決定される場合があるようにしてもよい。

【0139】

図 11 (A), (B) は、ROM 54 に記憶されている当り変動パターン判定テーブル 137A ~ 137B を示す説明図である。当り変動パターン判定テーブル 137A ~ 137B は、可変表示結果を「大当たり」や「小当たり」にする旨の判定がなされたときに、大当たり種別や変動パターン種別の決定結果などに応じて、変動パターン判定用の乱数 (ランダム 3) にもとづいて、変動パターンを複数種類のうちのいずれかに決定するために参照されるテーブルである。各当り変動パターン判定テーブル 137A ~ 137B は、変動パターン種別の決定結果に応じて、使用テーブルとして選択される。すなわち、変動パターン種別をノーマル CA3 - 1 ~ ノーマル CA3 - 2、スーパー CA3 - 3 ~ スーパー CA3 - 4 のいずれかにする旨の決定結果に応じて当り変動パターン判定テーブル 137A が使用テーブルとして選択され、変動パターン種別を特殊 CA4 - 1、特殊 CA4 - 2 のいずれかにする旨の決定結果に応じて当り変動パターン判定テーブル 137B が使用テーブルとして選択される。各当り変動パターン判定テーブル 137A ~ 137B は、変動パターン種別に応じて、変動パターン判定用の乱数 (ランダム 3) の値と比較される数値 (判定値) であって、演出図柄の可変表示結果が「大当たり」である場合に対応した複数種類の変動パターンのいずれかに対応するデータ (判定値) を含む。

【0140】

なお、図 11 (A) に示す例では、変動パターン種別として、ノーマルリーチのみを伴う変動パターンを含む変動パターン種別であるノーマル CA3 - 1 と、ノーマルリーチおよび擬似連を伴う変動パターンを含む変動パターン種別であるノーマル CA3 - 2 と、スーパーリーチを伴う (スーパーリーチとともに擬似連を伴う場合もある) 変動パターンを含む変動パターン種別であるスーパー CA3 - 3、スーパー CA3 - 4 とに種別分けされている場合が示されている。また、図 11 (B) に示す例では、変動パターン種別として、非リーチの変動パターンを含む変動パターン種別である特殊 CA4 - 1 と、リーチを伴う変動パターンを含む変動パターン種別である特殊 CA4 - 2 とに種別分けされている場合が示されている。なお、図 11 (B) において、リーチの有無によって変動パターン種

別を分けるのではなく、擬似連や滑り演出などの特定演出の有無によって変動パターン種別を分けてもよい。この場合、例えば、特殊 C A 4 - 1 は、特定演出を伴わない変動パターンである特殊 P G 1 - 1 と特殊 P G 2 - 1 を含むようにし、特殊 C A 4 - 2 は、特定演出を伴う特殊 P G 1 - 2、特殊 P G 1 - 3 および特殊 P G 2 - 2 を含むように構成してもよい。

【 0 1 4 1 】

図 1 2 は、R O M 5 4 に記憶されているはずれ変動パターン判定テーブル 1 3 8 A を示す説明図である。はずれ変動パターン判定テーブル 1 3 8 A は、可変表示結果を「はずれ」にする旨の判定がなされたときに、変動パターン種別の決定結果に応じて、変動パターン判定用の乱数（ランダム 3）にもとづいて、変動パターンを複数種類のうちのいずれかに決定するために参照されるテーブルである。はずれ変動パターン判定テーブル 1 3 8 A は、変動パターン種別の決定結果に応じて、使用テーブルとして選択される。

10

【 0 1 4 2 】

図 1 3 および図 1 4 は、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 が送信する演出制御コマンドの内容の一例を示す説明図である。図 1 3 および図 1 4 に示す例において、コマンド 8 0 X X (H) は、特別図柄の可変表示に対応して演出表示装置 9 において可変表示される演出図柄の変動パターンを指定する演出制御コマンド（変動パターンコマンド）である（それぞれ変動パターン X X に対応）。つまり、図 6 に示された使用されうる変動パターンのそれぞれに対して一意な番号を付した場合に、その番号で特定される変動パターンのそれぞれに対応する変動パターンコマンドがある。なお、「(H)」は 1 6 進数であることを示す。また、変動パターンを指定する演出制御コマンドは、変動開始を指定するためのコマンドでもある。従って、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、コマンド 8 0 X X (H) を受信すると、演出表示装置 9 において演出図柄の可変表示を開始するように制御する。

20

【 0 1 4 3 】

コマンド 8 C 0 1 (H) ~ 8 C 0 5 (H) は、大当たりとするか否か、小当たりとするか否か、および大当たり種別を示す演出制御コマンドである。演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、コマンド 8 C 0 1 (H) ~ 8 C 0 5 (H) の受信に応じて演出図柄の表示結果を決定するので、コマンド 8 C 0 1 (H) ~ 8 C 0 5 (H) を表示結果指定コマンドという。

30

【 0 1 4 4 】

コマンド 8 D 0 1 (H) は、第 1 特別図柄の可変表示（変動）を開始することを示す演出制御コマンド（第 1 図柄変動指定コマンド）である。コマンド 8 D 0 2 (H) は、第 2 特別図柄の可変表示（変動）を開始することを示す演出制御コマンド（第 2 図柄変動指定コマンド）である。第 1 図柄変動指定コマンドと第 2 図柄変動指定コマンドとを特別図柄特定コマンド（または図柄変動指定コマンド）と総称することがある。なお、第 1 特別図柄の可変表示を開始するのか第 2 特別図柄の可変表示を開始するのかを示す情報を、変動パターンコマンドに含めるようにしてもよい。

【 0 1 4 5 】

コマンド 8 F 0 0 (H) は、演出図柄の可変表示（変動）を終了して表示結果（停止図柄）を導出表示することを示す演出制御コマンド（図柄確定指定コマンド）である。演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、図柄確定指定コマンドを受信すると、演出図柄の可変表示（変動）を終了して表示結果を導出表示する。

40

【 0 1 4 6 】

コマンド 9 0 0 0 (H) は、遊技機に対する電力供給が開始されたときに送信される演出制御コマンド（初期化指定コマンド：電源投入指定コマンド）である。コマンド 9 2 0 0 (H) は、遊技機に対する電力供給が再開されたときに送信される演出制御コマンド（停電復旧指定コマンド）である。遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 は、遊技機に対する電力供給が開始されたときに、バックアップ R A M にデータが保存されている場合には、停電復旧指定コマンドを送信し、そうでない場合には、初期化指定コマンドを送信す

50

る。

【 0 1 4 7 】

コマンド 9 5 X X (H) は、入賞時判定結果の内容を示す演出制御コマンド（入賞時判定結果指定コマンド）である。この実施の形態では、後述する入賞時演出処理（図 2 0 参照）において、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 は、始動入賞時にいずれの変動パターン種別となるかを判定する。そして、入賞時判定結果指定コマンドの E X T データに判定結果としての変動パターン種別を指定する値を設定し、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に対して送信する制御を行う。なお、この実施の形態では、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、入賞時判定結果指定コマンドにもとづいて、変動パターン種別を認識できるとともに表示結果が大当たりとなるか否かも認識できる。

10

【 0 1 4 8 】

図 1 5 は、入賞時判定結果指定コマンドの内容の一例を示す説明図である。図 1 5 に示すように、この実施の形態では、第 1 始動入賞口 1 3 または第 2 始動入賞口 1 4 のいずれに始動入賞したときに入賞時判定を行ったかと、始動入賞時にいずれの変動パターン種別になると判定したとかに応じて、E X T データに値が設定され、入賞時判定結果指定コマンドが送信される。例えば、第 1 始動入賞口 1 3 への始動入賞時に変動パターン種別が非リーチ C A 2 - 1 となる（非リーチはずれとなる）と判定した場合には、E X T データに「 0 0 (H) 」を設定した入賞時判定結果指定コマンドが送信される。また、例えば、第 1 始動入賞口 1 3 への始動入賞時に変動パターン種別がスーパー C A 2 - 7 となる（スーパーリーチはずれとなる）と判定した場合には、E X T データに「 0 6 (H) 」を設定した入賞時判定結果指定コマンドが送信される。また、例えば、第 1 始動入賞口 1 3 への始動入賞時に変動パターン種別がスーパー C A 3 - 4 となる（スーパーリーチ大当たりとなる）と判定した場合には、E X T データに「 0 A (H) 」を設定した入賞時判定結果指定コマンドが送信される。また、例えば、第 2 始動入賞口 1 4 への始動入賞時に変動パターン種別が非リーチ C A 2 - 1 となる（非リーチはずれとなる）と判定した場合には、E X T データに「 1 0 (H) 」を設定した入賞時判定結果指定コマンドが送信される。また、例えば、第 2 始動入賞口 1 4 への始動入賞時に変動パターン種別がスーパー C A 2 - 7 となる（スーパーリーチはずれとなる）と判定した場合には、E X T データに「 1 6 (H) 」を設定した入賞時判定結果指定コマンドが送信される。また、例えば、第 2 始動入賞口 1 4 への始動入賞時に変動パターン種別がスーパー C A 3 - 4 となる（スーパーリーチ大当たりとなる）と判定した場合には、E X T データに「 1 A (H) 」を設定した入賞時判定結果指定コマンドが送信される。さらに、その他、判定した変動パターン種別に応じて E X T データの値が設定され、入賞時判定結果指定コマンドが送信される。

20

30

【 0 1 4 9 】

なお、始動入賞時に入賞時判定を行ったときと実際に変動表示を開始するときとは必ずしも合算保留記憶数が同じであるとは限らないのであるから、入賞時判定結果指定コマンドで示される変動パターン種別が実際に変動表示で用いられる変動パターン種別と一致しない場合も生じうる。しかし、この実施の形態では、少なくとも非リーチ C A 2 - 1、スーパー C A 2 - 7 およびスーパー C A 3 - 4 の変動パターン種別については、合算保留記憶数にかかわらず共通の判定値が割り当てられているのであるから（図 9、図 1 0 参照）、入賞時判定結果と実際に実行される変動表示の変動パターン種別とで不整合が生じない。そのため、この実施の形態では、非リーチ C A 2 - 1、スーパー C A 2 - 7 またはスーパー C A 3 - 4 の変動パターン種別になると入賞時判定された変動表示に対して後述する連続予告演出が実行される。なお、非リーチ C A 2 - 1、スーパー C A 2 - 7 およびスーパー C A 3 - 4 の変動パターン種別となると判定した場合にのみ、図 1 5 に示す入賞時判定結果指定コマンド（具体的には、入賞時判定結果 1 指定、入賞時判定結果 7 指定、入賞時判定結果 1 1 指定、入賞時判定結果 2 1 指定、入賞時判定結果 2 7 指定、および入賞時判定結果 3 1 指定コマンドのみ）を送信し、それ以外の入賞時判定結果の場合には入賞時判定結果指定コマンドを送信しないようにしてもよい。また、非リーチ C A 2 - 1、スーパー C A 2 - 7 およびスーパー C A 3 - 4 以外となると入賞時判定された場合には、変

40

50

動パターン種別を特定不能であることを示す入賞時判定結果指定コマンドを送信するようにしてもよい。

【0150】

コマンド9F00(H)は、客待ちデモンストレーションを指定する演出制御コマンド(客待ちデモ指定コマンド)である。

【0151】

コマンドA001~A003(H)は、ファンファーレ画面を表示すること、すなわち大当り遊技の開始を指定する演出制御コマンド(大当り開始指定コマンド:ファンファーレ指定コマンド)である。大当り開始指定コマンドには、大当りの種類に応じた大当り開始1指定コマンド、大当り開始指定2指定コマンドおよび小当り/突然確変大当り開始指定コマンドがある。なお、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、突然大当りである場合に突然確変大当り開始指定用のファンファーレ指定コマンドを送信するものの、小当りである場合にはファンファーレ指定コマンドを送信しないように構成してもよい。

10

【0152】

コマンドA1XX(H)は、XXで示す回数(ラウンド)の大入賞口開放中の表示を示す演出制御コマンド(大入賞口開放中指定コマンド)である。A2XX(H)は、XXで示す回数(ラウンド)の大入賞口閉鎖を示す演出制御コマンド(大入賞口開放後指定コマンド)である。

【0153】

コマンドA301(H)は、大当り終了画面を表示すること、すなわち大当り遊技の終了を指定するとともに、通常大当りであったことを指定する演出制御コマンド(大当り終了1指定コマンド:エンディング1指定コマンド)である。コマンドA302(H)は、大当り終了画面を表示すること、すなわち大当り遊技の終了を指定するとともに、確変大当りであったことを指定する演出制御コマンド(大当り終了2指定コマンド:エンディング2指定コマンド)である。コマンドA303(H)は、小当りの遊技の終了または突然確変大当りの遊技の終了を指定する演出制御コマンド(小当り/突然確変大当り終了指定コマンド:エンディング3指定コマンド)である。なお、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、突然大当りである場合に突然確変大当り終了指定用のエンディング指定コマンドを送信するものの、小当りである場合にはエンディング指定コマンドを送信しないように構成してもよい。

20

30

【0154】

コマンドB000(H)は、遊技状態が通常状態であることを指定する演出制御コマンド(通常状態指定コマンド)である。コマンドB001(H)は、遊技状態が時短状態(確変状態を含まない)であることを指定する演出制御コマンド(時短状態指定コマンド)である。コマンドB002(H)は、遊技状態が確変状態であることを指定する演出制御コマンド(確変状態指定コマンド)である。

【0155】

コマンドC0XX(H)は、第1保留記憶数を指定する演出制御コマンド(第1保留記憶数指定コマンド)である。コマンドC0XX(H)における「XX」が、第1保留記憶数を示す。コマンドC1XX(H)は、第2保留記憶数を指定する演出制御コマンド(第2保留記憶数指定コマンド)である。コマンドC1XX(H)における「XX」が、第2保留記憶数を示す。

40

【0156】

演出制御基板80に搭載されている演出制御用マイクロコンピュータ100(具体的には、演出制御用CPU101)は、主基板31に搭載されている遊技制御用マイクロコンピュータ560から上述した演出制御コマンドを受信すると、図13および図14に示された内容に応じて画像表示装置9の表示状態を変更したり、ランプの表示状態を変更したり、音声出力基板70に対して音番号データを出力したりする。

【0157】

例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、始動入賞があり第1特別図柄表示

50

器 8 a または第 2 特別図柄表示器 8 b において特別図柄の可変表示が開始される度に、演出図柄の変動パターンを指定する変動パターンコマンドおよび表示結果指定コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ 100 に送信する。

【0158】

この実施の形態では、演出制御コマンドは 2 バイト構成であり、1 バイト目は MODE (コマンドの分類) を表し、2 バイト目は EXT (コマンドの種類) を表す。MODE データの先頭ビット (ビット 7) は必ず「1」に設定され、EXT データの先頭ビット (ビット 7) は必ず「0」に設定される。なお、そのようなコマンド形態は一例であって他のコマンド形態を用いてもよい。例えば、1 バイトや 3 バイト以上で構成される制御コマンドを用いてもよい

10

【0159】

なお、演出制御コマンドの送出方式として、演出制御信号 CD0 ~ CD7 の 8 本のパレル信号線で 1 バイトずつ主基板 31 から中継基板 77 を介して演出制御基板 80 に演出制御コマンドデータを出力し、演出制御コマンドデータの他に、演出制御コマンドデータの取込を指示するパルス状 (矩形波状) の取込信号 (演出制御 INT 信号) を出力する方式を用いる。演出制御コマンドの 8 ビットの演出制御コマンドデータは、演出制御 INT 信号に同期して出力される。演出制御基板 80 に搭載されている演出制御用マイクロコンピュータ 100 は、演出制御 INT 信号が立ち上がったことを検知して、割込処理によって 1 バイトのデータの取り込み処理を開始する。

【0160】

20

図 13 および図 14 に示す例では、変動パターンコマンドおよび表示結果指定コマンドを、第 1 特別図柄表示器 8 a での第 1 特別図柄の変動に対応した演出図柄の可変表示 (変動) と第 2 特別図柄表示器 8 b での第 2 特別図柄の変動に対応した演出図柄の可変表示 (変動) とで共通に使用でき、第 1 特別図柄および第 2 特別図柄の可変表示に伴って演出を行う画像表示装置 9 などの演出用部品を制御する際に、遊技制御用マイクロコンピュータ 560 から演出制御用マイクロコンピュータ 100 に送信されるコマンドの種類を増大させないようにすることができる。

【0161】

図 16 および図 17 は、主基板 31 に搭載される遊技制御用マイクロコンピュータ 560 (具体的には、CPU 56) が実行する特別図柄プロセス処理 (ステップ S26) のプログラムの一例を示すフローチャートである。上述したように、特別図柄プロセス処理では第 1 特別図柄表示器 8 a または第 2 特別図柄表示器 8 b および大入賞口を制御するための処理が実行される。特別図柄プロセス処理において、CPU 56 は、第 1 始動入賞口 13 に遊技球が入賞したことを検出するための第 1 始動口スイッチ 13 a がオンしていたら、すなわち、第 1 始動入賞口 13 への始動入賞が発生していたら、第 1 始動口スイッチ通過処理を実行する (ステップ S311, S312)。また、CPU 56 は、第 2 始動入賞口 14 に遊技球が入賞したことを検出するための第 2 始動口スイッチ 14 a がオンしていたら、すなわち第 2 始動入賞口 14 への始動入賞が発生していたら、第 2 始動口スイッチ通過処理を実行する (ステップ S313, S314)。そして、ステップ S300 ~ S310 のうちのいずれかの処理を行う。第 1 始動入賞口スイッチ 13 a または第 2 始動口スイッチ 14 a がオンしていなければ、内部状態に応じて、ステップ S300 ~ S310 のうちのいずれかの処理を行う。

30

40

【0162】

ステップ S300 ~ S310 の処理は、以下のような処理である。

【0163】

特別図柄通常処理 (ステップ S300) : 特別図柄プロセスフラグの値が 0 であるときに実行される。遊技制御用マイクロコンピュータ 560 は、特別図柄の可変表示が開始できる状態になると、保留記憶数バッファに記憶される数値データの記憶数 (合算保留記憶数) を確認する。保留記憶数バッファに記憶される数値データの記憶数は合算保留記憶数カウンタのカウント値により確認できる。また、合算保留記憶数カウンタのカウント値が

50

0 でなければ、第 1 特別図柄または第 2 特別図柄の可変表示の表示結果を大当たりとするか否かを決定する。大当たりとする場合には大当たりフラグをセットする。そして、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップ S 3 0 1 に応じた値（この例では 1）に更新する。なお、大当たりフラグは、大当たり遊技が終了するときにリセットされる。

【 0 1 6 4 】

変動パターン設定処理（ステップ S 3 0 1）：特別図柄プロセスフラグの値が 1 であるときに実行される。また、変動パターンを決定し、その変動パターンにおける変動時間（可変表示時間：可変表示を開始してから表示結果を導出表示（停止表示）するまでの時間）を特別図柄の可変表示の変動時間とすることに決定する。また、特別図柄の変動時間を計測する変動時間タイマをスタートさせる。そして、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップ S 3 0 2 に対応した値（この例では 2）に更新する。

10

【 0 1 6 5 】

表示結果指定コマンド送信処理（ステップ S 3 0 2）：特別図柄プロセスフラグの値が 2 であるときに実行される。演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に、表示結果指定コマンドを送信する制御を行う。そして、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップ S 3 0 3 に対応した値（この例では 3）に更新する。

【 0 1 6 6 】

特別図柄変動中処理（ステップ S 3 0 3）：特別図柄プロセスフラグの値が 3 であるときに実行される。変動パターン設定処理で選択された変動パターンの変動時間が経過（ステップ S 3 0 1 でセットされる変動時間タイマがタイムアウトすなわち変動時間タイマの値が 0 になる）すると、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップ S 3 0 4 に対応した値（この例では 4）に更新する。

20

【 0 1 6 7 】

特別図柄停止処理（ステップ S 3 0 4）：特別図柄プロセスフラグの値が 4 であるときに実行される。第 1 特別図柄表示器 8 a または第 2 特別図柄表示器 8 b における可変表示を停止して停止図柄を導出表示させる。また、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に、図柄確定指定コマンドを送信する制御を行う。そして、大当たりフラグがセットされている場合には、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップ S 3 0 5 に対応した値（この例では 5）に更新する。また、小当たりフラグがセットされている場合には、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップ S 3 0 8 に対応した値（この例では 8）に更新する。大当たりフラグおよび小当たりフラグのいずれもセットされていない場合には、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップ S 3 0 0 に対応した値（この例では 0）に更新する。なお、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 が送信する図柄確定指定コマンドを受信すると演出表示装置 9 において演出図柄が停止されるように制御する。

30

【 0 1 6 8 】

大入賞口開放前処理（ステップ S 3 0 5）：特別図柄プロセスフラグの値が 5 であるときに実行される。大入賞口開放前処理では、大入賞口を開放する制御を行う。具体的には、カウンタ（例えば、大入賞口に入った遊技球数をカウントするカウンタ）などを初期化するとともに、ソレノイド 2 1 を駆動して大入賞口を開放状態にする。また、タイマによって大入賞口開放中処理の実行時間を設定し、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップ S 3 0 6 に対応した値（この例では 6）に更新する。なお、大入賞口開放前処理は各ラウンド毎に実行されるが、第 1 ラウンドを開始する場合には、大入賞口開放前処理は大当たり遊技を開始する処理でもある。

40

【 0 1 6 9 】

大入賞口開放中処理（ステップ S 3 0 6）：特別図柄プロセスフラグの値が 6 であるときに実行される。大当たり遊技状態中のラウンド表示の演出制御コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に送信する制御や大入賞口の閉成条件の成立を確認する処理等を行う。大入賞口の閉成条件が成立し、かつ、まだ残りラウンドがある場合には、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップ S 3 0 5 に対応した値（この例では 5）に更新す

50

る。また、全てのラウンドを終えた場合には、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS307に対応した値（この例では7）に更新する。

【0170】

大当り終了処理（ステップS307）：特別図柄プロセスフラグの値が7であるときに実行される。大当り遊技状態が終了したことを遊技者に報知する表示制御を演出制御用マイクロコンピュータ100に行わせるための制御を行う。また、遊技状態を示すフラグ（例えば、確変フラグや時短フラグ）をセットする処理を行う。そして、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS300に対応した値（この例では0）に更新する。

【0171】

小当り開放前処理（ステップS308）：特別図柄プロセスフラグの値が8であるときに実行される。小当り開放前処理では、大入賞口を開放する制御を行う。具体的には、カウンタ（例えば、大入賞口に入った遊技球数をカウントするカウンタ）などを初期化するとともに、ソレノイド21を駆動して大入賞口を開放状態にする。また、タイマによって大入賞口開放中処理の実行時間を設定し、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS309に対応した値（この例では9）に更新する。なお、小当り開放前処理は各ラウンド毎に実行されるが、第1ラウンドを開始する場合には、小当り開放前処理は小当り遊技を開始する処理でもある。

【0172】

小当り開放中処理（ステップS309）：特別図柄プロセスフラグの値が9であるときに実行される。大入賞口の閉成条件の成立を確認する処理等を行う。大入賞口の閉成条件が成立し、かつ、まだ残りラウンドがある場合には、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS308に対応した値（この例では8）に更新する。また、全てのラウンドを終えた場合には、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS310に対応した値（この例では10（10進数））に更新する。

【0173】

小当り終了処理（ステップS310）：特別図柄プロセスフラグの値が10であるときに実行される。小当り遊技状態が終了したことを遊技者に報知する表示制御を演出制御用マイクロコンピュータ100に行わせるための制御を行う。そして、内部状態（特別図柄プロセスフラグ）をステップS300に対応した値（この例では0）に更新する。

【0174】

図18は、ステップS312、S314の始動口スイッチ通過処理を示すフローチャートである。このうち、図18（A）は、ステップS312の第1始動口スイッチ通過処理を示すフローチャートである。また、図18（B）は、ステップS314の第2始動口スイッチ通過処理を示すフローチャートである。

【0175】

まず、図18（A）を参照して第1始動口スイッチ通過処理について説明する。第1始動口スイッチ13aがオン状態の場合に実行される第1始動口スイッチ通過処理において、CPU56は、第1保留記憶数が上限値に達しているか否か（具体的には、第1保留記憶数をカウントするための第1保留記憶数カウンタの値が4であるか否か）を確認する（ステップS211A）。第1保留記憶数が上限値に達していれば、そのまま処理を終了する。

【0176】

第1保留記憶数が上限値に達していなければ、CPU56は、第1保留記憶数カウンタの値を1増やす（ステップS212A）とともに、合算保留記憶数をカウントするための合算保留記憶数カウンタの値を1増やす（ステップS213A）。次いで、CPU56は、乱数回路503やソフトウェア乱数を生成するためのカウンタから値を抽出し、それらを、第1保留記憶バッファ（図19参照）における保存領域に格納する処理を実行する（ステップS214A）。なお、ステップS214Aの処理では、ハードウェア乱数であるランダムR（大当り判定用乱数）や、ソフトウェア乱数である大当り種別判定用乱数（ランダム1）、変動パターン種別判定用乱数（ランダム2）および変動パターン判定用乱数

10

20

30

40

50

(ランダム3)が抽出され、保存領域に格納される。なお、変動パターン判定用乱数(ランダム3)を第1始動口スイッチ通過処理(始動入賞時)において抽出して保存領域にあらかじめ格納しておくのではなく、第1特別図柄の変動開始時に抽出するようにしてもよい。例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、後述する変動パターン設定処理において、変動パターン判定用乱数(ランダム3)を生成するための変動パターン判定用乱数カウンタから値を直接抽出するようにしてもよい。

【0177】

図19は、保留記憶に対応する乱数等を保存する領域(保留バッファ)の構成例を示す説明図である。図19に示すように、第1保留記憶バッファには、第1保留記憶数の上限値(この例では4)に対応した保存領域が確保されている。また、第2保留記憶バッファには、第2保留記憶数の上限値(この例では4)に対応した保存領域が確保されている。この実施の形態では、第1保留記憶バッファおよび第2保留記憶バッファには、ハードウェア乱数であるランダムR(大当り判定用乱数)や、ソフトウェア乱数である大当り種別判定用乱数(ランダム1)、変動パターン種別判定用乱数(ランダム2)および変動パターン判定用乱数(ランダム3)が記憶される。なお、第1保留記憶バッファおよび第2保留記憶バッファは、RAM55に形成されている。

【0178】

次いで、CPU56は、遊技状態が時短状態(確変状態を含む)であることを示す時短フラグがセットされているか否かを確認する(ステップS215A)。セットされていれば、そのままステップS218Aに移行する。時短フラグがセットされていないならば、CPU56は、特別図柄プロセスフラグの値が5以上であるか否かを確認する(ステップS216A)。特別図柄プロセスフラグの値が5以上であれば(すなわち、大当り遊技状態または小当り遊技状態であれば)、CPU56は、そのままステップS218Aに移行する。

【0179】

特別図柄プロセスフラグの値が5未満であれば、CPU56は、検出した始動入賞にもとづく変動がその後実行されたときの変動表示結果を始動入賞時にあらかじめ判定する入賞時演出処理を実行する(ステップS217A)。そして、CPU56は、第1保留記憶数カウンタの値にもとづいて第1保留記憶数指定コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ100に送信する制御を行うとともに、入賞時演出処理の判定結果にもとづいて入賞時判定結果指定コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ100に送信する制御を行う(ステップS218A)。

【0180】

なお、ステップS215AまたはステップS216AでYと判定したことによりステップS217Aの入賞時演出処理を実行しなかった場合には、CPU56は、ステップS218Aにおいて、第1保留記憶数指定コマンドのみを送信する制御を行い、入賞時判定結果指定コマンドを送信する制御は行わない。なお、ステップS217Aの入賞時演出処理を実行しなかった場合に、入賞判定結果を特定不能であることを示す値(例えば、「FF(H)')をEXTデータとして設定した入賞時判定結果指定コマンドを送信するようにしてもよい。

【0181】

なお、この実施の形態では、ステップS215Aの処理が実行されることによって、第1始動入賞口13への始動入賞があった場合には、遊技状態が通常状態である場合(確変状態でも時短状態でもない場合)にのみステップS217Aの入賞時演出処理が実行される。また、この実施の形態では、ステップS216Aの処理が実行されることによって、第1始動入賞口13への始動入賞があった場合には、大当り遊技状態や小当り遊技状態でない場合にのみステップS217Aの入賞時演出処理が実行される。なお、大当り遊技状態である場合にのみステップS217Aに移行しないようにし、小当り遊技状態である場合にはステップS217Aに移行して入賞時演出処理が実行されるようにしてもよい。

【0182】

なお、この実施の形態において、大当り遊技状態（特定遊技状態）とは、大当りを開始することが報知されてから、所定数のラウンド（例えば、15ラウンド）にわたって大入賞口が開放する制御が行われ、最終ラウンドの大入賞口の開放を終了して大当りを終了することが報知されるまでの状態である。具体的には、特別図柄プロセス処理における大入賞口開放前処理（ステップS305参照）から大当り終了処理（ステップS307参照）までの処理が実行されている状態である。

【0183】

次に、図18（B）を参照して第2始動口スイッチ通過処理について説明する。第2始動口スイッチ14aがオン状態の場合に実行される第2始動口スイッチ通過処理において、CPU56は、第2保留記憶数が上限値に達しているか否か（具体的には、第2保留記憶数をカウントするための第2保留記憶数カウンタの値が4であるか否か）を確認する（ステップS211B）。第2保留記憶数が上限値に達していれば、そのまま処理を終了する。

10

【0184】

第2保留記憶数が上限値に達していなければ、CPU56は、第2保留記憶数カウンタの値を1増やす（ステップS212B）とともに、合算保留記憶数をカウントするための合算保留記憶数カウンタの値を1増やす（ステップS213B）。次いで、CPU56は、乱数回路503やソフトウェア乱数を生成するためのカウンタから値を抽出し、それらを、第2保留記憶バッファ（図19参照）における保存領域に格納する処理を実行する（ステップS214B）。なお、ステップS214Bの処理では、ハードウェア乱数であるランダムR（大当り判定用乱数）や、ソフトウェア乱数である大当り種別判定用乱数（ランダム1）、変動パターン種別判定用乱数（ランダム2）および変動パターン判定用乱数（ランダム3）が抽出され、保存領域に格納される。なお、変動パターン判定用乱数（ランダム3）を第2始動口スイッチ通過処理（始動入賞時）において抽出して保存領域にあらかじめ格納しておくのではなく、第2特別図柄の変動開始時に抽出するようにしてもよい。例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、後述する変動パターン設定処理において、変動パターン判定用乱数（ランダム3）を生成するための変動パターン判定用乱数カウンタから値を直接抽出するようにしてもよい。

20

【0185】

次いで、CPU56は、入賞時演出処理を実行する（ステップS217B）。そして、CPU56は、第2保留記憶数カウンタの値にもとづいて第2保留記憶数指定コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ100に送信する制御を行うとともに、入賞時演出処理の判定結果にもとづいて入賞時判定結果指定コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ100に送信する制御を行う（ステップS218B）。

30

【0186】

なお、第2始動口スイッチ通過処理においても、ステップS215Aと同様の処理を行い、時短状態であればステップS217Bの入賞時演出処理を実行しないようにしてもよい。また、第2始動口スイッチ通過処理においても、ステップS216Aと同様の処理を行い、大当り遊技中であればステップS217Bの入賞時演出処理を実行しないようにしてもよい。また、第2始動口スイッチ通過処理において、ステップS217Bの入賞時演出処理を実行しないようにしてもよい（すなわち、第2特別図柄に対しては入賞時判定処理を実行しないようにしてもよい）。そのように構成すれば、連続予告演出がある程度の期間実行される場合に、変動時間が短くて連続予告演出が途中で途切れてしまうことを確実に防止することができる。

40

【0187】

図20は、ステップS217A、S217Bの入賞時演出処理を示すフローチャートである。入賞時演出処理では、CPU56は、まず、ステップS214A、S214Bで抽出した大当り判定用乱数（ランダムR）と図8（A）の左欄に示す通常時の大当り判定値とを比較し、それらが一致するか否かを確認する（ステップS220）。この実施の形態では、特別図柄および演出図柄の変動を開始するタイミングで、後述する特別図柄通常処

50

理において大当りや小当りとするか否か、大当り種別を決定したり、変動パターン設定処理において変動パターンを決定したりするのであるが、それとは別に、遊技球が第1始動入賞口13や第2始動入賞口14に始動入賞したタイミングで、その始動入賞にもとづく変動表示が開始される前に、入賞時演出処理を実行することによって、あらかじめいずれの変動パターン種別となるか否かを確認する。そのようにすることによって、演出図柄の変動表示が実行されるより前にあらかじめ変動パターン種別を予測し、後述するように、入賞時の判定結果にもとづいて、演出制御用マイクロコンピュータ100によって大当りやスーパーリーチとなることを予告する連続予告演出を実行する。

【0188】

大当り判定用乱数(ランダムR)が通常時の大当り判定値と一致しなければ(ステップS220のN)、CPU56は、遊技状態が確変状態であることを示す確変フラグがセットされているか否かを確認する(ステップS221)。確変フラグがセットされていれば、CPU56は、ステップS214A、S214Bで抽出した大当り判定用乱数(ランダムR)と図8(A)の右欄に示す確変時の大当り判定値とを比較し、それらが一致するか否かを確認する(ステップS222)。なお、始動入賞時にステップS221で確変状態であるか否かを確認してから、実際にその始動入賞にもとづく変動表示が開始されるまでの間には、複数の変動表示が実行される可能性がある。そのため、始動入賞時にステップS221で確変状態であるか否かを確認してから、実際にその始動入賞にもとづく変動表示が開始されるまでの間に遊技状態が変化している(例えば、変動開始前に確変大当りが発生した場合には通常状態から確変状態に変化している。)場合がある。そのため、始動入賞時にステップS221で判定する遊技状態と変動開始時に判定する遊技状態(後述するステップS61参照)とは、必ずしも一致するとは限らない。

【0189】

大当り判定用乱数(ランダムR)が確変時の大当り判定値とも一致しなければ(ステップS222のN)、CPU56は、ステップS214A、S214Bで抽出した大当り判定用乱数(ランダムR)と図8(B)、(C)に示す小当り判定値とを比較し、それらが一致するか否かを確認する(ステップS223)。この場合、CPU56は、第1始動入賞口13への始動入賞があった場合(図18(A)に示す第1始動口スイッチ通過処理で入賞時演出処理(ステップS217A参照)を実行する場合)には、図8(B)に示す小当り判定テーブル(第1特別図柄用)に設定されている小当り判定値と一致するか否かを判定する。また、第2始動入賞口14への始動入賞があった場合(図18(B)に示す第2始動口スイッチ通過処理で入賞時演出処理(ステップS217B参照)を実行する場合)には、図8(C)に示す小当り判定テーブル(第2特別図柄用)に設定されている小当り判定値と一致するか否かを判定する。

【0190】

大当り判定用乱数(ランダムR)が小当り判定値とも一致しなければ(ステップS223のN)、CPU56は、現在の遊技状態を判定する処理を行う(ステップS224)。この実施の形態では、CPU56は、ステップS224において、遊技状態が確変状態または時短状態であるか否か(具体的には、時短フラグがセットされているか否か)を判定する。なお、始動入賞時にステップS224で確変状態や時短状態であるか否かを確認してから、実際にその始動入賞にもとづく変動表示が開始されるまでの間には、複数の変動表示が実行される可能性がある。そのため、始動入賞時にステップS224で確変状態や時短状態であるか否かを確認してから、実際にその始動入賞にもとづく変動表示が開始されるまでの間に遊技状態が変化している(例えば、変動開始前に確変大当りが発生した場合には通常状態から確変状態に変化している。)場合がある。そのため、始動入賞時にステップS224で判定する遊技状態と変動開始時に判定する遊技状態(後述するステップS61参照)とは、必ずしも一致するとは限らない。

【0191】

そして、CPU56は、ステップS224の判定結果に応じて、はずれ用変動パターン種別判定テーブルを設定する(ステップS225)。具体的には、CPU56は、遊技状

態が確変状態もしくは時短状態であると判定した場合には、図10(C)に示すはずれ用変動パターン種別判定テーブル(確変/時短用)135Cを設定する。また、遊技状態が通常状態であると判定した場合には、図10(A)に示すはずれ用変動パターン種別判定テーブル(通常用)135Aを設定する。なお、この実施の形態では、通常状態用のはずれ用変動パターン種別判定テーブルとして、合算保留記憶数に応じて2種類のはずれ用変動パターン種別判定テーブル135A, 135Bが用意されているが、合算保留記憶数にかかわらず、はずれ用変動パターン種別判定テーブル(通常用)135Aを設定するものとする。なお、遊技状態が通常状態であると判定した場合に、合算保留記憶数にかかわらず、はずれ用変動パターン種別判定テーブル(短縮用)135Bを設定するようにしてもよい。

10

【0192】

また、遊技状態に応じていずれのはずれ用変動パターン種別判定テーブル135A, 135Cを用いるかを区別するのではなく、遊技状態や合算保留記憶数に関係なく、いずれか一方のはずれ用変動パターン種別判定テーブル135A, 135Cを選択して設定するようにしてもよい。また、はずれ用変動パターン種別判定テーブルを用いるのではなく、あらかじめ閾値判定を行う閾値判定プログラムを組み込んでおき、閾値より大きいかなかを判定することにより、後述するステップS229で変動パターン種別を判定するようにしてもよい。例えば、この実施の形態では、図9(A), (B)に示すように、スーパーリーチ大当たりとなるスーパーCA3-4の変動パターン種別に対して150~251の共通の範囲に判定値が割り当てられているのであるから、変動パターン種別判定用乱数(ランダム2)の値が閾値150以上であるかなかを判定し、150以上であればスーパーCA3-4の変動パターン種別となると判定してもよい。また、例えば、この実施の形態では、図10(A), (B)に示すように、スーパーリーチはずれとなるスーパーCA2-7の変動パターン種別に対して230~251の共通の範囲に判定値が割り当てられているのであるから、変動パターン種別判定用乱数(ランダム2)の値が閾値230以上であるかなかを判定し、230以上であればスーパーCA2-7の変動パターン種別となると判定してもよい。さらに、例えば、この実施の形態では、遊技状態が通常状態である場合には、図10(A), (B)に示すように、非リーチはずれとなる非リーチCA2-1の変動パターン種別に対して1~79の共通の範囲に判定値が割り当てられているのであるから、変動パターン種別判定用乱数(ランダム2)の値が閾値79以下であるかなかを判定し、79以下であれば非リーチCA2-1の変動パターン種別となると判定してもよい。

20

30

【0193】

大当たり判定用乱数(ランダムR)が小当たり判定値と一致した場合には(ステップS223のY)、CPU56は、図9(D)に示す小当たり用変動パターン種別判定テーブル132Dを設定する(ステップS226)。

【0194】

ステップS220またはステップS222で大当たり判定用乱数(ランダムR)が大当たり判定値と一致した場合には、CPU56は、ステップS214A, S214Bで抽出した大当たり種別判定用乱数(ランダム1)にもとづいて大当たりの種別を判定する(ステップS227)。この場合、CPU56は、第1始動入賞口13への始動入賞があった場合(図18(A)に示す第1始動口スイッチ通過処理で入賞時演出処理(ステップS217A参照)を実行する場合)には、図8(D)に示す大当たり種別判定テーブル(第1特別図柄用)131aを用いて大当たり種別が「通常大当たり」、「確変大当たり」または「突然確変大当たり」のいずれとなるかを判定する。また、第2始動入賞口14への始動入賞があった場合(図18(B)に示す第2始動口スイッチ通過処理で入賞時演出処理(ステップS217B参照)を実行する場合)には、図8(E)に示す大当たり種別判定テーブル(第2特別図柄用)131bを用いて大当たり種別が「通常大当たり」、「確変大当たり」または「突然確変大当たり」のいずれとなるかを判定する。

40

【0195】

50

そして、CPU 56は、ステップS 2 2 7で判定した大当たり種別に応じて、大当たり用変動パターン種別判定テーブルを設定する(ステップS 2 2 8)。具体的には、CPU 56は、通常大当たりと判定した場合には、図9(A)に示す大当たり用変動パターン種別判定テーブル1 3 2 Aを設定する。また、確変大当たりと判定した場合には、図9(B)に示す大当たり用変動パターン種別判定テーブル1 3 2 Bを設定する。また、突然確変大当たりと判定した場合には、図9(C)に示す大当たり用変動パターン種別判定テーブル1 3 2 Cを設定する。

【0 1 9 6】

次いで、CPU 56は、ステップS 2 2 5, S 2 2 6, S 2 2 8で設定した変動パターン種別判定テーブルと、ステップS 2 1 4 A, S 2 1 4 Bで抽出した変動パターン種別判定用乱数(ランダム2)とを用いて、変動パターン種別を判定する(ステップS 2 2 9)。

10

【0 1 9 7】

なお、前述したように、この実施の形態では、図9(A), (B)に示すように、15ラウンドの大当たり(確変大当たりまたは通常大当たり)となる場合には、大当たり種別が通常大当たりであるか確変大当たりであるかにかかわらず、スーパーCA 3 - 4の変動パターン種別に対して共通の範囲の判定値(150 ~ 251)が割り当てられている。従って、確変大当たりまたは通常大当たりとなる場合には、CPU 56は、変動パターン種別判定用乱数(ランダム2)が150 ~ 251であれば、少なくとも変動パターン種別がスーパーCA 3 - 4になる(すなわち、スーパーリーチ大当たりとなる)と判定することができる。

20

【0 1 9 8】

また、例えば、この実施の形態では、図10(A), (B)に示すように、遊技状態が通常状態であるとともに「はずれ」となる場合には、合算保留記憶数にかかわらず、非リーチCA 2 - 1の変動パターン種別に対して共通の範囲の判定値(1 ~ 79)が割り当てられている。従って、遊技状態が通常状態であるとともに「はずれ」となる場合には、CPU 56は、変動パターン種別判定用乱数(ランダム2)が1 ~ 79であれば、少なくとも変動パターン種別が非リーチCA 2 - 1になる(すなわち、非リーチはずれとなる)と判定することができる。また、図10(A), (B)に示すように、この実施の形態では、遊技状態が通常状態であるとともに「はずれ」となる場合には、遊技状態や合算保留記憶数にかかわらず、スーパーCA 2 - 7の変動パターン種別に対して共通の範囲の判定値(230 ~ 251)が割り当てられている。従って、遊技状態が通常状態であるとともに「はずれ」となる場合には、CPU 56は、変動パターン種別判定用乱数(ランダム2)が230 ~ 251であれば、少なくとも変動パターン種別がスーパーCA 2 - 7になる(すなわち、スーパーリーチはずれとなる)と判定することができる。

30

【0 1 9 9】

なお、ステップS 2 2 9において、CPU 56は、判定値にもとづいた変動パターン種別の判定まで行うのではなく、所定の閾値ごとの判定処理を行い、いずれの閾値以上であるか否かに応じて異なるコマンドを送信するようにしてもよい。例えば、通常状態であるときに「はずれ」と判定した場合に、CPU 56は、変動パターン種別判定用乱数の値が閾値「230」以上であるか否かを判定し、閾値「230」以上であれば、少なくともスーパーリーチとなることが特定できるのであるから(図10(A)(B)参照)、スーパーリーチとなることを示す入賞時判定結果指定コマンドを送信するようにしてもよい。次いで、CPU 56は、変動パターン種別判定用乱数の値が閾値「200」以上であるか否かを判定し、閾値「200」以上であれば(すなわち、200以上230未満であれば)、少なくともノーマルリーチとなることが特定できるのであるから(図10(A)(B)参照)、ノーマルリーチとなることを示す入賞時判定結果指定コマンドを送信するようにしてもよい。次いで、CPU 56は、変動パターン種別判定用乱数の値が閾値「100」以上であるか否かを判定し、閾値「100」以上であれば(すなわち、100以上200未満であれば)、ノーマルリーチとなるか非リーチとなるか特定できないのであるから(図10(A)(B)参照)、入賞時判定結果として特定不能であることを示す入賞時判定

40

50

結果指定コマンドを送信するようにしてもよい。また、CPU56は、変動パターン種別判定用乱数の値が閾値「100」未満であれば、少なくとも非リーチとなることが特定できるのであるから（図10（A）（B）参照）、非リーチとなることを示す入賞時判定結果指定コマンドを送信するようにしてもよい。

【0200】

また、閾値ごとの判定処理を行う場合、さらに閾値を細分化して変動パターン種別を判定するようにしてもよい。例えば、通常状態であるときに「はずれ」と判定した場合に、CPU56は、変動パターン種別判定用乱数の値が閾値「79」以下であるか否かを判定し、閾値「79」以下であれば非リーチCA2-1の変動パターン種別となることを示す入賞時判定結果指定コマンドを送信する。次いで、CPU56は、変動パターン種別判定用乱数の値が閾値「89」以下であるか否かを判定し、閾値「89」以下であれば非リーチCA2-2の変動パターン種別となることを示す入賞時判定結果指定コマンドを送信する。次いで、CPU56は、変動パターン種別判定用乱数の値が閾値「99」以下であるか否かを判定し、閾値「99」以下であれば、非リーチCA2-2となるか非リーチCA2-3となるか特定できないのであるから、変動パターン種別を特定できないことを示す入賞時判定結果指定コマンドを送信する。次いで、CPU56は、変動パターン種別判定用乱数の値が閾値「169」以下であるか否かを判定し、閾値「169」以下であれば、ノーマルCA2-4となるか非リーチCA2-3となるか特定できないのであるから、変動パターン種別を特定できないことを示す入賞時判定結果指定コマンドを送信する。なお、閾値「99」以下となる場合と閾値「169」以下となる場合とでは、ともに変動パターン種別を特定できない場合であるが、入賞時判定結果指定コマンドとして異なるコマンドを送信してもよい。以下、同様の処理を繰り返し行い、閾値ごとに異なる入賞時判定結果指定コマンドを送信するようにしてもよい。

【0201】

そして、CPU56は、判定した変動パターン種別を入賞時判定結果指定コマンドに設定する処理を行う（ステップS230）。具体的には、CPU56は、第1始動入賞口13または第2始動入賞口14のいずれに始動入賞したときに入賞時判定を行ったかと、ステップS229でいずれの変動パターン種別になると判定したとかに応じて、図15に示すような「00（H）」～「1C（H）」のいずれかの値を入賞時判定結果指定コマンドのEXTデータに設定する処理を行う。

【0202】

例えば、第1始動入賞口13への始動入賞があった場合（図18（A）に示す第1始動口スイッチ通過処理で入賞時演出処理（ステップS217A参照）を実行する場合）には、ステップS229で「非リーチはずれ」となる非リーチCA2-1の変動パターン種別になると判定した場合には、MODEデータ「95（H）」で構成される入賞時判定結果指定コマンドのEXTデータに「00（H）」を設定する処理を行う。また、ステップS229で「スーパーリーチはずれ」となるスーパーCA2-7の変動パターン種別になると判定した場合には、MODEデータ「95（H）」で構成される入賞時判定結果指定コマンドのEXTデータに「06（H）」を設定する処理を行う。また、ステップS229で「スーパーリーチ大当たり」となるスーパーCA3-4の変動パターン種別になると判定した場合には、MODEデータ「95（H）」で構成される入賞時判定結果指定コマンドのEXTデータに「0A（H）」を設定する処理を行う。また、第2始動入賞口14への始動入賞があった場合（図18（B）に示す第2始動口スイッチ通過処理で入賞時演出処理（ステップS217B参照）を実行する場合）には、ステップS229で「非リーチはずれ」となる非リーチCA2-1の変動パターン種別になると判定した場合には、MODEデータ「95（H）」で構成される入賞時判定結果指定コマンドのEXTデータに「10（H）」を設定する処理を行う。また、ステップS229で「スーパーリーチはずれ」となるスーパーCA2-7の変動パターン種別になると判定した場合には、MODEデータ「95（H）」で構成される入賞時判定結果指定コマンドのEXTデータに「16（H）」を設定する処理を行う。また、ステップS229で「スーパーリーチ大当たり」となる

スーパーC A 3 - 4の変動パターン種別になると判定した場合には、MODEデータ「95(H)」で構成される入賞時判定結果指定コマンドのEXTデータに「1A(H)」を設定する処理を行う。その他、CPU56は、判定した変動パターン種別に応じた値を入賞時判定結果指定コマンドのEXTデータに設定する処理を行う。

【0203】

なお、この実施の形態では、入賞時判定において大当りや小当りとなると判定した場合であっても一律に変動パターン種別を判定する場合を示したが、大当りや小当りとなると判定した場合には、変動パターン種別の判定を行わないようにしてもよい。そして、大当りまたは小当りとなると入賞時判定したことを示す入賞時判定結果指定コマンドを送信するようにしてもよい。そして、例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100は、大当りとなると入賞時判定したことを示す入賞時判定結果指定コマンドを受信したことにもとづいて、後述する連続予告演出を実行するようにしてもよい。

10

【0204】

図21および図22は、特別図柄プロセス処理における特別図柄通常処理(ステップS300)を示すフローチャートである。特別図柄通常処理において、CPU56は、合算保留記憶数の値を確認する(ステップS51)。具体的には、合算保留記憶数カウンタのカウント値を確認する。合算保留記憶数が0であれば処理を終了する。

【0205】

合算保留記憶数が0でなければ、CPU56は、第1保留記憶数が0であるか否かを確認する(ステップS52)。具体的には、第1保留記憶数カウンタの値が0であるか否かを確認する。第2保留記憶数が0でなければ、CPU56は、特別図柄ポインタ(第1特別図柄について特別図柄プロセス処理を行っているのか第2特別図柄について特別図柄プロセス処理を行っているのかを示すフラグ)に「第2」を示すデータを設定する(ステップS53)。第2保留記憶数が0であれば(すなわち、第1保留記憶数のみが溜まっている場合)には、CPU56は、特別図柄ポインタに「第1」を示すデータを設定する(ステップS54)。

20

【0206】

この実施の形態では、ステップS52~S54の処理が実行されることによって、第1特別図柄の変動表示に対して、第2特別図柄の変動表示が優先して実行される。言い換えれば、第2特別図柄の変動表示を開始させるための第2の開始条件が第1特別図柄の変動表示を開始させるための第1の開始条件に優先して成立するように制御される。

30

【0207】

次いで、CPU56は、RAM55において、特別図柄ポインタが示す方の保留記憶数=1に対応する保存領域に格納されている各乱数値を読み出してRAM55の乱数バッファ領域に格納する(ステップS55)。具体的には、CPU56は、特別図柄ポインタが「第1」を示している場合には、第1保留記憶数バッファにおける第1保留記憶数=1に対応する保存領域に格納されている各乱数値を読み出してRAM55の乱数バッファ領域に格納する。また、CPU56は、特別図柄ポインタが「第2」を示している場合には、第2保留記憶数バッファにおける第2保留記憶数=1に対応する保存領域に格納されている各乱数値を読み出してRAM55の乱数バッファ領域に格納する。

40

【0208】

そして、CPU56は、特別図柄ポインタが示す方の保留記憶数カウンタのカウント値を1減算し、かつ、各保存領域の内容をシフトする(ステップS56)。具体的には、CPU56は、特別図柄ポインタが「第1」を示している場合には、第1保留記憶数カウンタのカウント値を1減算し、かつ、第1保留記憶数バッファにおける各保存領域の内容をシフトする。また、特別図柄ポインタが「第2」を示している場合に、第2保留記憶数カウンタのカウント値を1減算し、かつ、第2保留記憶数バッファにおける各保存領域の内容をシフトする。

【0209】

すなわち、CPU56は、特別図柄ポインタが「第1」を示している場合に、RAM5

50

5の第1保留記憶数バッファにおいて第1保留記憶数 = n ($n = 2, 3, 4$) に対応する保存領域に格納されている各乱数値を、第1保留記憶数 = $n - 1$ に対応する保存領域に格納する。また、特別図柄ポインタが「第2」を示す場合に、RAM55の第2保留記憶数バッファにおいて第2保留記憶数 = n ($n = 2, 3, 4$) に対応する保存領域に格納されている各乱数値を、第2保留記憶数 = $n - 1$ に対応する保存領域に格納する。

【0210】

よって、各第1保留記憶数（または、各第2保留記憶数）に対応するそれぞれの保存領域に格納されている各乱数値が抽出された順番は、常に、第1保留記憶数（または、第2保留記憶数） = 1, 2, 3, 4の順番と一致している。

【0211】

そして、CPU56は、合算保留記憶数カウンタのカウント値をRAM55の所定の領域に保存した後（ステップS57）、合算保留記憶数の値を1減らす。すなわち、合算保留記憶数カウンタのカウント値を1減算する（ステップS58）。なお、CPU56は、カウント値が1減算される前の合算保留記憶数カウンタの値をRAM55の所定の領域に保存する。

【0212】

また、CPU56は、減算後の特別図柄ポインタが示す方の保留記憶数カウンタの値にもとづいて、特別図柄ポインタが示す方の保留記憶数指定コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ100に送信する制御を行う（ステップS59）。この場合、特別図柄ポインタに「第1」を示す値が設定されている場合には、CPU56は、第1保留記憶数指定コマンドを送信する制御を行う。また、特別図柄ポインタに「第2」を示す値が設定されている場合には、CPU56は、第2保留記憶数指定コマンドを送信する制御を行う。

【0213】

特別図柄通常処理では、最初に、第1始動入賞口13を対象として処理を実行することを示す「第1」を示すデータすなわち第1特別図柄を対象として処理を実行することを示す「第1」を示すデータ、または第2始動入賞口14を対象として処理を実行することを示す「第2」を示すデータすなわち第2特別図柄を対象として処理を実行することを示す「第2」を示すデータが、特別図柄ポインタに設定される。そして、特別図柄プロセス処理における以降の処理では、特別図柄ポインタに設定されているデータに応じた処理が実行される。よって、ステップS300～S310の処理を、第1特別図柄を対象とする場合と第2特別図柄を対象とする場合とで共通化することができる。

【0214】

次いで、CPU56は、乱数バッファ領域からランダムR（大当たり判定用乱数）を読み出し、大当たり判定モジュールを実行する。なお、この場合、CPU56は、第1始動口スイッチ通過処理のステップS214Aや第2始動口スイッチ通過処理のステップS214Bで抽出し第1保留記憶バッファや第2保留記憶バッファにあらかじめ格納した大当たり判定用乱数を読み出し、大当たり判定を行う。大当たり判定モジュールは、あらかじめ決められている大当たり判定値や小当たり判定値（図8参照）と大当たり判定用乱数とを比較し、それらが一致したら大当たりや小当たりとすることに決定する処理を実行するプログラムである。すなわち、大当たり判定や小当たり判定の処理を実行するプログラムである。

【0215】

大当たり判定の処理では、遊技状態が確変状態（高確率状態）の場合は、遊技状態が非確変状態（通常遊技状態および時短状態）の場合よりも、大当たりとなる確率が高くなるように構成されている。具体的には、あらかじめ大当たり判定値の数が多く設定されている確変時大当たり判定テーブル（ROM54における図8（A）の右側の数値が設定されているテーブル）と、大当たり判定値の数が確変大当たり判定テーブルよりも少なく設定されている通常時大当たり判定テーブル（ROM54における図8（A）の左側の数値が設定されているテーブル）とが設けられている。そして、CPU56は、遊技状態が確変状態であるか否かを確認し、遊技状態が確変状態であるときは、確変時大当たり判定テーブルを使用して大当たりの判定の処理を行い、遊技状態が通常遊技状態や時短状態であるときは、通常時大当

10

20

30

40

50

り判定テーブルを使用して大当りの判定の処理を行う。すなわち、CPU 56は、大当り判定用乱数（ランダムR）の値が図8（A）に示すいずれかの大当り判定値に一致すると、特別図柄に関して大当りとすることに決定する。大当りとするに決定した場合には（ステップS 61）、ステップS 71に移行する。なお、大当りとするか否か決定するということは、大当り遊技状態に移行させるか否か決定するということであるが、特別図柄表示器における停止図柄を大当り図柄とするか否か決定するということでもある。

【0216】

なお、現在の遊技状態が確変状態であるか否かの確認は、確変フラグがセットされているか否かにより行われる。確変フラグは、遊技状態を確変状態に移行するときにセットされ、確変状態を終了するときにリセットされる。具体的には、確変大当りまたは突然確変大当りとするに決定され、大当り遊技を終了する処理においてセットされ、大当りと決定されたときに特別図柄の変動表示を終了して停止図柄を停止表示するタイミングでリセットされる。

10

【0217】

大当り判定用乱数（ランダムR）の値がいずれの大当り判定値にも一致しなければ（ステップS 61のN）、CPU 56は、小当り判定テーブル（図8（B）、（C）参照）を使用して小当りの判定の処理を行う。すなわち、CPU 56は、大当り判定用乱数（ランダムR）の値が図8（B）、（C）に示すいずれかの小当り判定値に一致すると、特別図柄に関して小当りとするに決定する。この場合、CPU 56は、特別図柄ポインタが示すデータを確認し、特別図柄ポインタが示すデータが「第1」である場合には、図8（B）に示す小当り判定テーブル（第1特別図柄用）を用いて小当りとするか否かを決定する。また、特別図柄ポインタが示すデータが「第2」である場合には、図8（C）に示す小当り判定テーブル（第2特別図柄用）を用いて小当りとするか否かを決定する。そして、小当りとするに決定した場合には（ステップS 62）、CPU 56は、小当りであることを示す小当りフラグをセットし（ステップS 63）、ステップS 75に移行する。

20

【0218】

なお、ランダムRの値が大当り判定値および小当り判定値のいずれにも一致しない場合には（ステップS 62のN）、すなわち、はずれである場合には、そのままステップS 75に移行する。

【0219】

ステップS 71では、CPU 56は、大当りであることを示す大当りフラグをセットする。そして、大当り種別を複数種類のうちのいずれかに決定するために使用するテーブルとして、特別図柄ポインタが示す方の大当り種別判定テーブルを選択する（ステップS 72）。具体的には、CPU 56は、特別図柄ポインタが「第1」を示している場合には、図8（D）に示す第1特別図柄用の大当り種別判定用テーブル131aを選択する。また、CPU 56は、特別図柄ポインタが「第2」を示している場合には、図8（E）に示す第2特別図柄用の大当り種別判定用テーブル131bを選択する。

30

【0220】

次いで、CPU 56は、選択した大当り種別判定テーブルを用いて、乱数バッファ領域に格納された大当り種別判定用の乱数（ランダム1）の値と一致する値に対応した種別（「通常大当り」、「確変大当り」または「突然確変大当り」）を大当りの種別に決定する（ステップS 73）。なお、この場合、CPU 56は、第1始動口スイッチ通過処理のステップS 214Aや第2始動口スイッチ通過処理のステップS 214Bで抽出し第1保留記憶バッファや第2保留記憶バッファにあらかじめ格納した大当り種別判定用乱数を読み出し、大当り種別の決定を行う。また、この場合に、図8（D）、（E）に示すように、第1特別図柄の変動表示が実行される場合には、第2特別図柄の変動表示が実行される場合と比較して、突然確変大当りが選択される割合が高い。

40

【0221】

また、CPU 56は、決定した大当りの種別を示すデータをRAM 55における大当り種別バッファに設定する（ステップS 74）。例えば、大当り種別が「通常大当り」の場

50

合には大当り種別を示すデータとして「01」が設定され、大当り種別が「確変大当り」の場合には大当り種別を示すデータとして「02」が設定され、大当り種別が「突然確変大当り」の場合には大当り種別を示すデータとして「03」が設定される。

【0222】

次いで、CPU56は、特別図柄の停止図柄を決定する(ステップS75)。具体的には、大当りフラグおよび小当りフラグのいずれもセットされていない場合には、はずれ図柄となる「-」を特別図柄の停止図柄に決定する。大当りフラグがセットされている場合には、大当り種別の決定結果に応じて、大当り図柄となる「1」、「3」、「7」のいずれかを特別図柄の停止図柄に決定する。すなわち、大当り種別を「突然確変大当り」に決定した場合には「1」を特別図柄の停止図柄に決定し、「通常大当り」に決定した場合には「3」を特別図柄の停止図柄に決定し、「確変大当り」に決定した場合には「7」を特別図柄の停止図柄に決定する。また、小当りフラグがセットされている場合には、小当り図柄となる「5」を特別図柄の停止図柄に決定する。

10

【0223】

なお、この実施の形態では、まず大当り種別を決定し、決定した大当り種別に対応する特別図柄の停止図柄を決定する場合を示したが、大当り種別および特別図柄の停止図柄の決定方法は、この実施の形態で示したものにかぎられない。例えば、あらかじめ特別図柄の停止図柄と大当り種別とを対応付けたテーブルを用意しておき、大当り種別決定用乱数にもとづいてまず特別図柄の停止図柄を決定すると、その決定結果にもとづいて対応する大当り種別も決定されるように構成してもよい。

20

【0224】

そして、特別図柄プロセスフラグの値を変動パターン設定処理(ステップS301)に対応した値に更新する(ステップS76)。

【0225】

図23は、特別図柄プロセス処理における変動パターン設定処理(ステップS301)を示すフローチャートである。変動パターン設定処理において、CPU56は、大当りフラグがセットされているか否かを確認する(ステップS91)。大当りフラグがセットされている場合には、CPU56は、変動パターン種別を複数種類のうちのいずれかに決定するために使用するテーブルとして、大当り用変動パターン種別判定テーブル132A~132C(図9(A)~(C)参照)のいずれかを選択する(ステップS92)。そして、ステップS102に移行する。

30

【0226】

大当りフラグがセットされていない場合には、CPU56は、小当りフラグがセットされているか否かを確認する(ステップS93)。小当りフラグがセットされている場合には、CPU56は、変動パターン種別を複数種類のうちのいずれかに決定するために使用するテーブルとして、小当り用変動パターン種別判定テーブル132D(図9(D)参照)を選択する(ステップS94)。そして、ステップS102に移行する。

【0227】

小当りフラグもセットされていない場合には、CPU56は、時短状態であることを示す時短フラグがセットされているか否かを確認する(ステップS95)。なお、時短フラグは、遊技状態を時短状態に移行するとき(確変状態に移行するときを含む)にセットされ、時短状態を終了するときにリセットされる。具体的には、通常大当り、確変大当りまたは突然確変大当りとするに決定され、大当り遊技を終了する処理においてセットされ、時短回数を消化したタイミングや、大当りと決定されたときに特別図柄の変動表示を終了して停止図柄を停止表示するタイミングでリセットされる。時短フラグがセットされていれば(ステップS95のY)、CPU56は、ステップS99に移行する。

40

【0228】

時短フラグがセットされていなければ(ステップS95のN)、CPU56は、合算保留記憶数が3以上であるか否かを確認する(ステップS96)。合算保留記憶数が3未満であれば(ステップS96のN)、CPU56は、変動パターン種別を複数種類のうちの

50

いずれかに決定するために使用するテーブルとして、はずれ用変動パターン種別判定テーブル135A(図10(A)参照)を選択する(ステップS97)。そして、ステップS102に移行する。

【0229】

合算保留記憶数が3以上である場合(ステップS96のY)には、CPU56は、変動パターン種別を複数種類のうちのいずれかに決定するために使用するテーブルとして、はずれ用変動パターン種別判定テーブル135B(図10(B)参照)を選択する(ステップS98)。そして、ステップS102に移行する。

【0230】

時短フラグがセットされている場合(ステップS95のY)には、CPU56は、変動パターン種別を複数種類のうちのいずれかに決定するために使用するテーブルとして、はずれ用変動パターン種別判定テーブル135C(図10(C)参照)を選択する(ステップS99)。そして、ステップS102に移行する。

10

【0231】

この実施の形態では、ステップS95~S99の処理が実行されることによって、合算保留記憶数が3以上である場合には、図10(B)に示すはずれ用変動パターン種別判定テーブル135Bが選択される。また、遊技状態が時短状態である場合(確変状態である場合を含む)には、図10(C)に示すはずれ用変動パターン種別判定テーブル135Cが選択される。この場合、後述するステップS102の処理で変動パターン種別として非リーチCA2-3が決定される場合があり、非リーチCA2-3の変動パターン種別が決定された場合には、ステップS105の処理で変動パターンとして短縮変動の非リーチPA1-2が決定される(図12参照)。従って、この実施の形態では、遊技状態が時短状態である場合(確変状態である場合を含む)または合算保留記憶数が3以上である場合には、短縮変動の変動表示が行われる場合がある。

20

【0232】

なお、この実施の形態では、遊技状態が時短状態である場合であっても、合算保留記憶数がほぼ0である場合(例えば、0であるか、0または1である場合)には、短縮変動の変動表示を行わないようにしてもよい。この場合、例えば、CPU56は、ステップS95でYと判定したときに、合算保留記憶数がほぼ0であるか否かを確認し、合算保留記憶数がほぼ0であれば、はずれ用変動パターン種別判定テーブル135A(図10(A)参照)を選択するようにしてもよい。

30

【0233】

次いで、CPU56は、乱数バッファ領域(第1保留記憶バッファまたは第2保留記憶バッファ)からランダム2(変動パターン種別判定用乱数)を読み出し、ステップS92、S94、S97、S98またはS99の処理で選択したテーブルを参照することによって、変動パターン種別を複数種類のうちのいずれかに決定する(ステップS102)。

【0234】

次いで、CPU56は、ステップS102の変動パターン種別の決定結果にもとづいて、変動パターンを複数種類のうちのいずれかに決定するために使用するテーブルとして、当り変動パターン判定テーブル137A、137B(図11参照)、はずれ変動パターン判定テーブル138A(図12参照)のうちのいずれかを選択する(ステップS103)。また、乱数バッファ領域(第1保留記憶バッファまたは第2保留記憶バッファ)からランダム3(変動パターン判定用乱数)を読み出し、ステップS103の処理で選択した変動パターン判定テーブルを参照することによって、変動パターンを複数種類のうちのいずれかに決定する(ステップS105)。なお、始動入賞のタイミングでランダム3(変動パターン判定用乱数)を抽出しないように構成する場合には、CPU56は、変動パターン判定用乱数(ランダム3)を生成するための変動パターン判定用乱数カウンタから値を直接抽出し、抽出した乱数値にもとづいて変動パターンを決定するようにしてもよい。

40

【0235】

次いで、決定した変動パターンに対応する演出制御コマンド(変動パターンコマンド)

50

を、演出制御用マイクロコンピュータ100に送信する制御を行う(ステップS106)。

【0236】

また、特別図柄の変動を開始する(ステップS107)。例えば、ステップS33の特別図柄表示制御処理で参照される特別図柄に対応した開始フラグをセットする。また、RAM55に形成されている変動時間タイマに、選択された変動パターンに対応した変動時間に応じた値を設定する(ステップS108)。そして、特別図柄プロセスフラグの値を表示結果指定コマンド送信処理(ステップS302)に対応した値に更新する(ステップS109)。

【0237】

なお、はずれと決定されている場合において、いきなり変動パターン種別を決定するのではなく、まず、リーチ判定用乱数を用いた抽選処理によってリーチとするか否かを決定するようにしてもよい。そして、リーチとするか否かの判定結果にもとづいて、ステップS95～S99、S102の処理を実行し、変動パターン種別を決定するようにしてもよい。この場合、あらかじめ非リーチ用の変動パターン種別判定テーブル(図10に示す非リーチCA2-1～非リーチCA2-3の変動パターン種別を含むもの)と、リーチ用の変動パターン種別判定テーブル(図10に示すノーマルCA2-4～ノーマルCA2-6、スーパーCA2-7の変動パターン種別を含むもの)とを用意しておき、リーチ判定結果にもとづいて、いずれかの変動パターン種別判定テーブルを選択して、変動パターン種別を決定するようにしてもよい。

【0238】

また、リーチ判定用乱数を用いた抽選処理によってリーチとするか否かを決定する場合にも、合算保留記憶数(第1保留記憶数や第2保留記憶数でもよい)に応じて、リーチの選択割合が異なるリーチ判定テーブルを選択して、保留記憶数が多くなるに従ってリーチ確率が低くなるようにリーチとするか否かを決定するようにしてもよい。この場合、CPU56は、例えば、入賞時演出処理における「スーパーリーチはずれ」や「非リーチはずれ」となるか否かの判定において、リーチ判定テーブルの共通の範囲に割り当てられた判定値に合致するか否かを判定することによって、リーチとなるか否かをあらかじめ判定するようにしてもよい。なお、予告演出の実行割合が低下してしまうことを考慮すると、この実施の形態で示したように、リーチ判定用乱数を用いた抽選処理を行うことなく、変動

【0239】

図24は、表示結果指定コマンド送信処理(ステップS302)を示すフローチャートである。表示結果指定コマンド送信処理において、CPU56は、決定されている大当りの種類、小当り、はずれに応じて、表示結果1指定～表示結果5指定のいずれかの演出制御コマンド(図13参照)を送信する制御を行う。具体的には、CPU56は、まず、大当りフラグがセットされているか否か確認する(ステップS110)。セットされていない場合には、ステップS116に移行する。大当りフラグがセットされている場合、大当りの種別が確変大当りであるときには、表示結果3指定コマンドを送信する制御を行う(ステップS111、S112)。なお、確変大当りであるか否かは、具体的には、特別図柄通常処理のステップS74で大当り種別バッファに設定されたデータが「02」であるか否かを確認することによって判定できる。また、CPU56は、大当りの種別が突然確変大当りであるときには、表示結果4指定コマンドを送信する制御を行う(ステップS113、S114)。なお、突然確変大当りであるか否かは、具体的には、特別図柄通常処理のステップS74で大当り種別バッファに設定されたデータが「03」であるか否かを確認することによって判定できる。そして、確変大当りおよび突然確変大当りのいずれでもないときには(すなわち、通常大当りであるときには)、CPU56は、表示結果2指定コマンドを送信する制御を行う(ステップS115)。

【0240】

一方、CPU 56は、大当りフラグがセットされていないときには(ステップS 1 1 0のN)、小当りフラグがセットされているか否かを確認する(ステップS 1 1 6)。小当りフラグがセットされていれば、CPU 56は、表示結果5指定コマンドを送信する制御を行う(ステップS 1 1 7)。小当りフラグもセットされていないときは(ステップS 1 1 6のN)、すなわち、はずれである場合には、CPU 56は、表示結果1指定コマンドを送信する制御を行う(ステップS 1 1 8)。

【0241】

そして、CPU 56は、特別図柄プロセスフラグの値を特別図柄変動中処理(ステップS 3 0 3)に対応した値に更新する(ステップS 1 1 9)。

【0242】

図25は、特別図柄プロセス処理における特別図柄変動中処理(ステップS 3 0 3)を示すフローチャートである。特別図柄変動中処理において、CPU 56は、変動時間タイマを1減算し(ステップS 1 2 5)、変動時間タイマがタイムアウトしたら(ステップS 1 2 6)、特別図柄プロセスフラグの値を特別図柄停止処理(ステップS 3 0 4)に対応した値に更新する(ステップS 1 2 7)。変動時間タイマがタイムアウトしていない場合には、そのまま処理を終了する。

【0243】

図26は、特別図柄プロセス処理における特別図柄停止処理(ステップS 3 0 4)を示すフローチャートである。特別図柄停止処理において、CPU 56は、ステップS 3 2の特別図柄表示制御処理で参照される終了フラグをセットして特別図柄の変動を終了させ、第1特別図柄表示器8aまたは第2特別図柄表示器8bに停止図柄を導出表示する制御を行う(ステップS 1 3 1)。なお、特別図柄ポインタに「第1」を示すデータが設定されている場合には第1特別図柄表示器8aでの第1特別図柄の変動を終了させ、特別図柄ポインタに「第2」を示すデータが設定されている場合には第2特別図柄表示器8bでの第2特別図柄の変動を終了させる。また、演出制御用マイクロコンピュータ100に図柄確定指定コマンドを送信する制御を行う(ステップS 1 3 2)。そして、大当りフラグがセットされていない場合には、ステップS 1 4 0に移行する(ステップS 1 3 3)。

【0244】

大当りフラグがセットされている場合には、CPU 56は、セットされていれば、確変状態であることを示す確変フラグ、および時短状態であることを示す時短フラグをリセットし(ステップS 1 3 4)、演出制御用マイクロコンピュータ100に大当り開始指定コマンドを送信する制御を行う(ステップS 1 3 5)。具体的には、大当りの種別が通常大当りである場合には大当り開始1指定コマンドを送信する。大当りの種別が確変大当りである場合には大当り開始2指定コマンドを送信する。大当りの種別が突然確変大当りである場合には小当り/突然確変大当り開始指定コマンドを送信する。なお、大当りの種別が通常大当り、確変大当りまたは突然確変大当りのいずれであるかは、RAM 55に記憶されている大当り種別を示すデータ(大当り種別バッファに記憶されているデータ)にもとづいて判定される。

【0245】

また、大当り表示時間タイマに大当り表示時間(大当りが発生したことを、例えば、演出表示装置9において報知する時間)に相当する値を設定する(ステップS 1 3 7)。また、大入賞口開放回数カウンタに開放回数(例えば、通常大当りまたは確変大当りの場合には15回。突然確変大当りの場合には2回。)をセットする(ステップS 1 3 8)。そして、特別図柄プロセスフラグの値を大入賞口開放前処理(ステップS 3 0 5)に対応した値に更新する(ステップS 1 3 9)。

【0246】

ステップS 1 4 0では、CPU 56は、確変状態であることを示す確変フラグがセットされているか否かを確認する。確変フラグがセットされていなければ、CPU 56は、時短状態であることを示す時短フラグがセットされているか否かを確認する(ステップS 1 4 1)。時短フラグがセットされている場合には(すなわち、確変状態をとまわず、時短

10

20

30

40

50

状態にのみ制御されている場合には)、時短状態における特別図柄の変動可能回数を示す時短回数カウンタの値を - 1 する (ステップ S 1 4 2)。

【 0 2 4 7 】

次いで、CPU 5 6 は、減算後の時短回数カウンタの値が 0 になった場合には (ステップ S 1 4 4)、時短フラグをリセットする (ステップ S 1 4 5)。また、CPU 5 6 は、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に対して通常状態指定コマンドを送信する制御を行う (ステップ S 1 4 6)。

【 0 2 4 8 】

次いで、CPU 5 6 は、小当りフラグがセットされているか否かを確認する (ステップ S 1 4 7)。小当りフラグがセットされていれば、CPU 5 6 は、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に小当り / 突然確変大当り開始指定コマンドを送信する (ステップ S 1 4 8)。また、小当り表示時間タイマに小当り表示時間 (小当りが発生したことを、例えば、演出表示装置 9 において報知する時間) に相当する値を設定する (ステップ S 1 4 9)。また、大入賞口開放回数カウンタに開放回数 (例えば 2 回) をセットする (ステップ S 1 5 0)。そして、特別図柄プロセスフラグの値を小当り開始前処理 (ステップ S 3 0 8) に対応した値に更新する (ステップ S 1 5 1)。

【 0 2 4 9 】

小当りフラグもセットされていなければ (ステップ S 1 4 7 の N)、CPU 5 6 は、特別図柄プロセスフラグの値を特別図柄通常処理 (ステップ S 3 0 0) に対応した値に更新する (ステップ S 1 5 2)。

【 0 2 5 0 】

図 2 7 は、特別図柄プロセス処理における大当り終了処理 (ステップ S 3 0 7) を示すフローチャートである。大当り終了処理において、CPU 5 6 は、大当り終了表示タイマが設定されているか否かを確認し (ステップ S 1 6 0)、大当り終了表示タイマが設定されている場合には、ステップ S 1 6 4 に移行する。大当り終了表示タイマが設定されていない場合には、大当りフラグをリセットし (ステップ S 1 6 1)、大当り終了指定コマンドを送信する制御を行う (ステップ S 1 6 2)。ここで、通常大当りであった場合には大当り終了 1 指定コマンドを送信し、確変大当りであった場合には大当り終了 2 指定コマンドを送信し、突然確変大当りであった場合には小当り / 突然確変大当り終了指定コマンドを送信する。そして、大当り終了表示タイマに、画像表示装置 9 において大当り終了表示が行われている時間 (大当り終了表示時間) に対応する表示時間に相当する値を設定し (ステップ S 1 6 3)、処理を終了する。

【 0 2 5 1 】

ステップ S 1 6 4 では、大当り終了表示タイマの値を 1 減算する。そして、CPU 5 6 は、大当り終了表示タイマの値が 0 になっているか否か、すなわち大当り終了表示時間が経過したか否かを確認する (ステップ S 1 6 5)。経過していなければ処理を終了する。

【 0 2 5 2 】

大当り終了表示時間を経過していれば (ステップ S 1 6 5 の Y)、CPU 5 6 は、大当りの種別が確変大当りまたは突然確変大当りであるか否かを確認する (ステップ S 1 6 6)。なお、確変大当りまたは突然確変大当りであるか否かは、具体的には、特別図柄通常処理のステップ S 7 4 で大当り種別バッファに設定されたデータが「0 2」～「0 3」であるか否かを確認することによって判定できる。確変大当りおよび突然確変大当りのいずれでもなければ (すなわち、通常大当りであれば)、CPU 5 6 は、時短フラグをセットして遊技状態を時短状態に移行させる (ステップ S 1 6 7)。また、CPU 5 6 は、時短回数をカウントするための時短回数カウンタに所定回数 (例えば 1 0 0 回) をセットする (ステップ S 1 6 8)。また、CPU 5 6 は、時短状態指定コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に送信する制御を行う (ステップ S 1 6 9)。そして、ステップ S 1 7 3 に移行する。

【 0 2 5 3 】

確変大当りまたは突然確変大当りであれば、CPU 5 6 は、確変フラグをセットして遊

10

20

30

40

50

技状態を確変状態に移行させる（ステップS 1 7 0）。また、CPU 5 6は、時短フラグをセットする（ステップS 1 7 1）。また、CPU 5 6は、確変状態指定コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ1 0 0に送信する制御を行う（ステップS 1 7 2）。そして、ステップS 1 7 3に移行する。

【0 2 5 4】

なお、この実施の形態では、ステップS 1 6 7，S 1 7 1でセットした時短フラグは、可変入賞球装置1 5の開放時間を長くしたり開放回数を増加させたりするか否かを判定するためにも用いられる。この場合、具体的には、CPU 5 6は、普通図柄プロセス処理（ステップS 2 7参照）において、普通図柄の変動表示結果が当たりとなったときに、時短フラグがセットされているか否かを確認し、セットされていれば、開放時間を長くしたり開放回数を増加させたりして可変入賞球装置1 5を開放する制御を行う。また、ステップS 1 6 7，S 1 7 1でセットした時短フラグは、特別図柄の変動時間を短縮するか否かを判定するために用いられる。

10

【0 2 5 5】

そして、CPU 5 6は、特別図柄プロセスフラグの値を特別図柄通常処理（ステップS 3 0 0）に対応した値に更新する（ステップS 1 7 3）。

【0 2 5 6】

次に、演出制御手段の動作を説明する。図2 8は、演出制御基板8 0に搭載されている演出制御手段としての演出制御用マイクロコンピュータ1 0 0（具体的には、演出制御用CPU 1 0 1）が実行するメイン処理を示すフローチャートである。演出制御用CPU 1 0 1は、電源が投入されると、メイン処理の実行を開始する。メイン処理では、まず、RAM領域のクリアや各種初期値の設定、また演出制御の起動間隔（例えば、2 m s）を決めるためのタイマの初期設定等を行うための初期化処理を行う（ステップS 7 0 1）。その後、演出制御用CPU 1 0 1は、タイマ割込フラグの監視（ステップS 7 0 2）を行うループ処理に移行する。タイマ割込が発生すると、演出制御用CPU 1 0 1は、タイマ割込処理においてタイマ割込フラグをセットする。メイン処理において、タイマ割込フラグがセットされていたら、演出制御用CPU 1 0 1は、そのフラグをクリアし（ステップS 7 0 3）、以下の演出制御処理を実行する。

20

【0 2 5 7】

演出制御処理において、演出制御用CPU 1 0 1は、まず、受信した演出制御コマンドを解析し、受信した演出制御コマンドに応じたフラグをセットする処理等を行う（コマンド解析処理：ステップS 7 0 4）。次いで、演出制御用CPU 1 0 1は、演出制御プロセス処理を行う（ステップS 7 0 5）。演出制御プロセス処理では、制御状態に応じた各プロセスのうち、現在の制御状態（演出制御プロセスフラグ）に対応した処理を選択して演出表示装置9の表示制御を実行する。

30

【0 2 5 8】

次いで、大当り図柄決定用乱数などの乱数を生成するためのカウンタのカウント値を更新する乱数更新処理を実行する（ステップS 7 0 6）。また、合算保留記憶表示部1 8 cの表示状態の制御を行う保留記憶表示制御処理を実行する（ステップS 7 0 7）。その後、ステップS 7 0 2に移行する。

40

【0 2 5 9】

図2 9は、主基板3 1の遊技制御用マイクロコンピュータ5 6 0から受信した演出制御コマンドを格納するためのコマンド受信バッファの一構成例を示す説明図である。この例では、2 バイト構成の演出制御コマンドを6 個格納可能なリングバッファ形式のコマンド受信バッファが用いられる。従って、コマンド受信バッファは、受信コマンドバッファ1 ~ 1 2の1 2 バイトの領域で構成される。そして、受信したコマンドをどの領域に格納するのかを示すコマンド受信個数カウンタが用いられる。コマンド受信個数カウンタは、0 ~ 1 1の値をとる。なお、必ずしもリングバッファ形式でなくてもよい。

【0 2 6 0】

なお、遊技制御用マイクロコンピュータ5 6 0から送信された演出制御コマンドは、演

50

出制御INT信号にもとづく割込処理で受信され、RAMに形成されているバッファ領域に保存されている。コマンド解析処理では、バッファ領域に保存されている演出制御コマンドがどのコマンド(図13および図14参照)であるのか解析する。

【0261】

図30～図33は、コマンド解析処理(ステップS704)の具体例を示すフローチャートである。主基板31から受信された演出制御コマンドは受信コマンドバッファに格納されるが、コマンド解析処理では、演出制御用CPU101は、コマンド受信バッファに格納されているコマンドの内容を確認する。

【0262】

コマンド解析処理において、演出制御用CPU101は、まず、コマンド受信バッファに受信コマンドが格納されているか否か確認する(ステップS611)。格納されているか否かは、コマンド受信個数カウンタの値と読出ポインタとを比較することによって判定される。両者が一致している場合が、受信コマンドが格納されていない場合である。コマンド受信バッファに受信コマンドが格納されている場合には、演出制御用CPU101は、コマンド受信バッファから受信コマンドを読み出す(ステップS612)。なお、読み出したら読出ポインタの値を+2しておく(ステップS613)。+2するのは2バイト(1コマンド)ずつ読み出すからである。

【0263】

受信した演出制御コマンドが変動パターンコマンドであれば(ステップS614)、演出制御用CPU101は、その変動パターンコマンドを、RAMに形成されている変動パターンコマンド格納領域に格納する(ステップS615)。そして、変動パターンコマンド受信フラグをセットする(ステップS616)。

【0264】

受信した演出制御コマンドが表示結果指定コマンドであれば(ステップS617)、演出制御用CPU101は、その表示結果指定コマンド(表示結果1指定コマンド～表示結果5指定コマンド)を、RAMに形成されている表示結果指定コマンド格納領域に格納する(ステップS618)。

【0265】

受信した演出制御コマンドが図柄確定指定コマンドであれば(ステップS619)、演出制御用CPU101は、確定コマンド受信フラグをセットする(ステップS620)。

【0266】

受信した演出制御コマンドが大当り開始1指定コマンドまたは大当り開始2指定コマンドであれば(ステップS621)、演出制御用CPU101は、大当り開始1指定コマンド受信フラグまたは大当り開始2指定コマンド受信フラグをセットする(ステップS622)。

【0267】

受信した演出制御コマンドが小当り/突然確変大当り開始指定コマンドであれば(ステップS623)、演出制御用CPU101は、小当り/突然確変大当り開始指定コマンド受信フラグをセットする(ステップS624)。

【0268】

受信した演出制御コマンドが第1図柄変動指定コマンドであれば(ステップS625)、第1図柄変動指定コマンド受信フラグをセットする(ステップS626)。受信した演出制御コマンドが第2図柄変動指定コマンドであれば(ステップS627)、第2図柄変動指定コマンド受信フラグをセットする(ステップS628)。

【0269】

受信した演出制御コマンドが電源投入指定コマンド(初期化指定コマンド)であれば(ステップS631)、演出制御用CPU101は、初期化処理が実行されたことを示す初期画面を演出表示装置9に表示する制御を行う(ステップS632)。初期画面には、あらかじめ決められている演出図柄の初期表示が含まれる。

【0270】

また、受信した演出制御コマンドが停電復旧指定コマンドであれば（ステップS 6 3 3）、あらかじめ決められている停電復旧画面（遊技状態が継続していることを遊技者に報知する情報を表示する画面）を表示する制御を行い（ステップS 6 3 4）、停電復旧フラグをセットする（ステップS 6 3 5）。

【0 2 7 1】

受信した演出制御コマンドが大当り終了1指定コマンドであれば（ステップS 6 4 1）、演出制御用CPU 1 0 1は、大当り終了1指定コマンド受信フラグをセットする（ステップS 6 4 2）。受信した演出制御コマンドが大当り終了2指定コマンドであれば（ステップS 6 4 3）、演出制御用CPU 1 0 1は、大当り終了2指定コマンド受信フラグをセットする（ステップS 6 4 4）。受信した演出制御コマンドが小当り/突然確変大当り終了指定コマンドであれば（ステップS 6 4 5）、演出制御用CPU 1 0 1は、小当り/突然確変大当り終了指定コマンド受信フラグをセットする（ステップS 6 4 6）。

10

【0 2 7 2】

受信した演出制御コマンドが第1保留記憶数指定コマンドであれば（ステップS 6 5 1）、演出制御用CPU 1 0 1は、その第1保留記憶数指定コマンドの2バイト目のデータ（EXTデータ）を第1保留記憶数保存領域に格納する（ステップS 6 5 2）。また、演出制御用CPU 1 0 1は、受信した第1保留記憶数指定コマンドで示される第1保留記憶数（具体的には、EXTデータの値）に従って、第1保留記憶表示部1 8 cにおける第1保留記憶数の表示を更新する（ステップS 6 5 3）。

【0 2 7 3】

20

受信した演出制御コマンドが第2保留記憶数指定コマンドであれば（ステップS 6 5 4）、演出制御用CPU 1 0 1は、その第2保留記憶数指定コマンドの2バイト目のデータ（EXTデータ）を第2保留記憶数保存領域に格納する（ステップS 6 5 5）。また、演出制御用CPU 1 0 1は、受信した第2保留記憶数指定コマンドで示される第2保留記憶数（具体的には、EXTデータの値）に従って、第2保留記憶表示部1 8 dにおける第2保留記憶数の表示を更新する（ステップS 6 5 6）。

【0 2 7 4】

次いで、演出制御用CPU 1 0 1は、いずれかの第1連続予告実行中フラグがセットされているか否かを確認する（ステップS 6 5 6 A）。なお、第1連続予告実行中フラグは、第1特別図柄の変動表示中に連続予告演出を実行中であることを示すフラグであり、後述する演出図柄変動開始処理のステップS 8 0 2 2でセットされる。いずれかの第1連続予告実行中フラグがセットされていれば、演出制御用CPU 1 0 1は、セットされている第1連続予告実行中フラグをリセットするとともに、変動回数カウンタの値をクリアする（ステップS 6 5 6 B）。なお、変動回数カウンタは、連続予告演出の判定対象となった変動表示が開始されるまでに実行される変動表示の回数をカウントするためのカウンタであり、後述する演出図柄変動開始処理のステップS 8 0 2 3でセットされる。

30

【0 2 7 5】

ステップS 6 5 6 A、S 6 5 6 Bの処理が実行されることによって、この実施の形態では、第1特別図柄の変動表示中に連続予告演出を実行中である場合に第2始動入賞口1 4への始動入賞があった場合には、連続予告演出の設定をクリアし、連続予告演出の実行を中断する。すなわち、この実施の形態では、第2始動入賞口1 4への始動入賞があった場合には第2特別図柄の変動表示が優先実行されるのであるから、第1特別図柄の変動表示中に連続予告演出を実行中である場合に第2特別図柄の変動表示が割り込んで実行される場合には、連続予告演出の実行が中断される。

40

【0 2 7 6】

そして、演出制御用CPU 1 0 1は、第1特別図柄の変動表示中に実行されていた連続予告演出の設定を解除したことを示す連続予告解除フラグをセットする（ステップS 6 5 6 C）。

【0 2 7 7】

受信した演出制御コマンドが通常状態指定コマンドであれば（ステップS 6 5 7）、演

50

出制御用CPU101は、セットされていれば、遊技状態が確変状態であることを示す確変状態フラグや、遊技状態が時短状態であることを示す時短状態フラグをリセットする（ステップS658）。また、受信した演出制御コマンドが時短状態指定コマンドであれば（ステップS659）、演出制御用CPU101は、時短状態フラグをセットする（ステップS660）とともに、時短状態移行後の変動回数をカウントするための時短後回数カウンタをクリアする（ステップS661）。また、受信した演出制御コマンドが確変状態指定コマンドであれば（ステップS662）、演出制御用CPU101は、確変状態フラグをセットする（ステップS663）。

【0278】

なお、既に説明したように、この実施の形態では、確変状態フラグおよび時短状態フラグは、演出制御用マイクロコンピュータ100が備えるRAMのバックアップRAM領域に格納され、遊技機への電源供給が停止しても所定期間保持される。一方、時短後回数カウンタの値はバックアップRAM領域には格納されず、遊技機への電源供給が停止すると、時短後回数カウンタの値は失われる。なお、演出制御用マイクロコンピュータ100が備えるRAMは、全領域がバックアップ電源によってバックアップされていないものであってもよい。この場合、例えば、遊技機への電源投入時に、遊技制御用マイクロコンピュータ560から演出制御用マイクロコンピュータ100に対して、遊技状態の指定を含む復旧コマンドを送信するようにすればよい。

【0279】

次いで、受信した演出制御コマンドがいずれかの入賞時判定結果指定コマンドであれば（ステップS664）、演出制御用CPU101は、受信した入賞時判定結果指定コマンドに応じた入賞時判定結果を入賞時判定結果記憶バッファに保存する（ステップS665）。

【0280】

図34は、入賞時判定結果を保存する領域（入賞時判定結果記憶バッファ）の構成例を示す説明図である。図34に示すように、この実施の形態では、第1始動入賞口13への始動入賞時の入賞時判定結果を保存する第1入賞時判定結果記憶バッファと、第2始動入賞口14への始動入賞時の入賞時判定結果を保存する第2入賞時判定結果記憶バッファとが用意されている。図34に示すように、第1入賞時判定結果記憶バッファには、第1保留記憶数の上限値（この例では4）に対応した保存領域が確保されている。また、第2入賞時判定結果記憶バッファには、第2保留記憶数の上限値（この例では4）に対応した保存領域が確保されている。この実施の形態では、第1入賞時判定結果記憶バッファおよび第2入賞時判定結果記憶バッファには、受信した入賞時判定結果指定コマンドのEXTデータが記憶される。なお、第1入賞時判定結果記憶バッファおよび第2入賞時判定結果記憶バッファは、演出制御用マイクロコンピュータ100が備えるRAMに形成されている。

【0281】

受信した演出制御コマンドがその他のコマンドであれば、演出制御用CPU101は、受信した演出制御コマンドに応じたフラグをセットする（ステップS666）。そして、ステップS611に移行する。

【0282】

図35は、図28に示されたメイン処理における演出制御プロセス処理（ステップS705）を示すフローチャートである。演出制御プロセス処理では、演出制御用CPU101は、演出制御プロセスフラグの値に応じてステップS800～S806のうちのいずれかの処理を行う。各処理において、以下のような処理を実行する。なお、演出制御プロセス処理では、演出表示装置9の表示状態が制御され、演出図柄（飾り図柄）の可変表示が実現されるが、第1特別図柄の変動に同期した演出図柄（飾り図柄）の可変表示に関する制御も、第2特別図柄の変動に同期した演出図柄（飾り図柄）の可変表示に関する制御も、一つの演出制御プロセス処理において実行される。なお、第1特別図柄の変動に同期した演出図柄の可変表示と、第2特別図柄の変動に同期した演出図柄の可変表示とを、別の

演出制御プロセス処理により実行するように構成してもよい。また、この場合、いずれの演出制御プロセス処理により演出図柄の変動表示が実行されているかによって、いずれの特別図柄の変動表示が実行されているかを判断するようにしてもよい。

【0283】

変動パターンコマンド受信待ち処理（ステップS800）：遊技制御用マイクロコンピュータ560から変動パターンコマンドを受信しているか否か確認する。具体的には、コマンド解析処理でセットされる変動パターンコマンド受信フラグがセットされているか否か確認する。変動パターンコマンドを受信していれば、演出制御プロセスフラグの値を演出図柄変動開始処理（ステップS801）に対応した値に変更する。

【0284】

演出図柄変動開始処理（ステップS801）：演出図柄（飾り図柄）の変動が開始されるように制御する。そして、演出制御プロセスフラグの値を演出図柄変動中処理（ステップS802）に対応した値に更新する。

【0285】

演出図柄変動中処理（ステップS802）：変動パターンを構成する各変動状態（変動速度）の切替タイミング等を制御するとともに、変動時間の終了を監視する。そして、変動時間が終了したら、演出制御プロセスフラグの値を演出図柄変動停止処理（ステップS803）に対応した値に更新する。

【0286】

演出図柄変動停止処理（ステップS803）：全図柄停止を指示する演出制御コマンド（図柄確定指定コマンド）を受信したことにもとづいて、演出図柄（飾り図柄）の変動を停止し表示結果（停止図柄）を導出表示する制御を行う。そして、演出制御プロセスフラグの値を大当たり表示処理（ステップS804）または変動パターンコマンド受信待ち処理（ステップS800）に対応した値に更新する。

【0287】

大当たり表示処理（ステップS804）：大当たりである場合には、変動時間の終了後、演出表示装置9に大当たりの発生を報知するための画面を表示する制御を行う。また、小当たりである場合には、変動時間の終了後、演出表示装置9に小当たりの発生を報知するための画面を表示する制御を行う。そして、演出制御プロセスフラグの値を大当たり遊技中処理（ステップS805）に対応した値に更新する。

【0288】

大当たり遊技中処理（ステップS805）：大当たり遊技中の制御を行う。例えば、大入賞口開放中指定コマンドや大入賞口開放後指定コマンドを受信したら、演出表示装置9におけるラウンド数の表示制御等を行う。そして、演出制御プロセスフラグの値を大当たり終了演出処理（ステップS806）に対応した値に更新する。

【0289】

大当たり終了演出処理（ステップS806）：演出表示装置9において、大当たり遊技状態が終了したことを遊技者に報知する表示制御を行う。そして、演出制御プロセスフラグの値を変動パターンコマンド受信待ち処理（ステップS800）に対応した値に更新する。

【0290】

図36は、図28に示された演出制御プロセス処理における変動パターンコマンド受信待ち処理（ステップS800）を示すフローチャートである。変動パターンコマンド受信待ち処理において、演出制御用CPU101は、変動パターンコマンド受信フラグがセットされているか否か確認する（ステップS811）。変動パターンコマンド受信フラグがセットされていれば、変動パターンコマンド受信フラグをリセットする（ステップS812）。そして、演出制御プロセスフラグの値を演出図柄変動開始処理（ステップS801）に対応した値に更新する（ステップS813）。

【0291】

図37～図39は、図35に示された演出制御プロセス処理における演出図柄変動開始処理（ステップS801）を示すフローチャートである。演出図柄変動開始処理において

10

20

30

40

50

、演出制御用CPU101は、まず、既に連続予告演出を実行中であることを示すいずれかの連続予告実行中フラグがセットされているか否かを確認する（ステップS8001）。なお、連続予告実行中フラグは、後述するステップS8022においてセットされる。いずれかの連続予告実行中フラグがセットされていれば、ステップS8024に移行する。すなわち、既に連続予告演出を実行中である場合には、連続予告演出の決定処理を重ねて実行しないように制御する。

【0292】

いずれの連続予告実行中フラグもセットされていなければ、演出制御用CPU101は、連続予告解除フラグがセットされていなければ（ステップS8002のN）、ステップS8004に移行し、ステップS8004以降の連続予告演出の決定のための処理を行う。一方、連続予告解除フラグがセットされていれば（ステップS8002のY）、第1図柄変動指定コマンド受信フラグを受信していることを条件に（ステップS8003のY）、ステップS8004に移行する。すなわち、連続予告解除フラグがセットされているということは、第1特別図柄の変動表示中に連続予告演出を実行しているときに第2特別図柄の変動表示が割り込んで連続予告演出が中断したときであるから、その第2特別図柄の変動表示を終了して第1特別図柄の変動表示を再開可能な状態に復帰したことを確認したことを条件に、ステップS8004以降の処理を実行し、連続予告演出を再開するか否かを再設定する。

【0293】

ステップS8004では、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果記憶バッファが記憶する入賞時判定結果を全て抽出する。この場合、演出制御用CPU101は、確変状態フラグまたは時短状態フラグがセットされているか否かを確認する。そして、演出制御用CPU101は、確変状態フラグおよび時短状態フラグのいずれもセットされていなければ（すなわち、通常状態（低ベース状態）であれば）、第1入賞時判定結果記憶バッファが記憶する入賞時判定結果を全て抽出する。また、演出制御用CPU101は、確変状態フラグまたは時短状態フラグがセットされていれば（すなわち、確変状態または時短状態（高ベース状態）であれば）、第2入賞時判定結果記憶バッファが記憶する入賞時判定結果を全て抽出する。なお、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果を抽出するのではなく、入賞時判定結果記憶バッファが記憶する全ての入賞時判定結果を読み出して判定するようにしてもよい。

【0294】

次いで、演出制御用CPU101は、抽出した入賞時判定結果の中に「非リーチはずれ」、「スーパーリーチはずれ」または「スーパーリーチ大当たり」を示す判定結果が存在するか否かを確認する（ステップS8005）。この場合、演出制御用CPU101は、確変状態フラグおよび時短状態フラグのいずれもセットされておらず通常状態である場合には、ステップS8004で第1入賞時判定結果記憶バッファのみから抽出した入賞時判定結果の中に「非リーチはずれ」、「スーパーリーチはずれ」または「スーパーリーチ大当たり」を示す判定結果が存在するか否かを確認する。また、演出制御用CPU101は、確変状態フラグまたは時短状態フラグがセットされ確変状態または時短状態である場合には、ステップS8004で第2入賞時判定結果記憶バッファのみから抽出した入賞時判定結果の中に「非リーチはずれ」、「スーパーリーチはずれ」または「スーパーリーチ大当たり」を示す判定結果が存在するか否かを確認する。なお、この実施の形態では、確変状態または時短状態である場合には第1特別図柄に対する連続予告演出の設定は行われないので、例えば第2特別図柄の変動表示が割り込んで大当たりとなった場合であっても、確変状態または時短状態であるときに第1特別図柄に対する連続予告演出を実行してしまうことを確実に防止することができる。

【0295】

そして、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果の中に「非リーチはずれ」、「スーパーリーチはずれ」または「スーパーリーチ大当たり」を示す判定結果が存在すると判定したことを条件に（ステップS8005のY）、ステップS8006に移行する。すなわ

ち、この実施の形態では、ステップS 8 0 0 4 , S 8 0 0 5 の処理が実行されることによって、「非リーチはずれ」、「スーパーリーチはずれ」または「スーパーリーチ大当たり」となる変動表示が存在する場合に、ステップS 8 0 0 6 以降の処理で連続予告演出を実行するか否かが決定され、複数の変動表示にわたって連続予告演出が実行される場合がある。なお、「スーパーリーチ大当たり」にかぎらず、大当たりの判定結果が存在すれば、ステップS 8 0 0 6 に移行して連続予告演出の判定を行うようにしてもよい。

【 0 2 9 6 】

なお、この実施の形態では、演出制御用CPU 1 0 1 は、ステップS 8 0 0 5 において、抽出した入賞時判定結果の中に変動パターン種別が非リーチCA 2 - 1 になることを示す値（具体的には、「0 0 (H)」または「1 0 (H)」。図1 5 参照）、スーパーCA 2 - 7 になることを示す値（具体的には、「0 6 (H)」または「1 6 (H)」。図1 5 参照）、またはスーパーCA 3 - 4 になることを示す値（具体的には、「0 A (H)」または「1 A (H)」。図1 5 参照）が存在するか否かを判定する（すなわち、リーチも擬似連などの特定演出も伴わないはずれ変動、スーパーリーチを伴うはずれ変動、またはスーパーリーチを伴う大当たり変動となるか否かを確認する）。

【 0 2 9 7 】

また、演出制御用CPU 1 0 1 は、入賞時判定結果記憶バッファが記憶する入賞時判定結果のうち、前回までの変動開始時に判定処理を完了していない入賞時判定結果のみについて、ステップS 8 0 0 4 , S 8 0 0 5 の判定処理を行うようにしてもよい。また、この場合であっても、第2 特別図柄の変動表示が割り込んで連続予告演出を中断した後に、連続予告演出を再開するか否かを決定する場合には、前回までの変動開始時の判定内容にかかわらず、入賞時判定結果記憶バッファが記憶する全ての入賞時判定結果について、ステップS 8 0 0 4 , S 8 0 0 5 の判定処理を行うようにしてもよい。

【 0 2 9 8 】

なお、ステップS 8 0 0 5 の処理において、演出制御用CPU 1 0 1 は、「非リーチはずれ」、「スーパーリーチはずれ」または「スーパーリーチ大当たり」を示す判定結果が存在すると判定した場合には、抽出した各入賞時判定結果にもとづいて、その判定結果の変動表示が開始されるまでの各変動表示においてリーチが実行されるか否かも判定する。そして、各変動表示においてリーチも実行されないと判定した場合に（すなわち、その判定結果の変動表示が開始されるまでの各変動表示について全て「非リーチはずれ」と判定されている場合に）、ステップS 8 0 0 6 に移行し、ステップS 8 0 0 6 以降の連続予告演出を決定するための処理を実行するものとする。すなわち、連続予告演出の実行中においてリーチ演出が実行されてしまったのでは、連続予告演出の連続性が損なわれて、連続予告演出による演出効果を十分に高めることができない可能性がある。そこで、この実施の形態では、判定対象となる変動表示が開始されるまでの各変動表示においてリーチも実行されないことを条件に連続予告演出を実行する場合があるように制御している。なお、「スーパーリーチはずれ」または「スーパーリーチ大当たり」を示す判定結果が複数存在する場合には、そのうち最も早く開始条件が成立するものに対して、連続予告演出の判定および設定の処理を行うようにしてもよい。

【 0 2 9 9 】

なお、ステップS 8 0 0 5 でNと判定したときに、連続予告解除フラグがセットされていた場合には、その連続予告解除フラグをリセットし、ステップS 8 0 2 4 に移行する。

【 0 3 0 0 】

入賞時判定結果の中に「非リーチはずれ」、「スーパーリーチはずれ」または「スーパーリーチ大当たり」のいずれかが存在する場合には、演出制御用CPU 1 0 1 は、確変状態フラグがセットされているか否かを確認する（ステップS 8 0 0 6 ）。確変状態フラグがセットされていれば、演出制御用CPU 1 0 1 は、連続予告演出の有無および連続予告演出の演出態様を決定するためのテーブルとして連続予告振分テーブルBを選択する（ステップS 8 0 0 7 ）。なお、連続予告振分テーブルについては後述する（図4 1 および図4 2 参照）。

【 0 3 0 1 】

確変状態フラグがセットされていないければ、演出制御用CPU101は、時短状態フラグがセットされているか否かを確認する（ステップS8008）。時短状態フラグがセットされていれば、演出制御用CPU101は、時短後回数カウンタの値が92～100になっているか（すなわち、時短状態移行後92～100回目の変動表示が実行される間に始動入賞し変動表示が実行される場合であるか）を確認する（ステップS8009）。なお、この場合、演出制御用CPU101は、具体的には、時短状態である場合には時短後回数カウンタの値が100以上となる場合はないはずであるので、時短後回数カウンタの値が92以上であるか否かを判定するようにすればよい。時短後回数カウンタの値が92～100でなければ、演出制御用CPU101は、停電復旧フラグがセットされているか否かを確認する（ステップS8010）。ステップS8009で時短後回数カウンタの値が92～100であった場合またはステップS8010で停電復旧フラグがセットされていた場合には、演出制御用CPU101は、連続予告演出の有無および連続予告演出の演出態様を決定するためのテーブルとして連続予告振分テーブルDを選択する（ステップS8011）。停電復旧フラグもセットされていないければ、演出制御用CPU101は、連続予告演出の有無および連続予告演出の演出態様を決定するためのテーブルとして連続予告振分テーブルCを選択する（ステップS8012）。

10

【 0 3 0 2 】

時短状態フラグもセットされていないければ（すなわち、通常状態であれば）、演出制御用CPU101は、時短後回数カウンタの値が101～108になっているか（すなわち、時短状態移行後101～108回目の変動表示が実行される間に始動入賞し変動表示が実行される場合であるか）を確認する（ステップS8013）。なお、この場合、演出制御用CPU101は、具体的には、時短後回数カウンタの値が101以上であるか否かを判定するようにすればよい。時短後回数カウンタの値が101～108でなければ、演出制御用CPU101は、連続予告演出の有無および連続予告演出の演出態様を決定するためのテーブルとして連続予告振分テーブルAを選択する（ステップS8014）。時短後回数カウンタの値が101～108であれば、演出制御用CPU101は、連続予告演出の有無および連続予告演出の演出態様を決定するためのテーブルとして連続予告振分テーブルEを選択する（ステップS8015）。

20

【 0 3 0 3 】

次いで、演出制御用CPU101は、連続予告解除フラグがセットされているか否かを確認する（ステップS8016）。連続予告解除フラグがセットされていないければ、演出制御用CPU101は、連続予告演出を実行するか否かを決定するための連続予告決定用テーブルとして、通常用の連続予告決定用テーブルを選択する（ステップS8017）。また、連続予告解除フラグがセットされていれば（すなわち、第2特別図柄の変動表示が割り込んだために連続予告演出を中断している場合であれば）、演出制御用CPU101は、連続予告演出を再開するか否かを決定するために、再開時用の連続予告決定用テーブルを選択する（ステップS8018）。そして、演出制御用CPU101は、連続予告解除フラグをリセットする（ステップS8019）。

30

【 0 3 0 4 】

図40は、連続予告決定用テーブルの例を示す説明図である。図40に示すように、この実施の形態では、図40に示すように、連続予告を再開する場合であるか否か（連続予告解除フラグがセットされているか否か）、保留記憶数、および遊技状態に応じて、異なる連続予告決定用テーブルが用意されている。このうち、図40（A）には、通常状態に用いられる保留記憶数4 / 通常用の連続予告決定用テーブルが示されている。また、図40（B）には、通常状態に用いられる保留記憶数4 / 再開時用の連続予告決定用テーブルが示されている。また、図40（C）には、通常状態に用いられる保留記憶数3 / 通常用の連続予告決定用テーブルが示されている。また、図40（D）には、通常状態に用いられる保留記憶数3 / 再開時用の連続予告決定用テーブルが示されている。また、図40（E）には、通常状態に用いられる保留記憶数2 / 通常用の連続予告決定用テーブルが示さ

40

50

れている。また、図40(F)には、通常状態に用いられる保留記憶数2/再開時用の連続予告決定用テーブルが示されている。また、図40(G)には、確変状態または時短状態に用いられる確変・時短/通常用の連続予告決定用テーブルが示されている。さらに、図40(H)には、確変状態または時短状態に用いられる確変・時短/再開時用の連続予告決定用テーブルが示されている。

【0305】

ステップS8017では、演出制御用CPU101は、第1特別図柄の変動表示が実行される場合には(例えば、確変状態フラグおよび時短状態フラグのいずれもセットされておらず通常状態である場合には)、第1保留記憶数保存領域に格納されている第1保留記憶数(ステップS652参照)を特定する。また、演出制御用CPU101は、第2特別図柄の変動表示が実行される場合には(例えば、確変状態フラグまたは時短状態フラグがセットされ確変状態または時短状態である場合には)、第2保留記憶数保存領域に格納されている第2保留記憶数(ステップS655参照)を特定する。そして、演出制御用CPU101は、特定した保留記憶数が4であれば、図40(A)に示す保留記憶数4/通常用の連続予告決定用テーブルを選択する。また、演出制御用CPU101は、特定した保留記憶数が3であれば、図40(C)に示す保留記憶数3/通常用の連続予告決定用テーブルを選択する。また、演出制御用CPU101は、特定した保留記憶数が2であれば、図40(E)に示す保留記憶数2/通常用の連続予告決定用テーブルを選択する。さらに、演出制御用CPU101は、確変状態フラグまたは時短状態フラグがセットされていれば、図40(G)に示す確変・時短/通常用の連続予告決定用テーブルを選択する。

【0306】

ステップS8018では、演出制御用CPU101は、第1特別図柄の変動表示が実行される場合には(例えば、確変状態フラグおよび時短状態フラグのいずれもセットされておらず通常状態である場合には)、第1保留記憶数保存領域に格納されている第1保留記憶数(ステップS652参照)を特定する。また、演出制御用CPU101は、第2特別図柄の変動表示が実行される場合には(例えば、確変状態フラグまたは時短状態フラグがセットされ確変状態または時短状態である場合には)、第2保留記憶数保存領域に格納されている第2保留記憶数(ステップS655参照)を特定する。そして、演出制御用CPU101は、特定した保留記憶数が4であれば、図40(B)に示す保留記憶数4/再開時用の連続予告決定用テーブルを選択する。また、演出制御用CPU101は、特定した保留記憶数が3であれば、図40(D)に示す保留記憶数3/再開時用の連続予告決定用テーブルを選択する。また、演出制御用CPU101は、特定した保留記憶数が2であれば、図40(F)に示す保留記憶数2/再開時用の連続予告決定用テーブルを選択する。さらに、演出制御用CPU101は、確変状態フラグまたは時短状態フラグがセットされていれば、図40(H)に示す確変・時短/再開時用の連続予告決定用テーブルを選択する。

【0307】

なお、この実施の形態では、保留記憶数が2未満である場合には、複数変動にわたって連続した予告演出を実行できないのであるから、連続予告演出を実行すると決定しないように制御する。なお、この実施の形態では、連続予告演出の対象となる変動表示の1つ前までの変動表示において連続予告演出を終了するのであるが、連続予告演出の対象となる変動表示においても連続予告演出を実行するように構成した場合には、少なくとも2回の変動にわたって連続した予告演出を実行できるのであるから、保留記憶数が1であっても連続予告演出を実行すると決定してもよい。このように、少なくとも2回以上の複数の変動にわたって連続した予告演出を実行できるものであればよい。

【0308】

また、この実施の形態では、連続予告演出の設定をクリアして連続予告演出を中断したときに連続予告解除フラグをセットし、連続予告解除フラグの有無に従って通常用または再開時用の連続予告決定用テーブルを選択する場合を示したが、連続予告解除フラグを用いずに、例えば、第2特別図柄の変動表示に対応する演出図柄の変動表示を終了したとき

に、第2保留記憶数が0であれば、後述する演出図柄変動停止処理において再開時用の連続予告決定用テーブルを設定するようにしてもよい。

【0309】

次いで、演出制御用CPU101は、ステップS8017, S8018で選択した連続予告決定用テーブルを用いて、連続予告演出の実行の有無を決定する連続予告決定処理を実行する(ステップS8020)。

【0310】

なお、ステップS8020の連続予告決定処理は、ステップS8001でいずれの連続予告実行中フラグもセットされていないことを条件に実行される。すなわち、この実施の形態では、連続予告演出を現在実行中でないことを条件に演出予告決定処理が実行される。そして、連続予告演出を開始した後は、既に連続予告実行中フラグがセットされていることから、連続予告決定処理を再度実行することなく、既に決定した演出態様で連続予告演出が実行される。

10

【0311】

なお、「非リーチはずれ」の入賞時判定結果にもとづき連続予告演出を実行しているときにスーパーリーチや大当たりとなる始動入賞が発生した場合には、実行中の連続予告演出から切り替えてスーパーリーチや大当たりの演出(例えば、リーチ予告や大当たり予告)を実行するようにしてもよい。

【0312】

ステップS8020では、演出制御用CPU101は、まず、連続予告を実行するか否かを決定するための連続予告決定用乱数を抽出する。そして、演出制御用CPU101は、抽出した連続予告決定用乱数の値が、ステップS8017, S8018で選択した連続予告決定用テーブルに含まれる判定値と合致するか否かを判定することによって、連続予告演出を実行するか否かを決定する。なお、図40に示すように、この実施の形態では、保留記憶数が多くなるに従って判定値の割合が多くなるように設定されており、保留記憶数が多くなるに従って高い確率で連続予告演出を実行することに決定する。また、図40に示すように、ステップS8018で選択される再開時用の連続予告決定用テーブル(図40(B), (D), (F)参照)では、「非リーチはずれ」に対して判定値が少なくなるように割り当てられており、連続予告演出が一度中断され、その後再開して連続予告演出が実行される場合には、大当たりやスーパーリーチとなる確率が高くなるように設定されている。従って、連続予告演出が一度中断され、その後再開して連続予告演出が実行される場合の大当たりやスーパーリーチに対する期待感を高めることができる。

20

30

【0313】

また、この実施の形態では、図40(G), (H)に示すように、確変状態または時短状態である場合には判定値の割合が少なくなるように設定されており、確変状態または時短状態である場合には連続予告演出を実行することに決定する割合が低い。なお、確変状態または時短状態である場合には、連続予告演出を実行する(または再開する)と決定しないように制御してもよい。

【0314】

なお、この実施の形態では、遊技状態が確変状態や時短状態であるか否かに応じて連続予告演出の実行有無を決定する場合を示したが、遊技状態に応じた連続予告演出の決定方法は、この実施の形態で示したものにかぎられない。例えば、大当たりとなる確率が高められていない低確率状態であるものの始動入賞しやすい低確率高ベース状態に制御されているか否かに応じて、連続予告演出の実行の有無を決定するようにしてもよい。また、逆に、例えば、大当たりとなる確率が高められた高確率状態であるものの始動入賞しにくい高確率低ベース状態に制御されているか否かに応じて、連続予告演出の実行の有無を決定するようにしてもよい。この場合、例えば、低確率高ベース状態や高確率低ベース状態に制御されている場合には、連続予告演出を実行しないと決定するようにしてもよい。また、例えば、大入賞口エラーのエラー報知中であるか否かに応じて、連続予告演出の実行の有無を決定するようにしてもよい。なお、大入賞口エラーにかぎらず、満タンエラーなど他の

40

50

エラー報知中であるか否かに応じて、連続予告演出の実行の有無を決定するようにしてもよい。

【0315】

また、遊技状態にもとづく連続予告演出の判定方法として、遊技制御用マイクロコンピュータ560から新たなコマンドを受信したか否かにもとづいて、連続予告演出を実行するか否かを決定するようにしてもよい。特に、連続予告演出を中断した後に連続予告演出を再開するか否かを決定する場合には、その中断中に遊技制御用マイクロコンピュータ560から受信したコマンドの内容やコマンド数に応じて、連続予告演出を再開するか否かを決定するようにしてもよい。

【0316】

また、この実施の形態では、連続予告演出を中断した後に連続予告演出を再開するか否かを判定する場合に、入賞時判定結果記憶バッファが記憶する入賞時判定結果、保留記憶数および遊技状態のすべてにもとづいて判定する場合を示したが、この実施の形態で示した態様にかぎらず、例えば、入賞時判定結果、保留記憶数または遊技状態のうちのいずれか、または複数を組み合わせて判定してもよい。

【0317】

また、この実施の形態では、連続予告演出の設定を一度クリアして中断した後に連続予告演出を再開するか否かを判定する場合であっても、入賞時判定結果記憶バッファが記憶するすべての入賞時判定結果について再度判定する場合を示しているが、連続予告演出の再開の判定時には入賞時判定結果記憶バッファには既に一度判定済みの入賞時判定結果も記憶されているのであるから、既に判定済みの入賞時判定結果については連続予告演出の判定を行わないようにし、未判定の入賞時判定結果についてのみ連続予告演出の判定を行うようにしてもよい。例えば、図34に示す入賞時判定結果記憶バッファにおいて、入賞時判定結果に対応付けてそれぞれ連続予告演出の判定済みであるか否かを示す情報に対応付けて記憶するようにし、連続予告演出の判定済みであることを示す情報が記憶されている入賞時判定結果については、連続予告演出の判定を再度行わないようにしてもよい。そのようにすれば、既に判定済みの入賞時判定結果について重複した判定を行うことを防止することができる。

【0318】

次いで、演出制御用CPU101は、連続予告演出の演出態様を決定するための連続予告演出態様決定用乱数を抽出する(ステップS8020A)。そして、演出制御用CPU101は、抽出した連続予告演出態様決定用乱数の値が、ステップS8007, S8011, S8012, S8014, S8015で選択した連続予告振分テーブルに含まれるいずれの判定値と合致するかを判定することによって、連続予告演出の演出態様を決定する(ステップS8020B)。

【0319】

図41および図42は、連続予告演出の振り分けを示す連続予告振分テーブルの具体例を示す説明図である。現在の遊技状態が通常状態であり時短後回数カウンタの値が101~108でなければ、演出制御用CPU101は、ステップS8014で選択した図41(A)に示す通常状態時の連続予告振分テーブルAを用いて、受信した入賞時判定結果指定コマンドで示される入賞時判定結果にもとづいて、連続予告演出の演出態様を決定する。この実施の形態では、連続予告振分テーブルAを用いる場合、例えば、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果指定コマンドで第1始動入賞口13への始動入賞にもとづいて非リーチCA2-1の変動パターン種別となる(すなわち、リーチも擬似連などの特定演出も伴わない「非リーチはずれ」となる)ことを示す入賞時判定結果が示されている場合(具体的には、EXTデータが「00(H)」である場合)には、図41(A)に示すように、「図柄変動時の変動形態の変化」または「モード移行」のいずれかの演出態様の連続予告演出を実行することに決定する。また、例えば、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果指定コマンドで第1始動入賞口13への始動入賞にもとづいてスーパーCA2-7の変動パターン種別となる(すなわち、「スーパーリーチはずれ」となる)ことを

10

20

30

40

50

示す入賞時判定結果が示されている場合（具体的には、E X Tデータが「06（H）」である場合）には、図41（A）に示すように、「図柄変動時の変動形態の変化」、「モード移行」、「カウントダウン」または「保留球変化」のいずれかの演出態様の連続予告演出を実行することに決定する。また、例えば、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果指定コマンドで第1始動入賞口13への始動入賞にもとづいてスーパーCA3-4の変動パターン種別となる（すなわち、「スーパーリーチ大当り」となる）ことを示す入賞時判定結果が示されている場合（具体的には、E X Tデータが「0A（H）」である場合）には、図41（A）に示すように、「図柄変動時の変動形態の変化」、「モード移行」、「カウントダウン」または「保留球変化」のいずれかの演出態様の連続予告演出を実行することに決定する。

10

【0320】

また、連続予告振分テーブルAを用いる場合、例えば、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果指定コマンドで第2始動入賞口14への始動入賞にもとづいて非リーチCA2-1の変動パターン種別となる（すなわち、リーチも擬似連などの特定演出も伴わない「非リーチはずれ」となる）ことを示す入賞時判定結果が示されている場合（具体的には、E X Tデータが「10（H）」である場合）には、図41（A）に示すように、いずれの演出態様の連続予告演出に対しても割り振りがなく、連続予告を実行しないことに決定する。また、例えば、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果指定コマンドで第2始動入賞口14への始動入賞にもとづいてスーパーCA2-7の変動パターン種別となる（すなわち、「スーパーリーチはずれ」となる）ことを示す入賞時判定結果が示されている場合（具体的には、E X Tデータが「16（H）」である場合）には、図41（A）に示すように、いずれの演出態様の連続予告演出に対しても割り振りがなく、連続予告を実行しないことに決定する。また、例えば、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果指定コマンドで第2始動入賞口14への始動入賞にもとづいてスーパーCA3-4の変動パターン種別となる（すなわち、「スーパーリーチ大当り」となる）ことを示す入賞時判定結果が示されている場合（具体的には、E X Tデータが「1A（H）」である場合）には、図41（A）に示すように、いずれの演出態様の連続予告演出に対しても割り振りがなく、連続予告を実行しないことに決定する。

20

【0321】

なお、「図柄変動時の変動形態の変化」、「モード移行」、「カウントダウン」および「保留球変化」の各連続予告演出の演出態様の具体的な内容については後述する。

30

【0322】

また、現在の遊技状態が確変状態であれば、演出制御用CPU101は、ステップS8007で選択した図41（B）に示す確変状態時の連続予告振分テーブルBを用いて、受信した入賞時判定結果指定コマンドで示される入賞時判定結果にもとづいて、連続予告演出の演出態様を決定する。この実施の形態では、連続予告振分テーブルBを用いる場合、例えば、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果指定コマンドで第1始動入賞口13への始動入賞にもとづいて非リーチCA2-1の変動パターン種別となる（すなわち、リーチも擬似連などの特定演出も伴わない「非リーチはずれ」となる）ことを示す入賞時判定結果が示されている場合（具体的には、E X Tデータが「00（H）」である場合）には、図41（B）に示すように、いずれの演出態様の連続予告演出に対しても割り振りがなく、連続予告を実行しないことに決定する。また、例えば、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果指定コマンドで第1始動入賞口13への始動入賞にもとづいてスーパーCA2-7の変動パターン種別となる（すなわち、「スーパーリーチはずれ」となる）ことを示す入賞時判定結果が示されている場合（具体的には、E X Tデータが「06（H）」である場合）には、図41（B）に示すように、いずれの演出態様の連続予告演出に対しても割り振りがなく、連続予告を実行しないことに決定する。また、例えば、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果指定コマンドで第1始動入賞口13への始動入賞にもとづいてスーパーCA3-4の変動パターン種別となる（すなわち、「スーパーリーチ大当り」となる）ことを示す入賞時判定結果が示されている場合（具体的には、E X Tデー

40

50

タが「0A(H)」である場合)には、図41(B)に示すように、いずれの演出態様の連続予告演出に対しても割り振りがなく、連続予告を実行しないことに決定する。

【0323】

また、連続予告振分テーブルBを用いる場合、例えば、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果指定コマンドで第2始動入賞口14への始動入賞にもとづいて非リーチCA2-1の変動パターン種別となる(すなわち、リーチも擬似連などの特定演出も伴わない「非リーチはずれ」となる)ことを示す入賞時判定結果が示されている場合(具体的には、EXTデータが「10(H)」である場合)には、図41(B)に示すように、いずれの演出態様の連続予告演出に対しても割り振りがなく、連続予告を実行しないことに決定する。また、例えば、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果指定コマンドで第2始動入賞口14への始動入賞にもとづいてスーパーCA2-7の変動パターン種別となる(すなわち、「スーパーリーチはずれ」となる)ことを示す入賞時判定結果が示されている場合(具体的には、EXTデータが「16(H)」である場合)には、図41(B)に示すように、「図柄変動時の変動形態の変化」、「カウントダウン」または「保留球変化」のいずれかの演出態様の連続予告演出を実行することに決定する。また、例えば、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果指定コマンドで第2始動入賞口14への始動入賞にもとづいてスーパーCA3-4の変動パターン種別となる(すなわち、「スーパーリーチ大当たり」となる)ことを示す入賞時判定結果が示されている場合(具体的には、EXTデータが「1A(H)」である場合)には、図41(B)に示すように、「図柄変動時の変動形態の変化」、「カウントダウン」または「保留球変化」のいずれかの演出態様の連続予告演出を実行することに決定する。

【0324】

また、現在の遊技状態が時短状態であり時短後回数カウンタの値が92~100でなければ(すなわち、時短状態移行後1~91回目の変動表示が実行される間に始動入賞した場合であれば)、演出制御用CPU101は、ステップS8012で選択した図41(C)に示す連続予告振分テーブルCを用いて、受信した入賞時判定結果指定コマンドで示される入賞時判定結果にもとづいて、連続予告演出の演出態様を決定する。この実施の形態では、連続予告振分テーブルCを用いる場合、例えば、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果指定コマンドで第1始動入賞口13への始動入賞にもとづいて非リーチCA2-1の変動パターン種別となる(すなわち、リーチも擬似連などの特定演出も伴わない「非リーチはずれ」となる)ことを示す入賞時判定結果が示されている場合(具体的には、EXTデータが「00(H)」である場合)には、図41(C)に示すように、いずれの演出態様の連続予告演出に対しても割り振りがなく、連続予告を実行しないことに決定する。また、例えば、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果指定コマンドで第1始動入賞口13への始動入賞にもとづいてスーパーCA2-7の変動パターン種別となる(すなわち、「スーパーリーチはずれ」となる)ことを示す入賞時判定結果が示されている場合(具体的には、EXTデータが「06(H)」である場合)には、図41(C)に示すように、いずれの演出態様の連続予告演出に対しても割り振りがなく、連続予告を実行しないことに決定する。また、例えば、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果指定コマンドで第1始動入賞口13への始動入賞にもとづいてスーパーCA3-4の変動パターン種別となる(すなわち、「スーパーリーチ大当たり」となる)ことを示す入賞時判定結果が示されている場合(具体的には、EXTデータが「0A(H)」である場合)には、図41(C)に示すように、いずれの演出態様の連続予告演出に対しても割り振りがなく、連続予告を実行しないことに決定する。

【0325】

また、連続予告振分テーブルCを用いる場合、例えば、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果指定コマンドで第2始動入賞口14への始動入賞にもとづいて非リーチCA2-1の変動パターン種別となる(すなわち、リーチも擬似連などの特定演出も伴わない「非リーチはずれ」となる)ことを示す入賞時判定結果が示されている場合(具体的には、EXTデータが「10(H)」である場合)には、図41(C)に示すように、いずれ

の演出態様の連続予告演出に対しても割り振りがなく、連続予告を実行しないことに決定する。また、例えば、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果指定コマンドで第2始動入賞口14への始動入賞にもとづいてスーパーCA2-7の変動パターン種別となる（すなわち、「スーパーリーチはずれ」となる）ことを示す入賞時判定結果が示されている場合（具体的には、EXTデータが「16（H）」である場合）には、図41（C）に示すように、「図柄変動時の変動形態の変化」、「カウントダウン」または「保留球変化」のいずれかの演出態様の連続予告演出を実行することに決定する。また、例えば、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果指定コマンドで第2始動入賞口14への始動入賞にもとづいてスーパーCA3-4の変動パターン種別となる（すなわち、「スーパーリーチ大当り」となる）ことを示す入賞時判定結果が示されている場合（具体的には、EXTデータが「1A（H）」である場合）には、図41（C）に示すように、「図柄変動時の変動形態の変化」、「カウントダウン」または「保留球変化」のいずれかの演出態様の連続予告演出を実行することに決定する。

【0326】

また、現在の遊技状態が時短状態であり時短後回数カウンタの値が92～100であれば（すなわち、時短状態移行後92～100回目の変動表示が実行される間に始動入賞した場合であれば）、演出制御用CPU101は、ステップS8011で選択した図42（D）に示す連続予告振分テーブルDを用いて、受信した入賞時判定結果指定コマンドで示される入賞時判定結果にもとづいて、連続予告演出の演出態様を決定する。また、現在の遊技状態が時短状態であり停電復旧フラグがセットされている場合（すなわち、遊技状態が時短状態に制御されているときに停電が発生し、その後、遊技機への電力供給が再開された場合）にも、演出制御用CPU101は、ステップS8011で選択した図42（D）に示す連続予告振分テーブルDを用いて、受信した入賞時判定結果指定コマンドで示される入賞時判定結果にもとづいて、連続予告演出の演出態様を決定する。

【0327】

この実施の形態では、連続予告振分テーブルDを用いる場合、例えば、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果指定コマンドで第1始動入賞口13への始動入賞にもとづいて非リーチCA2-1の変動パターン種別となる（すなわち、リーチも擬似連などの特定演出も伴わない「非リーチはずれ」となる）ことを示す入賞時判定結果が示されている場合（具体的には、EXTデータが「00（H）」である場合）には、図42（D）に示すように、いずれの演出態様の連続予告演出に対しても割り振りがなく、連続予告を実行しないことに決定する。また、例えば、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果指定コマンドで第1始動入賞口13への始動入賞にもとづいてスーパーCA2-7の変動パターン種別となる（すなわち、「スーパーリーチはずれ」となる）ことを示す入賞時判定結果が示されている場合（具体的には、EXTデータが「06（H）」である場合）には、図42（D）に示すように、いずれの演出態様の連続予告演出に対しても割り振りがなく、連続予告を実行しないことに決定する。また、例えば、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果指定コマンドで第1始動入賞口13への始動入賞にもとづいてスーパーCA3-4の変動パターン種別となる（すなわち、「スーパーリーチ大当り」となる）ことを示す入賞時判定結果が示されている場合（具体的には、EXTデータが「0A（H）」である場合）には、図42（D）に示すように、いずれの演出態様の連続予告演出に対しても割り振りがなく、連続予告を実行しないことに決定する。

【0328】

また、連続予告振分テーブルDを用いる場合、例えば、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果指定コマンドで第2始動入賞口14への始動入賞にもとづいて非リーチCA2-1の変動パターン種別となる（すなわち、リーチも擬似連などの特定演出も伴わない「非リーチはずれ」となる）ことを示す入賞時判定結果が示されている場合（具体的には、EXTデータが「10（H）」である場合）には、図42（D）に示すように、いずれの演出態様の連続予告演出に対しても割り振りがなく、連続予告を実行しないことに決定する。また、例えば、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果指定コマンドで第2始

動入賞口 1 4 への始動入賞にもとづいてスーパー C A 2 - 7 の変動パターン種別となる（すなわち、「スーパーリーチはずれ」となる）ことを示す入賞時判定結果が示されている場合（具体的には、E X T データが「1 6（H）」である場合）には、図 4 2（D）に示すように、「保留球変化」の演出態様の連続予告演出を実行することに決定する。また、例えば、演出制御用 C P U 1 0 1 は、入賞時判定結果指定コマンドで第 2 始動入賞口 1 4 への始動入賞にもとづいてスーパー C A 3 - 4 の変動パターン種別となる（すなわち、「スーパーリーチ大当たり」となる）ことを示す入賞時判定結果が示されている場合（具体的には、E X T データが「1 A（H）」である場合）には、図 4 2（D）に示すように、「保留球変化」の演出態様の連続予告演出を実行することに決定する。

【0 3 2 9】

図 4 2（D）に示す連続予告振分テーブル D が用いられるのは、遊技状態が時短状態であるものの時短状態の残り回数が 8 回以内である（あと 8 回の変動表示が実行されるまでの間に時短状態が終了する場合である。この実施の形態では、合算保留記憶数として最大 8 個記憶可能（すなわち、第 1 始動入賞口 1 3 と第 2 始動入賞口 1 4 への合計の始動入賞を最大 8 個まで保留可能）なのであるから、時短状態の残り回数が 8 回以内となった場合には、入賞時判定を行うときには遊技状態が時短状態であるものの、その入賞時判定の対象となった変動表示が開始されるときには既に時短状態が終了している可能性がある。そのため、入賞時判定結果と実際の変動開始時の決定結果との整合がとれず、連続予告演出を適切に行えない虞がある。例えば、変動パターン種別判定用乱数として「2 2 0 ~ 2 2 9」の値を抽出した場合には、入賞判定時には時短状態であることにともづいて図 1 0（C）に示す確変 / 時短用のはずれ用変動パターン種別判定テーブル 1 3 5 C を用いてスーパーリーチはずれ（スーパー C A 2 - 7）と判定したにもかかわらず、実際に変動表示が開始されるときには通常状態に移行していることからスーパーリーチとならず（図 1 0（A），（B）に示すようにノーマル C A 2 - 5 やノーマル C A 2 - 6 と決定されてしまう）、入賞時判定結果と実際の変動開始時の決定結果との整合がとれない可能性がある。また、変動パターン種別判定用乱数として「9 0 ~ 2 1 9」の値を抽出した場合には、入賞判定時には時短状態であることにともづいて図 1 0（C）に示す確変 / 時短用のはずれ用変動パターン種別判定テーブル 1 3 5 C を用いて非はずれ（非リーチ C A 2 - 3）と判定したにもかかわらず、実際に変動表示が開始されるときには通常状態に移行していることから擬似連などの特定演出やノーマルリーチが実行される場合があり（図 1 0（A），（B）に示すように非リーチ C A 2 - 2 やノーマル C A 2 - 4 ~ C A 2 - 6 と決定されてしまうことがある）、入賞時判定結果と実際の変動開始時の決定結果との整合がとれない可能性がある。すると、入賞時判定の対象となった変動表示が大当たりやスーパーリーチとならない割合が高くなり、遊技者の期待感を損なう虞がある。そこで、この実施の形態では、図 4 2（D）に示すように、遊技状態が時短状態であるものの時短状態の残り回数が 8 回以内である場合には、「保留球変化」の演出態様の連続予告演出しか行われないうに連続予告演出の実行を規制し、遊技者の期待感を損なう事態を防止している。

【0 3 3 0】

また、図 4 2（D）に示す連続予告振分テーブル D は、遊技状態が時短状態であって停電復旧フラグがセットされている場合にも用いられる。この実施の形態では、既に説明したように、時短状態フラグは演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 が備える R A M のバックアップ R A M 領域に保存されるのに対して、時短後回数カウンタの値はバックアップ R A M 領域には保存されない。従って、遊技機への電源供給が停止した後に電源供給が再開された後には、いずれかの入賞時判定結果コマンドを受信した場合に、演出制御用 C P U 1 0 1 は、現在の遊技状態が時短状態であることを判断することはできるものの（ステップ S 8 0 0 8 参照）、時短状態に移行した後に変動表示が何回実行されたかを正しく判定することはできない。従って、時短状態の残り回数が 8 回以内であるときに停電復旧が行われた場合には、やはり入賞時判定結果と実際の変動開始時の決定結果との整合がとれない事態が生じる可能性があり、遊技者の期待感を損なう虞がある。そこで、この実施の形態では、図 4 2（D）に示すように、遊技状態が時短状態であり且つ停電復旧が行われ

10

20

30

40

50

た場合にも、「保留球変化」の演出態様の連続予告演出しか行われないうように連続予告演出の実行を規制し、遊技者の期待感を損なう事態を防止している。

【0331】

また、現在の遊技状態が通常状態であり時短後回数カウンタの値が101～108であれば（すなわち、時短状態移行後101～108回目の変動表示が実行される間に始動入賞した場合であれば）、演出制御用CPU101は、ステップS8015で選択した図42（E）に示す連続予告振分テーブルEを用いて、受信した入賞時判定結果指定コマンドで示される入賞時判定結果にもとづいて、連続予告演出の演出態様を決定する。

【0332】

この実施の形態では、連続予告振分テーブルEを用いる場合、例えば、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果指定コマンドで第1始動入賞口13への始動入賞にもとづいて非リーチCA2-1の変動パターン種別となる（すなわち、リーチも擬似連などの特定演出も伴わない「非リーチはずれ」となる）ことを示す入賞時判定結果が示されている場合（具体的には、EXTデータが「00（H）」である場合）には、図42（E）に示すように、いずれの演出態様の連続予告演出に対しても割り振りがなく、連続予告を実行しないことに決定する。また、例えば、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果指定コマンドで第1始動入賞口13への始動入賞にもとづいてスーパーCA2-7の変動パターン種別となる（すなわち、「スーパーリーチはずれ」となる）ことを示す入賞時判定結果が示されている場合（具体的には、EXTデータが「06（H）」である場合）には、図42（E）に示すように、「保留球変化」の演出態様の連続予告演出を実行することに決定する。また、例えば、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果指定コマンドで第1始動入賞口13への始動入賞にもとづいてスーパーCA3-4の変動パターン種別となる（すなわち、「スーパーリーチ大当たり」となる）ことを示す入賞時判定結果が示されている場合（具体的には、EXTデータが「0A（H）」である場合）には、図42（E）に示すように、「保留球変化」の演出態様の連続予告演出を実行することに決定する。

【0333】

また、連続予告振分テーブルEを用いる場合、例えば、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果指定コマンドで第2始動入賞口14への始動入賞にもとづいて非リーチCA2-1の変動パターン種別となる（すなわち、リーチも擬似連などの特定演出も伴わない「非リーチはずれ」となる）ことを示す入賞時判定結果が示されている場合（具体的には、EXTデータが「10（H）」または「12（H）」である場合）には、図42（E）に示すように、いずれの演出態様の連続予告演出に対しても割り振りがなく、連続予告を実行しないことに決定する。また、例えば、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果指定コマンドで第2始動入賞口14への始動入賞にもとづいてスーパーCA2-7の変動パターン種別となる（すなわち、「スーパーリーチはずれ」となる）ことを示す入賞時判定結果が示されている場合（具体的には、EXTデータが「16（H）」である場合）には、図42（E）に示すように、いずれの演出態様の連続予告演出に対しても割り振りがなく、連続予告を実行しないことに決定する。また、例えば、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果指定コマンドで第2始動入賞口14への始動入賞にもとづいてスーパーCA3-4の変動パターン種別となる（すなわち、「スーパーリーチ大当たり」となる）ことを示す入賞時判定結果が示されている場合（具体的には、EXTデータが「1A（H）」である場合）には、図42（E）に示すように、いずれの演出態様の連続予告演出に対しても割り振りがなく、連続予告を実行しないことに決定する。

【0334】

図42（E）に示す連続予告振分テーブルEが用いられるのは、時短状態を終了して遊技状態が通常状態に移行された後に実行された変動表示の回数がまだ8回以内である場合である。この実施の形態では、合算保留記憶数として最大8個記憶可能（すなわち、第1始動入賞口13と第2始動入賞口14への合計の始動入賞を最大8個まで保留可能）なのであるから、時短状態を終了しても変動表示の実行回数がまだ8回以内である場合には、それ以前に始動入賞して保留されている保留記憶については、変動表示が開始されるとき

10

20

30

40

50

には遊技状態が通常状態であるものの、その入賞時判定が行われたときには遊技状態がまだ時短状態であった可能性がある。そのため、時短状態を終了する以前に始動入賞した保留記憶について入賞時判定結果と実際の変動開始時の決定結果との整合がとれず、連続予告演出を適切に行えない虞がある。例えば、時短状態を終了する以前に始動入賞した保留記憶について、変動パターン種別判定用乱数として「90～219」の値を抽出して入賞時判定を行なった場合には、入賞判定時には時短状態であることにもとづいて図10(C)に示す確変/時短用のはずれ用変動パターン種別判定テーブル135Cを用いて非はずれ(非リーチCA2-3)と判定したにもかかわらず、実際に変動表示が開始されるときには通常状態に移行していることから擬似連などの特定演出やノーマルリーチが実行される場合がある(図10(A),(B)に示すように非リーチCA2-2やノーマルCA2-4～CA2-6と決定されてしまうことがある)。すると、時短終了直後である場合には、ステップS8005の処理で入賞時判定結果が全て「非リーチはずれ」とであると判定して連続予告演出を開始したにもかかわらず、連続予告演出の途中で擬似連などの特定演出やノーマルリーチの変動が割り込む事態が生じてしまい、連続予告演出の連続性が損なわれる事態が生じ、遊技者の期待感を損なう虞がある。そこで、この実施の形態では、図42(E)に示すように、遊技状態が通常状態であるものの時短状態終了後の変動表示の実行回数がまだ8回以内である場合には、「保留球変化」の演出態様の連続予告演出しか行われなように連続予告演出の実行を規制し、遊技者の期待感を損なう事態を防止している。

10

【0335】

20

また、図41(A)～(C)に示すように、この実施の形態では、「カウントダウン」の演出態様の連続予告演出は、入賞時判定結果が「スーパーリーチはずれ」または「スーパーリーチ大当たり」である場合にのみ選択される。従って、「カウントダウン」の演出態様で連続予告演出が実行される場合には、少なくとも入賞時判定の対象となった変動表示においてスーパーリーチの演出が行われることが確定し、遊技に対する興趣を向上させることができる。

【0336】

なお、図42(D),(E)に示すように、連続予告振分テーブルD,Eでは、スーパーリーチが確定する演出態様である「カウントダウン」に対して振り分けがなされていない。従って、この実施の形態では、遊技状態が時短状態であるものの時短状態の残り回数が8回以内である場合や、遊技状態が時短状態であり且つ停電復旧が行われた場合、遊技状態が通常状態であるものの時短状態終了後の変動表示の実行回数がまだ8回以内である場合には、「カウントダウン」の演出態様の連続予告演出は選択されないように規制している。そのようにすることによって、スーパーリーチ確定の「カウントダウン」の演出態様の連続予告演出が実行されたにもかかわらず、入賞時判定の対象となった変動表示においてスーパーリーチの演出が実行されず、遊技者の期待感を著しく損なう事態を防止している。

30

【0337】

なお、連続予告振分テーブルA～Eに振り分けがないことにより連続予告演出を実行しないことに決定された場合には、後述するステップS8021でNと判定し、ステップS8022,S8023の処理を実行しないように制御する。または、連続予告演出を実行しないことに決定したことにもとづいて連続予告実行中フラグをセットしないようにしてもよい。

40

【0338】

また、連続予告演出の判定を行う場合に、まず連続予告演出の実行有無を決定してから、連続予告演出を実行すると決定した場合に演出態様の決定処理を行うようにしてもよい。例えば、演出制御用CPU101は、ステップS8005でYと判定したときに、まずステップS8016～S8019の処理を行い、選択した連続予告決定用テーブルにもとづいて連続予告演出を実行するか否かを決定する。そして、連続予告演出を実行すると決定した場合にステップS8006に移行して演出態様を決定するようにし、連続予告演出

50

を実行しないと決定した場合にはそのままステップ S 8 0 2 4 に移行するようにしてもよい。そのように構成すれば、連続予告演出を実行しないと決定した場合に無駄な判定処理を行わないようにすることができる。

【 0 3 3 9 】

また、この実施の形態では、連続予告演出の実行有無を決定するための連続予告決定用テーブルと、連続予告演出の演出態様を決定するための連続予告振分テーブルとを別々のテーブルとして構成する場合を示したが、連続予告演出の実行有無および演出態様がともに対応付けられた 1 つのテーブルを用いて、連続予告演出の実行有無と演出対用とを 1 回の判定処理で決定するようにしてもよい。

【 0 3 4 0 】

次いで、演出制御用 CPU 1 0 1 は、ステップ S 8 0 2 0 で連続予告演出を実行することに決定した場合には（ステップ S 8 0 2 1 の Y）、連続予告演出の実行を決定したことを示す連続予告決定フラグをセットする（ステップ S 8 0 2 2）。この場合、例えば、演出制御用 CPU 1 0 1 は、図 1 5 に示す入賞時判定結果 1 指定コマンドを受信したことにもとづいて連続予告演出を実行することを決定した場合には、第 1 始動入賞口 1 3 への始動入賞に対して「非リーチはずれ」になると入賞時判定したことにもとづいて連続予告演出の実行を決定したことを示す第 1 はずれ連続予告決定フラグをセットする。また、例えば、演出制御用 CPU 1 0 1 は、図 1 5 に示す入賞時判定結果 7 指定コマンドを受信したことにもとづいて連続予告演出を実行することを決定した場合には、第 1 始動入賞口 1 3 への始動入賞に対して「スーパーリーチはずれ」になると入賞時判定したことにもとづいて連続予告演出の実行を決定したことを示す第 1 リーチ連続予告決定フラグをセットする。また、例えば、演出制御用 CPU 1 0 1 は、図 1 5 に示す入賞時判定結果 1 1 指定コマンドを受信したことにもとづいて連続予告演出を実行することを決定した場合には、第 1 始動入賞口 1 3 への始動入賞に対して「スーパーリーチ大当たり」になると入賞時判定したことにもとづいて連続予告演出の実行を決定したことを示す第 1 大当たり連続予告決定フラグをセットする。また、例えば、演出制御用 CPU 1 0 1 は、図 1 5 に示す入賞時判定結果 2 1 指定コマンドを受信したことにもとづいて連続予告演出を実行することを決定した場合には、第 2 始動入賞口 1 4 への始動入賞に対して「非リーチはずれ」になると入賞時判定したことにもとづいて連続予告演出の実行を決定したことを示す第 2 はずれ連続予告決定フラグをセットする。また、例えば、演出制御用 CPU 1 0 1 は、図 1 5 に示す入賞時判定結果 2 7 指定コマンドを受信したことにもとづいて連続予告演出を実行することを決定した場合には、第 2 始動入賞口 1 4 への始動入賞に対して「スーパーリーチはずれ」になると入賞時判定したことにもとづいて連続予告演出の実行を決定したことを示す第 2 リーチ連続予告決定フラグをセットする。また、例えば、演出制御用 CPU 1 0 1 は、図 1 5 に示す入賞時判定結果 3 1 指定コマンドを受信したことにもとづいて連続予告演出を実行することを決定した場合には、第 2 始動入賞口 1 4 への始動入賞に対して「スーパーリーチ大当たり」になると入賞時判定したことにもとづいて連続予告演出の実行を決定したことを示す第 2 大当たり連続予告決定フラグをセットする。また、これらの連続予告決定フラグのうち、第 1 はずれ連続予告決定フラグ、第 1 リーチ連続予告決定フラグ、および第 1 大当たり連続予告決定フラグが、第 1 連続予告決定フラグである。また、これらの連続予告決定フラグのうち、第 2 はずれ連続予告決定フラグ、第 2 リーチ連続予告決定フラグ、および第 2 大当たり連続予告決定フラグが、第 2 連続予告決定フラグである。

【 0 3 4 1 】

なお、ステップ S 8 0 2 2 では、連続予告決定フラグをセットするとともに、ステップ S 8 0 2 0 B で決定した演出態様を特定可能な情報もセットする。この場合、例えば、演出態様が「図柄変動時の変動形態の変化」であることを示すフラグや、「モード移行」であることを示すフラグ、「カウントダウン」であることを示すフラグ、「保留球変化」であることを示すフラグをセットするようにしてもよい。また、例えば、連続予告決定フラグが複数ビット（例えば、1 バイト）で構成される場合には、連続予告決定フラグの所定ビットにいずれの演出態様であるかを指定する値を設定することによって、いずれの演出

10

20

30

40

50

態様に決定されているかを特定可能であるようにしてもよい。

【0342】

次いで、演出制御用CPU101は、連続予告演出を実行する旨の判定対象となった変動表示が開始されるまでに実行される変動表示の回数を特定し、特定した変動表示の回数を変動回数カウンタにセットする(ステップS8023)。この場合、演出制御用CPU101は、ステップS8022で第1連続予告決定フラグをセットした場合には、第1入賞時判定結果記憶バッファが記憶する各入賞時判定結果にもとづいて、「非リーチ」や「スーパーリーチはずれ」、「スーパーリーチ大当たり」となる変動表示が開始されるまでに実行される変動表示の回数を特定し、特定した変動表示の回数を変動回数カウンタにセットする。また、ステップS8022で第2連続予告決定フラグをセットした場合には、第2入賞時判定結果記憶バッファが記憶する各入賞時判定結果にもとづいて、「非リーチ」や「スーパーリーチはずれ」、「スーパーリーチ大当たり」となる変動表示が開始されるまでに実行される変動表示の回数を特定し、特定した変動表示の回数を変動回数カウンタにセットする。なお、変動回数カウンタは、連続予告演出の判定対象となった変動表示が開始されるまでに実行される変動表示の回数をカウントするためのカウンタである。

10

【0343】

なお、図41および図42に示す連続予告振分テーブルにおいて、大当たりとなる信頼度に応じて、各演出態様の選択割合が異なるように割り振りを行ってもよい。例えば、「図柄変動時の変動形態の変化」、「モード移行」、「カウントダウン」、「保留球変化」の順に大当たりとなる信頼度が高くなるように、各演出態様の割り振りを行ってもよい。なお、大当たりとなる信頼度が高くなるような各演出態様の割り振り方法は、このような順序にかぎらず、例えば、逆順に「保留球変化」、「カウントダウン」、「モード移行」、「図柄変動時の変動形態の変化」の順に大当たりとなる信頼度が高くなるように割り振りを行ってもよい。さらに、これらの並び順にかぎらず、例えば、「モード移行」や「カウントダウン」の演出態様が最も大当たりとなる信頼度が高くなったり、逆に最も大当たりとなる信頼度が低くなるような並び順に割り振りを行ってもよく、様々な各演出態様の割り振りの仕方が可能である。

20

【0344】

次いで、演出制御用CPU101は、いずれかの連続予告実行中フラグがセットされているか否かを判定する(ステップS8024)。セットされていれば、変動回数カウンタの値を1減算する(ステップS8025)。また、演出制御用CPU101は、減算後の変動回数カウンタの値が0であるか否かを確認する(ステップS8026)。そして、変動回数カウンタの値が0になっていれば、演出制御用CPU101は、セットされている連続予告実行中フラグ(第1連続予告実行中フラグまたは第2連続予告実行中フラグ)をリセットする(ステップS8027)。そのような処理が実行されることによって、この実施の形態では、入賞時判定の対象となった変動が開始される1つ前の変動表示まで連続予告演出が実行されて、その入賞時判定の対象となった変動表示の開始時に連続予告実行中フラグがリセットされる(その入賞時判定の対象となった変動表示中には連続予告演出は行われない)。なお、その入賞時判定の対象となった変動表示中においても、連続予告演出を実行するようにしてもよい。

30

40

【0345】

なお、この実施の形態では、連続予告演出に関して、以下に示すような禁則処理が行われる。

【0346】

(1)遊技機への電源投入時や停電復旧時に大当たりであった場合には、大当たり遊技終了後の遊技状態が不確定である。そのため、そのような場合には、現在の保留記憶数の情報を全てクリアするように制御する。なお、保留記憶数そのものの情報をクリアするのではなく、保留記憶に関する情報(例えば、入賞時判定結果記憶バッファが記憶する入賞時判定結果(始動入賞時における判定結果))をクリアするように構成してもよい。

【0347】

50

(2) 大当り遊技状態中に第1始動入賞口13または第2始動入賞口14への新たな始動入賞があった場合には、大当り遊技終了後の遊技状態が不確定である。そのため、そのような始動入賞に対しては連続予告演出の実行の処理を行わないように制御する(ステップS216A参照)。また、保留記憶数の変動情報のスタックも行わないように制御する。

【0348】

(3) 高確率状態(確変状態)、時短状態、または突然確変大当りによる高確率状態である場合には、第1始動入賞口13に始動入賞したことに對する入賞時判定の入賞時判定結果指定コマンドが送信されないように制御する(ステップS215A参照)。なお、この場合、演出制御用マイクロコンピュータ100は、入賞時判定結果指定コマンドを受信しなかった場合であっても、例えば、第1保留記憶数指定コマンドや第2保留記憶数指定コマンドで指定される保留記憶数にもとづいて、第1入賞時判定結果記憶バッファや第2入賞時判定結果記憶バッファ(図34参照)のうちのどの保存領域まで保留記憶がある状態であるかを常に特定するようにすればよい。そして、新たな入賞時判定結果指定コマンドを受信すると、その特定した入賞時判定結果記憶バッファの保存領域に入賞時判定結果指定コマンドで指定される入賞時判定結果を格納するようにしてもよい。また、確変状態や時短状態に、入賞時判定結果を特定不能である旨のコマンドを送信するようにし、受信したコマンドにもとづいて、入賞時判定結果が特定不能である旨の情報を第1入賞時判定結果記憶バッファや第2入賞時判定結果記憶バッファの対応する保存領域に格納するようにしてもよい。

10

【0349】

(4) 時短状態の移行後に92回目から100回目までの変動を行う場合には、時短状態の終了まで残り少なく、時短状態から通常状態に移行したタイミングによって入賞時判定の際の遊技状態と実際の変動時の遊技状態とが不一致となる可能性がある。そのため、同じ時短状態であっても、92回目から100回目までの変動を行う場合には、1回目から91回目までの変動を行う場合とは異なる連続予告振分テーブルを用いることによって、「保留球変化」の連続予告演出のみが実行されるように制御する(図42参照)。

20

【0350】

(5) また、停電復旧時に時短状態であった場合にも、時短状態の残り回数が不確定であることから(4)と同様のことが言える。そのため、92回目から100回目までの変動を行う場合と同様の連続予告振分テーブルを用いることによって、「保留球変化」の連続予告演出のみが実行されるように制御する。

30

【0351】

(6) また、変動表示を開始してから極短い所定期間(例えば30ms)以内に始動入賞があったときには、その始動入賞に対して連続予告演出を行わないように制御する。

【0352】

(7) また、非リーチはずれと入賞時判定したことにもとづく連続予告演出は、所定期間連続して実行されないように制御する。例えば、非リーチはずれと入賞時判定したことにもとづく連続予告演出を終了すると、その後、変動表示を20回以上終了するまでは、非リーチはずれと入賞時判定したことにもとづく次の連続予告演出を実行しないように制御する。

40

【0353】

次いで、演出制御用CPU101は、入賞時判定結果記憶バッファが記憶する1つ目の入賞時判定結果(今回実行する変動表示に対応する入賞時判定結果)を削除し、入賞時判定結果記憶バッファの内容をシフトする(ステップS8028)。この場合、演出制御用CPU101は、第1特別図柄の変動表示に同期して演出図柄の変動表示を実行する場合(具体的には、第1図柄変動指定コマンド受信フラグがセットされている場合)には、第1入賞時判定結果記憶バッファが記憶する1つ目の入賞時判定結果を削除し、第1入賞時判定結果記憶バッファの内容をシフトする。また、第2特別図柄の変動表示に同期して演出図柄の変動表示を実行する場合(具体的には、第2図柄変動指定コマンド受信フラグがセットされている場合)には、第2入賞時判定結果記憶バッファが記憶する1つ目の入賞

50

時判定結果を削除し、第2入賞時判定結果記憶バッファの内容をシフトする。次いで、演出制御用CPU101は、時短後回数カウンタの値を1加算する(ステップS8029)。

【0354】

次いで、演出制御用CPU101は、変動パターンコマンド格納領域から変動パターンコマンドを読み出す(ステップS8030)。次いで、演出制御用CPU101は、ステップS8030で読み出した変動パターンコマンド、表示結果指定コマンド格納領域に格納されているデータ(すなわち、受信した表示結果指定コマンド)、および連続予告演出を実行する場合には連続予告演出の演出態様に応じて演出図柄(飾り図柄)の表示結果(停止図柄)を決定する(ステップS8031)。すなわち、演出制御用CPU101によってステップS8031の処理が実行されることによって、可変表示パターン決定手段が決定した可変表示パターン(変動パターン)に応じて、識別情報の可変表示の表示結果(演出図柄の停止図柄)を決定する表示結果決定手段が実現される。この場合、演出制御用CPU101は、連続予告演出を実行しない場合または「図柄変動時の変動形態の変化」以外の演出態様の連続演出を実行する場合には、表示結果指定コマンドで指定される表示結果に応じた演出図柄の停止図柄を決定する。また、演出制御用CPU101は、「図柄変動時の変動形態の変化」の演出態様の連続演出を実行する場合には、演出図柄の停止図柄として、いわゆるチャンス目図柄(例えば、「223」や「445」のように、リーチとならないものの大当たり図柄と1つ図柄がずれている図柄の組み合わせ)を決定する。なお、演出制御用CPU101は、決定した演出図柄の停止図柄を示すデータを演出図柄表示結果格納領域に格納する。

【0355】

図43は、演出表示装置9における演出図柄(飾り図柄)の停止図柄の一例を示す説明図である。図43に示す例では、受信した表示結果指定コマンドが通常大当たりを示している場合には(受信した表示結果指定コマンドが表示結果2指定コマンドである場合)、演出制御用CPU101は、停止図柄として3図柄が偶数図柄(通常大当たりの発生を想起させるような停止図柄)で揃った演出図柄の組合せを決定する。受信した表示結果指定コマンドが確変大当たりを示している場合には(受信した表示結果指定コマンドが表示結果3指定コマンドである場合)、演出制御用CPU101は、停止図柄として3図柄が奇数図柄(確変大当たりの発生を想起させるような停止図柄)で揃った演出図柄の組合せを決定する。そして、はずれの場合には(受信した表示結果指定コマンドが表示結果1指定コマンドである場合)、上記以外の演出図柄の組み合わせを決定する。ただし、リーチ演出を伴う場合には、左右の2図柄が揃った演出図柄の組み合わせを決定する。なお、受信した表示結果指定コマンドが突然確変大当たりや小当たりを示している場合には(受信した表示結果指定コマンドが表示結果4指定コマンドや表示結果5指定コマンドである場合)、演出制御用CPU101は、停止図柄として「135」などの演出図柄の組合せを決定する。また、演出表示装置9に導出表示される3図柄の組合せが演出図柄(飾り図柄)の「停止図柄」である。

【0356】

演出制御用CPU101は、例えば、停止図柄を決定するための乱数を抽出し、演出図柄の組合せを示すデータと数値とが対応付けられている停止図柄決定テーブルを用いて、演出図柄の停止図柄を決定する。すなわち、抽出した乱数に一致する数値に対応する演出図柄の組合せを示すデータを選択することによって停止図柄を決定する。

【0357】

なお、演出図柄についても、大当たりを想起させるような停止図柄を大当たり図柄という。また、確変大当たりを想起させるような停止図柄を確変大当たり図柄といい、通常大当たりを想起させるような停止図柄を通常大当たり図柄という。そして、はずれを想起させるような停止図柄をはずれ図柄という。

【0358】

次いで、演出制御用CPU101は、連続予告解除フラグがセットされているか否かを

確認する（ステップS 8 0 3 2）。連続予告解除フラグがセットされていなければ、演出制御用CPU 1 0 1は、演出図柄の変動表示中に演出表示装置9において予告演出（連続予告演出以外の予告演出。例えば、ステップアップ予告演出やミニキャラ予告演出。）を実行するか否かを決定したり予告演出の演出態様を設定する予告演出設定処理を実行する（ステップS 8 0 3 3）。連続予告解除フラグがセットされていれば（ステップS 8 0 3 2のY）、演出制御用CPU 1 0 1は、ステップS 8 0 3 3を実行することなく、ステップS 8 0 3 4に移行する。

【 0 3 5 9 】

この実施の形態では、連続予告解除フラグがセットされているのは、第1始動入賞口13への始動入賞に対する入賞時判定結果にもとづく連続予告演出の実行中に第2特別図柄の変動表示が割り込んで連続予告演出が中断されたときである。従って、ステップS 8 0 3 2の処理が実行されることによって、連続予告演出の途中に割り込んで第2特別図柄の変動表示が実行される場合には、その第2特別図柄の変動表示中に演出表示装置9において予告演出が実行されないように制御される。

【 0 3 6 0 】

次いで、演出制御用CPU 1 0 1は、変動パターンおよび予告演出を実行する場合にはその予告演出に応じたプロセステーブルを選択する（ステップS 8 0 3 4）。そして、選択したプロセステーブルのプロセスデータ1におけるプロセスタイマをスタートさせる（ステップS 8 0 3 5）。

【 0 3 6 1 】

図44は、プロセステーブルの構成例を示す説明図である。プロセステーブルとは、演出制御用CPU 1 0 1が演出装置の制御を実行する際に参照するプロセスデータが設定されたテーブルである。すなわち、演出制御用CPU 1 0 1は、プロセステーブルに設定されているプロセスデータに従って演出表示装置9等の演出装置（演出用部品）の制御を行う。プロセステーブルは、プロセスタイマ設定値と表示制御実行データ、ランプ制御実行データおよび音番号データの組み合わせが複数集まったデータで構成されている。表示制御実行データには、演出図柄（飾り図柄）の可変表示の可変表示時間（変動時間）中の変動態様を構成する各変動の態様を示すデータ等が記載されている。具体的には、演出表示装置9の表示画面の変更に関わるデータが記載されている。また、プロセスタイマ設定値には、その変動の態様での変動時間が設定されている。演出制御用CPU 1 0 1は、プロセステーブルを参照し、プロセスタイマ設定値に設定されている時間だけ表示制御実行データに設定されている変動の態様で演出図柄を表示させる制御を行う。

【 0 3 6 2 】

図44に示すプロセステーブルは、演出制御基板80におけるROMに格納されている。また、プロセステーブルは、各変動パターンに応じて用意されている。

【 0 3 6 3 】

なお、リーチ演出を伴う変動パターンについて演出制御を実行する場合に用いられるプロセステーブルには、変動開始から所定時間が経過したときに左図柄を停止表示させ、さらに所定時間が経過すると右図柄を停止表示させることを示すプロセスデータが設定されている。なお、停止表示させる図柄をプロセステーブルに設定するのではなく、決定された停止図柄、擬似連や滑り演出における仮停止図柄に応じて、図柄を表示するための画像を合成して生成するようにしてもよい。

【 0 3 6 4 】

また、演出制御用CPU 1 0 1は、プロセスデータ1の内容（表示制御実行データ1、ランプ制御実行データ1、音番号データ1）に従って演出装置（演出用部品としての演出表示装置9、演出用部品としての各種ランプおよび演出用部品としてのスピーカ27R、27L）の制御を実行する（ステップS 8 0 3 6）。例えば、演出表示装置9において変動パターンに応じた画像を表示させるために、VDP 1 0 9に指令を出力する。また、各種ランプを点灯／消灯制御を行わせるために、ランプドライバ基板35に対して制御信号（ランプ制御実行データ）を出力する。また、スピーカ27R、27Lからの音声出力を

行わせるために、音声出力基板 70 に対して制御信号（音番号データ）を出力する。

【0365】

なお、この実施の形態では、演出制御用 CPU 101 は、変動パターンコマンドに 1 対 1 に対応する変動パターンによる演出図柄の可変表示が行われるように制御するが、演出制御用 CPU 101 は、変動パターンコマンドに対応する複数種類の変動パターンから、使用する変動パターンを選択するようにしてもよい。

【0366】

そして、変動時間タイマに、変動パターンコマンドで特定される変動時間に相当する値を設定し（ステップ S 8037）、演出制御プロセスフラグの値を演出図柄変動中処理（ステップ S 802）に対応した値にする（ステップ S 8038）。 10

【0367】

図 45 は、演出制御プロセス処理における演出図柄変動中処理（ステップ S 802）を示すフローチャートである。演出図柄変動中処理において、演出制御用 CPU 101 は、プロセスタイマの値を 1 減算するとともに（ステップ S 1841）、変動時間タイマの値を 1 減算する（ステップ S 1842）。プロセスタイマがタイムアウトしたら（ステップ S 1843）、プロセスデータの切替を行う。すなわち、プロセステーブルにおける次に設定されているプロセスタイマ設定値をプロセスタイマに設定する（ステップ S 1844）。また、その次に設定されている表示制御実行データ、ランプ制御実行データおよび音番号データにもとづいて演出装置に対する制御状態を変更する（ステップ S 1845）。 20

【0368】

次いで、演出制御用 CPU 101 は、いずれかの連続予告実行中フラグがセットされているか否かを確認する（ステップ S 1846）。いずれかの連続予告実行中フラグがセットされていれば、演出制御用 CPU 101 は、ステップ S 8020B の連続予告演出態様決定処理で決定した演出態様に従って、「図柄変動時の変動形態の変化」、「モード移行」、「カウントダウン」または「保留球変化」のいずれかの演出態様で連続予告演出を実行する制御を行う（ステップ S 1848）。なお、連続予告演出を実行する場合、その連続予告演出を実行するタイミングでステップ S 1846 において Y と判定され、ステップ S 1848 の処理が実行される。そして、連続予告演出を終了するまでステップ S 1846 で繰り返し Y と判定され、ステップ S 1848 の処理が実行される。 30

【0369】

次いで、演出制御用 CPU 101 は、変動時間タイマがタイムアウトしていれば（ステップ S 1849）、演出制御プロセスフラグの値を演出図柄変動停止処理（ステップ S 803）に応じた値に更新する（ステップ S 1851）。変動時間タイマがタイムアウトしていなくても、図柄確定指定コマンドを受信したことを示す確定コマンド受信フラグがセットされていたら（ステップ S 1850）、ステップ S 1851 に移行する。変動時間タイマがタイムアウトしていなくても図柄確定指定コマンドを受信したら変動を停止させる制御に移行するので、例えば、基板間でのノイズ等に起因して長い変動時間を示す変動パターンコマンドを受信したような場合でも、正規の変動時間経過時（特別図柄の変動終了時）に、演出図柄の変動を終了させることができる。 40

【0370】

図 46 は、演出制御プロセス処理における演出図柄変動停止処理（ステップ S 803）を示すフローチャートである。演出図柄変動停止処理において、演出制御用 CPU 101 は、確定コマンド受信フラグがセットされているか否かを確認する（ステップ S 851）、確定コマンド受信フラグがセットされている場合には、確定コマンド受信フラグをリセットし（ステップ S 852）、演出図柄表示結果格納領域に格納されているデータ（停止図柄を示すデータ）に従って停止図柄を導出表示する制御を行う（ステップ S 853）。次いで、演出制御用 CPU 101 は、大当たりまたは小当たりとすることに決定されているか否かを確認する（ステップ S 855）。大当たりまたは小当たりとすることに決定されているか否かは、例えば、表示結果指定コマンド格納領域に格納されている表示結果指定コマンドによって確認される。なお、この実施の形態では、決定されている停止図柄によって、大当 50

りまたは小当たりとすることに決定されているか否か確認することもできる。

【0371】

大当たりまたは小当たりとすることに決定されている場合には、演出制御プロセスフラグの値を大当たり表示処理（ステップS804）に応じた値に更新する（ステップS856）。

【0372】

大当たりおよび小当たりのいずれともしないことに決定されている場合には、演出制御用CPU101は、演出制御プロセスフラグの値を変動パターンコマンド受信待ち処理（ステップS800）に応じた値に更新する（ステップS857）。

【0373】

なお、この実施の形態では、演出制御用マイクロコンピュータ100は、図柄確定指定コマンドを受信したことを条件に、演出図柄（飾り図柄）の変動（可変表示）を終了させる（ステップS851、S853参照）。しかし、受信した変動パターンコマンドにもとづく変動時間タイマがタイムアウトしたら、図柄確定指定コマンドを受信しなくても、演出図柄（飾り図柄）の変動を終了させるように制御してもよい。その場合、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、可変表示の終了を指定する図柄確定指定コマンドを送信しないようにしてもよい。

【0374】

図47は、演出制御プロセス処理における大当たり表示処理（ステップS804）を示すフローチャートである。大当たり表示処理において、演出制御用CPU101は、いずれかの
大当たり開始指定コマンド受信フラグ（大当たり開始1指定コマンドを受信したことを示す
大当たり開始1指定コマンド受信フラグ、大当たり開始2指定コマンドを受信したことを示す
大当たり開始2指定コマンド受信フラグ、または小当たり／突然確変大当たり開始指定コマンド
を受信したことを示す小当たり／突然確変大当たり開始指定コマンド受信フラグ）がセットさ
れているか否か確認する（ステップS871）。いずれかの
大当たり開始指定コマンド受信フラグがセットされていた場合には、セットされているフラグに応じた遊技開始画面を演
出表示装置9に表示する制御を行う（ステップS872）。また、セットされているフラ
グ（大当たり開始1指定コマンド受信フラグ、大当たり開始2指定コマンド受信フラグ、また
は小当たり／突然確変大当たり開始指定コマンド受信フラグ）をリセットする（ステップS8
73）。そして、演出制御プロセスフラグの値を大当たり遊技中処理（ステップS805）
に応じた値に更新する（ステップS874）。

【0375】

なお、大当たり表示用のプロセス処理とは別に小当たり表示用のプロセス処理を設けるよう
にし、小当たりである場合には、例えば、所定期間（大入賞口が0.1秒間2回開放するの
に十分な時間。例えば0.5秒間）、突然確変大当たり時と同様の態様の演出を行うように
してもよい。

【0376】

また、小当たりや突然確変大当たりである場合に、小当たり／突然確変大当たり開始指定コマン
ドの受信にもとづいて演出を実行するのではなく、演出制御用CPU101は、例えば、
小当たり／突然確変大当たり用の変動パターンコマンドを受信したことにともづいて、小当たり
または突然確変大当たりであることを示唆するような演出を所定期間実行するようにしても
よい。この場合、演出制御用CPU101は、小当たりまたは突然確変大当たりであることを
示唆するような演出を行うためのプロセスデータをプロセス時間ごとに切り替え、切り替
えたプロセスデータに従って演出を行う。

【0377】

なお、ステップS872では、演出制御用CPU101は、大当たり遊技の開始を報知す
る画面を演出表示装置9に表示する制御を行う。

【0378】

図48は、演出制御プロセス処理における大当たり終了演出処理（ステップS806）を
示すフローチャートである。大当たり終了演出処理において、演出制御用CPU101は、
大当たり終了演出タイマが設定されているか否か確認する（ステップS880）。大当たり終

了演出タイマが設定されている場合には、ステップS 8 8 5に移行する。大当り終了演出タイマが設定されていない場合には、大当り終了指定コマンドを受信したことを示す大当り終了指定コマンド受信フラグ（大当り終了1指定コマンド受信フラグ、大当り終了2指定コマンド受信フラグ、小当り/突然確変大当り終了指定コマンド受信フラグ）がセットされているか否かを確認する（ステップS 8 8 1）。大当り終了指定コマンド受信フラグがセットされている場合には、大当り終了指定コマンド受信フラグ（大当り終了1指定コマンド受信フラグ、大当り終了2指定コマンド受信フラグ、または小当り/突然確変大当り終了指定コマンド受信フラグ）をリセットし（ステップS 8 8 2）、大当り終了演出タイマに大当り終了表示時間に相当する値を設定して（ステップS 8 8 3）、演出表示装置9に、大当り終了画面（大当り遊技の終了を報知する画面）を表示する制御を行う（ステップS 8 8 4）。具体的には、VDP 109に、大当り終了画面を表示させるための指示を与える。

10

【0379】

ステップS 8 8 5では、大当り終了演出タイマの値を1減算する。そして、演出制御用CPU 101は、大当り終了演出タイマの値が0になっているか否か、すなわち大当り終了演出時間が経過したか否かを確認する（ステップS 8 8 6）。経過していなければ処理を終了する。大当り終了演出時間が経過している場合には、演出制御用CPU 101は、演出制御プロセスフラグの値を変動パターンコマンド受信待ち処理（ステップS 8 0 0）に応じた値に更新する（ステップS 8 9 2）。

【0380】

20

次に、連続予告演出の演出態様の具体例について説明する。図49～図52は、連続予告演出の演出態様の具体例を示す説明図である。このうち、図49は、「図柄変動時の変動形態の変化」の連続予告演出の演出態様の具体例を示す。また、図50は、「モード移行」の連続予告演出の演出態様の具体例を示す。また、図51は、「カウントダウン」の連続予告演出の演出態様の具体例を示す。また、図52は、「保留球変化」の連続予告演出の演出態様の具体例を示す。なお、図49～図52において、(1)(2)(3)・・・の順に演出画面の態様が遷移する。また、図49～図52に示す例では、第1始動入賞口13への始動入賞に対して入賞時判定を行い、第1特別図柄の変動表示に同期して演出図柄の変動表示を実行しているときに連続予告演出を行う場合を示しているが、第2始動入賞口14への始動入賞に対して入賞時判定を行い、第2特別図柄の変動表示に同期して演出図柄の変動表示を実行しているときに連続予告演出を行う場合も同様の演出態様で連続予告演出が実行される。

30

【0381】

まず、図49を参照して「図柄変動時の変動形態の変化」の連続予告演出の演出態様の具体例を説明する。図49に示す例では、まず、図49(1)に示すように第1特別図柄の変動表示に同期して演出図柄の変動表示を実行しているときに、図49(2)に示すように第1始動入賞口13に始動入賞があったものとする。この場合、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、新たに始動入賞があったことにもとづいて入賞時演出処理を実行する（ステップS 2 1 7 A参照）。そして、入賞時判定結果に応じた入賞時判定結果指定コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ100に送信する（ステップS 2 1 8 A参照）。また、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、更新後の第1保留記憶数指定コマンドを送信し（ステップS 2 1 8 A参照）、演出制御用マイクロコンピュータ100は、図49(2)に示すように、受信した第1保留記憶数指定コマンドにもとづいて、第1保留記憶表示部18cにおける第1保留記憶数の表示を1増やす（ステップS 6 5 3参照）。そして、図49(3)に示すように、変動時間が終了して図柄確定指定コマンドを受信し、はずれ図柄を停止表示したものとする（ステップS 8 5 3参照）。

40

【0382】

次いで、演出制御用マイクロコンピュータ100は、変動パターンコマンドや表示結果指定コマンド、第1保留記憶数指定コマンドを受信して、図49(4)に示すように、第1保留記憶表示部18cにおける第1保留記憶数の表示を1減らし（ステップS 6 5 3参

50

照)、次の演出図柄の変動表示を開始する。この場合、演出制御用マイクロコンピュータ100は、入賞時判定結果指定コマンドを受信したことにともづいて、連続予告演出の実行を決定するとともに連続予告演出の演出態様として「図柄変動時の変動形態の変化」を決定したものである。また、演出制御用マイクロコンピュータ100は、連続予告演出の演出態様として「図柄変動時の変動形態の変化」が決定されていることにともづいて、演出図柄の停止図柄としてチャンス目図柄を決定する(ステップS8031参照)。そして、図49(5)に示すように、変動時間が終了して図柄確定指定コマンドを受信し、チャンス目図柄を停止表示する(ステップS853参照)。

【0383】

次いで、演出制御用マイクロコンピュータ100は、変動パターンコマンドや表示結果指定コマンド、第1保留記憶数指定コマンドを受信して、図49(6)に示すように、第1保留記憶表示部18cにおける第1保留記憶数の表示を1減らし(ステップS653参照)、次の演出図柄の変動表示を開始する。この場合、演出制御用マイクロコンピュータ100は、連続予告演出の演出態様として「図柄変動時の変動形態の変化」が決定されていることにともづいて、演出図柄の停止図柄としてチャンス目図柄を決定する(ステップS8031参照)。また、図49(6)に示すように、演出図柄の変動開始時に演出表示装置9の表示画面の上方においてフラッシュが光るような態様の表示を行うなど所定演出を行う(ステップS1848参照)。なお、演出図柄の変動開始時に行う所定演出は、図49に示す態様のものにかぎらず、例えば、演出表示装置9の上方、下方または側方に設けられた可動部材(例えば、キャラクタなどを模した形状の可動物)を変動開始時に可動させたり、変動開始時に所定のランプの点灯または点滅表示を行ったりしてもよい。また、例えば、演出図柄の変動開始時に図柄の変動の開始のさせ方を通常と異ならせてもよい。例えば、左中右の演出図柄を通常は同時に変動開始させているものを左中右の演出図柄の変動をそれぞれ異なるタイミングで開始させたり、一度上方向(または下方向)に変動を開始するように見せて下方向(または上方向)に変動を開始するようにしてもよい。また、逆に、図49(5)において図柄の変動の停止のさせ方を通常と異ならせてもよい。例えば、通常は左、右、中の順に図柄を停止させているのを左、中、右の順に図柄を停止させるなど図柄の停止順などを通常と異ならせてもよい。

【0384】

そして、図49(7)に示すように、演出図柄の変動表示を実行し(ステップS1845参照)、図49(8)に示すように、変動時間が終了して図柄確定指定コマンドを受信すると、チャンス目図柄を停止表示する(ステップS853参照)。

【0385】

次いで、演出制御用マイクロコンピュータ100は、変動パターンコマンドや表示結果指定コマンド、第1保留記憶数指定コマンドを受信して、図49(9)に示すように、第1保留記憶表示部18cにおける第1保留記憶数の表示を1減らし(ステップS653参照)、次の演出図柄の変動表示を開始する。この場合、演出制御用マイクロコンピュータ100は、連続予告演出の演出態様として「図柄変動時の変動形態の変化」が決定されていることにともづいて、演出図柄の停止図柄としてチャンス目図柄を決定する(ステップS8031参照)。また、図49(9)に示すように、演出図柄の変動開始時に演出表示装置9の表示画面の上方においてフラッシュが光るような態様の表示を行うなど所定演出を行う(ステップS1848参照)。

【0386】

以降、入賞時判定の対象となった始動入賞にもとづく変動表示が開始されるまで、同様の演出態様で連続予告演出が実行される。なお、さらに、入賞時判定の対象となった始動入賞にもとづく変動表示を実行する際にも同様の演出態様の予告演出を実行するようにしてもよい。

【0387】

次に、図50を参照して「モード移行」の連続予告演出の演出態様の具体例を説明する

。図50に示す例では、まず、図50(1)に示すように第1特別図柄の変動表示に同期して演出図柄の変動表示を実行しているときに、図50(2)に示すように第1始動入賞口13に始動入賞があったものとする。この場合、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、新たに始動入賞があったことにもとづいて入賞時演出処理を実行する(ステップS217A参照)。そして、入賞時判定結果に応じた入賞時判定結果指定コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ100に送信する(ステップS218A参照)。また、遊技制御用マイクロコンピュータ560は、更新後の第1保留記憶数指定コマンドを送信し(ステップS218A参照)、演出制御用マイクロコンピュータ100は、図50(2)に示すように、受信した第1保留記憶数指定コマンドにもとづいて、第1保留記憶表示部18cにおける第1保留記憶数の表示を1増やす(ステップS653参照)。そして、図50(3)に示すように、変動時間が終了して図柄確定指定コマンドを受信し、はずれ図柄を停止表示したものとする(ステップS853参照)。

10

【0388】

次いで、演出制御用マイクロコンピュータ100は、変動パターンコマンドや表示結果指定コマンド、第1保留記憶数指定コマンドを受信して、図50(4)に示すように、第1保留記憶表示部18cにおける第1保留記憶数の表示を1減らし(ステップS653参照)、次の演出図柄の変動表示を開始する。この場合、演出制御用マイクロコンピュータ100は、入賞時判定結果指定コマンドを受信したことにもとづいて、連続予告決定処理(ステップS8020参照)で連続予告演出の実行を決定するとともに連続予告演出の演出態様として「モード移行」を決定したものとする。また、演出制御用マイクロコンピュータ100は、連続予告演出の演出態様として「モード移行」が決定されていることにもとづいて、図50(4)に示すように、演出図柄の変動表示中に、演出表示装置9の表示画面において現在表示されている背景画面の側方から別の背景画面が割り込んできて2つの背景画面がせめぎあうような態様の演出(例えば、海の背景画面と山の背景画面とがせめぎあうような態様の演出)が実行される(ステップS1848参照)。そして、変動時間が終了して図柄確定指定コマンドを受信すると、図50(5)に示すように、最終的に元の背景画面に押し戻されるような態様の演出が実行され(ステップS1848参照)、最終停止図柄(図50(5)でははずれ図柄)を停止表示する(ステップS853参照)。

20

【0389】

次いで、演出制御用マイクロコンピュータ100は、変動パターンコマンドや表示結果指定コマンド、第1保留記憶数指定コマンドを受信して、図50(6)に示すように、第1保留記憶表示部18cにおける第1保留記憶数の表示を1減らし(ステップS653参照)、次の演出図柄の変動表示を開始する。また、演出制御用マイクロコンピュータ100は、演出態様として「モード移行」が決定されていることにもとづいて、図50(6)に示すように、演出図柄の変動表示中に、演出表示装置9の表示画面において現在表示されている背景画面の側方から別の背景画面が割り込んできて2つの背景画面がせめぎあうような態様の演出(例えば、海の背景画面と山の背景画面とがせめぎあうような態様の演出)が実行される(ステップS1848参照)。そして、変動時間が終了して図柄確定指定コマンドを受信すると、図50(7)に示すように、最終的に元の背景画面に押し戻されるような態様の演出が実行され(ステップS1848参照)、最終停止図柄(図50(7)でははずれ図柄)を停止表示する(ステップS853参照)。

30

40

【0390】

次いで、演出制御用マイクロコンピュータ100は、変動パターンコマンドや表示結果指定コマンド、第1保留記憶数指定コマンドを受信して、図50(8)に示すように、第1保留記憶表示部18cにおける第1保留記憶数の表示を1減らし(ステップS653参照)、次の演出図柄の変動表示を開始する。また、演出制御用マイクロコンピュータ100は、演出態様として「モード移行」が決定されていることにもとづいて、図50(8)に示すように、演出図柄の変動表示中に、演出表示装置9の表示画面において現在表示されている背景画面の側方から別の背景画面が割り込んできて2つの背景画面がせめぎあう

50

ような態様の演出（例えば、海の背景画面と山の背景画面とがせめぎあうような態様の演出）が実行される（ステップS 1 8 4 8参照）。そして、変動時間が終了して図柄確定指定コマンドを受信すると、図5 0（9）に示すように、最終的に元の背景画面に押し戻されるような態様の演出が実行され（ステップS 1 8 4 8参照）、最終停止図柄（図5 0（9）でははずれ図柄）を停止表示する（ステップS 8 5 3参照）。

【0 3 9 1】

以上の態様で、入賞時判定の対象となった始動入賞にもとづく変動表示が開始されるまで、同様の演出態様で連続予告演出が実行される。なお、さらに、入賞時判定の対象となった始動入賞にもとづく変動表示を実行する際にも同様の演出態様の予告演出を実行するようにしてもよい。この場合、入賞時判定の対象となった始動入賞にもとづく変動表示の表示結果が「大当たり」となる場合には、例えば、2つの背景画面がせめぎあうような態様の演出を行った後に、最終的に側方から割り込んできた方の背景画面が勝って背景画面が切り替わるとともに、最終停止図柄として大当たり図柄を停止表示するようにしてもよい。また、「モード移行」の連続予告演出の態様は、この実施の形態で示したものにこだわらず、例えば、変動表示ごとに変動終了時に元の背景画面に押し戻されるようにするのではなく、変動表示ごとに背景画面が変化していく態様の演出を実行するようにしてもよい。

【0 3 9 2】

次に、図5 1を参照して「カウントダウン」の連続予告演出の演出態様の具体例を説明する。図5 1に示す例では、まず、図5 1（1）に示すように第1特別図柄の変動表示に同期して演出図柄の変動表示を実行しているときに、図5 1（2）に示すように第1始動入賞口1 3に始動入賞があったものとする。この場合、遊技制御用マイクロコンピュータ5 6 0は、新たに始動入賞があったことにもとづいて入賞時演出処理を実行する（ステップS 2 1 7 A参照）。そして、入賞時判定結果に応じた入賞時判定結果指定コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ1 0 0に送信する（ステップS 2 1 8 A参照）。また、遊技制御用マイクロコンピュータ5 6 0は、更新後の第1保留記憶数指定コマンドを送信し（ステップS 2 1 8 A参照）、演出制御用マイクロコンピュータ1 0 0は、図5 1（2）に示すように、受信した第1保留記憶数指定コマンドにもとづいて、第1保留記憶表示部1 8 cにおける第1保留記憶数の表示を1増やす（ステップS 6 5 3参照）。そして、図5 1（3）に示すように、変動時間が終了して図柄確定指定コマンドを受信し、はずれ図柄を停止表示したものとする（ステップS 8 5 3参照）。

【0 3 9 3】

次いで、演出制御用マイクロコンピュータ1 0 0は、変動パターンコマンドや表示結果指定コマンド、第1保留記憶数指定コマンドを受信して、図5 1（4）に示すように、第1保留記憶表示部1 8 cにおける第1保留記憶数の表示を1減らし（ステップS 6 5 3参照）、次の演出図柄の変動表示を開始する。この場合、演出制御用マイクロコンピュータ1 0 0は、入賞時判定結果指定コマンドを受信したことにもとづいて、連続予告決定処理（ステップS 8 0 2 0参照）で連続予告演出の実行を決定するとともに連続予告演出の演出態様として「カウントダウン」を決定したものとする。また、演出制御用マイクロコンピュータ1 0 0は、連続予告演出の演出態様として「カウントダウン」が決定されていることにもとづいて、図5 1（4）に示すように、演出図柄の変動表示中に、演出表示装置9の表示画面において「カウント3！」などの文字列を表示してカウントダウンを開始したかのような態様の演出が実行される（ステップS 1 8 4 8参照）。そして、変動時間が終了して図柄確定指定コマンドを受信すると、図5 1（5）に示すように、最終停止図柄（図5 1（5）でははずれ図柄）を停止表示する（ステップS 8 5 3参照）。

【0 3 9 4】

次いで、演出制御用マイクロコンピュータ1 0 0は、変動パターンコマンドや表示結果指定コマンド、第1保留記憶数指定コマンドを受信して、図5 1（6）に示すように、第1保留記憶表示部1 8 cにおける第1保留記憶数の表示を1減らし（ステップS 6 5 3参照）、次の演出図柄の変動表示を開始する。また、演出制御用マイクロコンピュータ1 0 0は、演出態様として「カウントダウン」が決定されていることにもとづいて、図5 1（

6) に示すように、演出図柄の変動表示中に、演出表示装置 9 の表示画面において「カウント 2!」などの文字列を表示して継続してカウントダウンしているような態様の演出が実行される(ステップ S 1848 参照)。そして、変動時間が終了して図柄確定指定コマンドを受信すると、図 51(7) に示すように、最終停止図柄(図 51(7) でははずれ図柄)を停止表示する(ステップ S 853 参照)。

【0395】

次いで、演出制御用マイクロコンピュータ 100 は、変動パターンコマンドや表示結果指定コマンド、第 1 保留記憶数指定コマンドを受信して、図 51(8) に示すように、第 1 保留記憶表示部 18c における第 1 保留記憶数の表示を 1 減らし(ステップ S 653 参照)、次の演出図柄の変動表示を開始する。また、演出制御用マイクロコンピュータ 100 は、演出態様として「カウントダウン」が決定されていることにもとづいて、図 51(8) に示すように、演出図柄の変動表示中に、演出表示装置 9 の表示画面において「カウント 1!」などの文字列を表示して継続してカウントダウンしているような態様の演出が実行される(ステップ S 1848 参照)。そして、変動時間が終了して図柄確定指定コマンドを受信すると、図 51(9) に示すように、最終停止図柄(図 51(9) でははずれ図柄)を停止表示する(ステップ S 853 参照)。

【0396】

以上の態様で、入賞時判定の対象となった始動入賞にもとづく変動表示が開始されるまで、同様の演出態様で連続予告演出が実行される。

【0397】

次に、図 52 を参照して「保留球変化」の連続予告演出の演出態様の具体例を説明する。図 52 に示す例では、まず、図 52(1) に示すように第 1 特別図柄の変動表示に同期して演出図柄の変動表示を実行しているときに、図 52(2) に示すように第 1 始動入賞口 13 に始動入賞があったものとする。この場合、遊技制御用マイクロコンピュータ 560 は、新たに始動入賞があったことにもとづいて入賞時演出処理を実行する(ステップ S 217A 参照)。そして、入賞時判定結果に応じた入賞時判定結果指定コマンドを演出制御用マイクロコンピュータ 100 に送信する(ステップ S 218A 参照)。また、遊技制御用マイクロコンピュータ 560 は、更新後の第 1 保留記憶数指定コマンドを送信し(ステップ S 218A 参照)、演出制御用マイクロコンピュータ 100 は、図 52(2) に示すように、受信した第 1 保留記憶数指定コマンドにもとづいて、第 1 保留記憶表示部 18c における第 1 保留記憶数の表示を 1 増やす(ステップ S 653 参照)。そして、図 52(3) に示すように、変動時間が終了して図柄確定指定コマンドを受信し、はずれ図柄を停止表示したものとする(ステップ S 853 参照)。

【0398】

次いで、演出制御用マイクロコンピュータ 100 は、変動パターンコマンドや表示結果指定コマンド、第 1 保留記憶数指定コマンドを受信して、図 52(4) に示すように、第 1 保留記憶表示部 18c における第 1 保留記憶数の表示を 1 減らし(ステップ S 653 参照)、次の演出図柄の変動表示を開始する。この場合、演出制御用マイクロコンピュータ 100 は、入賞時判定結果指定コマンドを受信したことにもとづいて、連続予告決定処理(ステップ S 8020 参照)で連続予告演出の実行を決定するとともに連続予告演出の演出態様として「保留球変化」を決定したものとする。また、演出制御用マイクロコンピュータ 100 は、連続予告演出の演出態様として「保留球変化」が決定されていることにもとづいて、図 52(4) に示すように、演出図柄の変動表示中に、第 1 保留記憶表示部 18c において入賞時判定の対象となった第 1 保留記憶数の表示を通常とは異なる態様の表示(図 52(4) に示す例では星形表示)に変更する(ステップ S 1848 参照)。なお、図 52 に示す例では、入賞時判定を行った後、次に開始される変動表示時から「保留球変化」の演出態様の連続予告演出を開始する場合を示しているが、入賞時判定結果指定コマンドを受信したときに、入賞時判定の対象となった第 1 保留記憶数の表示を通常とは異なる態様の表示に変更して連続予告演出を開始するようにしてもよい。そして、変動時間が終了して図柄確定指定コマンドを受信すると、図 52(5) に示すように、最終停止図

10

20

30

40

50

柄（図５２（５）でははずれ図柄）を停止表示する（ステップＳ８５３参照）。なお、図５２（５）に示すように、第１保留記憶表示部１８ｃにおいて入賞時判定の対象となった第１保留記憶数の表示については、継続して通常とは異なる態様の表示（図５２（５）に示す例では星形表示）とする。

【０３９９】

次いで、演出制御用マイクロコンピュータ１００は、変動パターンコマンドや表示結果指定コマンド、第１保留記憶数指定コマンドを受信して、図５２（６）に示すように、第１保留記憶表示部１８ｃにおける第１保留記憶数の表示を１減らし（ステップＳ６５３参照）、次の演出図柄の変動表示を開始する。また、演出制御用マイクロコンピュータ１００は、演出態様として「保留球変化」が決定されていることにもとづいて、図５２（６）に示すように、演出図柄の変動表示中に、第１保留記憶表示部１８ｃにおいて入賞時判定の対象となった第１保留記憶数の表示を通常とは異なる態様の表示（図５２（６）に示す例では星形表示）を継続する（ステップＳ１８４８参照）。そして、変動時間が終了して図柄確定指定コマンドを受信すると、図５２（７）に示すように、最終停止図柄（図５２（７）でははずれ図柄）を停止表示する（ステップＳ８５３参照）。なお、図５２（７）に示すように、第１保留記憶表示部１８ｃにおいて入賞時判定の対象となった第１保留記憶数の表示については、継続して通常とは異なる態様の表示（図５２（７）に示す例では星形表示）とする。

【０４００】

次いで、演出制御用マイクロコンピュータ１００は、変動パターンコマンドや表示結果指定コマンド、第１保留記憶数指定コマンドを受信して、図５２（８）に示すように、第１保留記憶表示部１８ｃにおける第１保留記憶数の表示を１減らし（ステップＳ６５３参照）、次の演出図柄の変動表示を開始する。また、演出制御用マイクロコンピュータ１００は、演出態様として「保留球変化」が決定されていることにもとづいて、図５２（８）に示すように、演出図柄の変動表示中に、第１保留記憶表示部１８ｃにおいて入賞時判定の対象となった第１保留記憶数の表示を通常とは異なる態様の表示（図５２（８）に示す例では星形表示）を継続する（ステップＳ１８４８参照）。そして、変動時間が終了して図柄確定指定コマンドを受信すると、図５２（９）に示すように、最終停止図柄（図５２（９）でははずれ図柄）を停止表示する（ステップＳ８５３参照）。なお、図５２（９）に示すように、第１保留記憶表示部１８ｃにおいて入賞時判定の対象となった第１保留記憶数の表示については、継続して通常とは異なる態様の表示（図５２（９）に示す例では星形表示）とする。

【０４０１】

以上の態様で、入賞時判定の対象となった始動入賞にもとづく変動表示が開始されるまで、同様の演出態様で連続予告演出が実行される。

【０４０２】

また、この実施の形態では、変動パターンとして擬似連を伴う変動パターン（図６に示す非リーチＰＡ１－４、ノーマルＰＢ２－１、ノーマルＰＢ２－２、スーパーＰＡ３－１、スーパーＰＡ３－２、ノーマルＰＢ２－３、ノーマルＰＢ２－４、スーパーＰＡ３－３、スーパーＰＡ３－４、特殊ＰＧ１－３）が決定された場合には、演出図柄の変動表示中に擬似連の演出が実行される場合がある。図５３は、擬似連の演出態様の具体例を示す説明図である。なお、図５３において、（１）（２）（３）・・・の順に演出画面の態様が遷移する。また、図５３に示す例では、第１特別図柄の変動表示に同期して演出図柄の変動表示を実行しているときに擬似連を行う場合を示しているが、第２特別図柄の変動表示に同期して演出図柄の変動表示を実行しているときに擬似連を行う場合も同様の演出態様で擬似連が実行される。

【０４０３】

図５３に示す例では、まず、図５３（１）に示すように第１特別図柄の変動表示に同期して演出図柄の変動表示を実行しているときに、図５３（２）に示すように第１始動入賞口１３に始動入賞があったものとする。この場合、遊技制御用マイクロコンピュータ５６

0 は、新たに始動入賞があったことにもとづいて、更新後の第 1 保留記憶数指定コマンドを送信する（ステップ S 2 1 8 A 参照）。また、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、図 5 3（2）に示すように、受信した第 1 保留記憶数指定コマンドにもとづいて、第 1 保留記憶表示部 1 8 c における第 1 保留記憶数の表示を 1 増やす（ステップ S 6 5 3 参照）。そして、図 5 3（3）に示すように、変動時間が終了して図柄確定指定コマンドを受信し、はずれ図柄を停止表示したものとする（ステップ S 8 5 3 参照）。

【0404】

次いで、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、変動パターンコマンドや表示結果指定コマンド、第 1 保留記憶数指定コマンドを受信して、図 5 3（4）に示すように、第 1 保留記憶表示部 1 8 c における第 1 保留記憶数の表示を 1 減らし（ステップ S 6 5 3 参照）、次の演出図柄の変動表示を開始する。この場合、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、擬似連を伴う変動パターンを指定する変動パターンコマンドを受信したものである。また、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、擬似連を伴う変動パターンを指定する変動パターンコマンドを受信したことにもとづいて、演出図柄の仮停止図柄としてチャンス目図柄を決定する。そして、図 5 3（5）に示すように、仮停止図柄の仮停止タイミングとなると、チャンス目図柄を仮停止表示する。

【0405】

次いで、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、図 5 3（6）に示すように、演出図柄の再変動を開始する。この場合、図 5 3（6）に示すように、演出図柄の再変動の開始時に演出表示装置 9 の表示画面の上方においてフラッシュが光るような態様の表示を行うなど所定演出を行う。なお、再変動の開始時に行う所定演出は、図 5 3 に示す態様のものにかぎらず、例えば、演出表示装置 9 の上方、下方または側方に設けられた可動部材（例えば、キャラクタなどを模した形状の可動物）を再変動の開始時に可動させたり、再変動の開始時に所定のランプの点灯または点滅表示を行ったりしてもよい。また、例えば、再変動の開始時に図柄の変動の開始のさせ方を通常と異ならせてもよい。例えば、左中右の演出図柄を通常は同時に変動開始させているものを左中右の演出図柄の変動をそれぞれ異なるタイミングで開始させたり、一度上方向（または下方向）に変動を開始するように見せて下方向（または上方向）に変動を開始するようにしてもよい。また、逆に、図 5 3（5）において図柄の変動の仮停止のさせ方を通常と異ならせてもよい。例えば、通常は左、右、中の順に図柄を停止させているのを左、中、右の順に図柄を仮停止させるなど図柄の仮停止順などを通常と異ならせてもよい。なお、新たな変動を開始する場合ではないので、図 5 3（6）に示すように、第 1 保留記憶表示部 1 8 c における第 1 保留記憶数の表示は変化しない。

【0406】

そして、図 5 3（7）に示すように、演出図柄の変動表示を実行し（ステップ S 1 8 4 5 参照）、図 5 3（8）に示すように、次の仮停止図柄の仮停止タイミングとなると、チャンス目図柄を仮停止表示する。

【0407】

次いで、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、図 5 3（9）に示すように、演出図柄の再変動を開始する。この場合、図 5 3（9）に示すように、演出図柄の再変動の開始時に演出表示装置 9 の表示画面の上方においてフラッシュが光るような態様の表示を行うなど所定演出を行う。

【0408】

以上の態様でチャンス目図柄の仮停止表示と再変動とが繰り返し実行されることによって擬似連の演出が実行される。このように、この実施の形態では、図 4 9 に示す「図柄変動時の変動形態の変化」の連続予告演出と図 5 3 に示す擬似連の演出とが共通の演出態様で実行される。従って、同じ態様の演出が実行される場合であっても、遊技者に対して連続予告演出かもしれないし擬似連かもしれないとの期待感を与えることができ、遊技に対する興趣を向上させることができる。

【0409】

次に、連続予告演出の実行タイミングについて説明する。図54は、連続予告演出の実行タイミングを示す説明図である。図54に示す例では、特別図柄および演出図柄の変動表示中に新たな始動入賞が発生した場合を示している。なお、図54に示す例では、一例として、「図柄変動時の変動形態の変化」の連続予告演出を実行する場合を示しているが、他の演出態様の連続予告演出を実行する場合の実行タイミングも同様である。

【0410】

遊技制御用マイクロコンピュータ560は、第1始動入賞口13または第2始動入賞口14への新たな始動入賞を検出すると(ステップS311, S313参照)、入賞時演出処理(ステップS217A, S217B参照)を実行し入賞時判定を行う。なお、第1始動入賞口13への新たな始動入賞を検出した場合には、高ベース状態(確変状態や時短状態)でなく、大当たり遊技状態でもないことを条件に(ステップS215A, S216A参照)、入賞時演出処理を実行し入賞時判定を行う。そして、入賞時判定の判定結果にもとづいて入賞時判定結果指定コマンドを送信する(ステップS218A, S218B参照)。

10

【0411】

次いで、演出制御用マイクロコンピュータ100は、変動パターンコマンドや表示結果指定コマンド、保留記憶数指定コマンド(第1保留記憶数指定コマンドまたは第2保留記憶数指定コマンド)を受信して、次の変動表示を開始する。この場合、演出制御用マイクロコンピュータ100は、入賞時判定結果指定コマンドを受信していることにもとづいて、連続予告決定処理(ステップS8020参照)および連続予告演出態様決定処理(ステップS8020B参照)を実行し、連続予告演出の有無および連続予告演出の演出態様を決定する。この場合、演出制御用マイクロコンピュータ100は、入賞時判定結果記憶バッファ(第1入賞時判定結果記憶バッファまたは第2入賞時判定結果記憶バッファ)から各入賞時判定結果を抽出し、入賞時判定結果が全て「非リーチはずれ」であることを条件に連続予告決定処理を実行する(ステップS8004, S8005参照)。図54に示すように、本例では、入賞時判定の対象となる変動表示より前に実行される3つの変動表示が全て「非リーチはずれ」であることにもとづいて、連続予告決定処理が実行され、「図柄変動時の変動形態の変化」の演出態様の連続予告演出を実行することが決定されたものとする。また、演出制御用マイクロコンピュータ100は、判定対象となった変動表示が開始されるまでに実行される変動表示の回数を特定し、特定した変動表示の回数(図54に示す例では「3」)を変動回数カウンタにセットする(ステップS8023参照)。

20

30

【0412】

次いで、演出制御用マイクロコンピュータ100は、連続予告演出の演出態様として「図柄変動時の変動形態の変化」が決定されていることにもとづいて、演出図柄の停止図柄としてチャンス目図柄を決定する(ステップS8031参照)。そして、変動時間が終了して図柄確定指定コマンドを受信し、図54に示すように、チャンス目図柄を停止表示する(ステップS853参照)。

【0413】

さらに次の変動表示を開始するときに、演出制御用マイクロコンピュータ100は、変動回数カウンタの値を1減算する(ステップS8025参照)。そして、変動回数カウンタの値が2であることにもとづいて、図54に示すように、演出図柄の変動開始時に演出表示装置9の表示画面の上方においてフラッシュが光るような態様の表示を行うなど所定演出を行う(ステップS1848参照)ことによって、連続予告演出を継続して実行する。そして、変動時間が終了して図柄確定指定コマンドを受信し、図54に示すように、チャンス目図柄を停止表示する(ステップS853参照)。

40

【0414】

さらに次の変動表示を開始するときに、演出制御用マイクロコンピュータ100は、変動回数カウンタの値を1減算する(ステップS8025参照)。そして、変動回数カウンタの値が1であることにもとづいて、図54に示すように、演出図柄の変動開始時に演出表示装置9の表示画面の上方においてフラッシュが光るような態様の表示を行うなど所定

50

演出を行う（ステップS 1 8 4 8 参照）ことによって、連続予告演出を継続して実行する。そして、変動時間が終了して図柄確定指定コマンドを受信し、図 5 4 に示すように、チャンス目図柄を停止表示する（ステップS 8 5 3 参照）。

【0 4 1 5】

そして、次の変動表示（入賞時判定の対象となった変動表示）を開始するときに、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、変動回数カウンタの値を 1 減算し（ステップS 8 0 2 5 参照）、変動回数カウンタの値が 0 になったことにもとづいて、セットされている連続予告実行中フラグをリセットして（ステップS 8 0 2 6 , S 8 0 2 7 ）、連続予告演出を終了する。

【0 4 1 6】

なお、この実施の形態では、図 5 4 に示すように、入賞時判定の対象となった変動表示の 1 つ前の変動表示までにおいて、その変動表示中に連続予告演出を行う場合を示しているが、入賞時判定の対象となった変動表示中においても連続予告演出を実行するようにしてもよい。なお、この実施の形態では、入賞時判定の対象となった変動表示においては連続予告演出を実行しないようにしているので、1 つの変動表示中に連続予告演出とスーパーリーチの演出との両方が実行されて、演出が慌ただしく不自然になることを防止している（特に、変動表示の終了間際に演出が慌ただしくなることを確実に防止している）。なお、入賞時判定の対象となった変動表示中においても連続予告演出を実行する場合には、その変動表示中のスーパーリーチの演出が実行される前に連続予告演出を実行し、連続予告演出が終了した後にスーパーリーチの演出を実行するようにすればよい。

【0 4 1 7】

一方、図 5 5 は、入賞時判定の対象となる変動表示より前に実行される変動表示中にリーチを伴う変動表示が含まれる場合の変動表示の実行タイミングを示す説明図である。

【0 4 1 8】

遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 は、第 1 始動入賞口 1 3 または第 2 始動入賞口 1 4 への新たな始動入賞を検出すると（ステップS 3 1 1 , S 3 1 3 参照）、入賞時演出処理（ステップS 2 1 7 A , S 2 1 7 B 参照）を実行し入賞時判定を行う。なお、第 1 始動入賞口 1 3 への新たな始動入賞を検出した場合には、高ベース状態（確変状態や時短状態）でなく、大当たり遊技状態でもないことを条件に（ステップS 2 1 5 A , S 2 1 6 A 参照）、入賞時演出処理を実行し入賞時判定を行う。そして、入賞時判定の判定結果にもとづいて入賞時判定結果指定コマンドを送信する（ステップS 2 1 8 A , S 2 1 8 B 参照）。

【0 4 1 9】

次いで、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、変動パターンコマンドや表示結果指定コマンド、保留記憶数指定コマンド（第 1 保留記憶数指定コマンドまたは第 2 保留記憶数指定コマンド）を受信して、次の変動表示を開始する。この場合、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、入賞時判定結果指定コマンドを受信していることにもとづいて、連続予告決定処理（ステップS 8 0 2 0 参照）および連続予告演出態様決定処理（ステップS 8 0 2 0 B 参照）を実行し、連続予告演出の有無および連続予告演出の演出態様を決定する。この場合、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、入賞時判定結果記憶バッファ（第 1 入賞時判定結果記憶バッファまたは第 2 入賞時判定結果記憶バッファ）から過去の各入賞時判定結果を抽出し、入賞時判定結果が全て「非リーチはずれ」であることを条件に連続予告決定処理を実行する（ステップS 8 0 0 4 , S 8 0 0 5 参照）。図 5 5 に示すように、本例では、入賞時判定の対象となる変動表示より 2 つ前に実行される変動表示においてリーチ演出（ノーマルリーチでもスーパーリーチでもよい）が実行される。従って、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、連続予告決定処理を実行することなく、図 5 5 に示すように、以降に実行される各変動表示において連続予告演出を実行しない。

【0 4 2 0】

また、この実施の形態では、遊技状態が通常状態（低ベース状態）である場合には可変

10

20

30

40

50

入賞球装置 15 が開放状態となる頻度が極めて低く、遊技状態が確変状態や時短状態（高ベース状態）である場合には可変入賞球装置が開放状態となる頻度が高められる。そのため、遊技状態が通常状態である場合には、第 2 始動入賞口 14 に遊技球が始動入賞することは希であり、主として第 1 特別図柄の変動表示が連続して実行される。また、遊技状態が確変状態や時短状態である場合には、第 2 始動入賞口 14 に遊技球が始動入賞する頻度が高くなるとともに、第 2 特別図柄の変動表示が優先実行されることから、主として第 2 特別図柄の変動表示が連続して実行される。しかし、遊技状態が通常状態である場合であっても、低い頻度であるものの第 2 始動入賞口 14 に遊技球が始動入賞し、第 2 特別図柄の変動表示が実行される場合がある。この場合、第 1 始動入賞口 13 への始動入賞に対する入賞時判定結果にもとづいて連続予告演出を実行している途中に第 2 始動入賞口 14 への始動入賞があると、連続予告演出の途中で第 2 特別図柄の変動表示が割り込んでくることになる。そこで、この実施の形態では、連続予告演出の途中で第 2 特別図柄の変動表示が割り込む場合には連続予告演出の設定をクリアして、連続予告演出を中断するように制御する。

10

【0421】

以下、連続予告演出を中断する場合の演出タイミングについて説明する。図 56 および図 57 は、連続予告演出の設定をクリアして、連続予告演出を中断する場合の演出タイミングを示す説明図である。このうち、図 56 は、連続予告演出を中断した後に、連続予告演出を再設定して連続予告演出の実行を再開する場合の演出タイミングを示す。また、図 57 は、連続予告演出を中断した後に、連続予告演出の再設定がされず連続予告演出の実行を再開しない場合の演出タイミングを示す。

20

【0422】

なお、図 56 および図 57 に示す例では、一例として、「図柄変動時の変動形態の変化」の連続予告演出を実行する場合を示しているが、他の演出態様の連続予告演出を実行する場合の演出タイミングも同様である。また、図 56 および図 57 に示す例において、連続予告演出の実行中における第 2 始動入賞口 14 への始動入賞は、変動表示結果として非リーチはずれまたはリーチはずれと決定されるものとする。

【0423】

まず、図 56 を参照して、連続予告演出を中断した後に、連続予告演出を再設定して連続予告演出の実行を再開する場合の演出タイミングを説明する。

30

【0424】

遊技制御用マイクロコンピュータ 560 は、第 1 始動入賞口 13 への新たな始動入賞を検出すると（ステップ S311 参照）、入賞時演出処理（ステップ S217A 参照）を実行し入賞時判定を行う。そして、「非リーチはずれ」、「スーパーリーチはずれ」または「スーパーリーチ大当たり」になると判定し、入賞時判定結果指定コマンドを送信する（ステップ S218A 参照）。

【0425】

次いで、変動パターンコマンドや表示結果指定コマンド、第 1 保留記憶数指定コマンドを受信して、次の変動表示を開始する。この場合、演出制御用マイクロコンピュータ 100 は、入賞時判定結果指定コマンドを受信していることにもとづいて、連続予告決定処理（ステップ S8020 参照）で連続予告演出の実行を決定するとともに連続予告演出の演出態様として「図柄変動時の変動形態の変化」を決定したものとする。また、演出制御用マイクロコンピュータ 100 は、連続予告演出の演出態様として「図柄変動時の変動形態の変化」が決定されていることにもとづいて、演出図柄の停止図柄としてチャンス目図柄を決定する（ステップ S8031 参照）。そして、変動時間が終了して図柄確定指定コマンドを受信し、図 56 に示すように、チャンス目図柄を停止表示する（ステップ S853 参照）。

40

【0426】

さらに次の変動表示を開始するとき、演出制御用マイクロコンピュータ 100 は、図 56 に示すように、演出図柄の変動開始時に演出表示装置 9 の表示画面の上方においてフ

50

ラッシュが光るような態様の表示を行うなど所定演出を行う（ステップS 1 8 4 8 参照）ことによって、連続予告演出を継続して実行する。そして、変動時間が終了して図柄確定指定コマンドを受信し、図 5 6 に示すように、チャンス目図柄を停止表示する（ステップ S 8 5 3 参照）。

【 0 4 2 7 】

ここで、図 5 6 に示すように、連続予告演出の実行中に第 2 始動入賞口 1 4 への始動入賞が発生したとする。このような場合、この実施の形態では、図 5 6 に示すように、第 2 特別図柄の変動表示が優先して実行されてしまう。そこで、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、連続予告演出の実行中であっても、第 2 始動入賞口 1 4 への始動入賞が発生したタイミングで連続予告実行中フラグおよび変動回数カウンタをリセットし、連続予告演出を中断するように制御する（ステップ S 6 5 6 B 参照）。なお、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、連続予告演出の中断中に、第 2 特別図柄の変動表示に同期して演出図柄の変動表示を行う場合には、その変動表示中には他の予告演出を実行しないように制御する（ステップ S 8 0 3 2 の Y 参照）。

【 0 4 2 8 】

そして、第 2 特別図柄の変動表示を終了して、第 1 特別図柄の変動表示が実行される状態に復帰すると、連続予告決定処理（ステップ S 8 0 2 0 参照）を再度実行し、連続予告演出を実行するか否かを決定する。そして、連続予告演出を実行すると決定した場合には、再び連続予告実行中フラグをセットするとともに変動回数カウンタをセットし（ステップ S 8 0 2 2 , S 8 0 2 3 参照）、連続予告演出が再開される。具体的には、「図柄変動時の変動形態の変化」の演出態様の連続予告演出が再設定された場合には、図 5 6 に示すように、次の第 1 特別図柄の変動表示に同期して演出図柄の変動表示を開始するときに、演出表示装置 9 の表示画面の上方においてフラッシュが光るような態様の表示を行うなど所定演出を行う（ステップ S 1 8 4 8 参照）ことによって、連続予告演出を再開する。そして、変動時間が終了して図柄確定指定コマンドを受信し、図 5 6 に示すように、チャンス目図柄を停止表示する（ステップ S 8 5 3 参照）。

【 0 4 2 9 】

なお、中断前に実行されていた連続予告演出と再開後に実行される連続予告演出とで異なる演出態様の連続予告演出を実行してもよい。また、中断前に実行されていた連続予告演出の演出態様を記憶しておき、第 2 特別図柄の変動表示を終了して連続予告演出を再開する場合には、必ず中断前と同じ演出態様の連続予告演出を実行するようにしてもよい。

【 0 4 3 0 】

次に、図 5 7 を参照して、連続予告演出を中断した後に、連続予告演出の再設定がされず連続予告演出の実行を再開しない場合の演出タイミングを説明する。

【 0 4 3 1 】

遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 は、第 1 始動入賞口 1 3 への新たな始動入賞を検出すると（ステップ S 3 1 1 参照）、入賞時演出処理（ステップ S 2 1 7 A 参照）を実行し入賞時判定を行う。そして、「非リーチはずれ」、「スーパーリーチはずれ」または「スーパーリーチ大当たり」になると判定し、入賞時判定結果指定コマンドを送信する（ステップ S 2 1 8 A 参照）。

【 0 4 3 2 】

次いで、変動パターンコマンドや表示結果指定コマンド、第 1 保留記憶数指定コマンドを受信して、次の変動表示を開始する。この場合、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、入賞時判定結果指定コマンドを受信していることにもとづいて、連続予告決定処理（ステップ S 8 0 2 0 参照）で連続予告演出の実行を決定するとともに連続予告演出の演出態様として「図柄変動時の変動形態の変化」を決定したものとする。また、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、連続予告演出の演出態様として「図柄変動時の変動形態の変化」が決定されていることにもとづいて、演出図柄の停止図柄としてチャンス目図柄を決定する（ステップ S 8 0 3 1 参照）。そして、変動時間が終了して図柄確定指定コマンドを受信し、図 5 7 に示すように、チャンス目図柄を停止表示する（ステップ S 8 5 3

10

20

30

40

50

参照)。

【0433】

さらに次の変動表示を開始するとき、演出制御用マイクロコンピュータ100は、図57に示すように、演出図柄の変動開始時に演出表示装置9の表示画面の上方においてフラッシュが光るような態様の表示を行うなど所定演出を行う(ステップS1848参照)ことによって、連続予告演出を継続して実行する。そして、変動時間が終了して図柄確定指定コマンドを受信し、図57に示すように、チャンス目図柄を停止表示する(ステップS853参照)。

【0434】

ここで、図57に示すように、連続予告演出の実行中に第2始動入賞口14への始動入賞が発生したとする。このような場合、この実施の形態では、図57に示すように、第2特別図柄の変動表示が優先して実行されてしまう。そこで、演出制御用マイクロコンピュータ100は、連続予告演出の実行中であっても、第2始動入賞口14への始動入賞が発生したタイミングで連続予告実行中フラグおよび変動回数カウンタをリセットし、連続予告演出を中断するように制御する(ステップS656B参照)。なお、演出制御用マイクロコンピュータ100は、連続予告演出の中断中に、第2特別図柄の変動表示に同期して演出図柄の変動表示を行う場合には、その変動表示中には他の予告演出を実行しないように制御する(ステップS8032のY参照)。

【0435】

そして、第2特別図柄の変動表示を終了して、第1特別図柄の変動表示が実行される状態に復帰すると、連続予告決定処理(ステップS8020参照)を再度実行し、連続予告演出を実行するか否かを決定する。ここで、図57に示す例では、連続予告演出を実行しないと決定されたものとする。そのように、第2の特別図柄の変動表示を終了したもの、連続予告演出を実行しないことに決定した場合には、連続予告演出の再設定は行われず、連続予告演出は再開されない(ステップS8021のN参照)。

【0436】

以上に説明したように、この実施の形態によれば、演出制御用マイクロコンピュータ100は、第1特別図柄の変動表示を対象とした連続予告演出の実行中に第2始動入賞口14に始動入賞したことにもとづいて、連続予告演出の設定を解除(連続予告実行中フラグおよび変動回数カウンタをリセット)する。また、連続予告演出の設定が解除された後、第2特別図柄の変動表示を終了して第1特別図柄の変動表示を実行可能な状態となったことを条件として、第1保留記憶にもとづく連続予告演出を新たに実行するか否かを決定する。なお、この場合、演出制御用マイクロコンピュータ100は、例えば、入賞時判定結果の中にスーパーリーチ大当りの判定結果が存在するか否かや、保留記憶数、遊技状態にもとづいて、連続予告演出を実行するか否かを決定する。そして、連続予告演出を新たに実行すると決定されたことにもとづいて、連続予告演出(連続予告実行中フラグおよび変動回数カウンタ)を新たに設定する。そのため、複数の特別図柄表示器8a, 8bを備えた遊技機において、連続予告演出の連続性を担保することにより連続予告演出の演出効果が低減することを防止し、連続予告演出を用いた遊技の興趣を向上させることができる。

【0437】

なお、この実施の形態では、連続予告演出の実行中に第2特別図柄の変動表示が割り込む場合に、連続予告演出の設定を一旦完全に解除することによって、連続予告演出を中断している。そのようにすることによって、第2特別図柄の変動表示を終了した後に、連続予告演出を実行(再開)すると決定していないにもかかわらず、誤って連続予告演出を再開してしまう事態を確実に防止している。例えば、誤って連続予告演出が再開されてしまうことにより「非リーチ」であるにもかかわらず連続予告演出の再開頻度が高くなる事態を防止することができ、必要以上に遊技者の射幸心を煽る事態を防止することができる。また、割り込んで実行される第2特別図柄の変動表示中に誤って連続予告演出を実行してしまう事態を防止することができる。

【0438】

なお、この実施の形態では、連続予告演出の実行中に第2始動入賞口14に始動入賞したタイミングで連続予告演出の設定を解除する場合を説明したが、連続予告演出の設定を解除するタイミングは、この実施の形態で示したものにきぎられない。例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100は、連続予告演出の実行中に第2始動入賞口14に始動入賞した後、第2特別図柄の変動表示を開始するタイミングで連続予告演出の設定を解除するようにしてもよい。

【0439】

図58は、第2特別図柄の変動表示を開始するタイミングで連続予告演出の設定を解除する場合の演出図柄変動開始処理(ステップS801)を示すフローチャートである。なお、図58に示す変形例において、ステップS8001~S8023の処理およびステップS8024~S8038の処理は、図37~図39で示したそれらの処理と同様である。

10

【0440】

図58に示す変形例では、演出制御用CPU101は、特定した変動表示の回数を変動回数カウンタにセットすると(ステップS8023参照)、いずれかの第1連続予告実行中フラグがセットされているか否かを確認する(ステップS8023A)。いずれかの第1連続予告実行中フラグがセットされていれば(すなわち、第1特別図柄の変動を対象とした連続予告演出の実行中であれば)、演出制御用CPU101は、第2図柄変動指定コマンド受信フラグがセットされているか否かを確認する(ステップS8023B)。セットされていれば(すなわち、第2特別図柄の変動表示が開始される場合であれば)、演出制御用CPU101は、セットされている第1連続予告実行中フラグをリセットするとともに、変動回数カウンタの値をクリアする(ステップS8023C)。そして、演出制御用CPU101は、連続予告解除フラグをセットする(ステップS8023D)。

20

【0441】

また、この実施の形態では、連続予告演出を実行するか否かを決定する際に(再開するか否かを決定する場合も含む)、保留記憶数にもとづく連続予告演出の決定処理として、図40に示すような保留記憶数に応じて設けられた連続予告決定用テーブルを用いた処理を行う場合を示したが、この実施の形態で示した処理にかぎられない。例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100は、保留記憶数が所定数(例えば、2)以上であるか否かを判定し、所定数以上であれば連続予告演出決定の処理を行うようにし、所定数以上でなければ連続予告演出決定の処理を行わないように制御してもよい。

30

【0442】

図59は、保留記憶数が所定数以上であるか否かを判定して連続予告演出決定の処理を行う場合の演出図柄変動開始処理(ステップS801)を示すフローチャートである。図59に示す変形例では、演出制御用CPU101は、ステップS8001で連続予告実行中フラグがセットされていないと判定すると、保留記憶数が所定数(例えば、2)以上であるか否かを判定する(ステップS8001A)。この場合、演出制御用CPU101は、第1特別図柄の変動表示が開始される場合には、第1保留記憶数保存領域(ステップS652参照)に格納されている第1保留記憶数が所定数以上であるか否かを判定する。また、演出制御用CPU101は、第2特別図柄の変動表示が開始される場合には、第2保留記憶数保存領域(ステップS655参照)に格納されている第2保留記憶数が所定数以上であるか否かを判定する。そして、保留記憶数が所定数以上であれば、演出制御用CPU101は、ステップS8002以降の処理に移行し、連続予告演出決定の処理を実行する。一方、保留記憶数が所定数未満であれば、演出制御用CPU101は、ステップS8002以降の連続予告決定の処理を実行しないように制御する。なお、図59に示す変形例において、ステップS8002~S8038の処理は、図37~図39で示したそれらの処理と同様である。なお、連続予告演出を実行するか否かを再度判定した後(ステップS8002~S8021までの処理を実行した後)、保留記憶数が所定数以上であるか否かを判定するようにしてもよい。そして、保留記憶数が所定数(例えば、2)以上であると判定した場合に、ステップS8022の処理に移行して連続予告演出を再設定するよう

40

50

にしてもよい。

【 0 4 4 3 】

また、この実施の形態によれば、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、入賞時判定結果を記憶する入賞時判定結果記憶バッファ（図 3 4 参照）を備える。そして、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、入賞時判定結果記憶バッファが記憶する入賞時判定結果にもとづいて連続予告演出を新たに実行するか否かを決定する。そのため、入賞時判定結果記憶バッファが記憶する入賞時判定結果を用いることにより、連続予告演出を新たに実行するか否かを容易に決定することができ、処理の容易化を図ることができる。

【 0 4 4 4 】

また、この実施の形態によれば、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、入賞時判定結果が「非リーチ」を対象とする場合であっても、連続予告演出を実行すると決定可能である。さらに、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、第 2 特別図柄の変動表示が割り込んで連続予告演出が中断された後に、連続予告演出を再開するか否かを決定する際にも、入賞時判定結果が「非リーチ」を対象とする場合であっても、連続予告演出を実行すると決定可能である。この場合、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、連続予告演出を再開する場合には、入賞時判定結果が「スーパーリーチ大当たり」である変動に対して高い割合で連続予告演出を実行すると決定する。そのため、連続予告演出が一度途切れた後に連続予告演出が再開される場合には、大当たりとなることに対する期待感をより高めることができ、連続予告演出を用いた遊技の興趣をより向上させることができる。

【 0 4 4 5 】

また、この実施の形態によれば、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、遊技状態が時短状態に制御されているときに、R A M（電源バックアップなし）に記憶する変動表示の実行回数にもとづいて、入賞時判定の判定対象となった権利（保留記憶）により行われる変動表示が、時短状態が終了するまでに実行される変動表示の残り回数が保留記憶の上限数（例えば「8」）以下となる期間に始動入賞した権利（保留記憶）にもとづいて実行される変動表示であると判断した場合には、先読み予告の実行を制限した連続予告振分テーブル D を用いて先読み予告を実行するか否かを決定する。そのため、時短状態の残り回数が少ない場合に、入賞時判定の判定結果と実際の変動開始時の決定結果との整合がとれなくなる事態を防止し、先読み予告を適切に行えない事態を防止することができる。

【 0 4 4 6 】

また、この実施の形態によれば、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、時短状態を終了した後に、R A M（電源バックアップなし）に記憶する変動表示の実行回数にもとづいて、入賞時判定の判定対象となった権利（保留記憶）により行われる変動表示が、時短状態が終了した後に実行された変動表示の実行回数が保留記憶の上限数（例えば「8」）となるまでの期間に始動入賞した権利（保留記憶）にもとづいて実行される変動表示であると判断した場合には、先読み予告の実行を制限した連続予告振分テーブル E を用いて先読み予告を実行するか否かを決定する。そのため、時短状態の終了直後である場合に、先読み予告の連続性が損なわれる事態を防止し、先読み予告を適切に行えない事態を防止することができる。

【 0 4 4 7 】

さらに、この実施の形態によれば、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、遊技状態が時短状態に制御されているときに、遊技機への電力供給が停止した後に電力供給が再開された場合には、時短状態が終了するまで先読み予告の実行を制限した連続予告振分テーブル D を用いて先読み予告を実行するか否かを決定する。そのため、停電復旧時に入賞時判定の判定結果と実際の変動開始時の決定結果との整合がとれなくなる事態を防止し、先読み予告を適切に行えない事態を防止することができる。

【 0 4 4 8 】

従って、この実施の形態によれば、時短状態の残り回数が少ない場合や、時短状態の終了直後である場合、停電復旧が行われた場合であっても、遊技者の期待感を損なうことなく先読み予告を行うことができる。

【 0 4 4 9 】

また、この実施の形態によれば、先読み予告の実行を制限した連続予告振分テーブルD、E以外の連続予告振分テーブルA～Cは、入賞時判定によってスーパーリーチを伴う変動パターンとなると判定された場合に、先読み予告の演出態様として「カウントダウン」の演出態様を決定可能に割り振られている。そのため、スーパーリーチとなることが確定する「カウントダウン」の演出態様の先読み予告を設けることによって、遊技に対する興趣を向上させることができる。また、先読み予告の実行を制限した連続予告振分テーブルD、Eは、入賞時判定によってスーパーリーチの変動パターンとなると判定された場合であっても、先読み予告の演出態様として「カウントダウン」の演出態様を決定不能に割り振られている。そのため、時短状態の残り回数が少ない場合や停電復旧が行われた場合に、「カウントダウン」の演出態様の先読み予告が実行されたにもかかわらずスーパーリーチを伴う変動表示が実行されない不整合が生じることを防止することができる。さらに、時短状態の残り回数が少ない場合や停電復旧が行われた場合であっても、先読み予告が全く実行されなくなるのではなく、「カウントダウン」の演出態様以外の演出態様（例えば、「保留球変化」の演出態様）で先読み予告が実行される場合がある。そのため、遊技者の期待感を必要以上に損ねることを防止することができる。

10

【 0 4 5 0 】

また、この実施の形態によれば、演出制御用マイクロコンピュータ100は、1の権利（保留記憶）により行われる変動表示が開始されるまでに実行される全ての変動表示について、入賞時判定において「非リーチはずれ」になると判定されていることを条件に、先読み予告（連続予告演出）を実行する。そのため、変動パターンや変動パターンを選択するためのテーブル（変動パターン種別判定テーブルや変動パターン判定テーブル）などを変更する複雑な処理を行わなくても、先読み予告（連続予告演出）の実行中にリーチ演出表示が割り込んで先読み予告（連続予告演出）の連続性が損なわれる事態を防止することができる。従って、変動パターンの決定処理を複雑化させることなく、遊技者の大当りに対する期待感を高めることができる。

20

【 0 4 5 1 】

例えば、先読み予告（連続予告演出）の連続性が損なわれる事態を防止するためには、先読み予告（連続予告演出）を実行することを決定した後に、その対象となった変動表示が開始される前に実行される変動表示においてリーチ演出が行われないように、変動パターン種別決定テーブルや変動パターン決定テーブルを変更して変動パターンを決定するように構成することも考えられる。しかし、そのように構成した場合には、変動パターン種別決定テーブルや変動パターン決定テーブルの変更処理が発生し、変動パターンの決定処理が複雑化してしまう。これに対して、この実施の形態によれば、入賞時判定の対象となる変動表示が開始される前の全ての変動表示について「非リーチはずれ」となることを条件に、先読み予告（連続予告演出）を実行するように構成したので、変動パターン種別決定テーブルや変動パターン決定テーブルの変更処理を不要としている。従って、変動パターンの決定処理を複雑化させることなく、遊技者の大当りに対する期待感を高めることができる。

30

【 0 4 5 2 】

また、この実施の形態によれば、第1始動入賞口13に遊技球が始動入賞したときに、第1保留記憶に対して行われる第1特別図柄の可変表示の表示結果が大当たりとなるか否かを判定し、第2始動入賞口14に遊技球が始動入賞したときに、第2保留記憶に対して行われる第2特別図柄の可変表示の表示結果が大当たりとなるか否かを判定する。また、第1保留記憶または第2保留記憶として1の保留記憶が記憶された後、該1の保留記憶に対して行われる可変表示が開始されるまでに、該1の保留記憶についての入賞時判定の判定結果にもとづいて、遊技機に設けられた所定の演出手段（例えば、演出表示装置9）を用いて該1の保留記憶についての先読み予告（連続予告演出）を実行する。この場合に、この実施の形態では、大当たり遊技状態である場合には、第1始動入賞口13に始動入賞したことにもとづく入賞時判定の実行を制限するように制御する。また、高ベース状態（確変状

40

50

態や時短状態)である場合にも、第1始動入賞口13に始動入賞したことにもとづく入賞時判定の実行を制限するように制御する。そのため、大当り遊技状態中や高ベース状態中に第1特別図柄の可変表示の表示結果が大当りとなる可能性を認識できないようにすることによって、大当りとなると判定された第1特別図柄の可変表示をストックした状態で第2特別図柄の可変表示を連続して実行されることを防止し、遊技者の射幸心を過度に刺激することを防止することができる。

【0453】

例えば、この実施の形態で示したように複数の特別図柄表示器8a, 8bを備え、大当り遊技終了後に高ベース状態(確変状態や時短状態)に移行し、第2特別図柄の変動表示を優先実行する場合には、先読み予告(連続予告演出)を実行可能に構成すると、大当り遊技中や高ベース状態中に第1始動入賞口13に遊技球が始動入賞したことにもとづき先読み予告を実行してしまうと、その第1特別図柄の変動表示結果が大当りとなる可能性が高いことを遊技者に認識されてしまう。この実施の形態では、大当り遊技終了後に高ベース状態に移行した場合には第2始動入賞口14への始動入賞がしやすくなるとともに第2特別図柄の変動表示が優先して実行されるのであるから、第1特別図柄について大当りとなる保留記憶を残したままの状態、第2始動入賞口14への始動入賞が途切れないようにして第2特別図柄の変動表示を連続して実行することができる。すなわち、先読み予告が実行されることにより認識できた大当りをストックしたまま遊技を継続することが可能となってしまう、先読み予告が大当りをストックしている状態を示すストック的な演出として作用してしまう。すると、第2特別図柄の変動表示を途切れさせないようにして第2特別図柄についてさらに大当りが発生した場合には、ストック状態としている第1特別図柄についての大当りとあわせて連続大当りとなることが確定してしまう。このように、第2特別図柄についての保留記憶を途切れさせないようにすれば、遊技状態が高ベース状態であれば常に大当りを確保した状態で遊技を継続できてしまうのであるから、遊技者の射幸心を必要以上に煽る事態が生じてしまう。そこで、この実施の形態では、大当り遊技状態中や高ベース状態中に第1特別図柄の可変表示の表示結果が大当りとなる可能性を認識できないようにすることによって、遊技者の射幸心を必要以上に煽ることを防止している。

【0454】

なお、この実施の形態では、大当り遊技状態中や高ベース状態中である場合に入賞時判定を行わないようにする(ステップS215A, S216Aことによって、大当り遊技状態中や高ベース状態中である場合には先読み予告(連続予告演出)を行わないようにして、大当りとなる可能性を認識できないようにする場合を示したが、大当り遊技状態中や高ベース状態中である場合であっても入賞時判定を行って入賞時判定結果指定コマンドを送信するようにしてもよい。そして、演出制御用マイクロコンピュータ100側で大当り遊技状態中や高ベース状態中であるか否かを判断するようにし、大当り遊技状態中や高ベース状態中である場合には、入賞時判定結果指定コマンドを受信した場合であっても先読み予告(連続予告演出)を行わないように制御してもよい。

【0455】

また、この実施の形態によれば、第1特別図柄の可変表示を対象とした連続演出(連続予告演出)の実行中に第2特別図柄の可変表示が開始されたときには、予告演出の実行を禁止する。そのため、連続演出(連続予告演出)と他の予告演出とが混在して実行されて遊技者を混乱させる事態を防止することができる。

【0456】

また、この実施の形態によれば、第1始動入賞口13への始動入賞にもとづき第1特別図柄の変動表示を実行する場合には、第2始動入賞口14への始動入賞にもとづき第2特別図柄の変動表示を実行する場合と比較して、高い割合で小当りとすることに決定する。そのため、第2始動入賞口14への始動入賞にもとづく小当り遊技の発生頻度を抑えることによって、高ベース状態において突然確変大当り遊技を期待したにもかかわらず小当り遊技であったことが分かって遊技者を落胆させる状況が必要以上に発生する事態を抑制す

ることができ、遊技者が必要以上に不利益を受ける事態を防止することができる。

【 0 4 5 7 】

また、この実施の形態によれば、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 は、はずれ用変動パターン種別判定テーブルを用いて、演出図柄の変動パターン種別を、スーパーリーチを伴う変動パターンを含む変動パターン種別と、スーパーリーチを伴う変動パターンを含まない変動パターン種別とを含む複数種類の変動パターン種別のいずれかに決定する。そして、決定した変動パターン種別に含まれる変動パターンの中から演出図柄の変動パターンを決定する。この場合、はずれ用変動パターン種別判定テーブル 1 3 5 A , 1 3 5 B は、スーパーリーチを伴う変動パターンを含む変動パターン種別（スーパー C A 2 - 7 ）
10
に対しては、合算保留記憶数にかかわらず、共通の判定値（ 2 3 0 ~ 2 5 1 ）が割り当てられている。また、遊技状態が通常状態である場合に用いられるはずれ用変動パターン種別テーブル 1 3 5 A , 1 3 5 B は、非リーチの変動パターン種別（非リーチ C A 2 - 1 ）に対して、合算保留記憶数にかかわらず、共通の判定値（ 1 ~ 7 9 ）が割り当てられている。従って、スーパーリーチとなると判定したことにもとづき先読み予告（連続予告演出）を実行する場合に、保留記憶数によって不整合が生じないようにすることができる。また、スーパーリーチを伴う変動パターンとそれ以外の変動パターンとの振り分けを設計段階で容易に変更することができる。

【 0 4 5 8 】

例えば、この実施の形態では、特別図柄および演出図柄の変動開始時に変動パターンを決定し、決定した変動パターンに従って変動表示を行うことが前提であるが、始動入賞を
20
検出したタイミングで保留バッファに読み込んだ変動パターン種別判定用乱数（ランダム 2 ）中に、大当りに対する信頼度の高いスーパーリーチに対応する乱数値が含まれる場合には、そのスーパーリーチとなる変動表示が実行される以前の変動表示中に連続予告演出を実行する。この場合に、この実施の形態のようにはずれ用変動パターン種別判定テーブルを設計しておけば、連続予告演出を実行した場合には、必ずその予告した変動パターン種別に対応するスーパーリーチを伴う変動表示が実行されるので、その変動パターン種別に対応する予告演出を事前に実行することができる。

【 0 4 5 9 】

例えば、特開 2 0 0 5 - 2 7 8 6 6 3 号公報に記載された遊技機では、まず変動パターン種別を決定して、変動パターン種別に含まれる変動パターンのいずれかの変動パターン
30
に決定することが記載されているが、複数の変動パターン種別間に重複して含まれる変動パターンが存在する。そのため、連続予告演出を事前に実行した場合であっても、ノーマルリーチなど他の演出が実行されてしまう可能性があり、遊技者に対して不信感を与える可能性がある。遊技者に対して不信感を与えないようにしようとすると、せいぜいリーチが発生する旨の予告演出しか実行することができず（スーパーリーチなどより信頼度の高い演出の予告を行うことができず）、予告演出の効果が著しく減退してしまう。これに対して、この実施の形態によれば、スーパーリーチを伴う変動パターンを含む変動パターン種別に対しては、合算保留記憶数にかかわらず、共通の判定値が割り当てられているように構成されているので、より信頼度の高い連続予告演出を確実に実行することができ、遊
40
技者に対して不信感を与えることなく、予告演出の効果を高めることができる。

【 0 4 6 0 】

また、特開 2 0 0 5 - 2 7 8 6 6 3 号公報に記載された遊技機では、変動パターン種別間で共通に存在する変動パターンが含まれる。そのため、スーパーリーチの変動パターンなど特定の
50
変動パターンとそれ以外の変動パターンとの振り分けを設計段階で行う場合の作業が繁雑となる。すなわち、変動パターン種別に含まれる各変動パターンの変動パターン種別内における選択割合を変えことなく、特定の変動パターンの選択割合のみを変更したい場合であっても、複数の変動パターン種別内の選択割合を変更しなければならず、変動パターン種別間で変動パターンの出現率が異なってしまうことになる。これに対して、この実施の形態によれば、スーパーリーチの変動パターンなど特定の変動パターンとそれ以外の変動パターンとが複数の変動パターン種別間で共通に存在しないように構成され

ているので、変動パターンの出現率を容易に変更することができる。

【0461】

また、この実施の形態では、はずれ用変動パターン種別判定テーブルは、スーパーリーチ以外の変動パターン（ノーマルリーチや非リーチ）を含む変動パターン種別に対しては、合算保留記憶数に応じて異なる判定値が割り当てられている。例えば、この実施の形態では、合算保留記憶数が3以上である場合に選択されるはずれ用変動パターン種別判定テーブル（短縮用）135B（図10（B）参照）にのみ、短縮変動の変動パターン（非リーチPA1-2）を含む変動パターン種別（非リーチCA2-3）を選択する。そのため、保留記憶数（本例では、合算保留記憶数）が多いときには変動時間を平均して短くすることによって作動率を向上させることができる。すなわち、保留記憶が溜まっているときにスーパーリーチなど変動時間の長い変動表示を多く実行してしまうと、保留記憶がなかなか消化されず、無駄な保留記憶が生じてしまう恐れがあるが、保留記憶が多いときには変動時間を平均して短くして作動率を向上させている。逆に、保留記憶が少ないときには変動時間が短いと保留記憶が瞬く間に消化されて変動表示が途切れてしまう。そのため、この実施の形態では、保留記憶数が少ないときには短縮変動を行わないようにすることによって変動時間を平均して長くして変動表示が途切れにくくしている。従って、この実施の形態では、変動表示が途切れにくくしつつ保留記憶数によって不整合が生じないようにしている。

10

【0462】

また、この実施の形態によれば、演出図柄の可変表示が開始されてから表示結果が導出表示されるまでに一旦はずれとなる演出図柄を仮停止させた後に演出図柄の可変表示を再度実行する再変動を1回または複数回実行する複数種類の擬似連用の変動パターン（非リーチPA1-4、ノーマルPB2-1、ノーマルPB2-2、スーパーPA3-1、スーパーPA3-2、ノーマルPB2-3、ノーマルPB2-4、スーパーPA3-3、スーパーPA3-4、特殊PG1-3）を含む。そして、擬似連の演出が実行される場合と共通の演出態様で、先読み予告（連続予告演出）を実行する。そのため、同じ演出態様の演出が実行される場合であっても、擬似連の演出が実行されている場合と先読み予告が実行されている場合との両方の可能性を期待させることができ、遊技に対する興趣を向上させることができる。

20

【0463】

また、この実施の形態によれば、第1保留記憶または第2保留記憶として1の保留記憶が記憶された後、該1の保留記憶により行われる変動表示が開始されるまでの複数の演出図柄の可変表示にわたって、先読み予告（連続予告演出）を実行する。そして、1の保留記憶により行われる変動表示が開始されるまでの演出図柄の可変表示結果としてチャンス目図柄を導出表示し、1の保留記憶により行われる変動表示が開始されるまでの次の演出図柄の変動表示を開始するときに所定演出（例えば、演出図柄の変動開始時に演出表示装置9の表示画面の上方においてフラッシュが光るような態様の表示）を実行する。そのため、チャンス目図柄の導出表示と所定演出の実行とを用いた演出態様の先読み予告（連続予告演出）を実行する場合に、チャンス目図柄を早めに停止表示させるなどの時間調整を行う必要をなくすことができ、チャンス目図柄を導出表示する処理と所定演出を実行する処理とが重複して、処理の欠落が生じてしまうような事態を防止することができる。例えば、上記と同様の演出を行うためには、1回の変動表示中に、まずチャンス目図柄を停止表示してから、所定演出（例えば、演出図柄の変動開始時に演出表示装置9の表示画面の上方においてフラッシュが光るような態様の表示）を実行して変動表示を終了するようにすれば、図49と同様の演出態様の連続予告演出を実行することができる。しかし、そのように制御すると、変動表示の終了時間よりも少し早めにチャンス目図柄を仮停止表示させるなどの処理が必要となり、変動表示の終了時間までの時間調整が必要となってしまう。そこで、この実施の形態では、連続予告演出中の次の変動表示の開始時に所定演出を実行するようにすることによって、図49に示した演出態様の連続予告演出を時間調整などの煩雑な処理を行うことなく実行することを可能としている。

30

40

50

【 0 4 6 4 】

また、この実施の形態によれば、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 は、第 1 特別図柄表示器 8 a において第 1 特別図柄を可変表示するときと第 2 特別図柄表示器 8 b において第 2 特別図柄を可変表示するときとで、共通の処理に従って変動パターン種別を決定する。そして、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 は、第 1 特別図柄表示器 8 a において第 1 特別図柄を可変表示するときと第 2 特別図柄表示器 8 b において第 2 特別図柄を可変表示するときとで、共通の処理に従って、決定した変動パターン種別に含まれる変動パターンの中から演出図柄の変動パターンを決定する。そのため、複数の特別図柄表示器を備えた遊技機において、変動パターンを決定するためのプログラムやデータを格納する記憶領域の容量を削減することができる。

10

【 0 4 6 5 】

また、この実施の形態によれば、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 は、大当たりとするか否かとともに、1 5 ラウンド大当たりである通常大当たりや確変大当たりと 2 ラウンド大当たりである突然確変大当たりとのいずれとするかを、表示結果の導出表示以前に決定する。そして、第 1 特別図柄表示器 8 a において第 1 特別図柄を可変表示するときと第 2 特別図柄表示器 8 b において第 2 特別図柄を可変表示するときとで、異なる割合で 1 5 ラウンド大当たりと 2 ラウンド大当たりとのいずれに移行させるかを決定する。そのため、いずれの特別図柄の可変表示が実行されるかによって、移行される遊技状態の遊技価値を異ならせることができ、遊技の進行を多様化することができる。

20

【 0 4 6 6 】

また、この実施の形態によれば、変動開始前の始動入賞時のタイミングで、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 は、演出図柄の変動パターンがスーパーリーチを伴う変動パターンとなるか否かをあらかじめ判定する。そして、演出制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、スーパーリーチとなると入賞時判定されたことにもとづいて、そのスーパーリーチとなると判定された演出図柄の可変表示が開始される以前に、スーパーリーチとなることを報知する演出を実行可能である。そのため、その始動入賞に対応した可変表示よりも以前に、スーパーリーチとなることを報知することができ、遊技に対する興趣を向上させることができる。

【 0 4 6 7 】

また、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 は、はずれ用変動パターン種別判定テーブルを用いて変動パターン種別を決定して変動パターンを決定する。この場合、はずれ用変動パターン種別判定テーブルは、スーパーリーチを伴う変動パターンを含む変動パターン種別に対しては、合算保留記憶数にかかわらず、共通の判定値 (2 3 0 ~ 2 5 1) が割り当てられている。また、はずれ用変動パターン種別判定テーブルは、スーパーリーチ以外の変動パターン (ノーマルリーチや非リーチ) を含む変動パターン種別に対しては、合算保留記憶数に応じて異なる判定値が割り当てられている。そのため、合算保留記憶数が多くなるに従って可変表示時間の短い変動パターンを含む変動パターン種別に対する判定値の割合が多くなるように割り当てを行うことによって、可変表示の作動率が低下してしまう事態を極力防止することができる。

30

【 0 4 6 8 】

図 6 0 は、はずれ用変動パターン種別判定テーブルにおける判定値の割り当て状態を示す説明図である。この実施の形態では、合算保留記憶数が 3 以上である場合には、図 1 0 (B) に示すはずれ用変動パターン種別判定テーブル 1 3 5 B が用いられ、合算保留記憶数が 0 ~ 2 (3 以下) である場合には、図 1 0 (A) に示すはずれ用変動パターン種別判定テーブル 1 3 5 A が用いられる (ステップ S 9 6 ~ S 9 8 参照) 。図 5 4 に示すように、合算保留記憶数が 3 以上である場合には、合算保留記憶数が 0 ~ 2 である場合に比較して、リーチ (ノーマルリーチ、スーパーリーチ) となり割合が少ない。また、合算保留記憶数が 3 以上である場合には、図 1 0 (B) に示すように、非リーチ C A 2 - 2 の変動パターン種別が選択されて短縮変動の変動パターンである非リーチ P A 1 - 2 が選択されるので、合算保留記憶数が多くなるに従って平均的な変動時間を短くすることによって、

40

50

可変表示の作動率が低下してしまう事態を極力防止することができる。

【0469】

また、この実施の形態では、図60に示すように、合算保留記憶数にかかわらず、スーパーリーチ（スーパーリーチA、スーパーリーチB）を伴う変動パターン種別に対して、共通の判定値（230～251）が割り当てられている。そのため、始動入賞時において、抽出した変動パターン種別判定用乱数（ランダム2）の値さえ確認すれば、スーパーリーチとなるか否かをあらかじめ容易に判定することができる。従って、その始動入賞に対応した可変表示よりも以前に、スーパーリーチとなることを報知することができ、遊技に対する興趣を向上させることができる。

【0470】

なお、この実施の形態では、合算保留記憶数が0～2であるか3以上であるかの2種類について、はずれ用変動パターン種別判定テーブルの判定値の振り分けを異ならせる場合を示したが、はずれ用変動パターン種別判定テーブルの判定値の振り分けの異ならせ方は、この実施の形態で示したものにすぎられない。例えば、合算保留記憶数に応じてさらに細かく段階的に振り分けを異ならせてもよい。この場合、例えば、合算保留記憶数が0、1用のはずれ用変動パターン種別判定テーブルと、合算保留記憶数2個用、合算保留記憶数3個用および合算保留記憶数4個用のはずれ用変動パターン種別判定テーブルとをあらかじめ用意しておき、リーチを伴う変動パターン種別や短縮変動の変動パターン種別の振り分けをさらに段階的に異ならせるようにしてもよい。また、このような例にかぎらず、あらかじめ用意しておくはずれ用変動パターン種別判定テーブルの組合せは、様々なものが考えられる。例えば、合算保留記憶数の値ごとに別々のはずれ変動パターン種別判定テーブルをそれぞれ備えてもよい（すなわち、合算保留記憶数0個用、合算保留記憶数1個用、合算保留記憶数2個用、合算保留記憶数3個用、合算保留記憶数4個用・・・のはずれ変動パターン種別判定テーブルをそれぞれ別々に用いるようにしてもよい）。また、例えば、合算保留記憶数0～2用、合算保留記憶数3用、合算保留記憶数4用・・・のはずれ変動パターン種別判定テーブルを用いるようにしてもよい。

【0471】

また、この実施の形態では、合算保留記憶数にかかわらず、スーパーリーチ（スーパーリーチA、スーパーリーチB）を伴う変動パターン種別に対して、全く共通の判定値（230～251）が割り当てられている場合を示したが、一方のはずれ用変動パターン種別判定テーブルにおけるスーパーリーチに対する判定値が、他方のはずれ用変動パターン種別判定テーブルにおけるスーパーリーチに対する判定値を包含しているものであってもよい。図61は、はずれ用変動パターン種別判定テーブルにおける判定値の割り当て状態の他の例を示す説明図である。

【0472】

図61に示す変形例では、合算保留記憶数3以上の場合には、スーパーリーチを伴う変動パターン種別に対して判定値230～251が割り当てられているのに対して、合算保留記憶数0～2の場合には、スーパーリーチを伴う変動パターン種別に対して判定値200～251が割り当てられている。しかし、このような場合であっても、始動入賞時において、抽出した変動パターン種別判定用乱数（ランダム2）の値が少なくとも230～251の範囲であれば、スーパーリーチとなることをあらかじめ容易に判定することができる。従って、その始動入賞に対応した可変表示よりも以前に、スーパーリーチとなることを報知することができ、遊技に対する興趣を向上させることができる。

【0473】

具体的には、図61に示すように、合算保留記憶数が3以上である場合における非リーチの変動パターン種別に割り当てられている判定値0～199のうち、判定値100～199の範囲については、合算保留記憶数が0～2である場合における非リーチの変動パターン種別に割り当てられている判定値の範囲0～99には含まれていない。これに対して、合算保留記憶数が3以上である場合におけるスーパーリーチを伴う変動パターン種別に割り当てられている判定値の範囲230～251は、合算保留記憶数が0～2である場合

におけるスーパーリーチを伴う変動パターン種別に割り当てられている判定値の範囲 2 0 0 ~ 2 5 1 にすべて含まれている。そのため、始動入賞時において、抽出した変動パターン種別判定用乱数（ランダム 2）の値が少なくとも 2 3 0 ~ 2 5 1 の範囲であれば、スーパーリーチとなることをあらかじめ容易に判定することができる。

【 0 4 7 4 】

なお、図 6 1 に示す変形例では、合算保留記憶数 0 ~ 2 の場合には、ノーマルリーチを伴う変動パターン種別に対して判定値 1 0 0 ~ 1 9 9 が割り当てられ、合算保留記憶数 3 以上の場合には、ノーマルリーチを伴う変動パターン種別に対して判定値 2 0 0 ~ 2 2 9 が割り当てられ、ノーマルリーチを伴う変動パターンに対して判定値が割り当てられている範囲が重複していないが、合算保留記憶数 0 ~ 2 の場合と 3 以上の場合とで、ノーマルリーチを伴う変動パターン種別に対して割り当てられている判定値の範囲が重複するようにしてもよい。例えば、合算保留記憶数 0 ~ 2 の場合には、ノーマルリーチを伴う変動パターン種別に対して判定値 1 0 0 ~ 1 9 9 が割り当てられ、合算保留記憶数 3 以上の場合には、ノーマルリーチを伴う変動パターン種別に対して判定値 1 8 0 ~ 2 2 9 が割り当てられるように構成してもよい。なお、このように構成した場合であっても、合算保留記憶数が 3 以上である場合におけるノーマルリーチを伴う変動パターン種別に割り当てられている判定値 1 8 0 ~ 2 2 9 のうちの一部の判定値 1 8 0 ~ 1 9 9 の範囲のみが、合算保留記憶数が 0 ~ 2 である場合におけるノーマルリーチを伴う変動パターン種別に割り当てられている判定値の範囲 1 0 0 ~ 1 9 9 に含まれていることになる。

【 0 4 7 5 】

また、この実施の形態では、スーパーリーチを伴う変動パターンを一括りの変動パターン種別としてはずれ用変動パターン種別判定テーブルを構成する場合を示したが、スーパーリーチの種類ごと（例えば、スーパーリーチ A とスーパーリーチ B）に変動パターン種別を分けてもよい。図 6 2 は、はずれ用変動パターン種別判定テーブルにおける判定値の割り当て状態のさらに他の例を示す説明図である。

【 0 4 7 6 】

図 6 2 に示す変形例では、合算保留記憶数にかかわらず、スーパーリーチ A を伴う変動パターン種別に対して判定値 2 3 0 ~ 2 3 7 が割り当てられているとともに、スーパーリーチ B を伴う変動パターン種別に対して判定値 2 3 7 ~ 2 5 1 が割り当てられている。しかし、このような場合であっても、始動入賞時において、抽出した変動パターン種別判定用乱数（ランダム 2）の値が 2 3 0 ~ 2 5 1 の範囲であれば、スーパーリーチとなることをあらかじめ容易に判定することができる。従って、その始動入賞に対応した可変表示よりも以前に、スーパーリーチとなることを報知することができ、遊技に対する興趣を向上させることができる。

【 0 4 7 7 】

また、はずれ用変動パターン種別判定テーブルを図 6 2 に示すように構成する場合であっても、スーパーリーチ A とスーパーリーチ B との判定値の振り分けはテーブルごとに異なるようにしてもよく、図 6 1 に示した変形例と同様に、例えば、一方のはずれ用変動パターン種別判定テーブルにおけるスーパーリーチ A、B に対する判定値が、他方のはずれ用変動パターン種別判定テーブルにおけるスーパーリーチ A、B に対する判定値を包含しているものであってもよい。また、テーブル間でスーパーリーチ A とスーパーリーチ B に対する判定値の振り分けが一部重複するように構成してもよい。このことは、この実施の形態およびこの実施の形態で示す各変形例のいずれにおいても、同様に当てはめて考えることができる。

【 0 4 7 8 】

また、この実施の形態によれば、スーパーリーチを伴う変動パターン以外の変動パターンとして、擬似連を伴う変動パターンを含む。そのため、スーパーリーチとなることを報知する演出が実行されない場合であっても、擬似連を伴う可変表示が行われることによって、大当り遊技状態となることに対する期待感を高めることができ、遊技に対する興趣を向上させることができる。

【 0 4 7 9 】

また、この実施の形態によれば、スーパーリーチを伴う変動パターン以外の変動パターンとして擬似連を伴う変動パターンを決定するときには、合算保留記憶数が少ない場合には、合算保留記憶数が多い場合と比較して、擬似連の再変動の実行回数が多い変動パターンを決定する。そのため、合算保留記憶数が多いとき（保留記憶が溜まっているとき）に再変動の実行回数が多い擬似連を伴う可変表示が頻繁に行われる事態を防止することができ、可変表示の作動率が低下してしまう事態をより防止することができる。

【 0 4 8 0 】

図 6 3 は、スーパーリーチを伴う変動パターン以外の変動パターンとして、擬似連を伴う変動パターンを含む変動パターン種別にも着目して見た場合のはずれ用変動パターン種別判定テーブルにおける判定値の割り当て状態を示す説明図である。この実施の形態では、合算保留記憶数が 3 以上である場合には、スーパーリーチを伴う変動パターン以外の変動パターンを含む変動パターン種別として、判定値が 2 1 5 ~ 2 2 9 の範囲であることに
10
もとづいて、ノーマル C A 2 - 6 の変動パターン種別が選択される（図 1 0 (B) 参照）。そして、図 6 3 に示すように、再変動回数 1 回の擬似連を伴うノーマル P B 2 - 1 の変動パターンが選択される（図 1 2、図 6 参照）。一方、合算保留記憶数が 0 ~ 2 である場合には、スーパーリーチを伴う変動パターン以外の変動パターンを含む変動パターン種別として、判定値が 1 7 0 ~ 2 2 9 の範囲であることに
20
もとづいて、ノーマル C A 2 - 5 の変動パターン種別が選択される（図 1 0 (A) 参照）。そして、図 6 3 に示すように、再変動回数 2 回の擬似連を伴うノーマル P B 2 - 2 の変動パターンが選択される（図 1 2、図 6 参照）。

【 0 4 8 1 】

図 6 3 に示すように、スーパーリーチとなることを報知する演出が実行されない場合であっても、擬似連を伴う可変表示が行われる場合があるので、大当たり遊技状態となることに対する期待感を高めることができ、遊技に対する興趣を向上させることができる。また、図 6 3 に示すように、擬似連を伴う可変表示が行われる場合には、合算保留記憶数が 0 ~ 2 と少ないときには、再変動 2 回の擬似連を伴う可変表示が実行され、合算保留記憶数が 3 以上と多い場合には、再変動回数が 1 回と少ない擬似連を伴う可変表示が実行される。そのようにすることによって、合算保留記憶数が多いとき（保留記憶が溜まっているとき）に再変動の実行回数が多い擬似連を伴う可変表示が頻繁に行われる事態を防止することができ、可変表示の作動率が低下してしまう事態をより防止することができる。

【 0 4 8 2 】

なお、この実施の形態では、判定値 2 3 0 ~ 2 5 1 の範囲に割り当てられているスーパーリーチを伴う変動パターン種別には、特定の可変表示パターンとして、擬似連を伴う変動パターンと擬似連を伴わない変動パターンとが含まれているのであるが（図 6 および図 1 2 のスーパー C A 2 - 7 参照）、判定値 2 3 0 ~ 2 5 1 の範囲に割り当てられているスーパーリーチを伴う変動パターン種別は、スーパーリーチを伴うのみで擬似連を伴わない変動パターンが含まれるものであってもよい。さらに、スーパーリーチとともに擬似連を伴う変動パターンが用いられる場合であっても、判定値 2 3 0 ~ 2 5 1 の範囲には、特定の可変表示パターンとして、スーパーリーチを伴うのみで擬似連を伴わない変動パターンのみを含む変動パターン種別が割り当てられるようにし、スーパーリーチとともに擬似連も伴う変動パターンを含む変動パターン種別や、ノーマルリーチで擬似連を伴う変動パターン種別や、非リーチで擬似連を伴う変動パターン種別については、判定値 2 3 0 ~ 2 5 1 以外の範囲に、特定の可変表示パターン以外の可変表示パターンを含む変動パターン種別として割り当てられるようにしてもよい。

【 0 4 8 3 】

また、この実施の形態によれば、スーパーリーチを伴う変動パターンとして擬似連を伴う変動パターンを決定する場合には、再変動の実行回数が所定回数以上（この実施の形態では 3 回）である擬似連を伴う変動パターンを決定可能である。また、スーパーリーチを伴う変動パターン以外の変動パターンとして擬似連を伴う変動パターンを決定する場合に
50

は、再変動の実行回数が所定回数未満（この実施の形態では１回または２回）である疑似連を伴う変動パターンを決定可能である。そのため、再変動回数が所定回数（例えば３回）以上である疑似連が実行されることによって、スーパーリーチになるかもしれないとの期待感を遊技者に抱かせることができ、遊技に対する興趣を向上させることができる。

【０４８４】

図６４は、疑似連を伴う変動パターンを含む変動パターン種別にも着目して見た場合は、はずれ用変動パターン種別判定テーブルにおける判定値の割り当て状態を示す説明図である。この実施の形態では、合算保留記憶数にかかわらず、判定値が２３０～２５１の範囲であることにもとづいて、スーパーリーチを伴うスーパーＣＡ２－７の変動パターン種別が選択される（図１０参照）。そして、図６３に示すように、再変動回数３回の疑似連を伴う変動パターンであるスーパーＰＡ３－１～スーパーＰＡ３－２が選択されることがある（図１２、図６参照）。一方、合算保留記憶数が３以上である場合には、判定値が２１５～２２９の範囲であることにもとづいて、スーパーリーチとならないノーマルＣＡ２－６の変動パターン種別が選択される（図１０（Ｂ）参照）。そして、図６３に示すように、再変動回数１回の疑似連を伴う変動パターンであるノーマルＰＢ２－１が選択されることがある（図１２、図６参照）。また、合算保留記憶数が０～２である場合には、判定値が１７０～２２９の範囲であることにもとづいて、スーパーリーチとならないノーマルＣＡ２－５の変動パターン種別が選択される（図１０（Ａ）参照）。そして、図６３に示すように、再変動回数２回の疑似連を伴う変動パターンであるノーマルＰＢ２－２が選択されることがある（図１２、図６参照）。

【０４８５】

図６４に示すように、再変動回数が３回以上である疑似連が実行されることによって、スーパーリーチになるかもしれないとの期待感を遊技者に抱かせることができ、遊技に対する興趣を向上させることができる。

【０４８６】

なお、この実施の形態では、図６４に示すように、判定値２３０～２５１の範囲に割り当てられているスーパーリーチを伴う変動パターン種別には、特定の可変表示パターンとして、再変動３回の疑似連を伴う変動パターンが含まれ、それ以外の範囲に、特定の可変表示パターン以外の可変表示パターンとして、再変動１回または２回の疑似連を伴う変動パターンが含まれており、特定の可変表示パターンと特定の可変表示パターン以外の可変表示パターンとで、再変動回数が重複しない疑似連を伴う変動パターンが含まれている場合を示しているが、疑似連の再変動回数が重複していてもよい。例えば、判定値２３０～２５１の範囲に割り当てられているスーパーリーチを伴う変動パターン種別には、特定の可変表示パターンとして、再変動３回～５回の疑似連を伴う変動パターンが含まれ、それ以外の範囲に、特定の可変表示パターン以外の可変表示パターンとして、再変動１回～３回の疑似連を伴う変動パターンが含まれるように構成されていてもよい。

【０４８７】

なお、はずれ用変動パターン種別判定テーブルにおけるスーパーリーチを伴う変動パターン種別が割り当てられている範囲（判定値２３０～２５１が割り当てられている範囲）内において、いずれの種類のスーパーリーチを伴う変動パターンを割り当てるようにするかや、疑似連を伴う変動パターンをどの程度の割合で割り当てるようにするかは、この実施の形態で示したものにかなげられない。図６５は、スーパーリーチを伴う変動パターン種別が割り当てられている範囲における割り当て例を示す説明図である。

【０４８８】

例えば、図６５（Ａ）に示すように、全ての種類のリーチを割り当てるのではなく、一部の大当りに対する信頼度が高いリーチ（例えば、スーパーリーチＡ～Ｃの中のスーパーリーチＣ）のうち、疑似連を伴うものであって、その疑似連回数が多いもの（例えば４回）を、まとめて判定値２３０～２５１の範囲に割り当てるようにしてもよい。また、例えば、図６５（Ｂ）に示すように、リーチの種類にかかわらず、全てのリーチ（例えば、スーパーリーチＡ～スーパーリーチＣ）について、疑似連を伴うものであって、その疑似連

回数が多いものを、まとめて判定値 2 3 0 ~ 2 5 1 の範囲に割り当てるようにしてもよい。さらに、例えば、図 6 5 (C) に示すように、スーパーリーチのみ（例えば、スーパーリーチ A で擬似連を伴わない）の変動パターンとは別に、擬似連を伴うものであってその擬似連回数が多く変動パターンを、特定の変動パターンとして判定値 2 3 0 ~ 2 5 1 の範囲に割り当てるようにしてもよい。

【 0 4 8 9 】

なお、この実施の形態では、スーパーリーチとしてスーパーリーチ A とスーパーリーチ B の 2 種類のリーチを用いる場合を示しているが、実行可能なスーパーリーチの種類は 2 種類にかかわらず、3 種類以上のスーパーリーチを実行可能に構成してもよい。例えば、図 6 5 に示すようにスーパーリーチ A , B に加えてスーパーリーチ C を実行可能に構成する場合には、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 は、この実施の形態と同様の処理に従って、まず図 9 (A) , (B) に示す大当り用変動パターン種別判定テーブルや図 1 0 (A) , (B) に示すはずれ用変動パターン種別判定テーブルから、スーパーリーチ用の変動パターン種別であるスーパー C A 3 - 3 やスーパー C A 2 - 7 を決定する。そして、スーパーリーチ用の変動パターン種別であるスーパー C A 3 - 3 やスーパー C A 2 - 7 にそれぞれスーパーリーチ A ~ C を伴う変動パターンが含まれるように構成し、決定した変動パターン種別にもとづいて、スーパーリーチ A ~ C のいずれかを伴う変動パターンを決定するようにすればよい。

10

【 0 4 9 0 】

また、この実施の形態によれば、大当りとするに決定した場合には、大当りとしないうちに決定した場合と比較して、高い割合でスーパーリーチを伴う変動パターンとする。例えば、図 1 0 に示すように、はずれと決定した場合には、スーパーリーチに対して 2 3 0 ~ 2 5 1 の狭い範囲にしか判定値が割り当てられていないのに対して、図 9 (A) , (B) に示すように、大当りと決定した場合には、スーパーリーチに対して 1 5 0 ~ 2 5 1 または 8 0 ~ 2 5 1 の広い範囲にわたって判定値が割り当てられている。そのため、スーパーリーチを伴う可変表示が行われるときの大当り遊技状態への期待感を高めることができ、遊技に対する興趣をさらに向上させることができる。

20

【 0 4 9 1 】

また、この実施の形態によれば、スーパーリーチを伴う変動パターン以外の変動パターンとして、ノーマルリーチを伴う変動パターンまたは非リーチの変動パターンとすることに決定する。そのため、スーパーリーチを伴う可変表示が行われないうちであっても、ノーマルリーチを伴う可変表示が実行されて、大当り遊技状態になるかもしれないとの期待感を与えることができ、遊技に対する興趣をさらに向上させることができる。

30

【 0 4 9 2 】

また、この実施の形態によれば、遊技制御用マイクロコンピュータ 5 6 0 は、変動パターン種別として、スーパーリーチを伴う変動パターンを含む変動パターン種別、またはスーパーリーチを伴う変動パターンを含まない変動パターン種別とすることに決定する。そして、演出図柄の可変表示パターン種別がスーパーリーチを伴う変動パターンを含む変動パターン種別となると判定したときに、演出図柄の変動パターンがスーパーリーチを伴う変動パターンとなると判定する。そのため、変動パターン種別の振り分けを変更するだけで、スーパーリーチを伴う変動パターンとそれ以外の変動パターンとの振り分けを設計段階で容易に変更することができる。

40

【 0 4 9 3 】

また、上記の実施の形態では、演出装置を制御する回路が搭載された基板として、演出制御基板 8 0 、音声出力基板 7 0 およびランプドライバ基板 3 5 が設けられているが、演出装置を制御する回路を 1 つの基板に搭載してもよい。さらに、演出表示装置 9 等を制御する回路が搭載された第 1 の演出制御基板（表示制御基板）と、その他の演出装置（ランプ、LED、スピーカ 2 7 R , 2 7 L など）を制御する回路が搭載された第 2 の演出制御基板との 2 つの基板を設けるようにしてもよい。

【 0 4 9 4 】

50

また、上記の実施の形態では、遊技制御用マイクロコンピュータ５６０は、演出制御用マイクロコンピュータ１００に対して直接コマンドを送信していたが、遊技制御用マイクロコンピュータ５６０が他の基板（例えば、図３に示す音声出力基板７０やランプドライバ基板３５など、または音声出力基板７０に搭載されている回路による機能とランプドライバ基板３５に搭載されている回路による機能とを備えた音ノランプ基板）に演出制御コマンドを送信し、他の基板を経由して演出制御基板８０における演出制御用マイクロコンピュータ１００に送信されるようにしてもよい。その場合、他の基板においてコマンドが単に通過するようにしてもよいし、音声出力基板７０、ランプドライバ基板３５、音ノランプ基板にマイクロコンピュータ等の制御手段を搭載し、制御手段がコマンドを受信したことに応じて音声制御やランプ制御に関わる制御を実行し、さらに、受信したコマンドを、そのまま、または例えば簡略化したコマンドに変更して、演出表示装置９を制御する演出制御用マイクロコンピュータ１００に送信するようにしてもよい。その場合でも、演出制御用マイクロコンピュータ１００は、上記の実施の形態における遊技制御用マイクロコンピュータ５６０から直接受信した演出制御コマンドに応じて表示制御を行うのと同様に、音声出力基板７０、ランプドライバ基板３５または音ノランプ基板から受信したコマンドに応じて表示制御を行うことができる。

10

【産業上の利用可能性】

【０４９５】

本発明は、パチンコ遊技機などの遊技機に適用可能であり、特に、複数の可変表示手段を備えた遊技機であって、それらの可変表示手段において同時に可変表示が実行されない遊技機に好適に適用される。

20

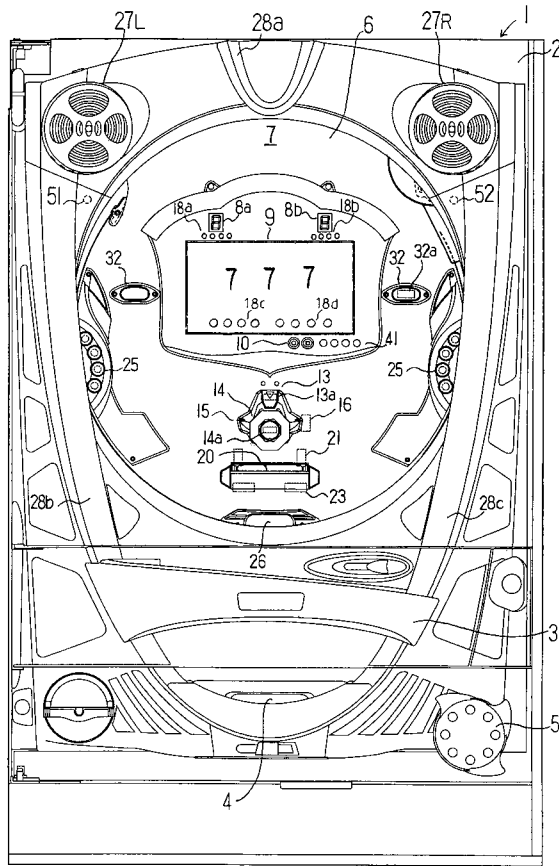
【符号の説明】

【０４９６】

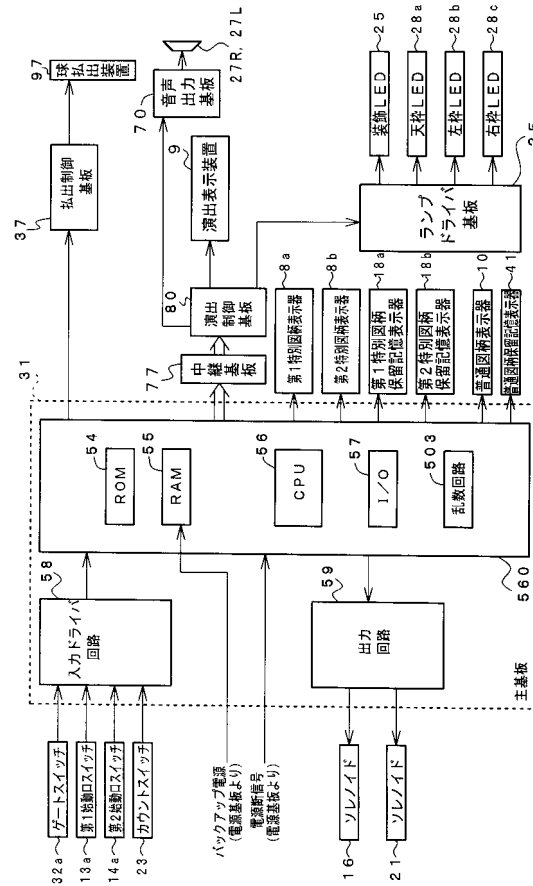
- １ パチンコ遊技機
- ８ a 第１特別図柄表示器
- ８ b 第２特別図柄表示器
- ９ 演出表示装置
- １ ３ 第１始動入賞口
- １ ４ 第２始動入賞口
- ２ ０ 特別可変入賞球装置
- ３ １ 遊技制御基板（主基板）
- ５ ６ ＣＰＵ
- ５ ６ ０ 遊技制御用マイクロコンピュータ
- ８ ０ 演出制御基板
- １ ０ ０ 演出制御用マイクロコンピュータ
- １ ０ １ 演出制御用ＣＰＵ
- １ ０ ９ ＶＤＰ

30

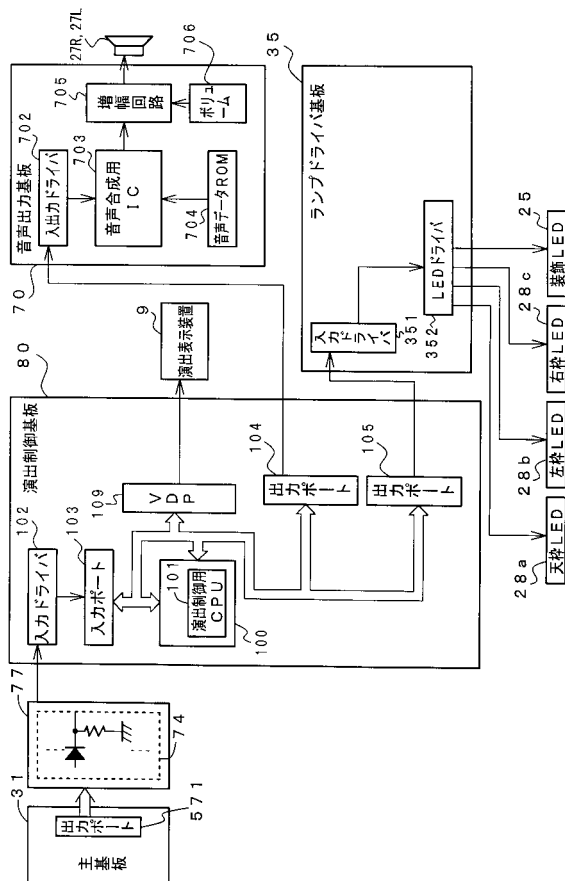
【図 1】



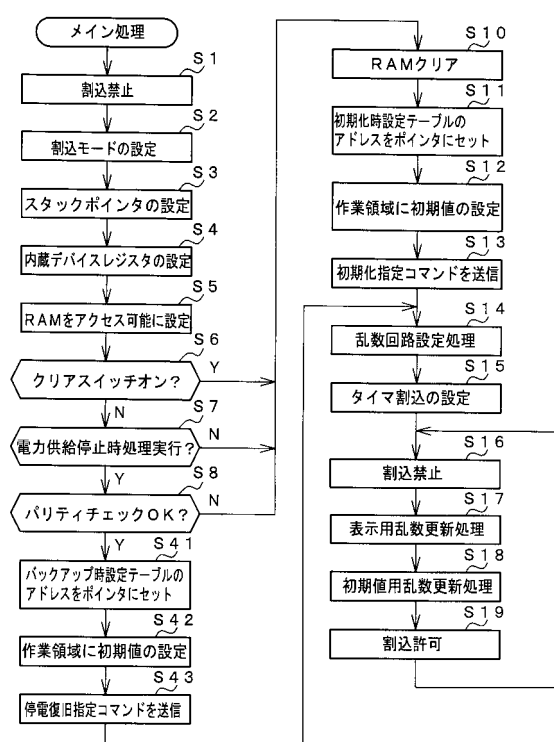
【図 2】



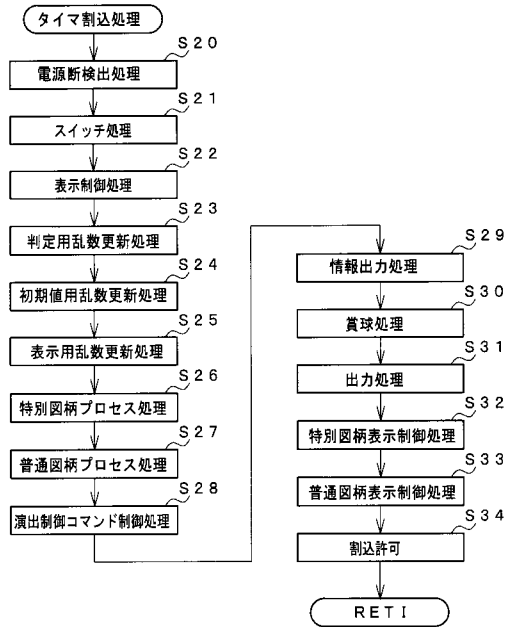
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【図 6】

可変表示結果	変動パターン	特定演出	リーチ演出	特変時間(秒)	備考
はずれ	非リーチPA1-1	なし	非リーチ	5.75	短縮なし、通常変動ではずれ
	非リーチPA1-2	なし	非リーチ	1.50	短縮変動ではずれ
	非リーチPA1-3	清り	非リーチ	8.25	通常変動ではずれ後、清り演出ではずれ
	非リーチPA1-4	擬似連(1回)	非リーチ	10.20	通常変動ではずれ後、再変動1回ではずれ
	ノーマルPA2-1	なし	ノーマル	12.75	ノーマルリーチではずれ
	ノーマルPA2-2	なし	ノーマル	25.50	ノーマルリーチではずれ
	ノーマルPB2-1	擬似連(1回)	ノーマル	10.75	通常変動ではずれ後、再変動1回でノーマルリーチではずれ
	ノーマルPB2-2	擬似連(2回)	ノーマル	11.75	通常変動ではずれ後、再変動2回の最終変動でノーマルリーチではずれ
	スーパーPA3-1	擬似連(3回)	スーパーA	32.75	通常変動ではずれ後、再変動3回の最終変動でスーパーリーチAではずれ
	スーパーPA3-2	擬似連(3回)	スーパーB	35.50	通常変動ではずれ後、再変動3回の最終変動でスーパーリーチBではずれ
大当たり	スーパーPB3-1	なし	スーパーA	22.75	スーパーリーチAではずれ
	スーパーPB3-2	なし	スーパーB	25.50	スーパーリーチBではずれ
	ノーマルPA2-3	なし	ノーマル	12.75	ノーマルリーチで大当たり
	ノーマルPA2-4	なし	ノーマル	25.50	ノーマルリーチで大当たり
	ノーマルPB2-3	擬似連(1回)	ノーマル	10.75	通常変動ではずれ後、再変動1回でノーマルリーチで大当たり
	ノーマルPB2-4	擬似連(2回)	ノーマル	11.75	通常変動ではずれ後、再変動2回の最終変動でノーマルリーチで大当たり
	スーパーPA3-3	擬似連(3回)	スーパーA	32.75	通常変動ではずれ後、再変動3回の最終変動でスーパーリーチAで大当たり
	スーパーPA3-4	擬似連(3回)	スーパーB	35.50	通常変動ではずれ後、再変動3回の最終変動でスーパーリーチBで大当たり
	スーパーPB3-3	なし	スーパーA	22.75	スーパーリーチAで大当たり
	スーパーPB3-4	なし	スーパーB	25.50	スーパーリーチBで大当たり
突然確変大当たり/小当たり	特選PG1-1	なし	非リーチ	5.75	通常変動ではずれ後、再変動で突然確変大当たり又は小当たり
	特選PG1-2	清り	非リーチ	11.75	通常変動ではずれ後、清り演出で突然確変大当たり又は小当たり
	特選PG1-3	擬似連(1回)	非リーチ	15.50	通常変動ではずれ後、再変動1回で突然確変大当たり又は小当たり
	特選PG2-1	なし	ノーマル	12.75	リーチではずれ後に再変動で突然確変大当たり又は小当たり
	特選PG2-2	清り	ノーマル	16.50	リーチではずれ後に清り変動で突然確変大当たり又は小当たり

【図 7】

乱数	範囲	用途	加算
ランダム1	0~39	大当たり種別判定用	0.002秒毎に1ずつ加算
ランダム2	1~251	変動パターン種別判定用	0.002秒毎および割り込み処理 余り時間に1ずつ加算
ランダム3	1~997	変動パターン判定用	0.002秒毎および割り込み処理 余り時間に1ずつ加算
ランダム4	3~13	普通図柄当り判定用	0.002秒毎に1ずつ加算
ランダム5	3~13	ランダム5初期値決定用	0.002秒毎および割り込み処理 余り時間に1ずつ加算

【図 8】

大当たり判定テーブル

大当たり判定値 (ランダムR [0~65535] と比較される)	
通常時 (非確変時)	確変時
1020~1079, 13320~13477 (確率: 1/300)	1020~1519, 13320~15004 (確率: 1/30)

(A)

小当たり判定テーブル (第1特別図柄用)

小当たり判定値 (ランダムR [0~65535] と比較される)
54000~54217 (確率: 1/300)

(B)

小当たり判定テーブル (第2特別図柄用)

小当たり判定値 (ランダムR [0~65535] と比較される)
54000~54022 (確率: 1/3000)

(C)

大当たり種別判定テーブル (第1特別図柄用)

大当たり種別判定値 (ランダム2-1と比較される)		
通常大当たり	確変大当たり	突然確変大当たり
0~9	10~29	30~39

(D)

大当たり種別判定テーブル (第2特別図柄用)

大当たり種別判定値 (ランダム2-1と比較される)		
通常大当たり	確変大当たり	突然確変大当たり
0~9	10~36	37~39

(E)

【図 9】

(A)
大当り用変動パターン種別判定テーブル 132A

大当り種別	変動パターン種別		
	ノーマルCA3-1	ノーマルCA3-2	スーパーCA3-4
通常大当り	1~74	75~149	150~251

(B)
大当り用変動パターン種別判定テーブル 132B

大当り種別	変動パターン種別			
	ノーマルCA3-1	ノーマルCA3-2	スーパーCA3-3	スーパーCA3-4
確変大当り	1~38	39~79	80~149	150~251

(C)
大当り用変動パターン種別判定テーブル 132C

大当り種別	変動パターン種別	
	特殊CA4-1	特殊CA4-2
突然確変大当り	1~100	101~251

(D)
小当り用変動パターン種別判定テーブル 132D

小当り	変動パターン種別	
	特殊CA4-1	1~251

【図 10】

(A)
はずれ用変動パターン種別判定テーブル(通常用) 135A

変動パターン種別				
非リーチCA2-1	非リーチCA2-2	ノーマルCA2-4	ノーマルCA2-5	スーパーCA2-7
1~79	80~99	100~169	170~229	230~251

(B)
はずれ用変動パターン種別判定テーブル(短縮用) 135B

変動パターン種別					
非リーチCA2-1	非リーチCA2-2	非リーチCA2-3	ノーマルCA2-4	ノーマルCA2-6	スーパーCA2-7
1~79	80~89	90~199	200~214	215~229	230~251

(C)
はずれ用変動パターン種別判定テーブル(確変/時短用) 135C

変動パターン種別	
非リーチCA2-3	スーパーCA2-7
1~219	220~251

【図 11】

(A)
当り変動パターン判定テーブル 137A

変動パターン種別	判定値	変動パターン
ノーマルCA3-1	1~560	ノーマルPA2-3
	561~997	ノーマルPA2-4
ノーマルCA3-2	1~560	ノーマルPB2-3
	561~997	ノーマルPB2-4
スーパーCA3-3	1~268	スーパーPA3-3
	269~660	スーパーPA3-4
	661~800	スーパーPB3-3
	801~997	スーパーPB3-4
スーパーCA3-4	1~268	スーパーPA3-3
	269~560	スーパーPA3-4
	561~900	スーパーPB3-3
	901~997	スーパーPB3-4

(B)
当り変動パターン判定テーブル 137B

変動パターン種別	判定値	変動パターン
特殊CA4-1	1~540	特殊PG1-1
	541~636	特殊PG1-2
	637~997	特殊PG1-3
特殊CA4-2	1~180	特殊PG2-1
	181~997	特殊PG2-2

【図 12】

はずれ変動パターン判定テーブル 138A

変動パターン種別	判定値	変動パターン
非リーチCA2-1	1~997	非リーチPA1-1
非リーチCA2-2	1~500	非リーチPA1-3
	501~997	非リーチPA1-4
非リーチCA2-3	1~997	非リーチPA1-2
ノーマルCA2-4	1~560	ノーマルPA2-1
ノーマルCA2-5	561~997	ノーマルPA2-2
	1~997	ノーマルPB2-2
ノーマルCA2-6	1~997	ノーマルPB2-1
スーパーCA2-7	1~268	スーパーPA3-1
	269~560	スーパーPA3-2
	561~900	スーパーPB3-1
	901~997	スーパーPB3-2

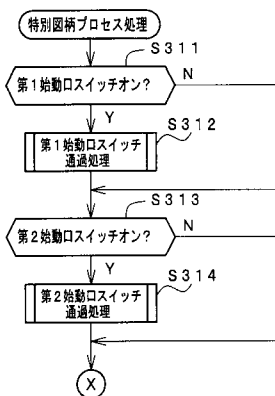
【図 13】

MODE	EXT	名称	内容
8 0	X X	変動パターン X X 指定	振り図柄の変動パターンの指定 (XX=変動パターン番号)
8 C	0 1	表示結果 1 指定 (はずれ指定)	はずれに決定されていることの指定
8 C	0 2	表示結果 2 指定 (通常大当り指定)	通常大当りに決定されていることの指定
8 C	0 3	表示結果 3 指定 (確変大当り指定)	確変大当りに決定されていることの指定
8 C	0 4	表示結果 4 指定 (突然確変大当り指定)	突然確変大当りに決定されていることの指定
8 C	0 5	表示結果 5 指定 (小当り指定)	小当りに決定されていることの指定
8 D	0 1	第 1 図柄変動指定	第 1 特別図柄の変動を開始することの指定
8 D	0 2	第 2 図柄変動指定	第 2 特別図柄の変動を開始することの指定
8 F	0 0	図柄確定指定	図柄の変動を終了することの指定
9 0	0 0	初期化指定 (電源投入指定)	電源投入時の初期画面を表示することの指定
9 2	0 0	停電復旧指定	停電復旧画面を表示することの指定
9 5	X X	入賞時判定結果指定	始動入賞時の入賞時判定結果を指定
9 F	0 0	客待ちデモ指定	客待ちデモンストレーション表示の指定
A 0	0 1	大当り開始 1 指定	通常大当りのファンファーレ画面を表示することの指定
A 0	0 2	大当り開始 2 指定	確変大当りのファンファーレ画面を表示することの指定
A 0	0 3	小当り/突然確変大当り開始指定	小当り又は突然確変大当りのファンファーレ画面を表示することの指定
A 1	X X	大入賞口開放中指定	XXで示す回数目の大入賞口開放中表示指定 (XX=01 (H) ~0F (H))
A 2	X X	大入賞口開放後指定	XXで示す回数目の大入賞口開放後表示指定 (XX=01 (H) ~0F (H))
A 3	0 1	大当り終了 1 指定	大当り終了画面を表示すること及び通常大当りであることの指定
A 3	0 2	大当り終了 2 指定	大当り終了画面を表示すること及び確変大当りであることの指定
A 3	0 3	小当り/突然確変大当り終了指定	小当り終了画面 (突然確変大当り終了画面と兼用) を表示することの指定

【図 14】

MODE	EXT	名称	内容
B 0	0 0	通常状態指定	遊技状態が通常状態であることの指定
B 0	0 1	時短状態指定	遊技状態が時短状態であることの指定
B 0	0 2	確変状態指定	遊技状態が確変状態であることの指定
C 0	X X	第 1 保留記憶数指定	第 1 保留記憶数が XX で示す数になったことに指定
C 1	X X	第 2 保留記憶数指定	第 2 保留記憶数が XX で示す数になったことに指定

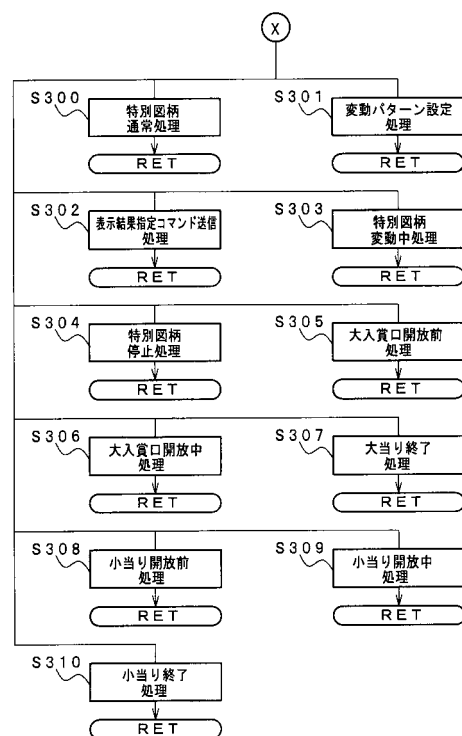
【図 16】



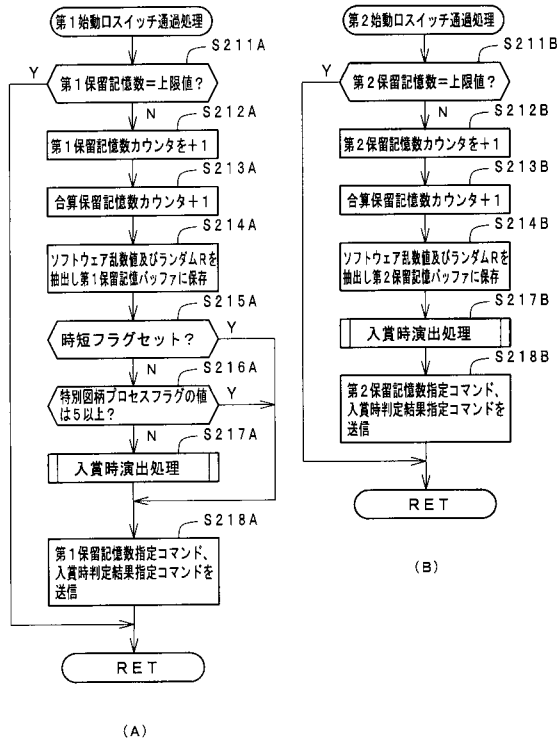
【図 15】

MODE	EXT	名称	内容
9 5	0 0	入賞時判定結果 1 指定	第 1 始動入賞口への入賞時に非リーチCA2-1と判定したことの指定
9 5	0 1	入賞時判定結果 2 指定	第 1 始動入賞口への入賞時に非リーチCA2-2と判定したことの指定
9 5	0 2	入賞時判定結果 3 指定	第 1 始動入賞口への入賞時に非リーチCA2-3と判定したことの指定
9 5	0 3	入賞時判定結果 4 指定	第 1 始動入賞口への入賞時にノーマルCA2-4と判定したことの指定
9 5	0 4	入賞時判定結果 5 指定	第 1 始動入賞口への入賞時にノーマルCA2-5と判定したことの指定
9 5	0 5	入賞時判定結果 6 指定	第 1 始動入賞口への入賞時にノーマルCA2-6と判定したことの指定
9 5	0 6	入賞時判定結果 7 指定	第 1 始動入賞口への入賞時にスーパーCA2-7と判定したことの指定
9 5	0 7	入賞時判定結果 8 指定	第 1 始動入賞口への入賞時にノーマルCA3-1と判定したことの指定
9 5	0 8	入賞時判定結果 9 指定	第 1 始動入賞口への入賞時にノーマルCA3-2と判定したことの指定
9 5	0 9	入賞時判定結果 10 指定	第 1 始動入賞口への入賞時にスーパーCA3-3と判定したことの指定
9 5	0 A	入賞時判定結果 11 指定	第 1 始動入賞口への入賞時にスーパーCA3-4と判定したことの指定
9 5	0 B	入賞時判定結果 12 指定	第 1 始動入賞口への入賞時に特殊CA4-1と判定したことの指定
9 5	0 C	入賞時判定結果 13 指定	第 1 始動入賞口への入賞時に特殊CA4-2と判定したことの指定
9 5	1 0	入賞時判定結果 21 指定	第 2 始動入賞口への入賞時に非リーチCA2-1と判定したことの指定
9 5	1 1	入賞時判定結果 22 指定	第 2 始動入賞口への入賞時に非リーチCA2-2と判定したことの指定
9 5	1 2	入賞時判定結果 23 指定	第 2 始動入賞口への入賞時に非リーチCA2-3と判定したことの指定
9 5	1 3	入賞時判定結果 24 指定	第 2 始動入賞口への入賞時にノーマルCA2-4と判定したことの指定
9 5	1 4	入賞時判定結果 25 指定	第 2 始動入賞口への入賞時にノーマルCA2-5と判定したことの指定
9 5	1 5	入賞時判定結果 26 指定	第 2 始動入賞口への入賞時にノーマルCA2-6と判定したことの指定
9 5	1 6	入賞時判定結果 27 指定	第 2 始動入賞口への入賞時にスーパーCA2-7と判定したことの指定
9 5	1 7	入賞時判定結果 28 指定	第 2 始動入賞口への入賞時にノーマルCA3-1と判定したことの指定
9 5	1 8	入賞時判定結果 29 指定	第 2 始動入賞口への入賞時にノーマルCA3-2と判定したことの指定
9 5	1 9	入賞時判定結果 30 指定	第 2 始動入賞口への入賞時にスーパーCA3-3と判定したことの指定
9 5	1 A	入賞時判定結果 31 指定	第 2 始動入賞口への入賞時にスーパーCA3-4と判定したことの指定
9 5	1 B	入賞時判定結果 32 指定	第 2 始動入賞口への入賞時に特殊CA4-1と判定したことの指定
9 5	1 C	入賞時判定結果 33 指定	第 2 始動入賞口への入賞時に特殊CA4-2と判定したことの指定

【図 17】



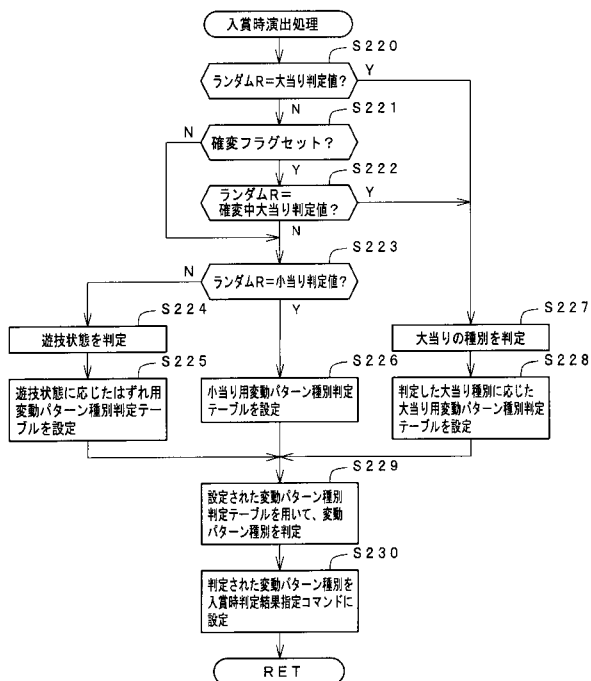
【図 18】



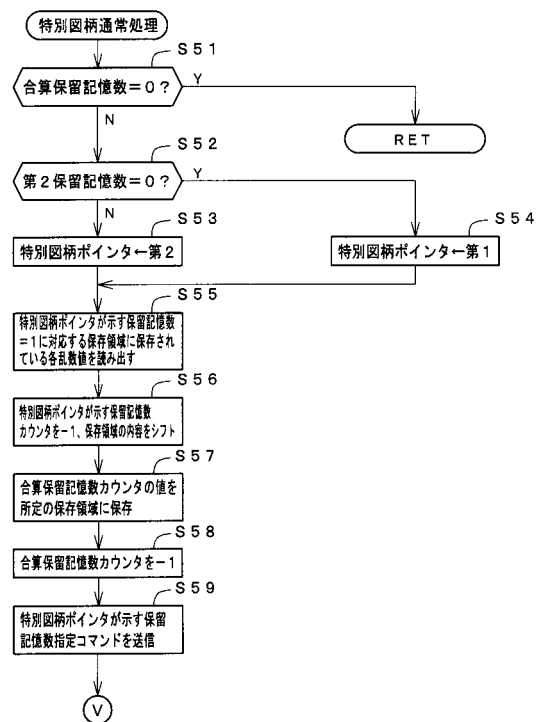
【図 19】

第1保留記憶 バッファ	第1保留記憶数=1に応じた保存領域
	第1保留記憶数=2に応じた保存領域
	第1保留記憶数=3に応じた保存領域
	第1保留記憶数=4に応じた保存領域
第2保留記憶 バッファ	第2保留記憶数=1に応じた保存領域
	第2保留記憶数=2に応じた保存領域
	第2保留記憶数=3に応じた保存領域
	第2保留記憶数=4に応じた保存領域

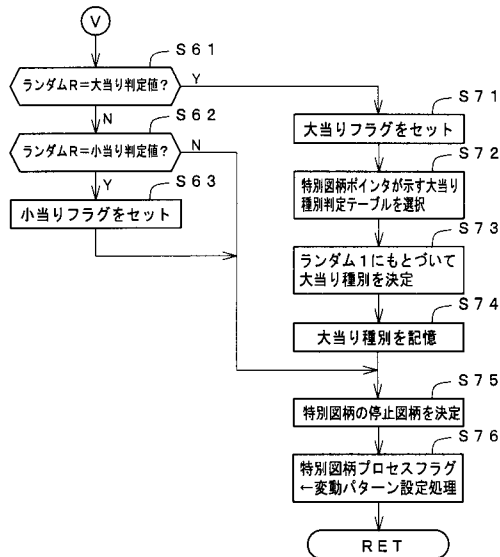
【図 20】



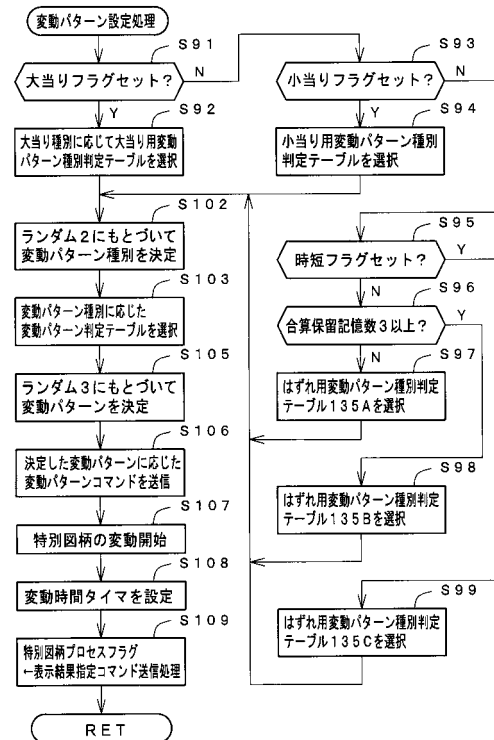
【図 21】



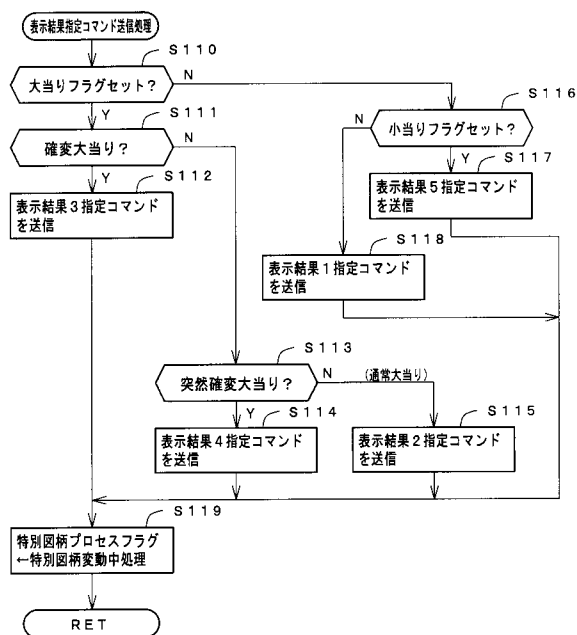
【図 22】



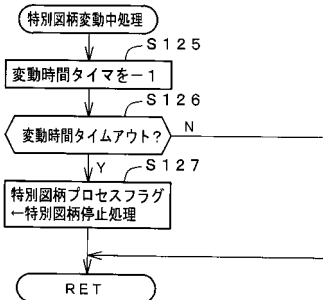
【図 23】



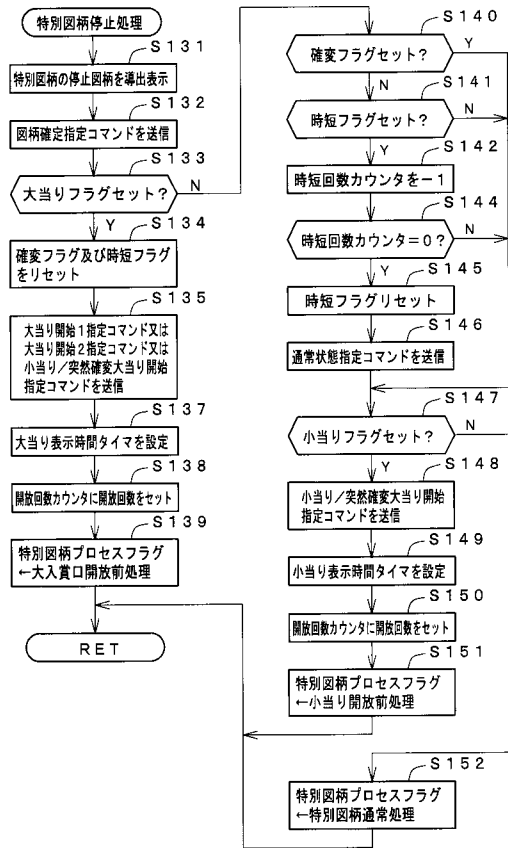
【図 24】



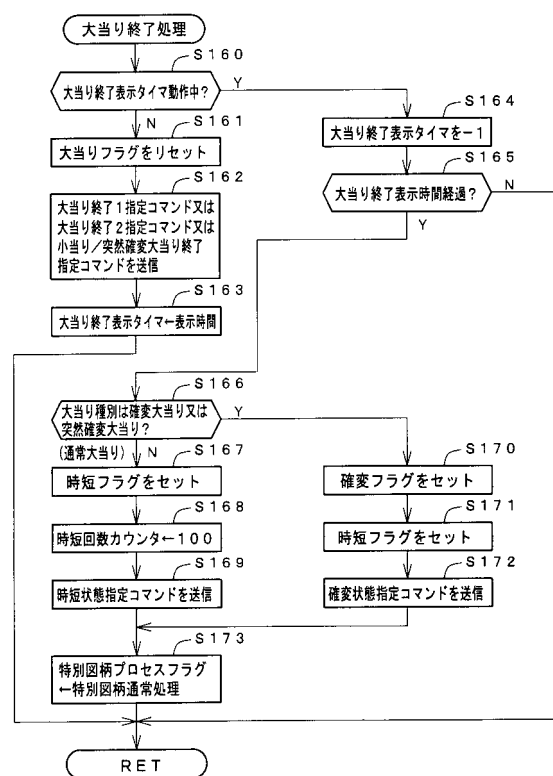
【図 25】



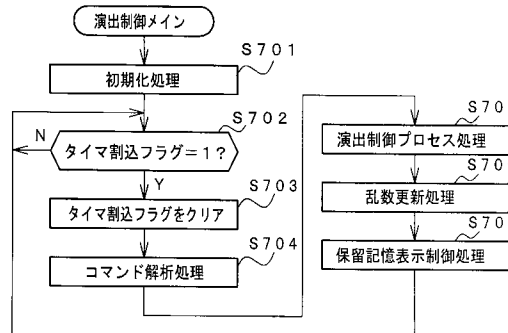
【図 26】



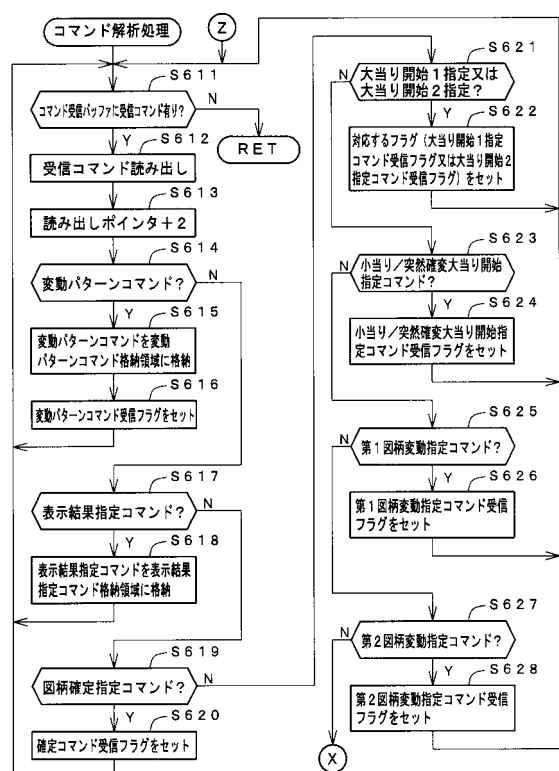
【図 27】



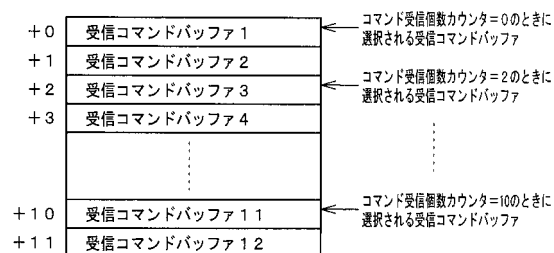
【図 28】



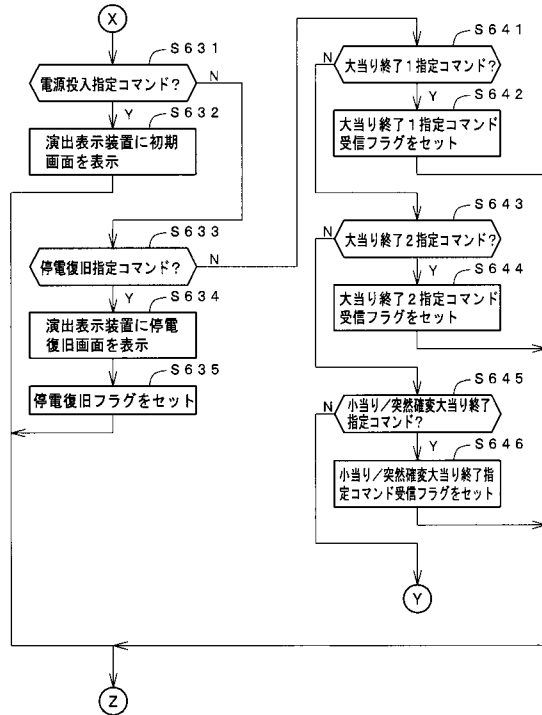
【図 30】



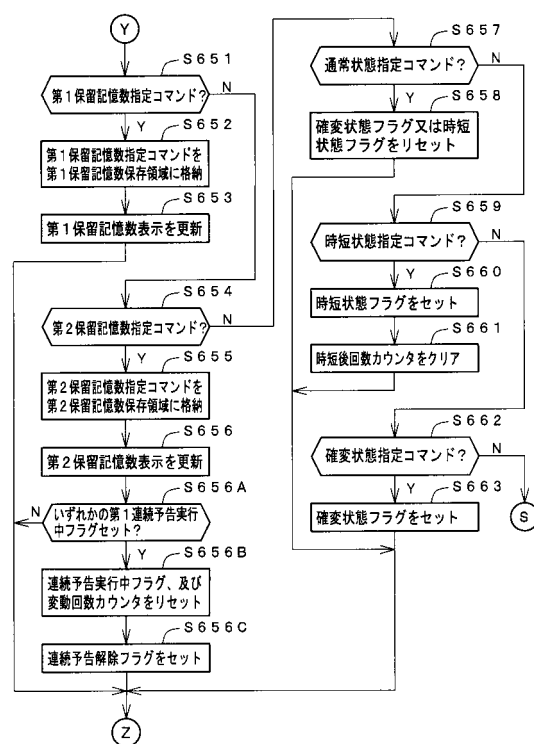
【図 29】



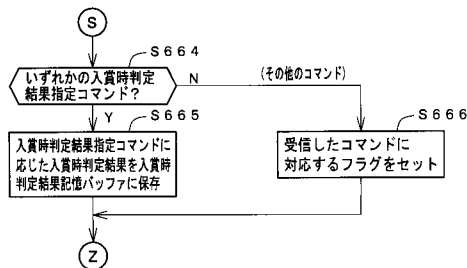
【図 3 1】



【図 3 2】



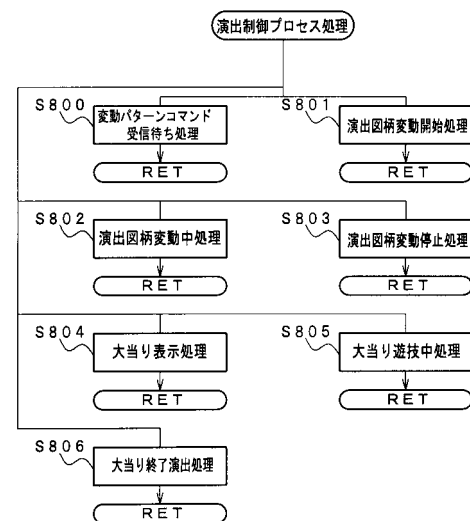
【図 3 3】



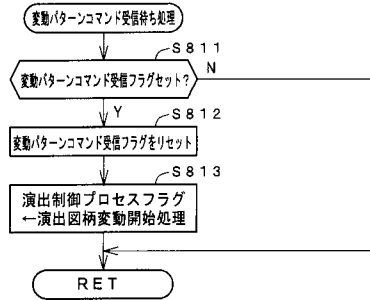
【図 3 4】

第1入賞時判定結果記憶バッファ	第1入賞時判定結果#1に応じた保存領域
	第1入賞時判定結果#2に応じた保存領域
	第1入賞時判定結果#3に応じた保存領域
	第1入賞時判定結果#4に応じた保存領域
第2入賞時判定結果記憶バッファ	第2入賞時判定結果#1に応じた保存領域
	第2入賞時判定結果#2に応じた保存領域
	第2入賞時判定結果#3に応じた保存領域
	第2入賞時判定結果#4に応じた保存領域

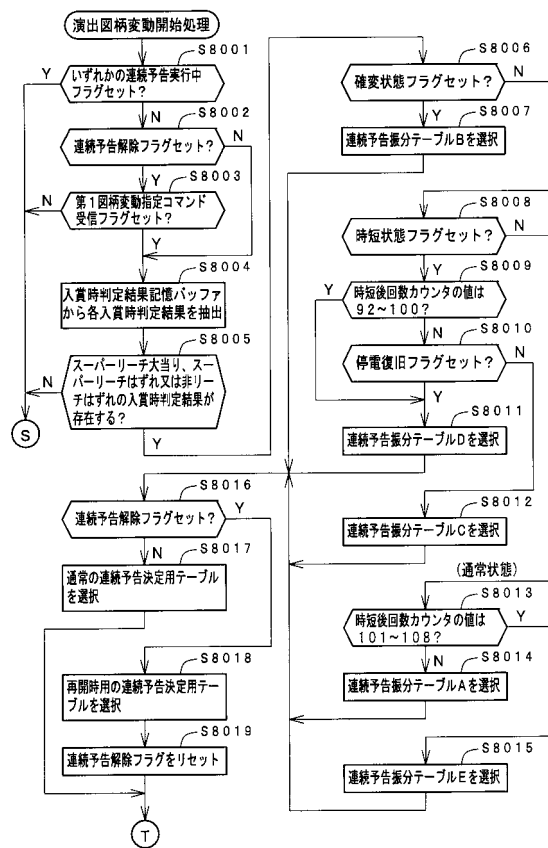
【図 3 5】



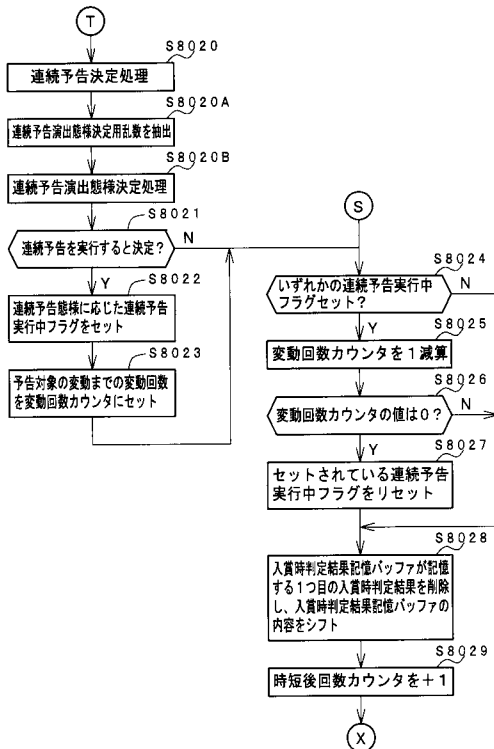
【図 36】



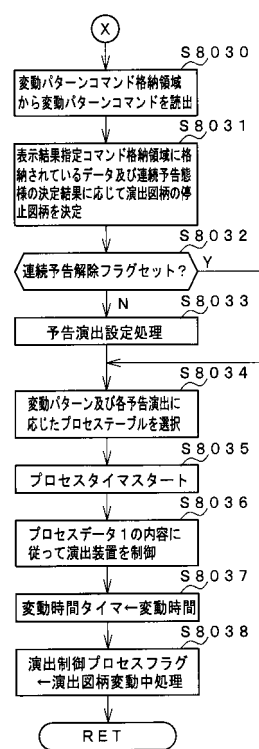
【図 37】



【図 38】



【図 39】



【図 40】

(A) 連続予告決定用テーブル (保留記憶数4/通常用)

入賞時判定結果	連続予告演出	
	実行する	実行しない
スーパーリーチ大当り	1~80	81~100
スーパーリーチはずれ	1~60	61~100
非リーチはずれ	1~30	31~100

(B) 連続予告決定用テーブル (保留記憶数4/再開時)

入賞時判定結果	連続予告演出	
	実行する	実行しない
スーパーリーチ大当り	1~80	81~100
スーパーリーチはずれ	1~40	41~100
非リーチはずれ	1~10	11~100

(C) 連続予告決定用テーブル (保留記憶数3/通常用)

入賞時判定結果	連続予告演出	
	実行する	実行しない
スーパーリーチ大当り	1~70	71~100
スーパーリーチはずれ	1~50	51~100
非リーチはずれ	1~20	21~100

(D) 連続予告決定用テーブル (保留記憶数3/再開時)

入賞時判定結果	連続予告演出	
	実行する	実行しない
スーパーリーチ大当り	1~70	71~100
スーパーリーチはずれ	1~30	31~100
非リーチはずれ	1~5	6~100

(E) 連続予告決定用テーブル (保留記憶数2/通常用)

入賞時判定結果	連続予告演出	
	実行する	実行しない
スーパーリーチ大当り	1~50	51~100
スーパーリーチはずれ	1~30	31~100
非リーチはずれ	1~10	11~100

(F) 連続予告決定用テーブル (保留記憶数2/再開時)

入賞時判定結果	連続予告演出	
	実行する	実行しない
スーパーリーチ大当り	1~50	51~100
スーパーリーチはずれ	1~20	21~100
非リーチはずれ	1~5	6~100

(G) 連続予告決定用テーブル (確変・時短/通常用)

入賞時判定結果	連続予告演出	
	実行する	実行しない
スーパーリーチ大当り	1~50	51~100
スーパーリーチはずれ	1~30	31~100
非リーチはずれ	1~10	11~100

(H) 連続予告決定用テーブル (確変・時短/再開時)

入賞時判定結果	連続予告演出	
	実行する	実行しない
スーパーリーチ大当り	1~50	51~100
スーパーリーチはずれ	1~20	21~100
非リーチはずれ	1~5	6~100

【図 41】

(A) 連続予告振分テーブルA (通常状態時)

連続予告態様	第1特別図柄			第2特別図柄		
	非リーチ はずれ	スーパーリーチ はずれ	スーパーリーチ 大当り	非リーチ はずれ	スーパーリーチ はずれ	スーパーリーチ 大当り
図柄変動時の 変動形態の変化	○	○	○	×	×	×
モード移行	○	○	○	×	×	×
カウントダウン	×	○	○	×	×	×
保留球変化	×	○	○	×	×	×

(B) 連続予告振分テーブルB (確変状態時)

連続予告態様	第1特別図柄			第2特別図柄		
	非リーチ はずれ	スーパーリーチ はずれ	スーパーリーチ 大当り	非リーチ はずれ	スーパーリーチ はずれ	スーパーリーチ 大当り
図柄変動時の 変動形態の変化	×	×	×	×	○	○
モード移行	×	×	×	×	×	×
カウントダウン	×	×	×	×	○	○
保留球変化	×	×	×	×	○	○

(C) 連続予告振分テーブルC (時短移行後1回目~91回目まで)

連続予告態様	第1特別図柄			第2特別図柄		
	非リーチ はずれ	スーパーリーチ はずれ	スーパーリーチ 大当り	非リーチ はずれ	スーパーリーチ はずれ	スーパーリーチ 大当り
図柄変動時の 変動形態の変化	×	×	×	×	○	○
モード移行	×	×	×	×	×	×
カウントダウン	×	×	×	×	○	○
保留球変化	×	×	×	×	○	○

【図 42】

(D) 連続予告振分テーブルD (時短移行後92回目~100回目まで)

連続予告態様	第1特別図柄			第2特別図柄		
	非リーチ はずれ	スーパーリーチ はずれ	スーパーリーチ 大当り	非リーチ はずれ	スーパーリーチ はずれ	スーパーリーチ 大当り
図柄変動時の 変動形態の変化	×	×	×	×	×	×
モード移行	×	×	×	×	×	×
カウントダウン	×	×	×	×	×	×
保留球変化	×	×	×	×	○	○

(E) 連続予告振分テーブルE (時短移行後101回目~108回目まで)

連続予告態様	第1特別図柄			第2特別図柄		
	非リーチ はずれ	スーパーリーチ はずれ	スーパーリーチ 大当り	非リーチ はずれ	スーパーリーチ はずれ	スーパーリーチ 大当り
図柄変動時の 変動形態の変化	×	×	×	×	×	×
モード移行	×	×	×	×	×	×
カウントダウン	×	×	×	×	×	×
保留球変化	×	○	○	×	×	×

【図 44】

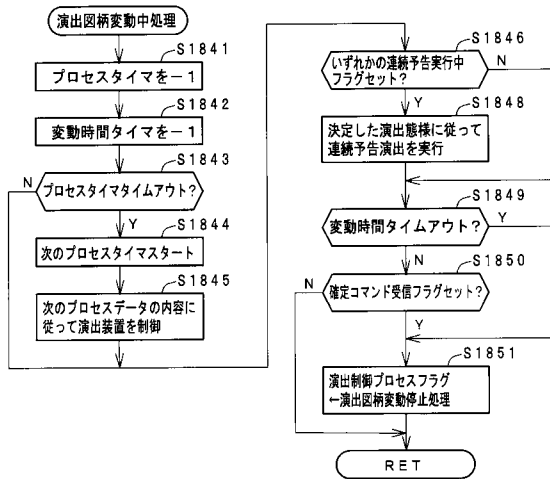
(プロセステーブル)

プロセスタイム設定値	プロセスデータ 1
表示制御実行データ 1	
ランプ制御実行データ 1	
音番号データ 1	プロセスデータ 2
プロセスタイム設定値	
表示制御実行データ 2	
ランプ制御実行データ 2	プロセスデータ n
音番号データ 2	
プロセスタイム設定値	プロセスデータ n
表示制御実行データ n	
ランプ制御実行データ n	
音番号データ n	

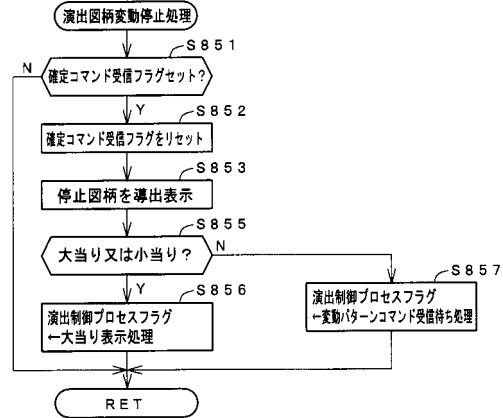
【図 43】

表示結果指定コマンド	停止図柄組合せの種類	左右停止図柄
はずれ指定 (リーチなし)	はずれ図柄	左右不一致
はずれ指定 (リーチあり)		左右のみ一致
通常大当り	通常大当り図柄	偶数の揃い
確変大当り	確変大当り図柄	奇数の揃い

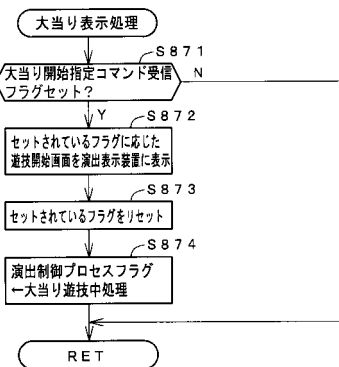
【図 45】



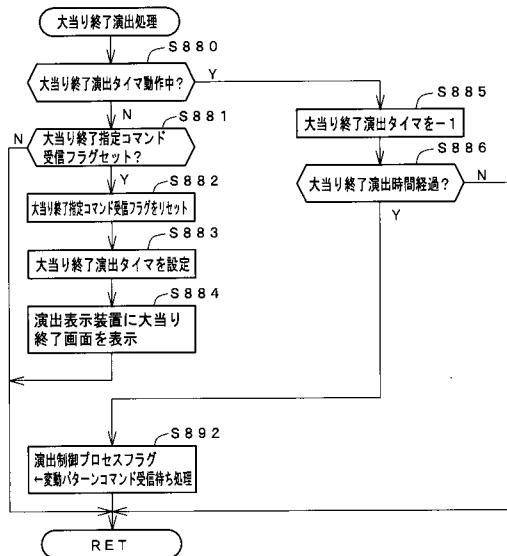
【図 46】



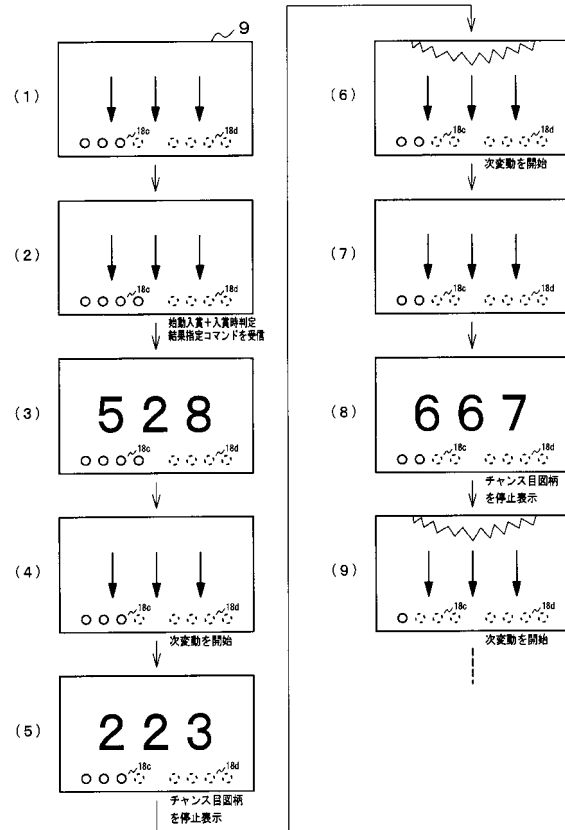
【図 47】



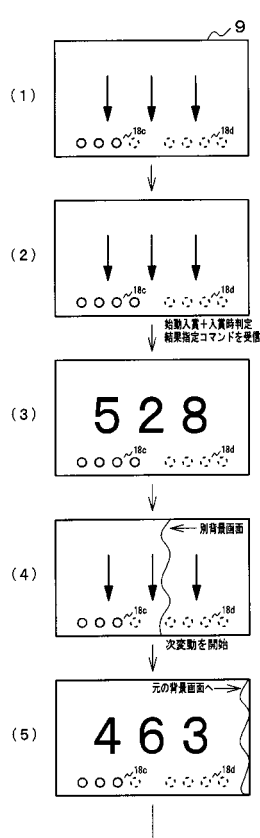
【図 48】



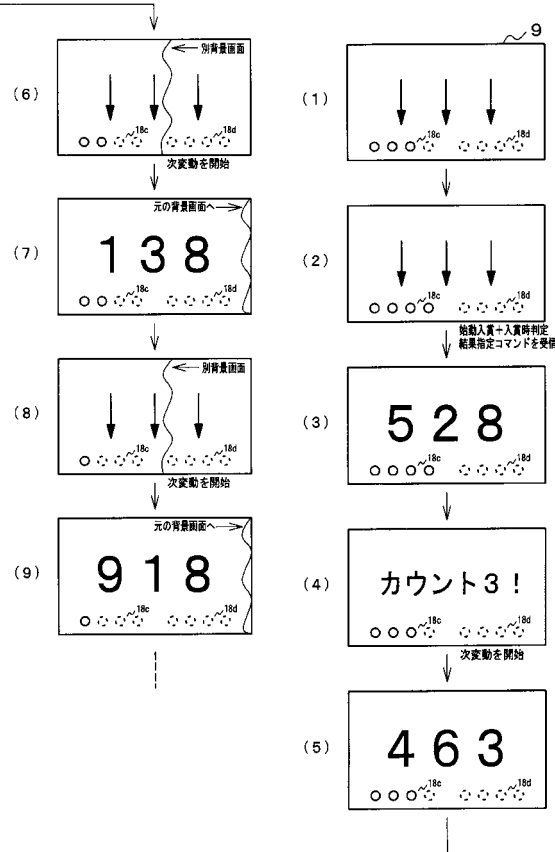
【図 49】



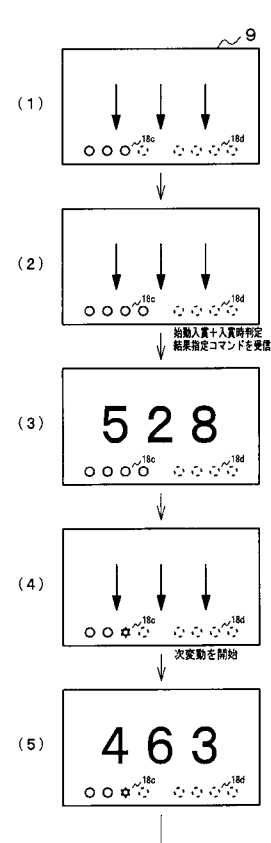
【図 50】



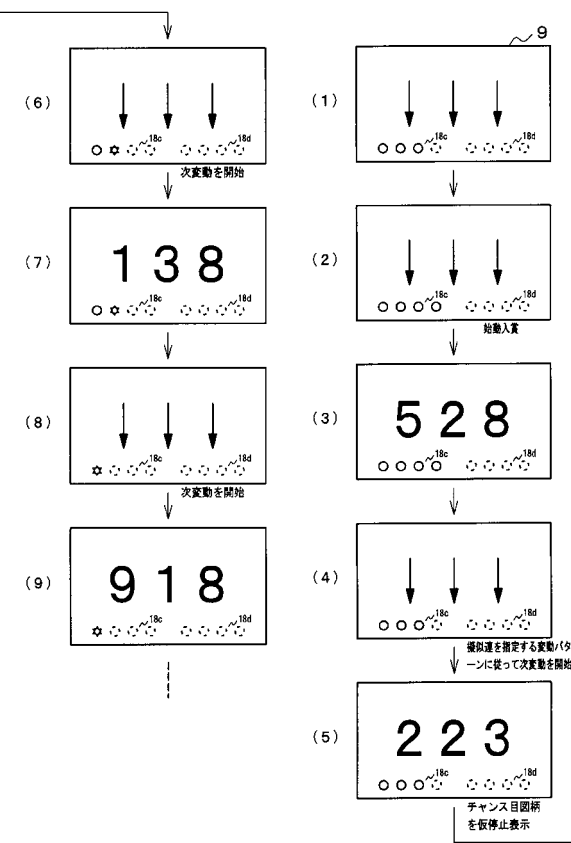
【図 51】



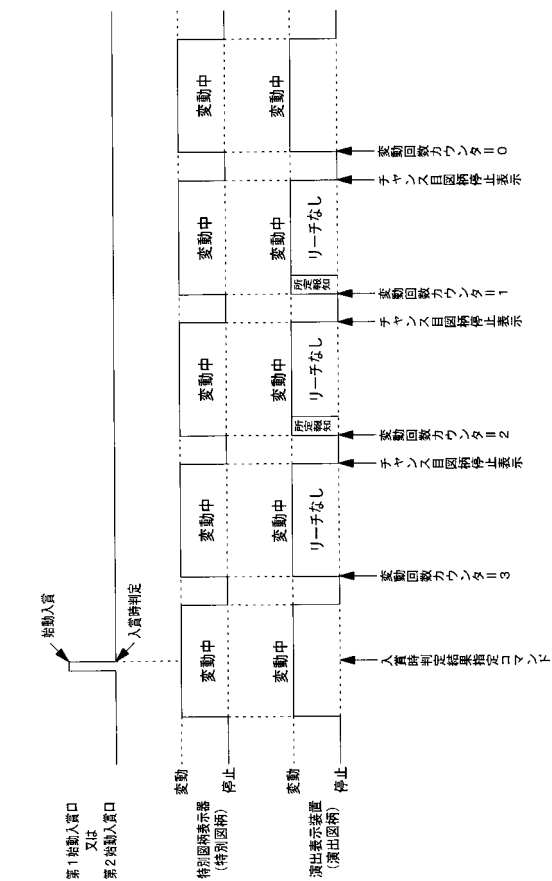
【図 52】



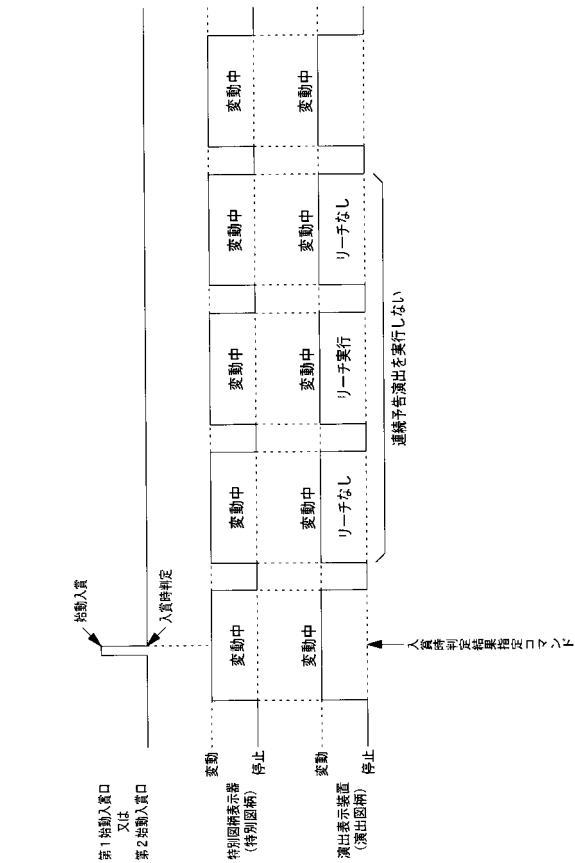
【図 53】



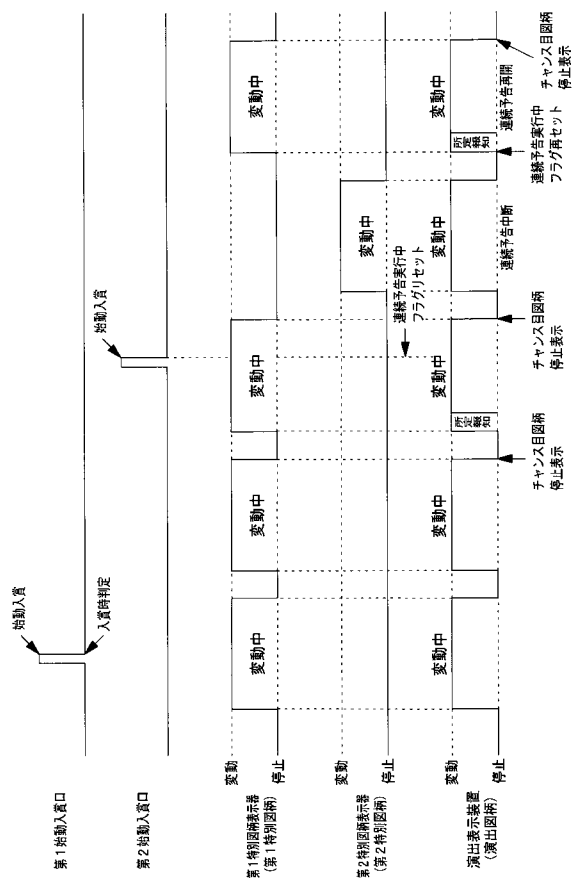
【 ㊦ 5 4 】



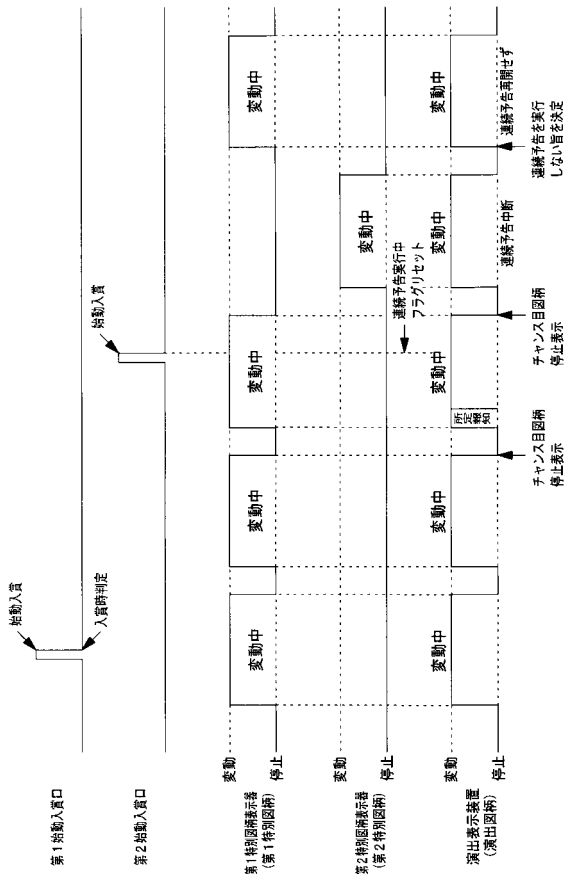
【 ㊦ 5 5 】



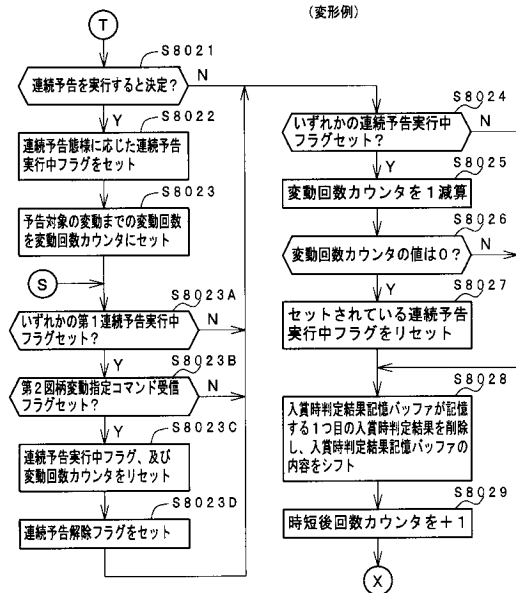
【 図 5 6 】



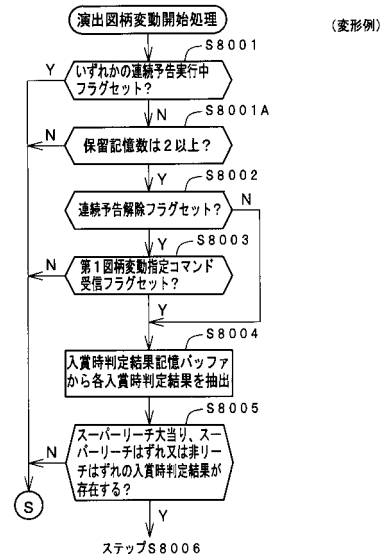
【 ㄨ 5 7 】



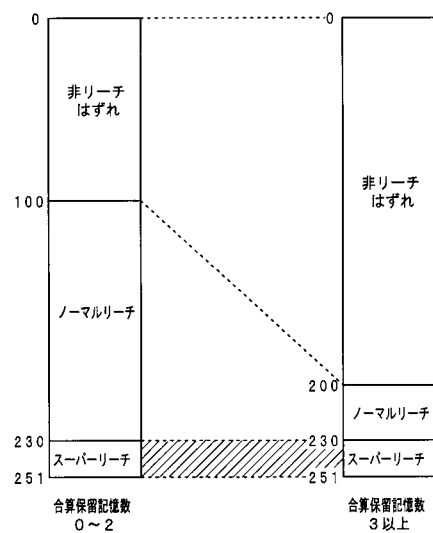
【図 58】



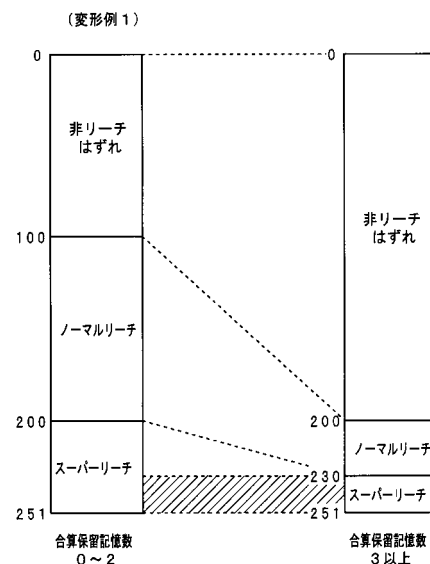
【図 59】



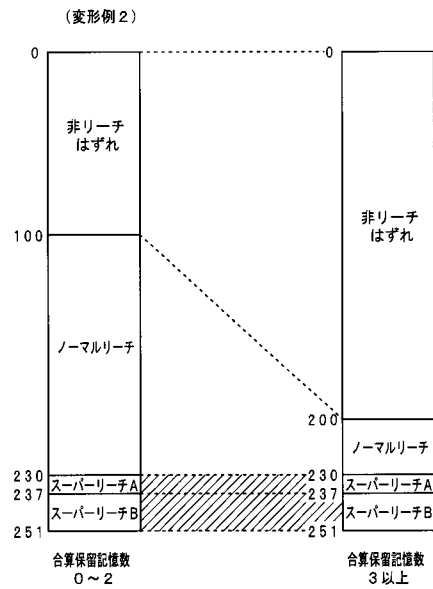
【図 60】



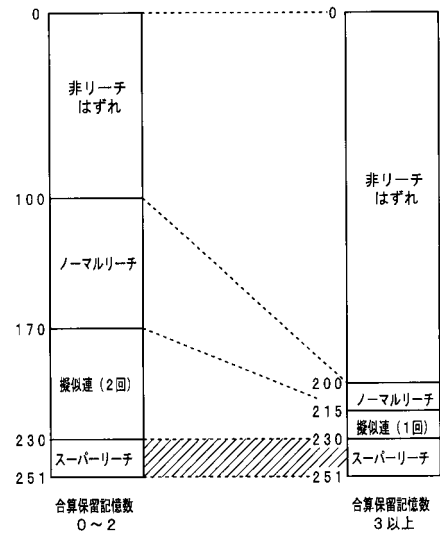
【図 61】



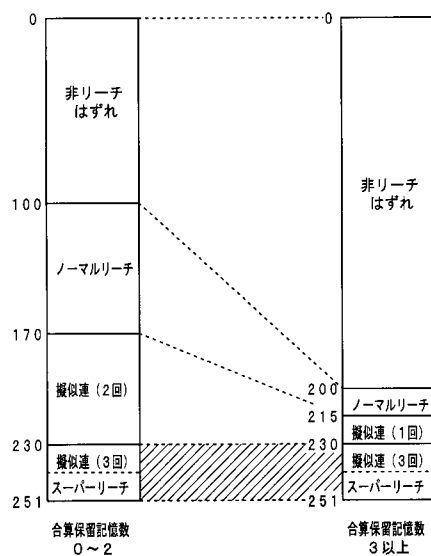
【図 6 2】



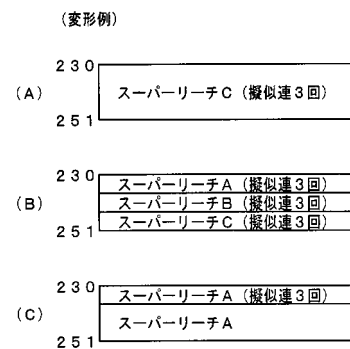
【図 6 3】



【図 6 4】



【図 6 5】



フロントページの続き

(72)発明者 佐久間 隆一
東京都渋谷区渋谷三丁目２番１４号 株式会社三共内

審査官 池谷 香次郎

(56)参考文献 特開２０１０－８２００６（ＪＰ，Ａ）
特開２００９－２６８６０９（ＪＰ，Ａ）
特開２００９－２４７６９９（ＪＰ，Ａ）
特開２００７－２６８１２６（ＪＰ，Ａ）
特開２００７－３１９２７８（ＪＰ，Ａ）
特開２００６－２９０（ＪＰ，Ａ）
特開２００５－６６９５（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
A 63 F 7 / 02